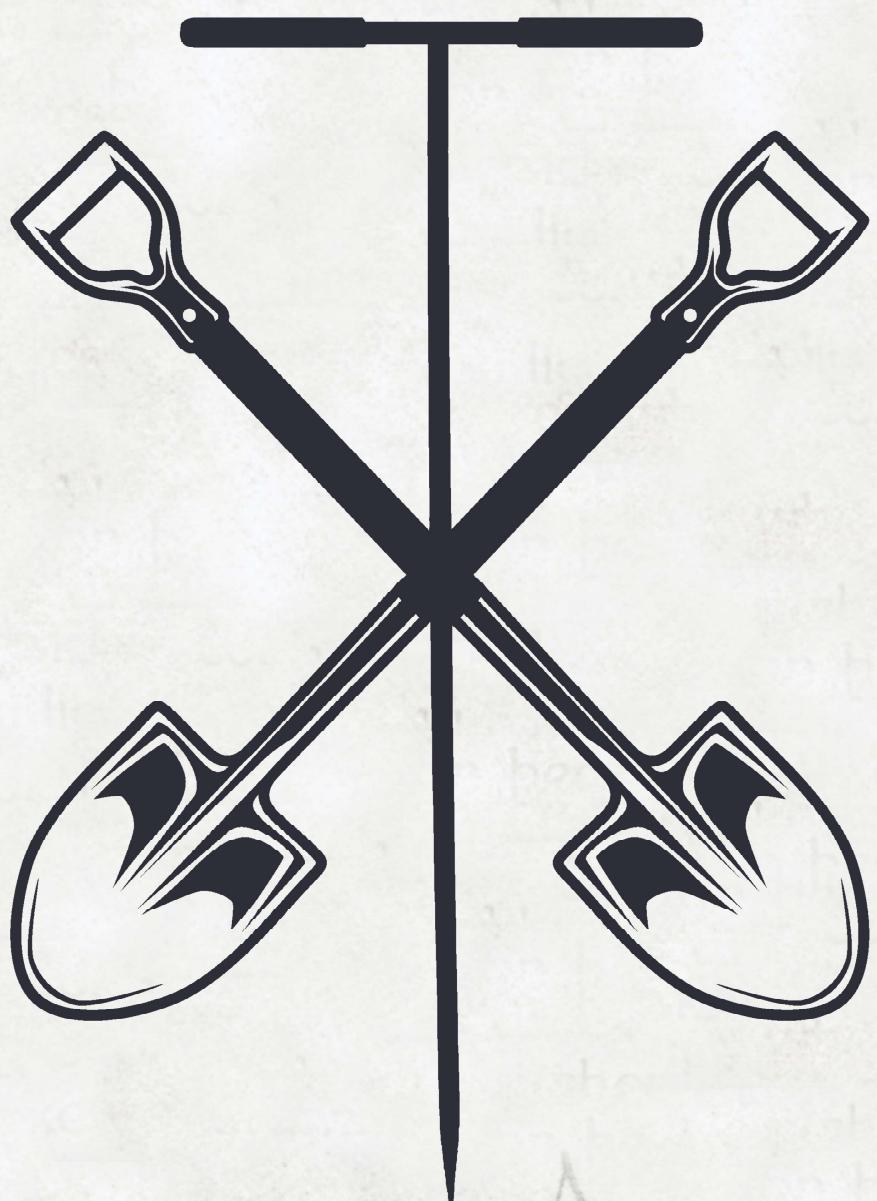
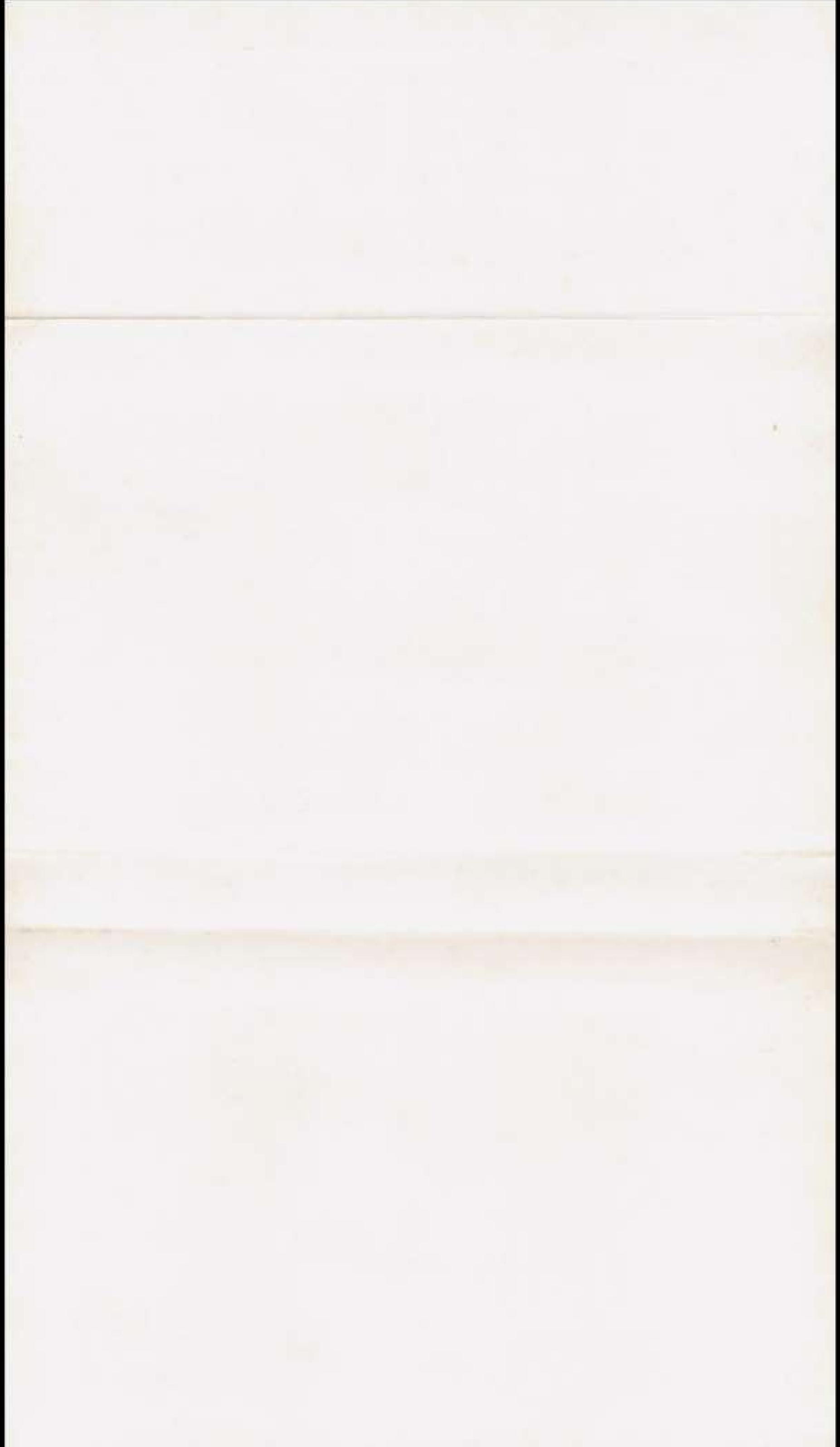


SPECIAL THANKS

To 12Treasures.com
and the podcast crew
for all the fun adventures
over the years



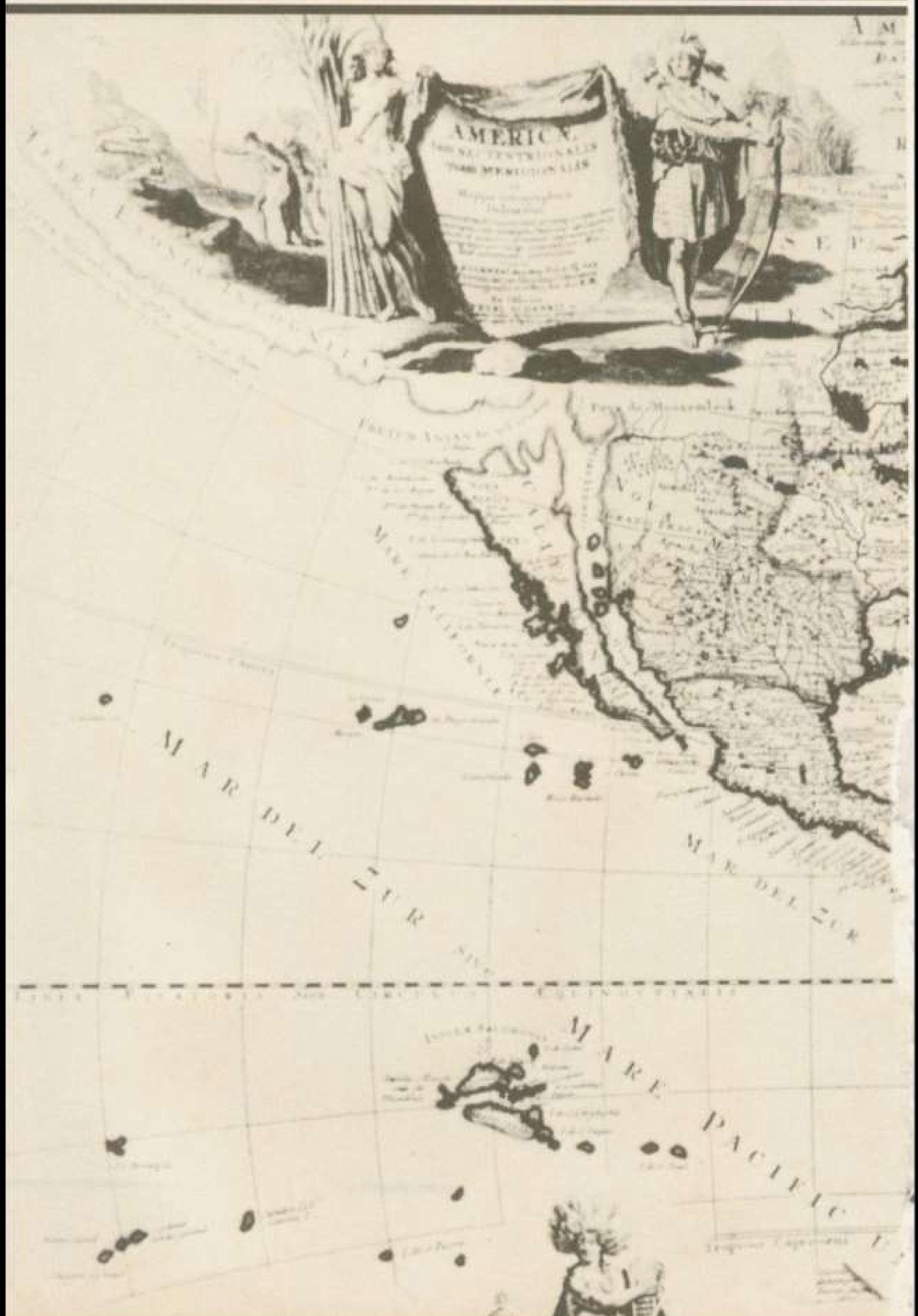




サラ・ブックス

—謎を解くのはあなただ—

妖精の宝箱





妖精の宝箱

The Secret



ショーン・ケリー他著
真崎義博訳

妖精の宝箱

目 次

プロローグ

妖精たちの伝説…… 9

PART 1

宝探し

13



PART 2

妖精の子孫たち

107

- 高級レストランの精
- 汗 の 精
- 一流志向の精
- ウェスト・ゴースト
- キリスト教的善意
- 天使の叫び
- しらけジョーク魔
- 家庭荒らし
- ほこりの精
- 観葉植物の精
- ソースの精
- 日曜大工の精
- 駄菓子の精
- 裏庭パーティーの精
- フォア・ザ・チーム
- レコード針の精
- ブギ・ウギ・マン

新世界への船出	17
宝石が埋められた謎	31
姿を消した妖精たち	37
宝石を手に入れよう	59
謎をとく12枚の絵	65
謎をとく12篇の詩	81



あなたの妖精
229

テレビ電波の精	深層心理の精
エルヘン・プレスリー	ブン屋の精
時の流れ	下水管の精
クラシック音楽魔	郵便ポストの精
芸術の秋	アメ車の精
過ぎ去りし日々	労働者の味方
椅子とりゲーム	儲け話の精
ツッパリ族	リッチ・ドクター
ギャンブルの精	重税の精
健康食品魔	クレジット・カードの精
栄光の精	衝動貰いの精
幼稚園児を守る精	エネルギーの精
ポルタリー・ガイスト	不動産プローカーの精
ジン・ラミー	巨大企業の精
嫌煙権の精	スーパーマーケットの巨人
アリバイの精	ことばの精
ふさぎの虫	夜行鬼
密入国の精	ケーブルの精
嫉妬の精	名誉欲の精
左翼鳩と右翼鳩	コンピューターの精
死の商人	愛国主義者の精
芸能レポーターの精	建築デザイナーの精
カラオケの精	小さなビジネスマン

PART 3

解説とヒント
233

●スタッフ紹介
250



日本語版翻訳権独占

二見書房

© 1983 Futami-shobo Publishing Co., Ltd.

Title : THE SECRET

Author : Kelly, Mann, Preiss, Trilling, Palencar,
Pierard, Asen, Jay

Copyright © 1982 by Byron Preiss Visual
Publication, Inc.

Japanese translation rights arranged
with Bantam Books, Inc. New York
through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

プロローグ 妖精たちの伝説

はるかなるむかし、人間が船に乗ってまだ見ぬ大地にやってくるまえ、旧世界にはふたつの帝国があつた。人間の帝国と汚れなき人びとの帝国だ。

人間は、自分たちのつくったものを文明と呼んだ。名前さえも自分の所有物にしてしまった。妖精のように薄い紗の翼で飛んだり、巨人のようにゆるやかな斜面をもつた山に姿を変えたり、竜のように火を吹いたりすることは、人間にはできないことだった。だから、人間はことばに自分の力を求めたのだった。

汚れなき人びとは、都市も町も家ももつてはいなかつた。彼らのわが家は自然であり、その自然のなかで遊んだり、隠れたり、姿を消したりすることもできた。人間はその自然を、自分たちにはコントロールできないからといって、恐れていた。

人間は、自分たちにコントロールできないもの



があると、なんとかしてそれを自分たちに都合のよいものに変えてしまあうとすることがよくあつた。そして何世紀ものあいだに、彼らは都市や村をつくり、汚れなき人びとの領地を荒らしていくのだった。

かつて小鬼が住んでいたところには、居酒屋ができる。

かつて川の乙女が泳いでいたところでは、水車がまわつた。

森は材木に、大地は道路に……人間は帝国の領土を広げ、汚れなき人びとはしだいに脅迫されていつた。

イギリスから支那まで、プリストルからポンペイまで、文明に侵されていない新しい土地を求める汚れなき人びとの声がわき起つた。こうした土地を求めて、汚れなき人びとの代表が送り出された。小妖精や妖精たちが、旧世界の13の国々から新世界を求めて旅立つた。

そして、とうとう見つけだしたのだ。

ここから、人間と同じように、自由と満足感と



いう夢を抱いて新世界の海岸に上陸した汚れなき人びとの、すばらしい物語がはじまる。そして、新発見の地へたずさえてきた12の財宝の物語りが……。

ダイアモンド、ルビー、パール、アメジスト、エメラルド、サファイア、ペリドット、ガーネット、トバース、アクアマリンなどの莫大な財宝。

そして、汚れなき人びとが、やはり深く自然を愛する新世界の人間に出会ったときに、何が起こつたかという話も。

また、なによりもその物語りのな力で果たすあなたの役割も重要だ。あなたは、人間と妖精たちとの関係を急頭において、彼らの財宝を探すことになるだろう。

現在、北アメリカの各地で、12の財宝が堀り出されるのを待っている。それぞれの財宝を見つける鍵は、本書のカラー・イラストとそれにつづく詩を適切に組み合わせることだ。財宝を入れたカぶとの隠し場所を知るには、それぞれの組み合わせに含まれる手がかりを解読するだけいい。



そして、かぶとに入っている鍵を送り返してもらえば、その財宝はあなたのものになる。もし、現地まで行ってかぶとを手にすることはできないが、推理によってその隠し場所を見つけだしたときは、本書についている解答用紙に推理の過程をくわしく書いて送付してほしい。あなたの推理が当つていれば、財宝はあなたのものになる。正しい推理で財宝を発見した人については、本書の次版に記載する。

財宝を見つける旅のながで、あなたはアメリカ新大陸の海岸に上陸した汚れない人びとの子孫たちに、きっと出会うだろう。

さらに、まだ発見されていない妖精をあなたが知っているなら、絵なり文章なりで報告していただきたい。これもまた、本書の次版で紹介する予定だ。

謎を解くもの、それはあなただ。



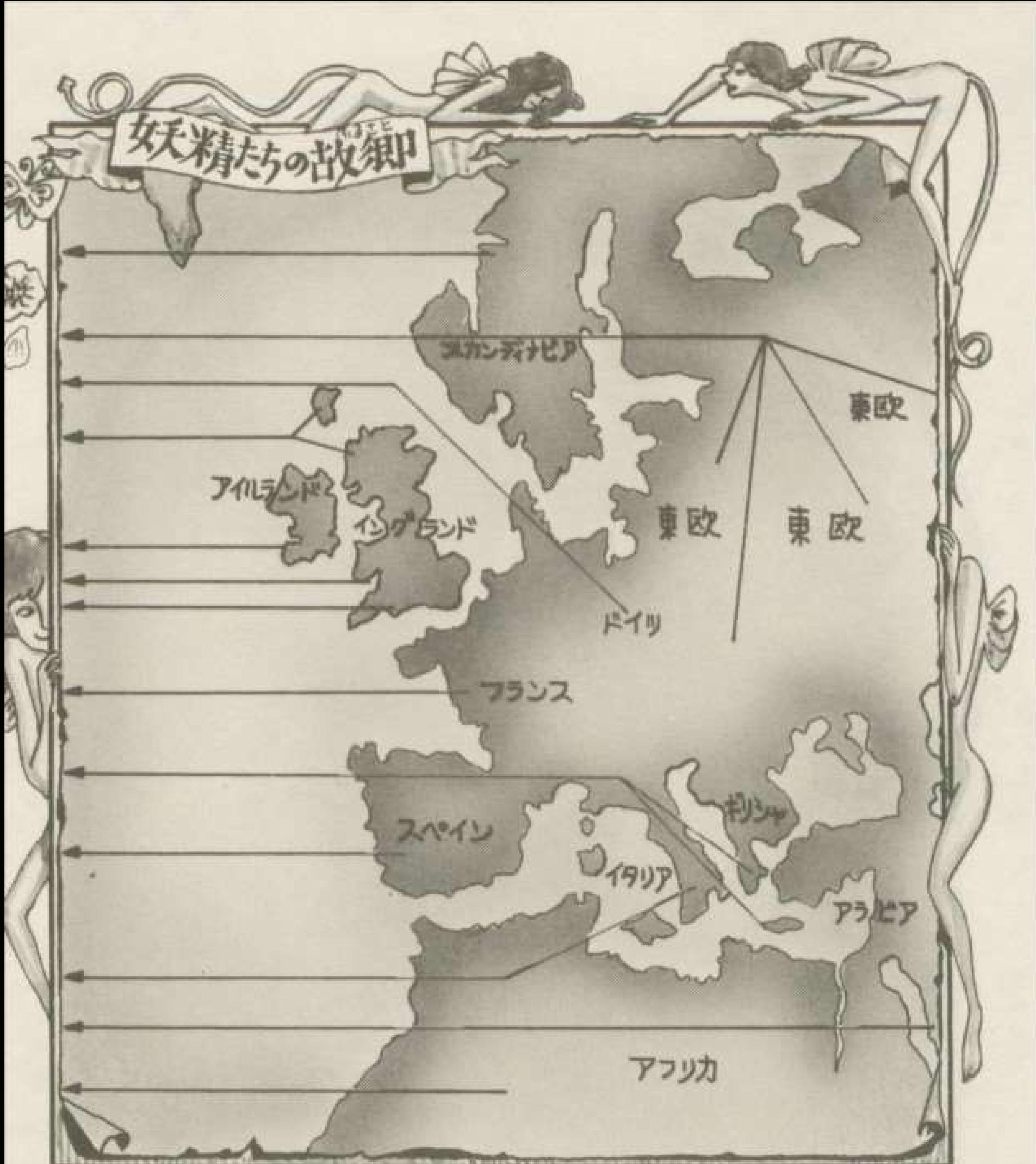
PART

1

↓
宝探し

A Treasure Hunt

これからはじまる物語りに、12の宝石を見つけだす手がかりが隠されています。人間と妖精たちが、平和になかよく共存していくための提案からこの愛と冒険の物語りが生まれたのです。



〈スカンディナビア〉

エルフ Elves 花の世話をし、悪いことといったらせいぜいいたずらと気まぐれをおこす明るい妖精。

トロール Trolles 猫背でかぎ鼻、灰色の着物に尖った赤い帽子をかぶり、背が高い。黄金の丘に金で家を建て、地下に財宝をたくわえているという。

グリム Grim 北欧の巨人。山や丘に住む。

ニセンとトムトラ Nissen and Tomtra 木の精。菩提樹や榆の木に住んでいたが、納屋や薪の山にも住むようになった。

〈東欧〉

ボレビキ Poleviki ロシアの小人。いつも三日月形の鎌をもっている。

ドミヴィ Domivye 家につく小人の老人。ストーブのうしろに隠れるほど小さく、赤シャツ、白いあご髭、赤い眼の老人。

ヴィリ Vily 空飛ぶ妖精。ユーゴスラビア、ハンガリーの草地で見かける。

ラスカルキ Ruskalki 水の精。緑の髪、青白い肌で河の流れにいる。

シルキー Silkies 白い婦人をさす。女の幽霊、滝の上に張りだした古木の交差した大きな枝にすわって人間にいたずらする。宝物が見つかるといいたずらをやめる。

ケルピー Kelpies 馬の姿をした水の精。ときおり貝や海草で髪を飾った若い男の姿をして、人間をだまして水死させる。巨人。

〈アイルランド〉

シー Sidhe やせて、ととのった顔立ち、若々しい。人間のままでしか姿を現わさない。肌はやわらかく、着物は目がくらむほど白い。おとなしい性質。

レプラコーン Leprachauns 小人。三角帽をかぶり、長いマントを着、大きい銀のバックルのついた靴をはいでいる。パイプと皮のサイフを肌身離さずもつていて、木の根や魔城に棲む。

フィア・ディヤルグ Fir Darrigs 火にあたるのが好きでいつも赤い服をきている。腹黒く、太鼓腹をして、性悪のいたずらもの。悪夢をみさせる。

〈イングランド〉

フェアリー Fairies 丘や森や地下、ほら穴や海底に棲む神秘的な力をもつ靈。

ピクシー Pixies 岩の下、森や草地に棲む小妖精。

〈ドイツ〉

ドワーフ Dwarves 黒い帽子をかぶり、地底に棲む小人。榆の木の下でよく見かける。また巧みな金銀細工師であり、神々の武器や女神の装身具をつくる。

ウィッセル Witchl 60センチ前後の家の精で、長い銀のあご髭、くほんた眼、つきでた腹、細長い足の、よくとおる声をした妖精。

ハッテン Hitchen 赤い帽子と緑か赤の洋服をきた小人、馬小屋、かまどの裏、地下室などに棲み、家の仕事をてつだったり、じゅましたりする。

〈スコットランド〉

ピープル・オ・ピース People O' Peace 金髪か赤毛に緑色のとんがり帽子をかぶり、満月の夜に高い柱の見える草の丘に棲む。5月ごろによく見る。

トロウ Trows 女王の臣下の灰色の人びと。金や銀の皿に盛られた料理をむやみやたらと食べる。蒲の穂にまたがって空を飛び、効きめのたしかな治療薬をもつていて、気にいった人間にわけてくれたりする。

ブラウニー Brownie 暖炉のフックなどにいる毛むくじやらの家につく妖精。しづだらけの顔と茶色い肌をして、ぼろをまとめて、納屋などに棲みつく。

ホブゴブラン Hobgoblins 1杯のミルクのために粉をひいたり木を切ったり、召使いの仕事をする家靈。

ボガート Boggarts 騒音をたてる精靈ポルタガイストと同じいたずら者。

〈オランダ・ベルギー〉

アルバーン Alven 透明にちかいので姿形ははっきりしない。夜なかに出没する

妖精で、風や水中の水泡や割れた卵の殻にのって移動する。

クラボテールマニキン Klabautermanikins 船の船首飾りに棲みつき、北海、バルチック海、大西洋、地中海などを旅してまわる。煙草を好む。

ノーム Gnomes 地中に棲み、秘宝をまもる小人。

〈フランス〉

コレ Korreds ブルターニュ地方の海拔0メートル以下に棲みつき、異常な大声で笑う。猫背で黒いぼさぼさ髪、ルビーのような眼に、猫のような爪をもつ。

ダム・ブランシュ Dames Blanche 白い女の意味をもつ幽霊。ブロンドの髪、白い服、そして立ち枯れ草のなかに棲む。

ルウ・ガル Loup Garoux 人間が狼に変身したと考えられるもの。夜遊びをする魔法使い。

〈ギリシャ〉

ケンタウロス Centaurs 上半身が人間、腰から下が馬の姿の幻獣。アポロンとアルテミスから教育をうけ、音楽、医術、予言術にたけている。

ニンフ Nymphs 海河泉、山林などにつく精。擬人化された女神で、若く美しい女性の姿をしている。不死ではない。歌と踊りを好み、人間に恵みをあたえる。予言の能力もあり、人間に恋するとこの世から連れざられてしまう。

サテュロス Satyrs 半人半獣の山野や森の神。尖った耳、巨大な男根をもつ若い男と考えられる。快樂的で酒と女を好み、ニンフを追いかける。

〈スペイン・ポルトガル〉

ハダス Hadas 人やもぐらやこうもりの姿をした妖精。美しいが、あひるの足や蛇の尾などのひとつだけ欠点をもつ。姿を消すこともでき樹の葉のあいだに棲む。

デュエンド Duende 人里離れたほら穴、塔、廃屋にいる。緑、赤、灰色の服をきて、小さな帽子をかぶっている。夜が明けるといなくなる。

〈イタリア〉

フォレッティ Folletti 卷き毛ではばっちりした眼、動物の足をもつ。姿を消す力をもった魔法の赤い頭巾をかぶっている。

ファファルリ Farfarelli 小さな蝶という意。動きまわってほとんど止まることがない。人間には友好的であるが、同時にいたずら好きでうるさく悩ます。

サルバニ Salvani 木を守る人間と同じ大きさの精霊。毛むくじやらの体。

アグアーヌ Aguane 実のなる木を守り、河をきれいにする。老婦の姿をとる。

リンチェッティ Linchetti 夜だけ姿をみせる小妖精。悪夢をみさせる。

〈アラビア〉

ジン Djinn 頼いごとを実現する魔法使い。『アラビアン・ナイト』のアラジンは有名。煙のたたない火からつくられている。

ペリ Peri 美しい乙女の姿をした妖精。

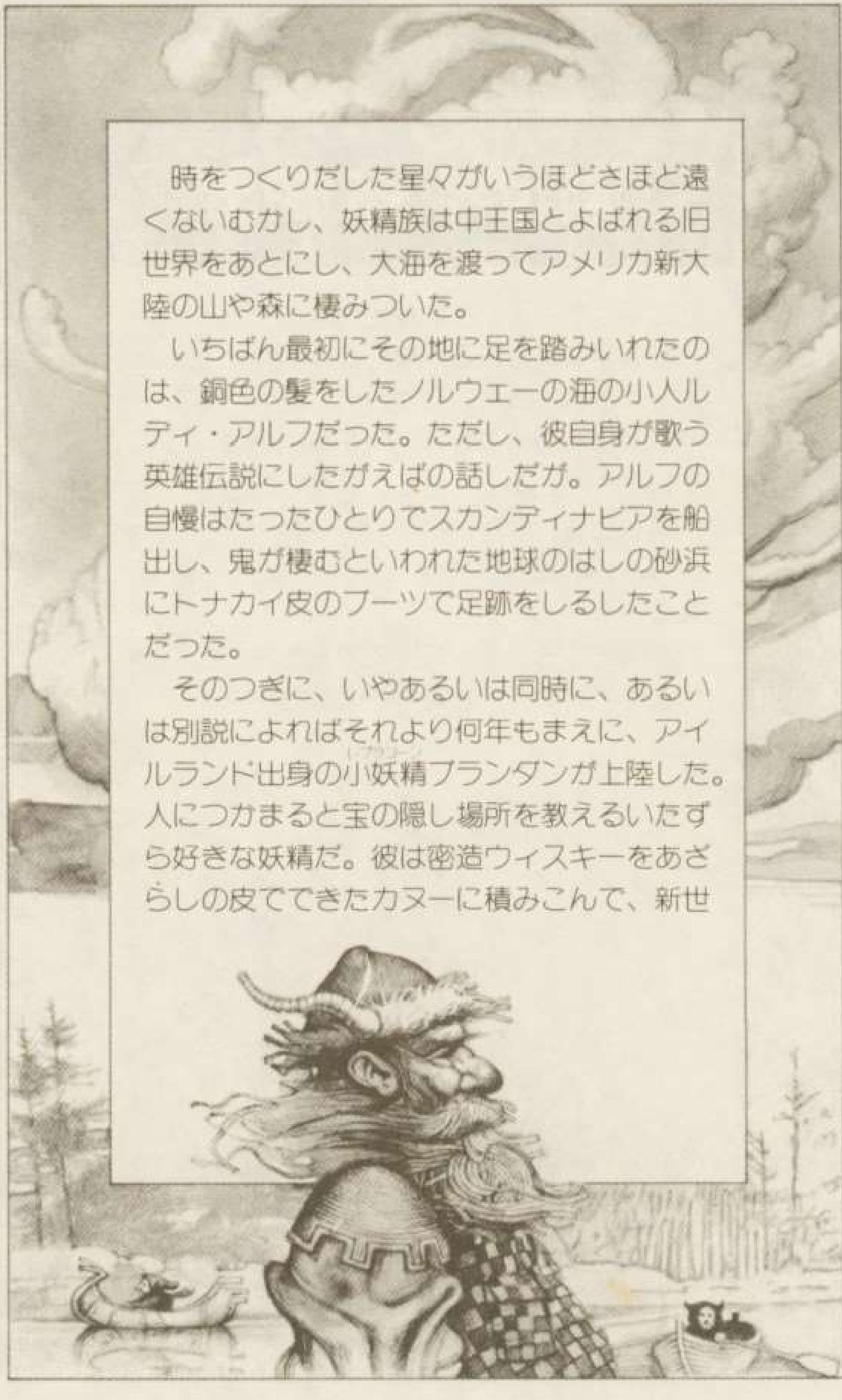
〈アフリカ〉

木の靈 Tree Fairies 姿や形や大きさはさまざまで、木の寿命や、気候によつて姿はいろいろある。橡の木、菩提樹、櫻の木などの靈が有名。

新世界への船出

北の海は冷たく、残酷な鉛色
汚れなき妖精が航海へ乗りだす
南をめざし、青く、穏やかで、暖かな海へ
力す力なもやのな力から現われ出るは
楽しげな話し声とやさしい妖精たち
夕暮れどき、西方より
クジャクの羽根のような美しい帆をもつ船で
悪魔がやってくる。
日の出のころ、嵐を抜けて東海を渡つた
最後の者がやつてきた——人間だ





時をつくりだした星々がいうほどさほど遠くないむかし、妖精族は中王国とよばれる旧世界をあとにし、大海を渡ってアメリカ新大陸の山や森に棲みついた。

いちばん最初にその地に足を踏みいれたのは、銅色の髪をしたノルウェーの海の小人ルディ・アルフだった。ただし、彼自身が歌う英雄伝説にしたがえばの話しだが。アルフの自慢はたったひとりでスカンティナビアを船出し、鬼が棲むといわれた地球のはしの砂浜にトナカイ皮のブーツで足跡をしるしたことだつた。

そのつぎに、いやあるいは同時に、あるいは別説によればそれより何年もまえに、アイルランド出身の小妖精プランダンが上陸した。人につかまると宝の隠し場所を教えるいたずら好きな妖精だ。彼は密造ウイスキーをあざらしの皮でできたカヌーに積みこんで、新世



界へ向かってやってきた。

しかし、ほとんどの妖精族はアルフとブランダンのてがらはただの伝説だと考えており、ほんとうの新世界の発見はイタリアの妖精コロン・サヴァネリによるものだと信じていた。ジエノヴァ出身の勇敢な船乗りである。彼はうわさに名高いスパイス諸島を見つけるべくイベリア（現在のスペイン）のハタス女王の命をうけている。女王は終末がくると予言されていた旧大陸から新発見の大地に、臣民や妖精族の汚れない人びとを送りこみたいと願っていたからだ。

そして、ついに終末がやってきた。

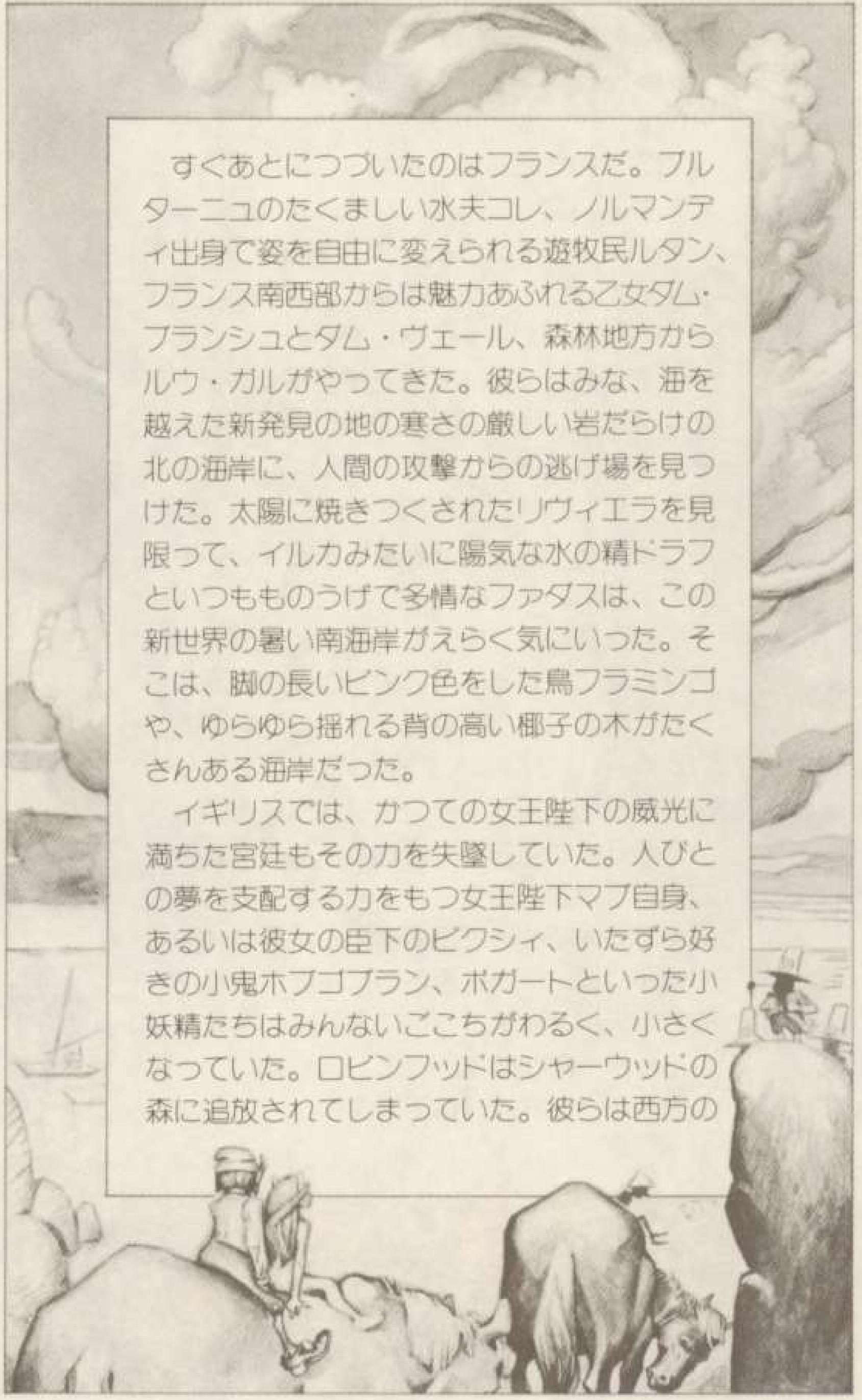
人間の時代がはじまったのだ。妖精族の卓越した芸術品、輝くばかりの美、力、栄光は螢が日の出とともに消えるように消えていった。



人間、他を信じず、信用もできぬ生き物
人間、みずからを憎み、恐れる者
ゆえに、あらゆる生き物を軽蔑する者
人間、木を切り倒し
川の流れをだいなしにする者
その土地と道路と堀はまつすぐて
不自然な幾可学形をなす
人間、動物たちに愚鈍になれと命ずる者
人間、小利口で、重々しげに歩く者
鉄の武器でかけがえのない最後の竜を
たんなる楽しみで殺してしまつた者

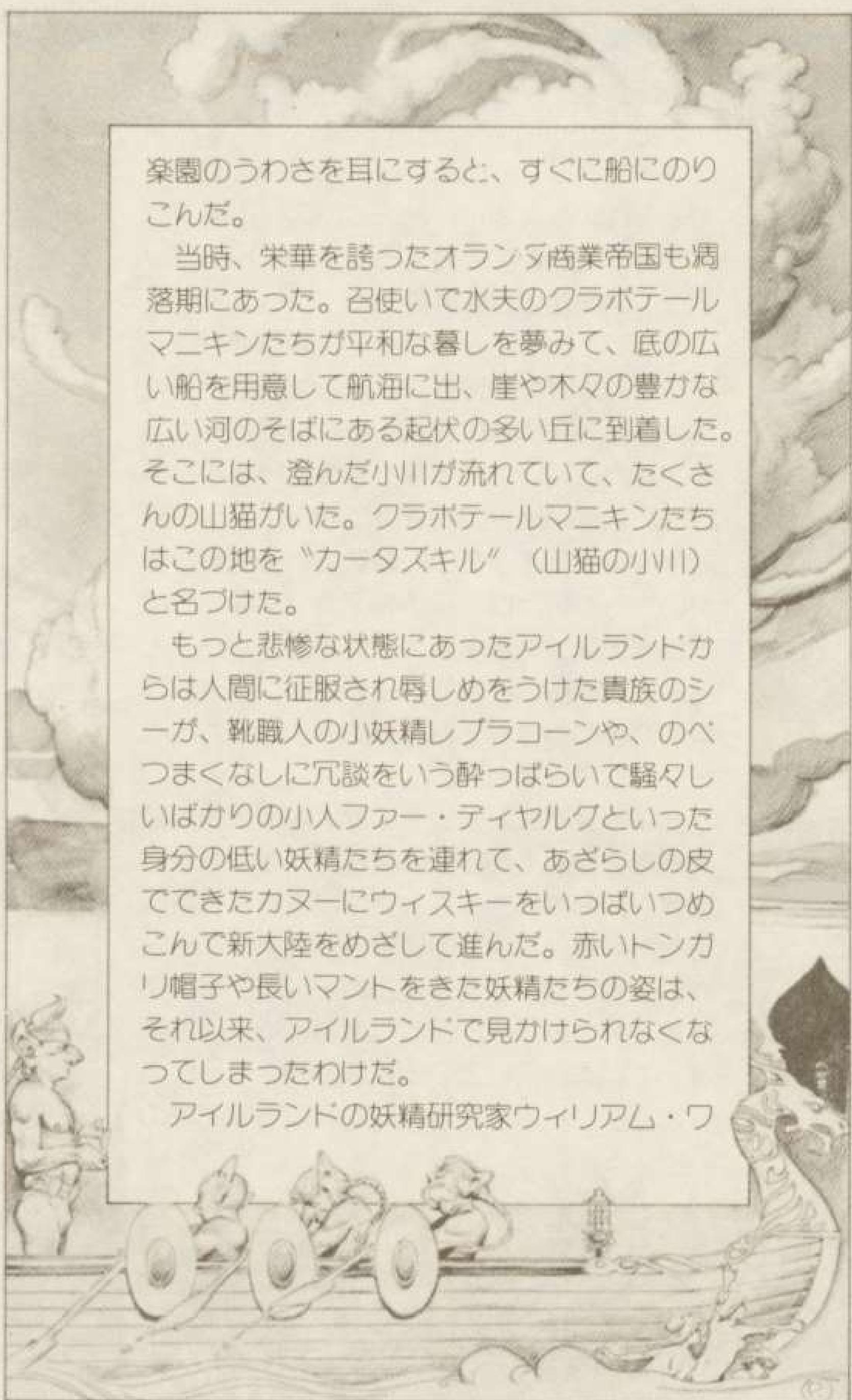
コロン・サヴァネリの大陸発見とスペインの汚れなき人ひとの新大陸への移住の話は、きつね火のように死に瀕した中王国に広まつた。

西方のかなたに黄金色の砂浜、深い緑の森、静かに波をたたえる池、暗い洞窟、底なしの川、天にまでとどく山がある——妖精の国だ！



すぐあとにつづいたのはフランスだ。ブルターニュのたくましい水夫コレ、ノルマンティ出身で姿を自由に変えられる遊牧民ルタン、フランス南西部からは魅力あふれる乙女タム・フランシュとタム・ヴェール、森林地方からルウ・ガルがやってきた。彼らはみな、海を越えた新発見の地の寒さの厳しい岩だらけの北の海岸に、人間の攻撃からの逃げ場を見つけた。太陽に焼きつくされたりウィエラを見限つて、イルカみたいに陽気な水の精ドラフといつもものうげで多情なファタスは、この新世界の暑い南海岸がえらく気にいった。そこは、脚の長いピンク色をした鳥フラミンゴや、ゆらゆら揺れる背の高い椰子の木がたくさんある海岸だった。

イギリスでは、かつての女王陛下の威光に満ちた宮廷もその力を失墜していた。人びとの夢を支配する力をもつ女王陛下マフ自身、あるいは彼女の臣下のピクシィ、いたずら好きの小鬼ホブゴブラン、ポガートといった小妖精たちはみんないごこちがわるく、小さくなっていた。ロビンフッドはシャーウッドの森に追放されてしまっていた。彼らは西方の



楽園のうわさを耳にすると、すぐに船にのりこんだ。

当時、栄華を誇ったオランダ商業帝国も凋落期にあつた。召使いて水夫のクラボテールマニキンたちが平和な暮らしを夢みて、底の広い船を用意して航海に出、崖や木々の豊かな広い河のそばにある起伏の多い丘に到着した。そこには、澄んだ小川が流れていって、たくさん山猫がいた。クラボテールマニキンたちはこの地を“カータスキル”（山猫の小川）と名づけた。

もっと悲惨な状態にあつたアイルランドからは人間に征服され辱しめをうけた貴族のシーガ、靴職人の小妖精レブラコーンや、のべつまくなしに冗談をいう醉っぱらいで騒々しいばかりの小人ファー・ディヤルグといった身分の低い妖精たちを連れて、あざらしの皮でてきたカヌーにウイスキーをいいっぱいめて新大陸をめざして進んだ。赤いトンカリ帽子や長いマントをきた妖精たちの姿は、それ以来、アイルランドで見かけられなくなってしまったわけだ。

アイルランドの妖精研究家ウィリアム・ワ

イルド郷はこう書き残している。

「妖精たちは……ひとりまたひとりと人間が住んでいる地域をあとにし、大西洋の荒波が白く碎ける遠い島々へと向かつた……」

そして、永遠にスコットランドの高地にもどれなくなつたのがいたずらもののシェリーコートや小さな鼻と毛深いからだをした茶色の小人、頭の中央に髪の毛がひと房あり、1本の腕が胸のところからでている怪物ファハン、女王陛下の臣下で蒲の穂にまたがって空を飛ぶ灰色の小人トロウたちだった。

エティンバラ公であるヒュー・ミラーがある民話を集めた本のなかでこういっている。

「小さな生き物が毛のふさふさした小馬に乗つて海岸のほうにおりていったとき、それに気がついたのはふたりの子どもだけだった。人間の少年が、列のいちばんうしろにいる生き物に向かつて『あなたはだれ？ おちひくん。どこに行くんだい？』とたずねた。すると、その生き物はちょっと振りかえってこう



答えた。『アタムとイフの子孫じゃないよ。トロウの姿は二度とスコットランドでは見られなくなるんだ』と……』

この一行のにわか造りの船は、水の精シルキーとケルピーの水先案内で大海を無事越して、西方の新大陸カナダ東岸へと向かつた。

スカンティナビアからは、木の妖精エルフオークたちが、氷と緑のフィヨルドを力きわけ、ワシが棲むとうわさに高い地をめざして、恐ろしい顔をした船飾りに航海の安全を見張らせながら航海をはじめた。

農場に棲んでいた毛深いいたずら妖精ニセン、石の塔に棲みつく巨人のグリムや、ずんぐりしたからだでやふにらみの小妖怪ウッド・トロールや、川の精リヴァー・トロールなどがこの船にのりこんでいた。船首にすわって冷たい海水のしぶきにまっすぐ顔を向け、黄色い髪を風になびかせつつ、青みがかった灰色の眼で水平線のかなたを見つめているエルフがこの冒険者たちのリーダーだった。神々にたてついて戦争をしかけたことで有名な巨人族ヨトウンのなかで、祖国スカンティナビア

にとどまつたのはコウバルドだけだった。この誇りたかき木の精たちは、新大陸への冒険を恐れたがために、ついには人間によつて、子どもたちの玩具として永遠に木のな方に封じこめられてしまつたのである。

ドイツ帝国からは、ライン河に棲む水の精に導かれて大艦隊が新世界への航海にてた。乗りこんでいたのは、マインツ鉱山に棲む筋骨たくましいドゥワーフたちだ。この妖精は大槌やつるはしをかついで地下に埋蔵された財宝を掘り起こし、神々の武器や女神の装身具をつくるのがとてもじょうずだった。ほかにも、丸々とふとつて全身を毛がああつてい るヴィチトルンや、大森林地帯からは赤い帽子をかぶつた陽気な妖精ヒューチュンらが、故郷のドイツを見捨てて船に乗りこんでいた。

つぎにつづいたのは東欧の妖精の一団だ。雪におあわれたロシアの草原地帯、無限に広

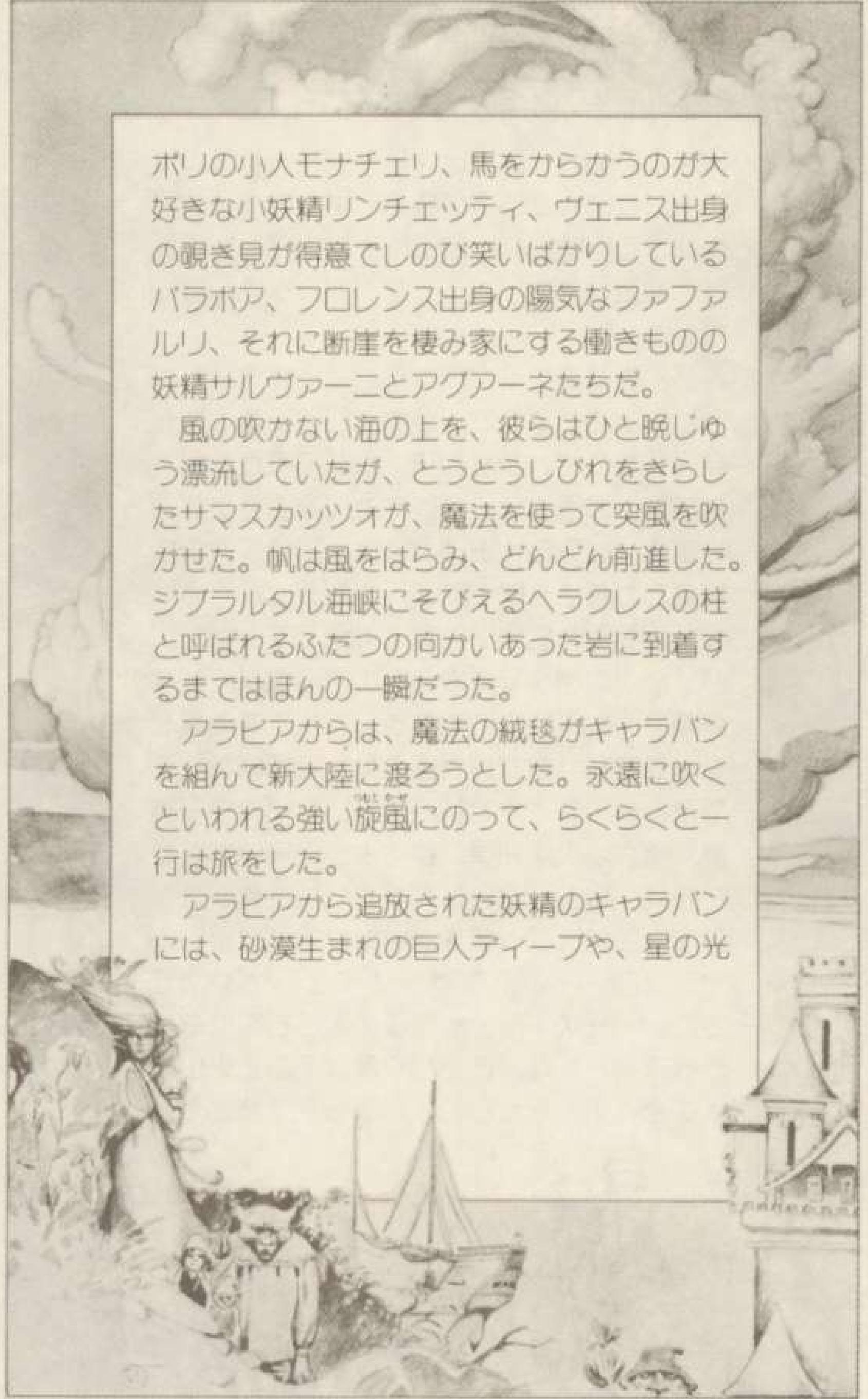


がるウクライナの大平原から、数多くの妖精が集まってきた。いつも三日月鎌をもつている小人ボレビキや白くて長いあご鬚のドミウイ、空飛ぶ妖精ヴィリなどなど。レシャイはタタールの森を見限り、水の精ラスカルキは川から飛びだし、森の父とこけの乙女に先導されて冬の大平原を越え、黒海の浜辺で待っている船に乗りこんだ。全員がいつしょになつて西のかなたの新しい大地に向けて移住を開始した。

イタリアはどうだったろう？

曇った空のようにどんよりして、トスカナ地方産のワインのように暗い揺籃期にあつたイタリアからは、ティレニ族が冒険にとびだした。波静かで眠るがごとき地中海の海面には、赤い頭巾をかぶつたフォレッティの混成小型船隊が揺れていた。その船隊に乗りこんでいたのは、丸々とふとついて騒々しいけ



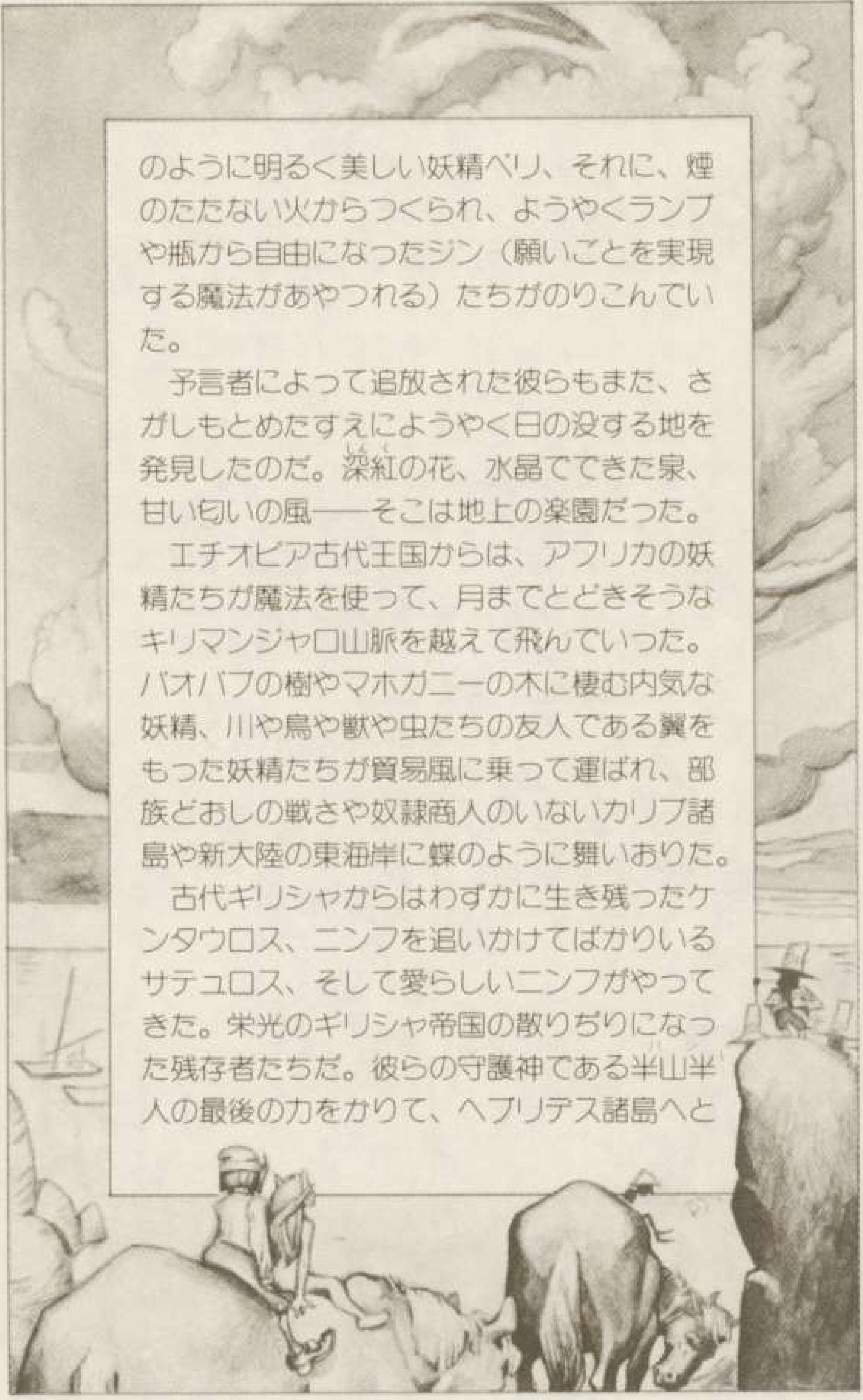


ボリの小人モナチエリ、馬をからかうのが大好きな小妖精リンチエッティ、ヴェニス出身の覗き見が得意でしのび笑いばかりしているバラボア、フロレンス出身の陽気なファファル！、それに断崖を棲み家にする働きものの妖精サルヴァーニとアクアーネたちだ。

風の吹かない海の上を、彼らはひと晩じゅう漂流していたが、とうとうしびれをきらしたサマスカッソガ、魔法を使って突風を吹かせた。帆は風をはらみ、どんどん前進した。ジブラルタル海峡にそびえるヘラクレスの柱と呼ばれるふたつの向かいあつた岩に到着するまではほんの一瞬だった。

アラビアからは、魔法の絨毯キャラバンを組んで新大陸に渡ろうとした。永遠に吹くといわれる強い旋風にのって、らくらくと一行は旅をした。

アラビアから追放された妖精のキャラバンには、砂漠生まれの巨人ティーフや、星の光



のように明るく美しい妖精ペリ、それに、煙のたたない火からつくられ、ようやくランプや瓶から自由になつたシン（願いごとを実現する魔法があやつれる）たちがのりこんでいた。

予言者によって追放された彼らもまた、さがしもとめたすえにようやく日の没する地を発見したのだ。深紅の花、水晶でてきた泉、甘い匂いの風——そこは地上の楽園だつた。

エチオピア古代王国からは、アフリカの妖精たちが魔法を使って、月までとどきそうなキリマンジャロ山脈を越えて飛んでいった。バオバブの樹やマホガニーの木に棲む内気な妖精、川や鳥や獣や虫たちの友人である翼をもつた妖精たちが貿易風に乗って運ばれ、部族どあしの戦士や奴隸商人のいないカリブ諸島や新大陸の東海岸に蝶のように舞いありた。

古代ギリシャからはわずかに生き残ったケンタウロス、ニンフを追いかけばかりいるサテュロス、そして愛らしいニンフがやってきた。栄光のギリシャ帝国の散りぢりになつた残存者たちだ。彼らの守護神である半山半人の最後の力をかりて、ヘブリテス諸島へと

移住した。

このようにして、12の国々（スコットランドの丘に棲む妖精たちとアイルランドの妖精たちはいとこ同士でひとつの国をつくっていた）から妖精たちが去つたことで、旧世界の第一の時代は終つた。

12の国々の妖精たちが新世界に落ちつくとすぐに、13番目の国の妖精たちが加わつた。

細身の輝くばかりの黄金色の人びとがやつてきたのは、1年目の春の朝のことだった。彼らがまとっている髪をつくした衣服には、くねるような模様が金糸でししゅうされ、ツルの姿が銀糸で形どられていた。

そのなにかにひとりわ背が高く笑顔の絶えない射手がいた。放浪の王子イーだ。その手には9つの燃えたつ太陽を射つたと伝えられる偉大な弓をもつてゐる。隣りには黄金の田シー・ワン・ムーがいた。月のように美しく、両手に不老不死の桃をもつてゐる。そして、家庭を愛する小鬼ツァウ・シユン。その微笑

みを浮かべた口もとにはハチミツがべつたりとついている。ほかにも、内気で纖細な乙女たちや、明るい眼をしたあご鬚のあるア賢人などがいた。

彼らは信じられないほど遠くの中国から、だれもが二度と出会うことのない平和や、奇跡や、よろこびをたずさえてはるばるやってきたのだった。そして、翼をもつた火を吹く竜もいつしょだった。



宝石が埋められた謎



美しいものを愛するのは、妖精たちが生まれついてもちあわせた性質である。いや、むしろなみはずれた偏愛というべきかも知れない。

夜空に輝く星、愛らしい野の花、サラサラと音をたてて流れる小川、露をきらめかせる朝のクモの巣、そして妙なる音を奏てる音楽。こうした自然のもつ美しいきらめきの瞬間を妖精たちはたいせつにいつくしむ。

しかし、ひとつだけ人間と共通して大好きなものがある。宝石だ。

妖精にとって、黄金は水面に反射する陽の光や、秋に舞う木の葉を想わせて心を浮きたたせてくれるものだ。たとえば、小人の妖精レブラコーンは地下に埋められた財宝を自分のものにしていて、人間にあどかされるとそのありかを教えてくれるのだが、財宝を手にした人間はそれとひきかえに100年のあいだ眠



らされてしまう。しかも、目がさめたときには財宝のかわりに枯葉がポケットに入っているというくあいなのだ。

妖精たちはまた、銀にも愛着をもつていて。月明かりや太陽の光に輝くうららを想いださせるからだ。

しかし、宝石の場合は、宝石そのものに価値を認めている。たぶん、妖精自身のように宝石が地球上で生まれたものであり、めずらしくて美しいものであるからだろう。

妖精たちは、また偉大な宝石職人でもある。指輪、ペンダント、ブレスレット、ネックレス、ブローチ、剣のつか、王冠、くし。妖精がつくりだす作品はみごとなまでの巧妙さで宝石の魅力を倍加させていると感じざるえないのだ。

しかし、こと宝石のこととなると、妖精たちも人間と同じように嫉妬深く、貪欲で、虚栄心に満ち、気短かになり、所有欲が強く、



不誠実になつたりする。

これが妖精たちが埋蔵した宝のすべてだ。

13の国々から新発見の地へやってきたとき
12の国の妖精たちは、それぞれ自慢の宝石を
もってきたのだった。旧世界の宝石、彼らの
歴史と伝統の形見をだ。そして、残った1国
スカンティナビアの妖精たちは、宝石をしま
うための神妙的で巧みに細工をほどこされた
宝箱を用意していた。

妖精は、どんなまのぬけたいたずら妖精で
さえ、宝石にまつわる話は暗唱していた。

妖精がたずさえてきた財宝は何カ？

すぐにでも心をこめて名前をあげられる
イギリスの妖精たちは誇らしげに
女王陛下のカーネットがはめこまれた
王冠を見せてくれる

アイルランドの妖精は、その輝きに満ち
た眼の色を想わせ



寒い朝の緑の葉の色をしたエメラルドを
スペインのハダス女王
野に咲く花のように内気なサファイア
フランスからはトルコ石
真夏の澄んだ空色した稀有な石
ドイツの帝王の勲章
金銀細工をほどこした紫色のアメジスト
スコットランドからはオパール
煙りのようにゆつたりと流れゆく
雲をおもわせる
ロシアの逸品はトバース
堂々たる日長石、凍てついた火
古代イタリアのペリドット
古く、あざやかだ
アラブのルビー
夜明けていく砂漠の空の緋色
アフリカのダイヤ、地上で生まれた星
夜中の岩のまばゆい収穫
古代ギリシアの妖精は甘い

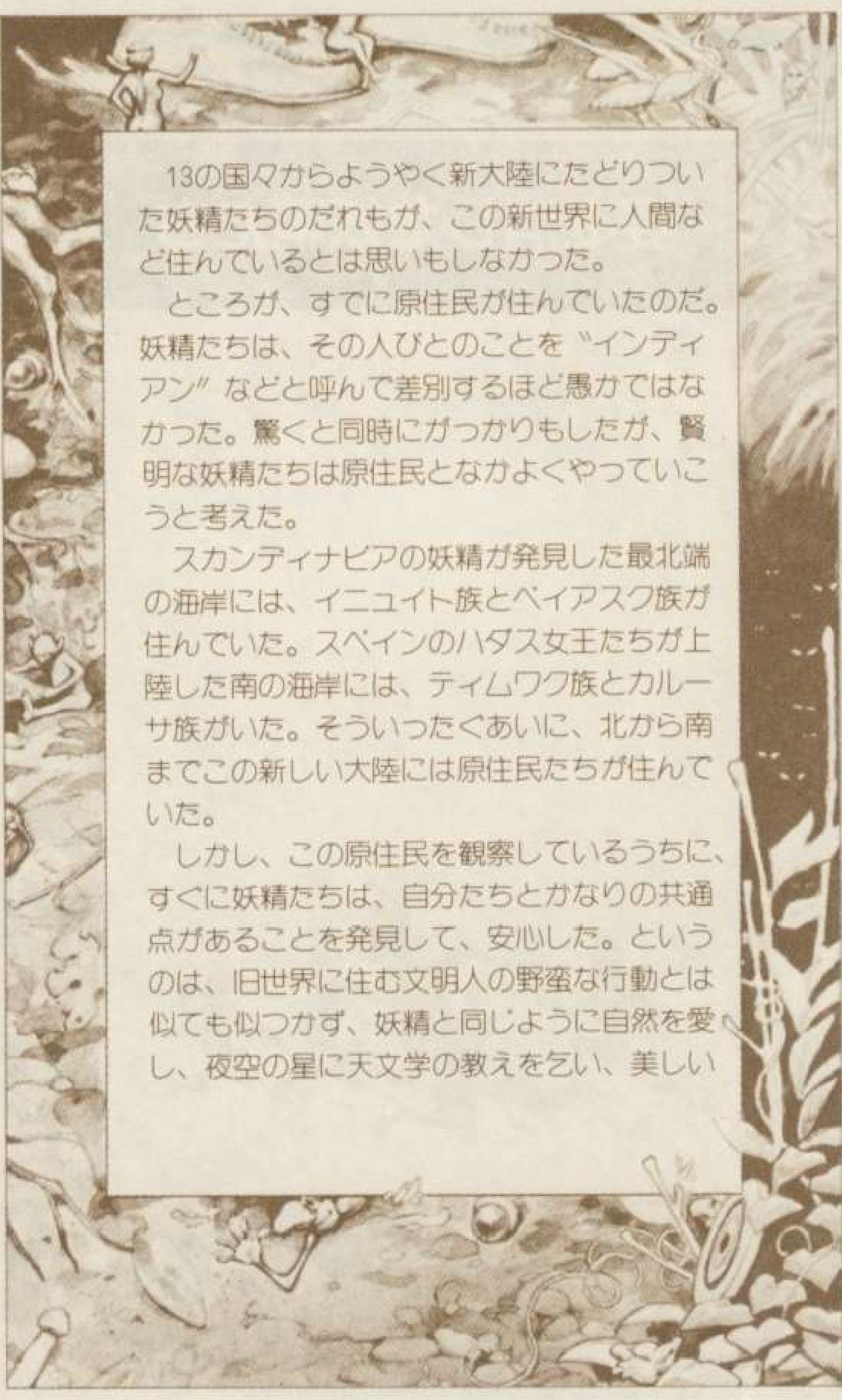


アクアマリンをいつくしむ
泉のように澄みきつた
遠方の中国からは、竜の真珠
清らかで、銀の月のように完璧
それぞれの宝石は
ふうがわりな宝箱のな力
ヴァイキングの職人からの贈り物
驚嘆と栄光の13個



姿を消した妖精たち



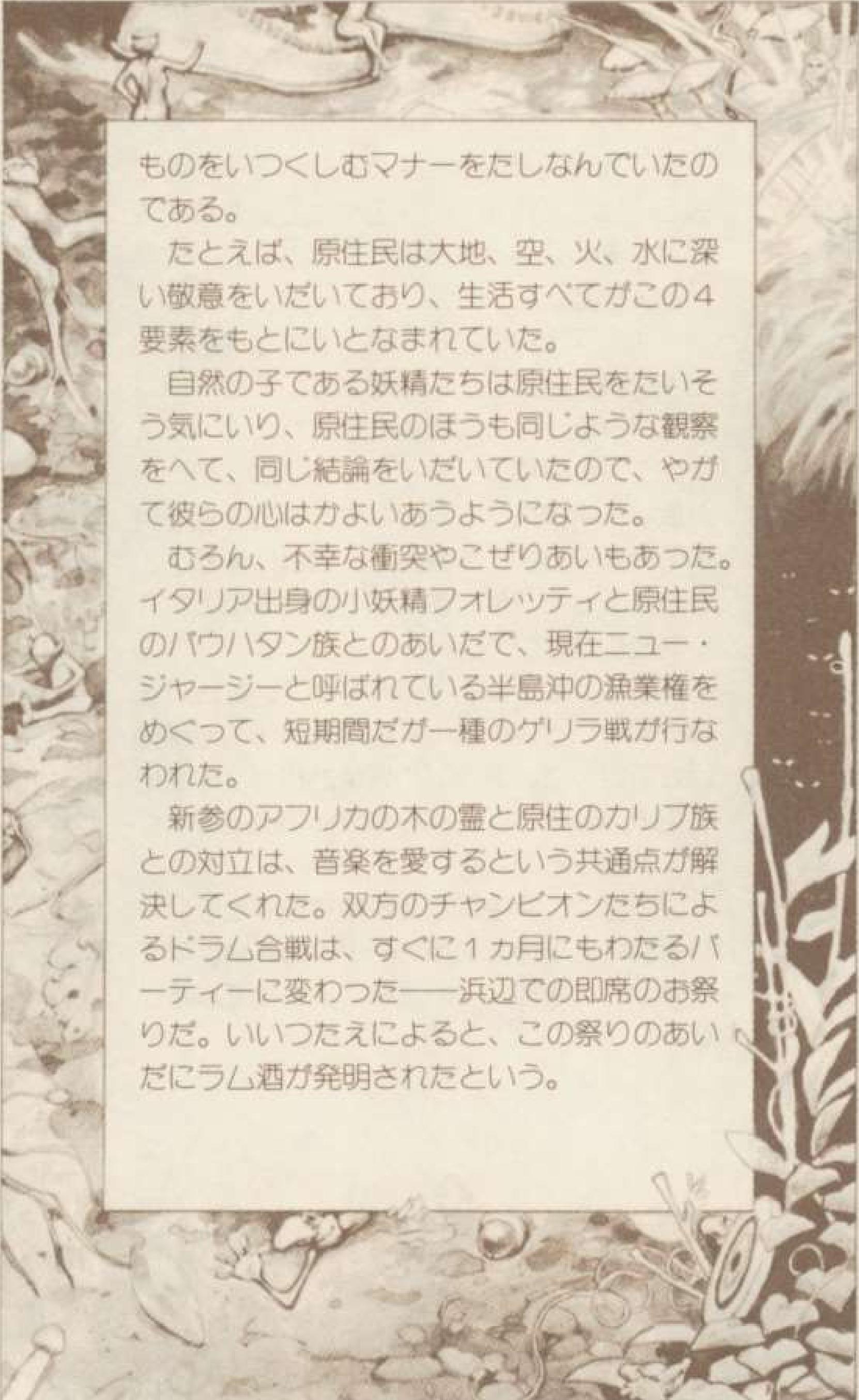


13の国々からようやく新大陸にたどりついた妖精たちのだれもが、この新世界に人間など住んでいるとは思いもしなかつた。

ところが、すでに原住民が住んでいたのだ。妖精たちは、その人びとのことを“インディアン”などと呼んで差別するほど愚かではなかつた。驚くと同時にガッカリもしたが、賢明な妖精たちは原住民となかよくやっていこうと考えた。

スカンティナビアの妖精が発見した最北端の海岸には、イニユイト族とベイアスク族が住んでいた。スペインのハダス女王たちが上陸した南の海岸には、ティムワク族とカルーサ族がいた。そういうつたぐあいに、北から南までこの新しい大陸には原住民たちが住んでいた。

しかし、この原住民を観察しているうちに、すぐに妖精たちは、自分たちとかなりの共通点があることを発見して、安心した。というのは、旧世界に住む文明人の野蛮な行動とは似ても似つかず、妖精と同じように自然を愛し、夜空の星に天文学の教えを乞い、美しい



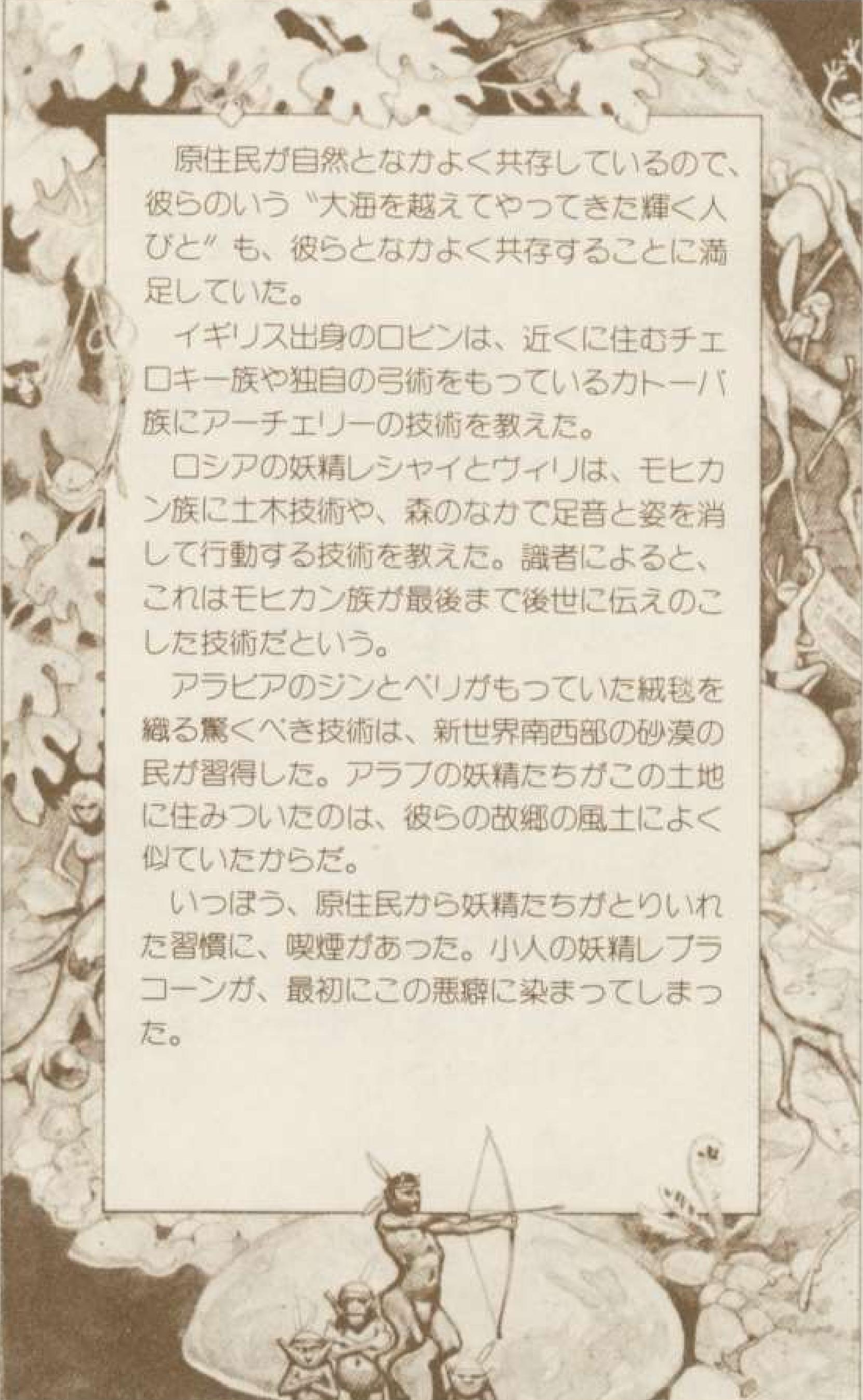
ものをいつくしむマナーをたしなんでいたのである。

たとえば、原住民は大地、空、火、水に深い敬意をいだいており、生活すべてがこの4要素をもとにいとなまれていた。

自然の子である妖精たちは原住民をたいそう気にいり、原住民のほうも同じような観察をへて、同じ結論をいだいていたので、やがて彼らの心はかよいあうようになった。

むろん、不幸な衝突やこぜりあいもあつた。イタリア出身の小妖精フォレッティと原住民のパウハタン族とのあいだで、現在ニュー・ジャージーと呼ばれている半島沖の漁業権をめぐって、短期間だが一種のゲリラ戦が行なわれた。

新参のアフリカの木の靈と原住のかリブ族との対立は、音楽を愛するという共通点が解決してくれた。双方のチャンピオンたちによるドラム合戦は、すぐに1カ月にもわたるパーティーに変わった——浜辺での即席のお祭りだ。いいつたえによると、この祭りのあいだにラム酒が発明されたという。



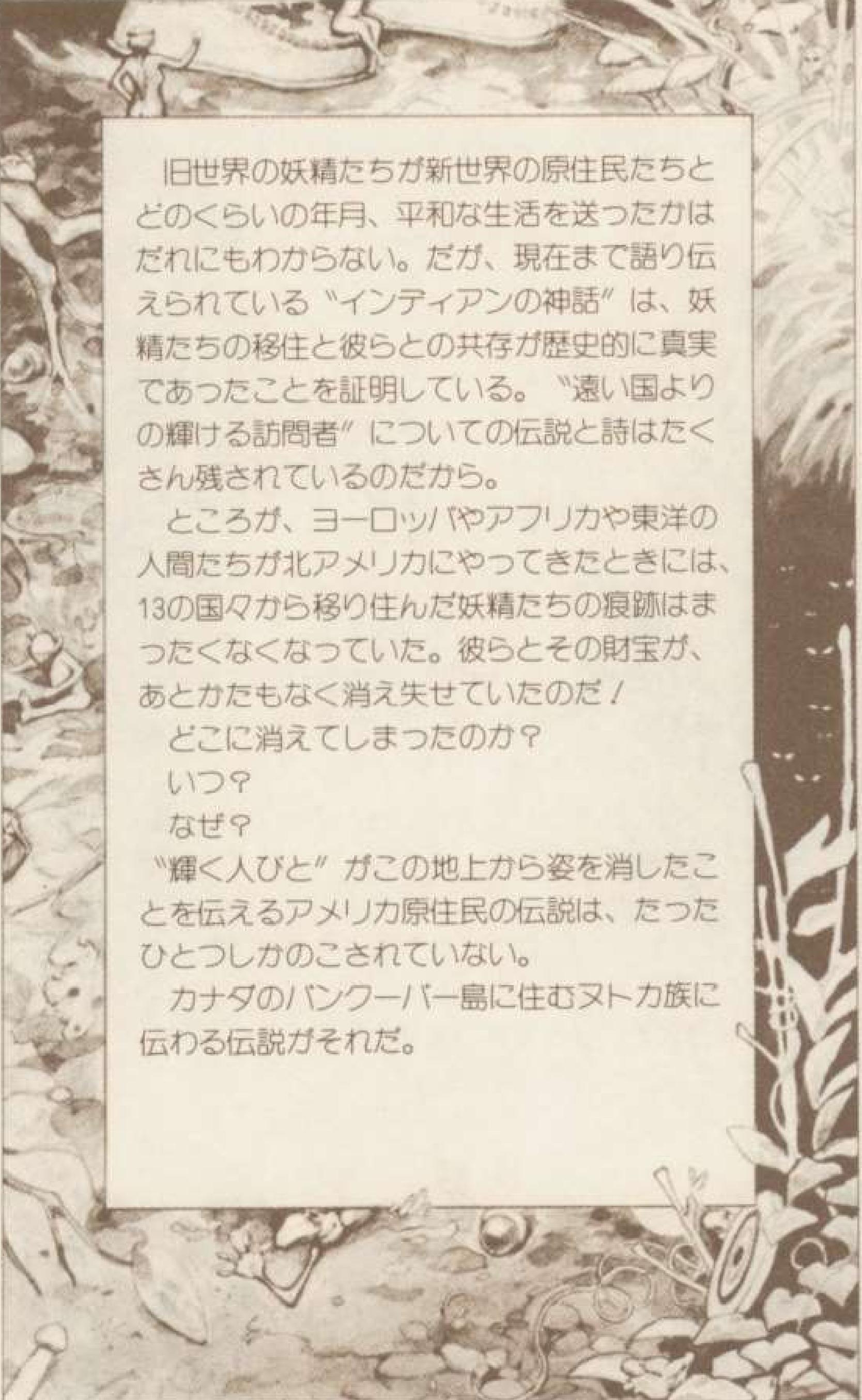
原住民が自然となじよく共存しているので、彼らのいう“大海を越えてやってきた輝く人びと”も、彼らとなじよく共存することに満足していた。

イギリス出身のロビンは、近くに住むチエロキー族や独自の弓術をもっているカトーバ族にアーチェリーの技術を教えた。

ロシアの妖精レシャイとヴィリは、モヒカン族に土木技術や、森のなかで足音と姿を消して行動する技術を教えた。識者によると、これはモヒカン族が最後まで後世に伝えのこした技術だという。

アラビアのジンとベリがもっていた絨毯を織る驚くべき技術は、新世界南西部の砂漠の民が習得した。アラブの妖精たちがこの土地に住みついたのは、彼らの故郷の風土によく似ていたからだ。

いっぽう、原住民から妖精たちがとりいれた習慣に、喫煙があつた。小人の妖精レブランコーンが、最初にこの悪癖に染まってしまった。



旧世界の妖精たちが新世界の原住民たちとどのくらいの年月、平和な生活を送ったかはだれにもわからない。だが、現在まで語り伝えられている“インティアンの神話”は、妖精たちの移住と彼らとの共存が歴史的に真実であつたことを証明している。“遠い国よりの輝ける訪問者”についての伝説と詩はたくさん残されているのだから。

ところが、ヨーロッパやアフリカや東洋の人間たちが北アメリカにやってきたときには、13の国々から移り住んだ妖精たちの痕跡はまったくなくなっていた。彼らとその財宝が、あとかたもなく消え失せていたのだ！

どこに消えてしまったのか？

いつ？

なぜ？

“輝く人びと”がこの地上から姿を消したことを伝えるアメリカ原住民の伝説は、たつたひとつしか残されていない。

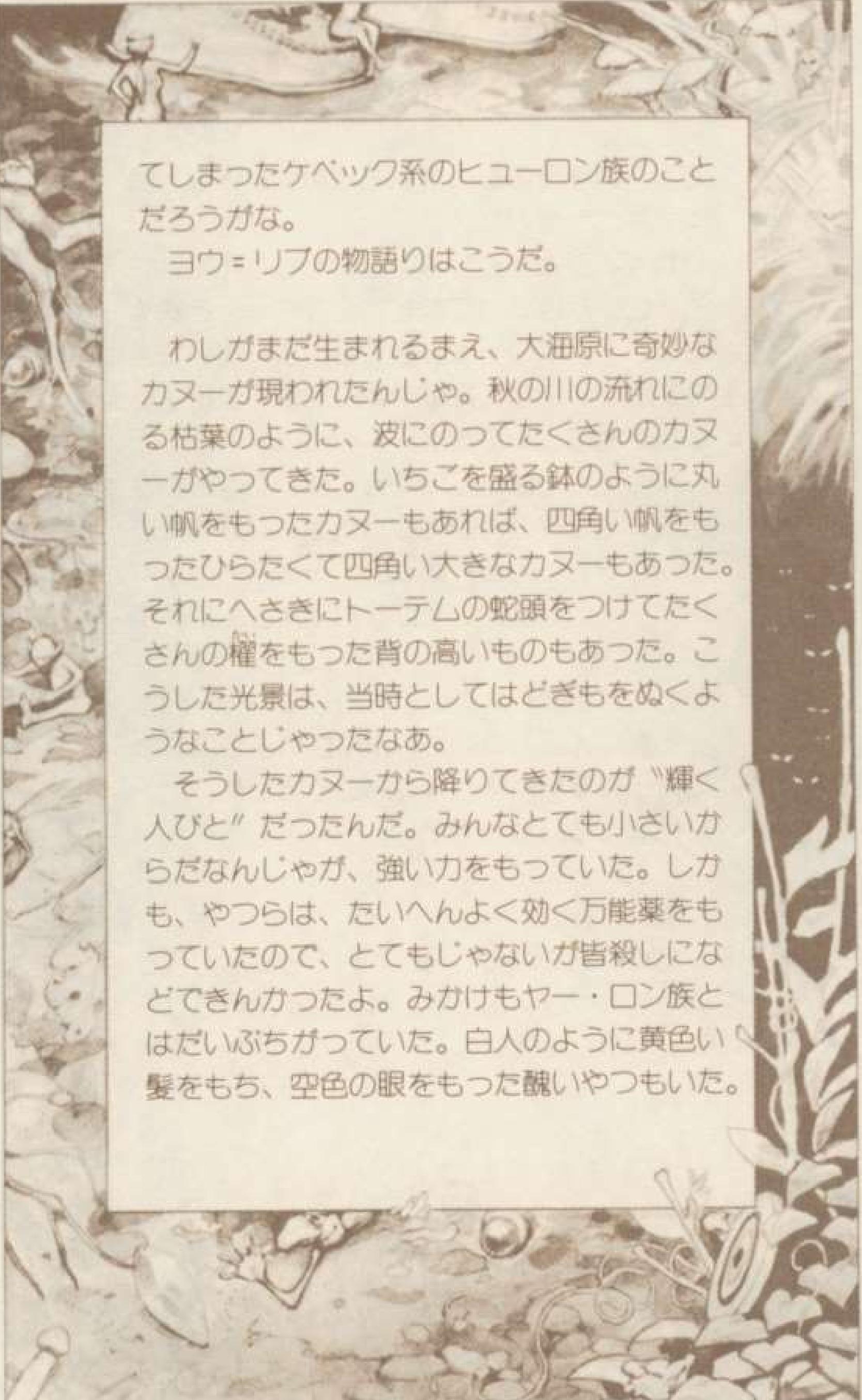
カナダのバンクーバー島に住むヌトカ族に伝わる伝説がそれだ。

わしはこの伝説をじいさんからきいた。じいさんはそのじいさんからきいたし、そのじいさんはそのまたじいさんからきいた、という話じゃ。

インティアンが使う“じいさん”ということばは、たんに“老人”とか“賢者”を意味することもあるがな。それに、伝説のな力で使われるときは風や雲の靈を意味することもあるって、そのときは“記憶”という意味になるそうだ。

このいちばん古いじいさんというのは、ヌトカ族のものではなかつたんじゃ。太陽が生まれたところ、大ガラスが棲んでいる東の山よりさらにずっと東に行った海をこえた土地からやってきた、という。

この話を、わしのじいさんのそのまたじいさんに語ってきかせたのは、彼がとても年老いたときだつたらしい。名前はヨウ=リフといひ、ヤー・ロンと呼ばれる部族民がいつもにくらしていたんじゃ。おそらく、わしの考えるところでは、1649年にほとんど絶滅し

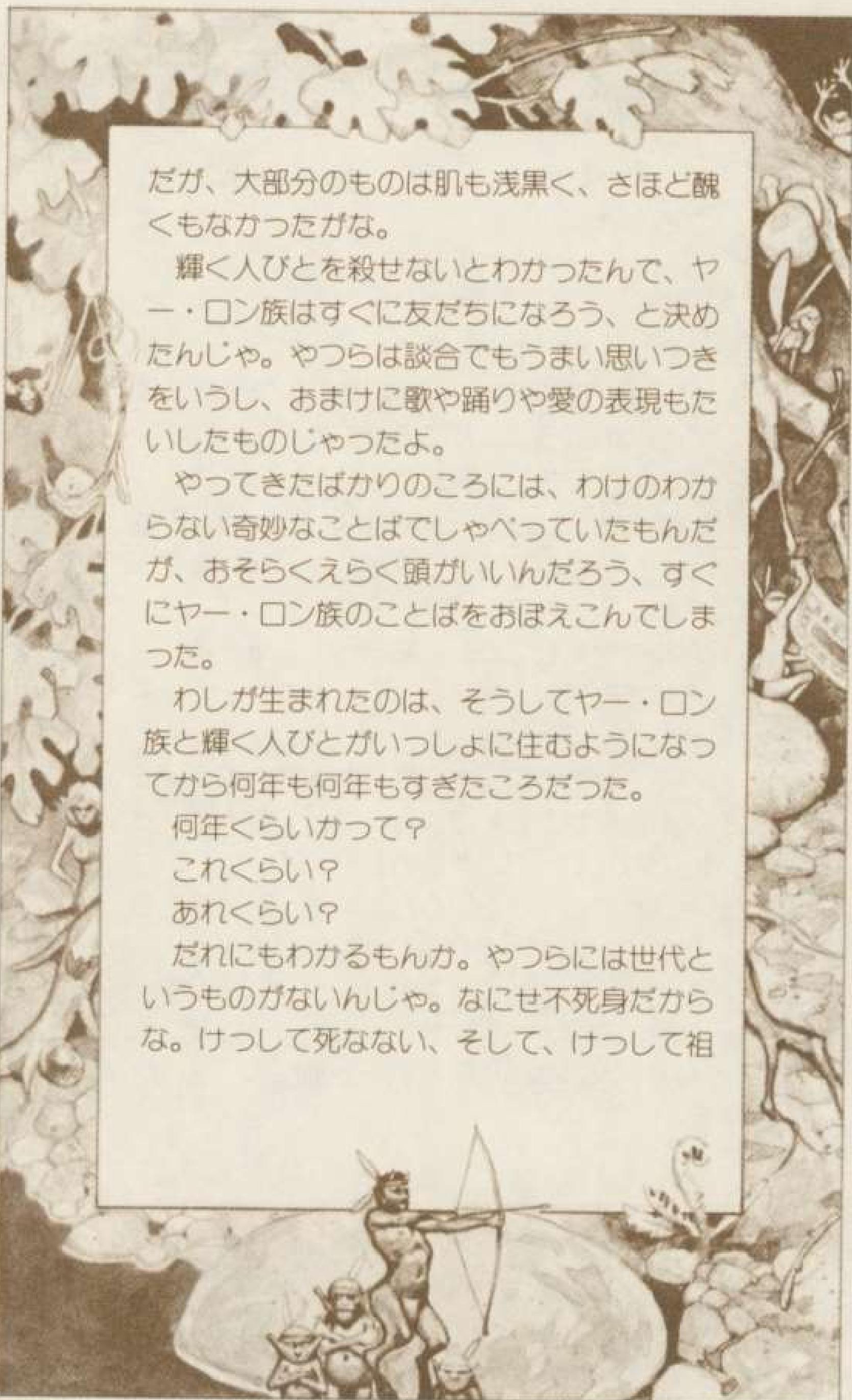


てしまつたケベック系のヒューロン族のこと
だろうがな。

ヨウ＝リブの物語りはこうだ。

わしがまだ生まれるまえ、大海原に奇妙な
カヌーが現われたんじや。秋の川の流れにの
る枯葉のように、波にのってたくさんのかヌ
ーがやってきた。いちごを盛る鉢のように丸
い帆をもつたカヌーもあれば、四角い帆をも
つたひらたくて四角い大きなカヌーもあつた。
それにへさきにトーテムの蛇頭をつけてたく
さんの權をもつた背の高いものもあつた。こ
うした光景は、当時としてはどぎもをぬくよ
うなことじゃつたなあ。

そうしたカヌーから降りてきたのが“輝く
人びと”だったんだ。みんなとても小さいか
らだなんじやが、強い力をもつていた。レガ
も、やつらは、たいへんよく効く万能薬をも
つていたので、とてもじゃないが皆殺しにな
どできんかつたよ。みかけもヤー・ロン族と
はだいぶちがっていた。白人のように黄色い
髪をもち、空色の眼をもつた醜いやつもいた。



だが、大部分のものは肌も浅黒く、さほど醜くもなかつたがな。

輝く人ひとを殺せないとわかったんで、ヤー・ロン族はすぐに友だちになろう、と決めたんじや。やつらは談合でもうまい思いつきをいうし、あまけに歌や踊りや愛の表現もたいしたものじゃつたよ。

やってきたばかりのころには、わけのわからぬ奇妙なことばでしゃべっていたもんだが、おそらくえらく頭がいいんだろう、すぐにヤー・ロン族のことばをおぼえこんでしまつた。

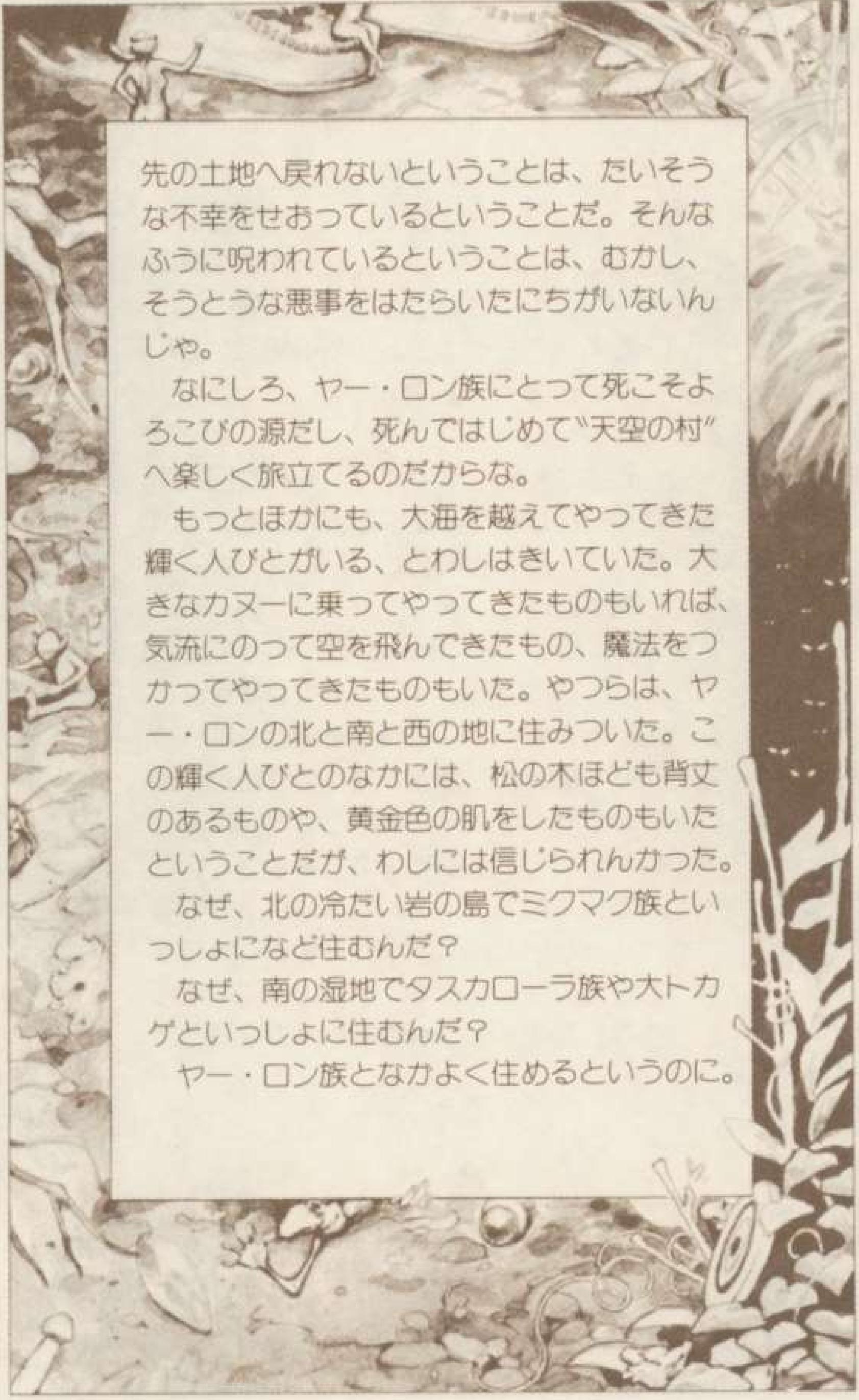
わしが生まれたのは、そうしてヤー・ロン族と輝く人ひとがいつしょに住むようになつてから何年も何年もすぎたころだった。

何年くらいかって？

これくらい？

あれくらい？

だれにもわかるもんか。やつらには世代というものがないんじや。なにせ不死身だからな。けつして死なない、そして、けつして祖



先の土地へ戻れないということは、たいそうな不幸をせあつてゐるということだ。そんなふうに呪われてゐるということは、むかし、そうとうな悪事をはたらいたにちがいないんじや。

なにしろ、ヤー・ロン族にとって死こそよろこびの源だし、死んではじめて“天空の村”へ楽しく旅立てるのだからな。

もつとほかにも、大海を越えてやってきた輝く人びとがいる、とわしはきいていた。大きなカヌーに乗ってやってきたものもいれば、気流にのって空を飛んできたもの、魔法をつかってやってきたものもいた。やつらは、ヤー・ロンの北と南と西の地に住みついた。この輝く人びとのなかには、松の木ほども背丈のあるものや、黄金色の肌をしたものもいたということだが、わしには信じられんかった。

なぜ、北の冷たい岩の島でミクマク族といつしょになど住むんだ？

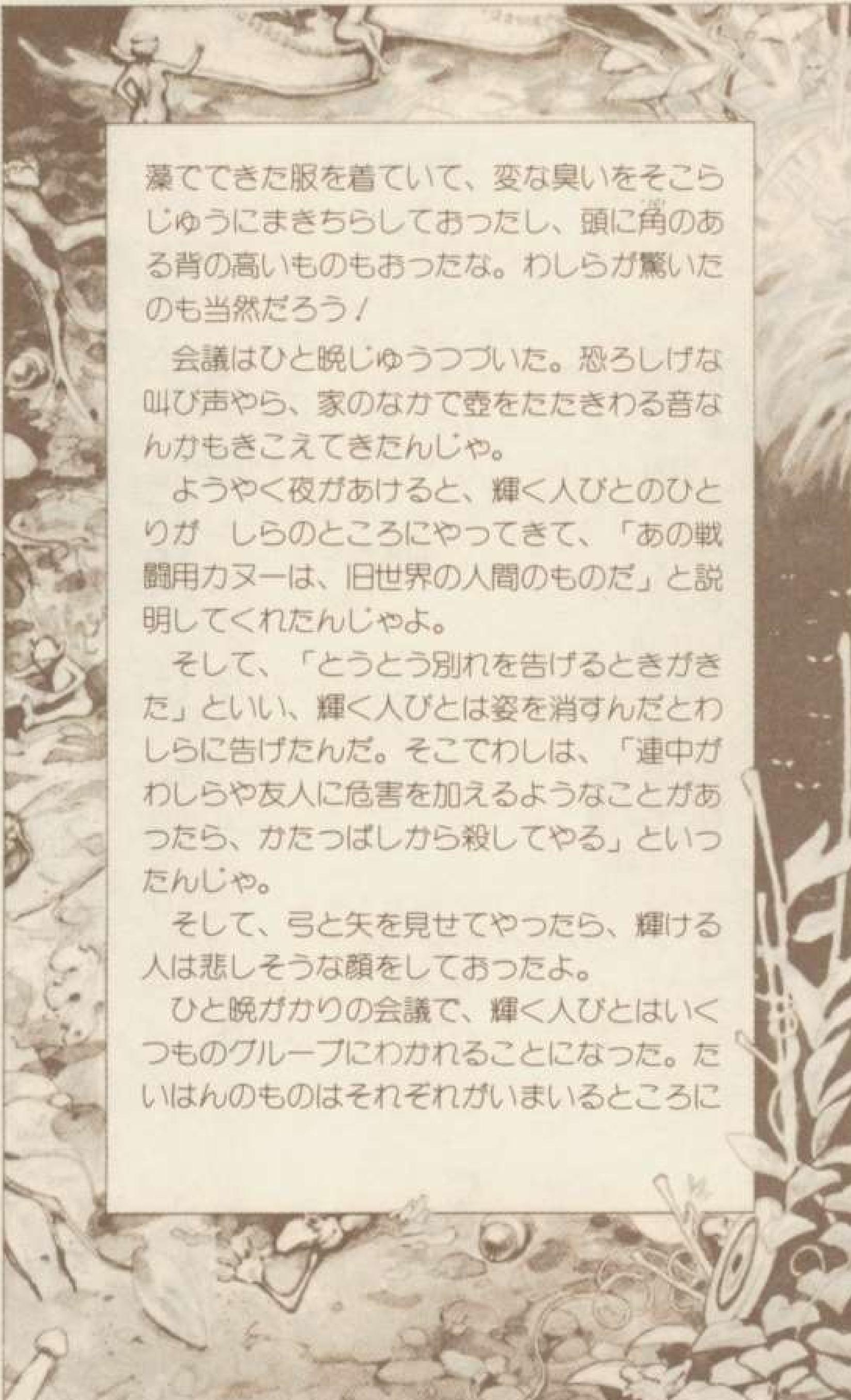
なぜ、南の湿地でタスカローラ族や大トカゲといつしょに住むんだ？

ヤー・ロン族となかよく住めるというのに。

ところで、わしがまだ若い勇者だったころ、ある日、釣りにてかけたんじや。河で釣りをしていると、こっちにやってくる大きな戦闘用のカヌーが目にはいつた。わしは驚いて、大いそぎで走りもどってみんなに知らせたんだ。それからみんなで海岸に見にいつたんじや。

そのときは知らなかつたが、それが白人の到来だつたのじやな。連中が書物に書いてある“発見”とやらを最初に目撃したのが、このわしだつたのさ。

野蛮な人間がついに新大陸にもやってきたのじや。その晩、輝く人びとが大会議をひらいたんじや。ヤー・ロン族はそのときはじめて、すべての輝く人びとを見て、ほんとに驚いたものじやつた。松の木ほども背丈のあるものや黄金色の肌をしたものも集まつていた。半山半神、半馬神、半魚人、赤いトンカリ帽子をかぶつた小人。爪先が上へまるくはねあがつたモカシンをはいているものまでいたんだからな。海底からやってきたものは貝と海



藻でてきた服を着ていて、変な臭いをそこらじゅうにまきちらしてあつたし、頭に角のある背の高いものもあつたな。わしらが驚いたのも当然だろう！

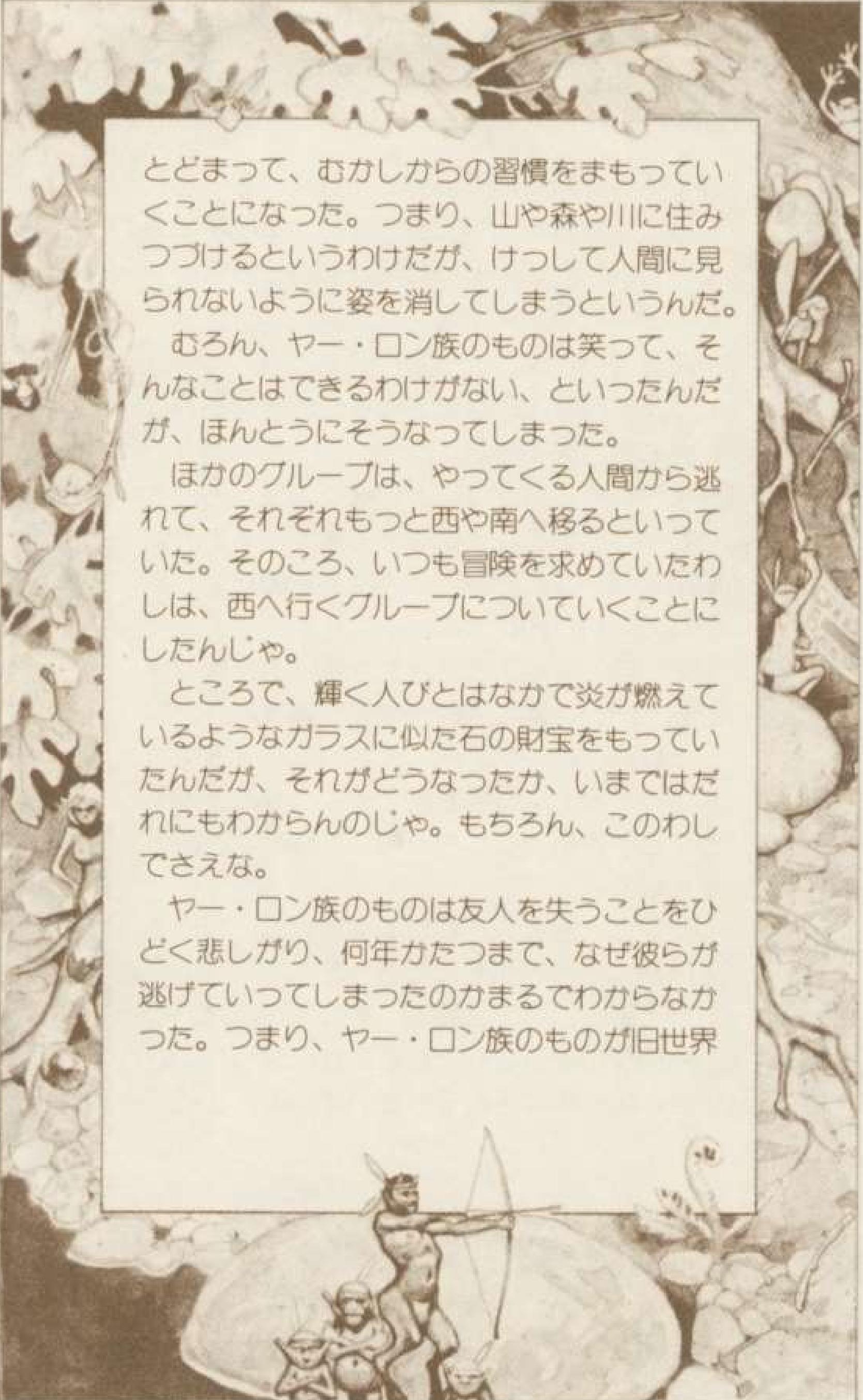
会議はひと晩じゅうつづいた。恐ろしげな叫び声やら、家のなかで壺をたたきわる音なんかもきこえてきたんじや。

ようやく夜があけると、輝く人びとのひとりが しらのところにやってきて、「あの戦闘用力ヌーは、旧世界の人間のものだ」と説明してくれたんじやよ。

そして、「とうとう別れを告げるときがきた」といい、輝く人びとは姿を消すんだとわしらに告げたんだ。そこでわしは、「連中がわしらや友人に危害を加えるようなことがあつたら、力たつばしから殺してやる」といつたんじや。

そして、弓と矢を見せてやつたら、輝ける人は悲しそうな顔をしてあつたよ。

ひと晩がかりの会議で、輝く人びとはいくつものグループにわかることになつた。たいはんのものはそれぞれがいまいりところに



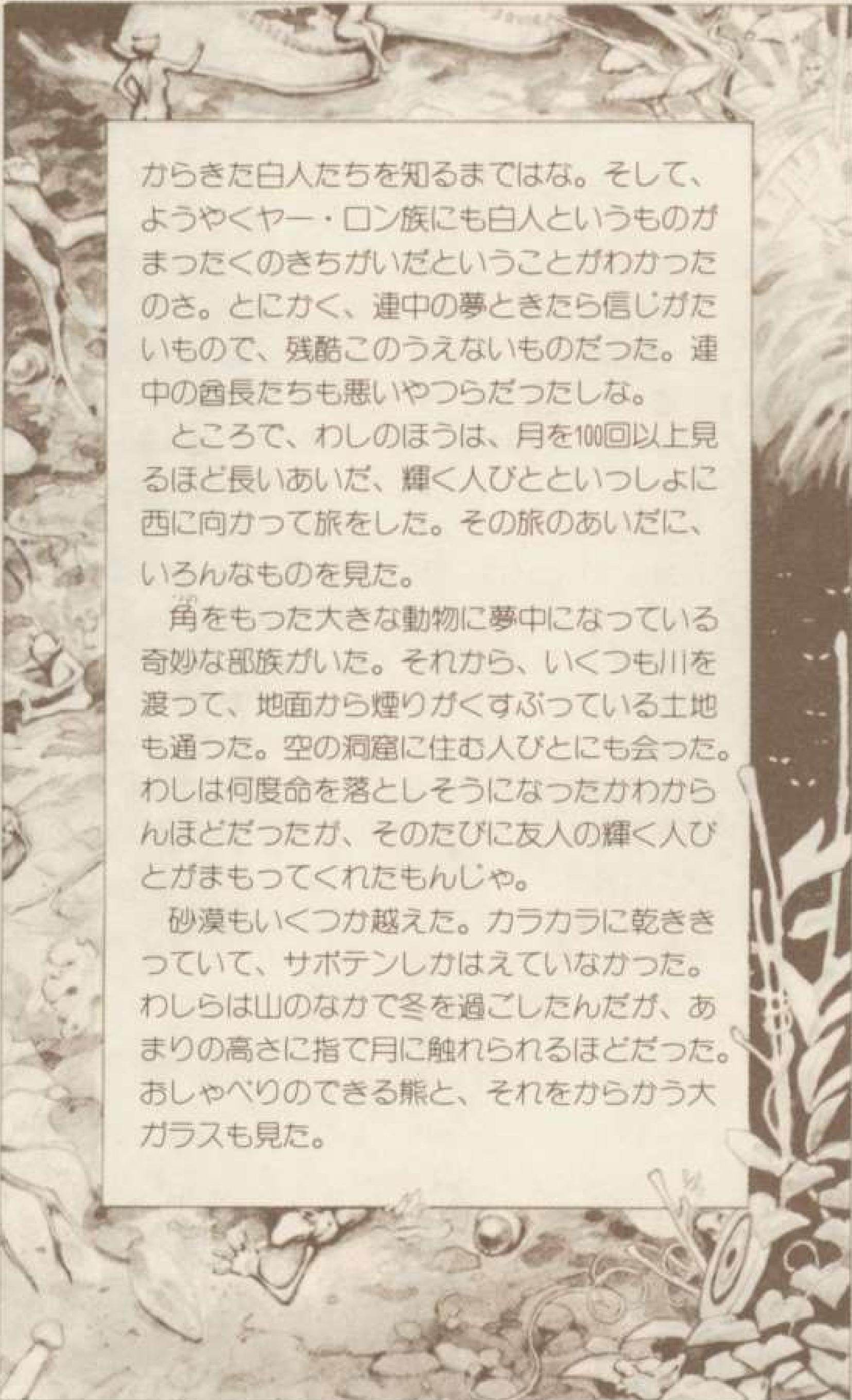
とどまつて、むかしからの習慣をまもつてい
くことになった。つまり、山や森や川に住み
つづけるというわけだが、けつして人間に見
られないように姿を消してしまうというんだ。

むろん、ヤー・ロン族のものは笑って、そ
んなことはできるわけがない、といつたんだ
が、ほんとうにそうなってしまった。

ほかのグループは、やってくる人間から逃
れて、それぞれもつと西や南へ移るといつて
いた。そのころ、いつも冒険を求めていたわ
しは、西へ行くグループについていくことに
したんじや。

ところで、輝く人びとはな力で炎が燃えて
いるようなガラスに似た石の財宝をもつてい
たんだが、それがどうなったか、いまではだ
れにもわからんのじや。もちろん、このわし
でさえな。

ヤー・ロン族のものは友人を失うことをひ
どく悲しがり、何年かたつまで、なぜ彼らが
逃げていってしまったのかまるでわからなか
つた。つまり、ヤー・ロン族のものが旧世界

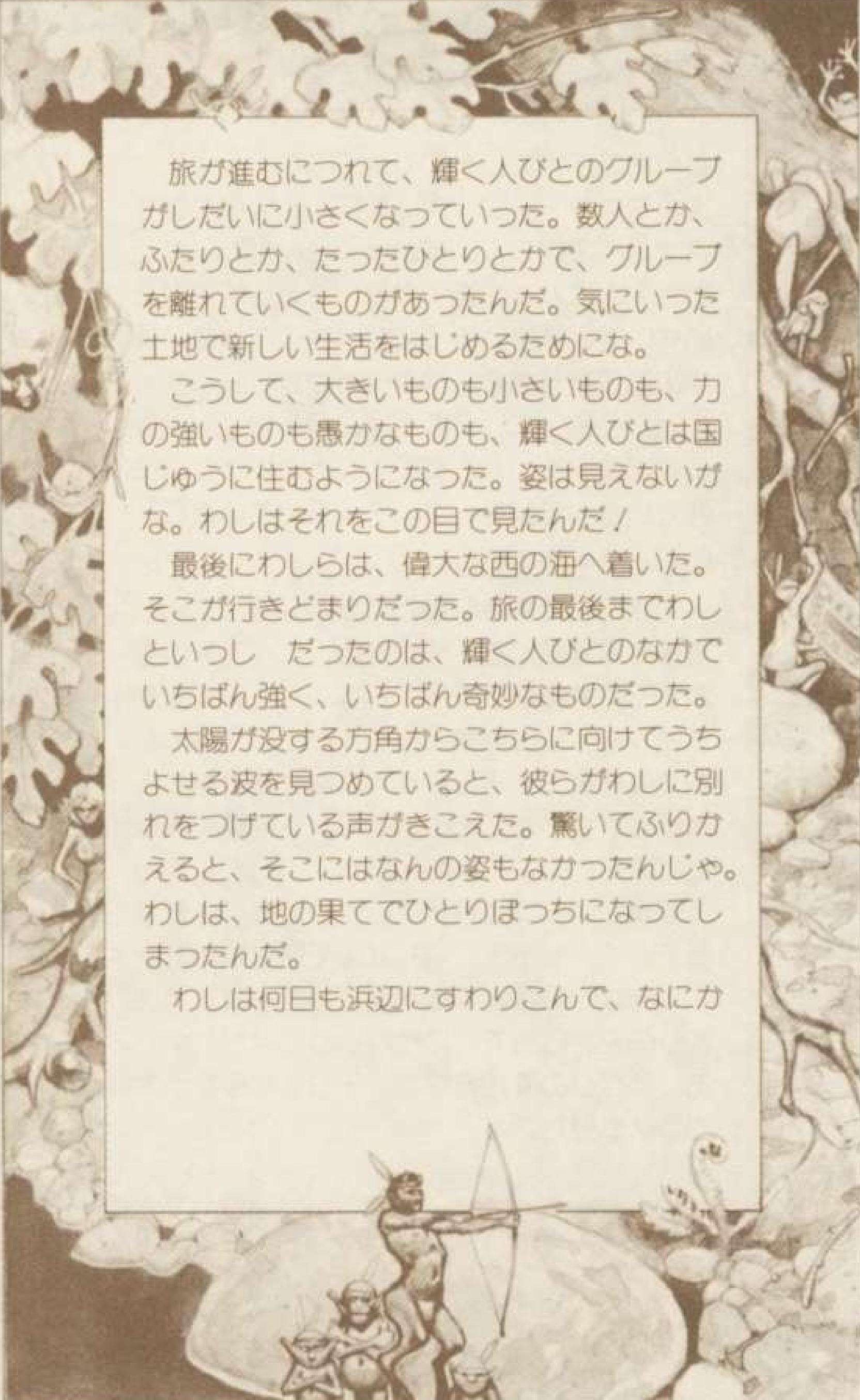


からきた白人たちを知るまではな。そして、ようやくヤー・ロン族にも白人というものがまったくのきちがいだということがわかつたのさ。とにかく、連中の夢ときたら信じがたいもので、残酷このうえないものだつた。連中の酋長たちも悪いやつらだつたしな。

ところで、わしのほうは、月を100回以上見るほど長いあいだ、輝く人びとといつしょに西に向かって旅をした。その旅のあいだに、いろんなものを見た。

角をもつた大きな動物に夢中になつてゐる奇妙な部族がいた。それから、いくつも川を渡つて、地面から煙りがくすぶつてゐる土地も通つた。空の洞窟に住む人びとにも会つた。わしは何度命を落としそうになつたかわからんほどだつたが、そのたびに友人の輝く人びとがまもつてくれたもんじや。

砂漠もいくつか越えた。カラカラに乾ききつていて、サボテンしかはえていなかつた。わしらは山のなかで冬を過ごしたんだが、あまりの高さに指で月に触れられるほどだつた。おしゃべりのできる熊と、それをからかう大ガラスも見た。



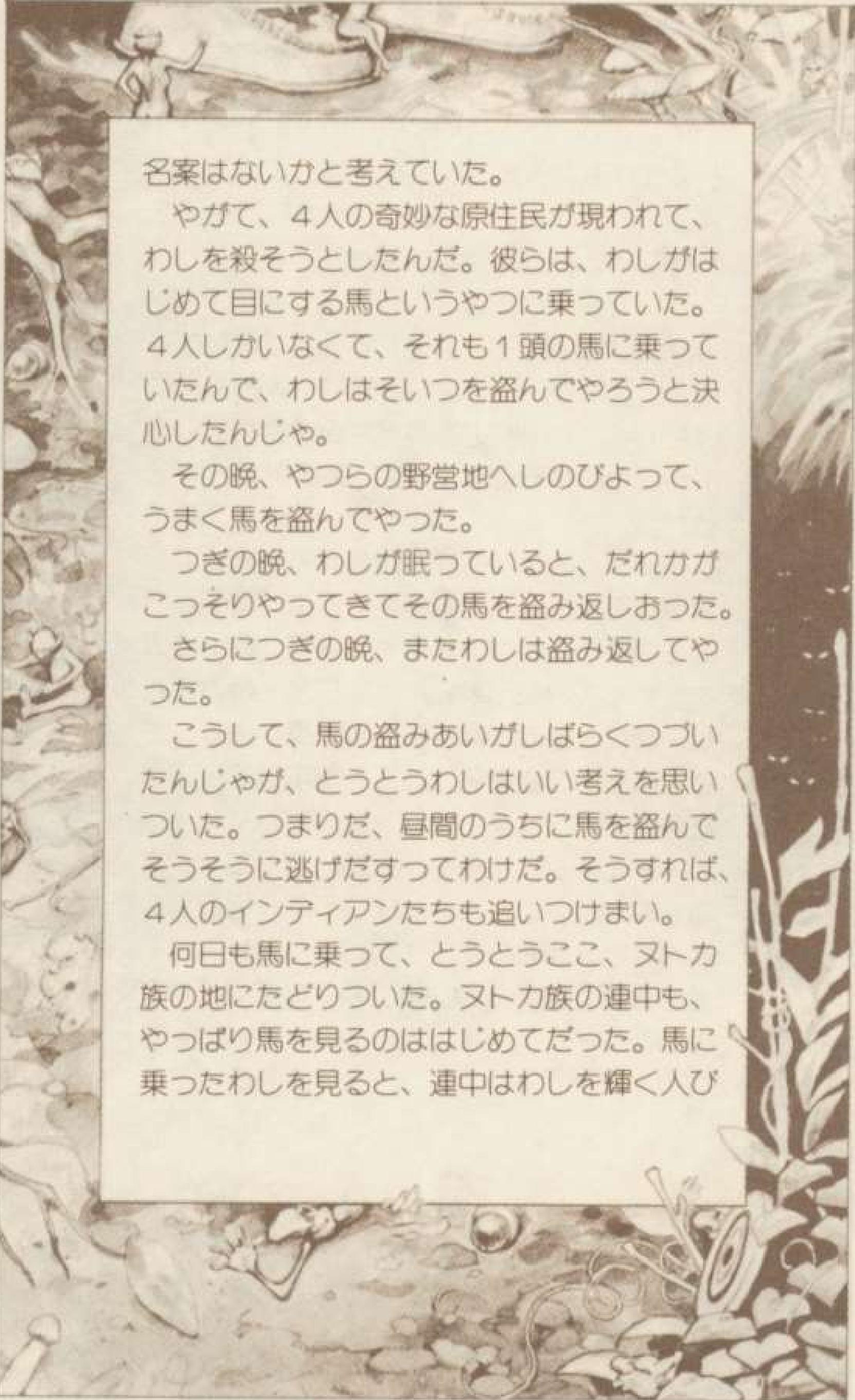
旅が進むにつれて、輝く人びとのグループがしだいに小さくなつていつた。数人とか、ふたりとか、たつたひとりとかで、グループを離れていくものがあつたんだ。気にいつた土地で新しい生活をはじめるためにな。

こうして、大きいものも小さいものも、力の強いものも愚かなものも、輝く人びとは国じゆうに住むようになつた。姿は見えないがな。わしはそれをこの目で見たんだ！

最後にわしらは、偉大な西の海へ着いた。そこが行きどまりだつた。旅の最後までわしといつし だつたのは、輝く人びとのなかでいちばん強く、いちばん奇妙なものだつた。

太陽が没する方角からこちらに向けてうちよせる波を見つめていると、彼らがわしに別れをつけている声がきこえた。驚いてふりかえると、そこにはなんの姿もなかつたんじや。わしは、地の果てでひとりぼっちになつてしまつたんだ。

わしは何日も浜辺にすわりこんで、なにか



名案はないかと考えていた。

やがて、4人の奇妙な原住民が現わって、わしを殺そうとしたんだ。彼らは、わしがはじめて目にする馬というやつに乗っていた。4人しかいなくて、それも1頭の馬に乗っていたんで、わしはそいつを盗んでやろうと決心したんじゃ。

その晩、やつらの野営地へしのびよって、うまく馬を盗んでやつた。

つぎの晩、わしが眠っていると、だれかがこっそりやってきてその馬を盗み返しあつた。

さらにつぎの晩、またわしは盗み返してやつた。

こうして、馬の盗みあいがしばらくつづいたんじゃが、とうとうわしはいい考えを思いついた。つまりだ、昼間のうちに馬を盗んでそうそうに逃げだすってわけだ。そうすれば、4人のインディアンたちも追いつけまい。

何日も馬に乗って、とうとうここ、ヌトカ族の地にたどりついた。ヌトカ族の連中も、やっぱり馬を見るのははじめてだった。馬に乗ったわしを見ると、連中はわしを輝く人び

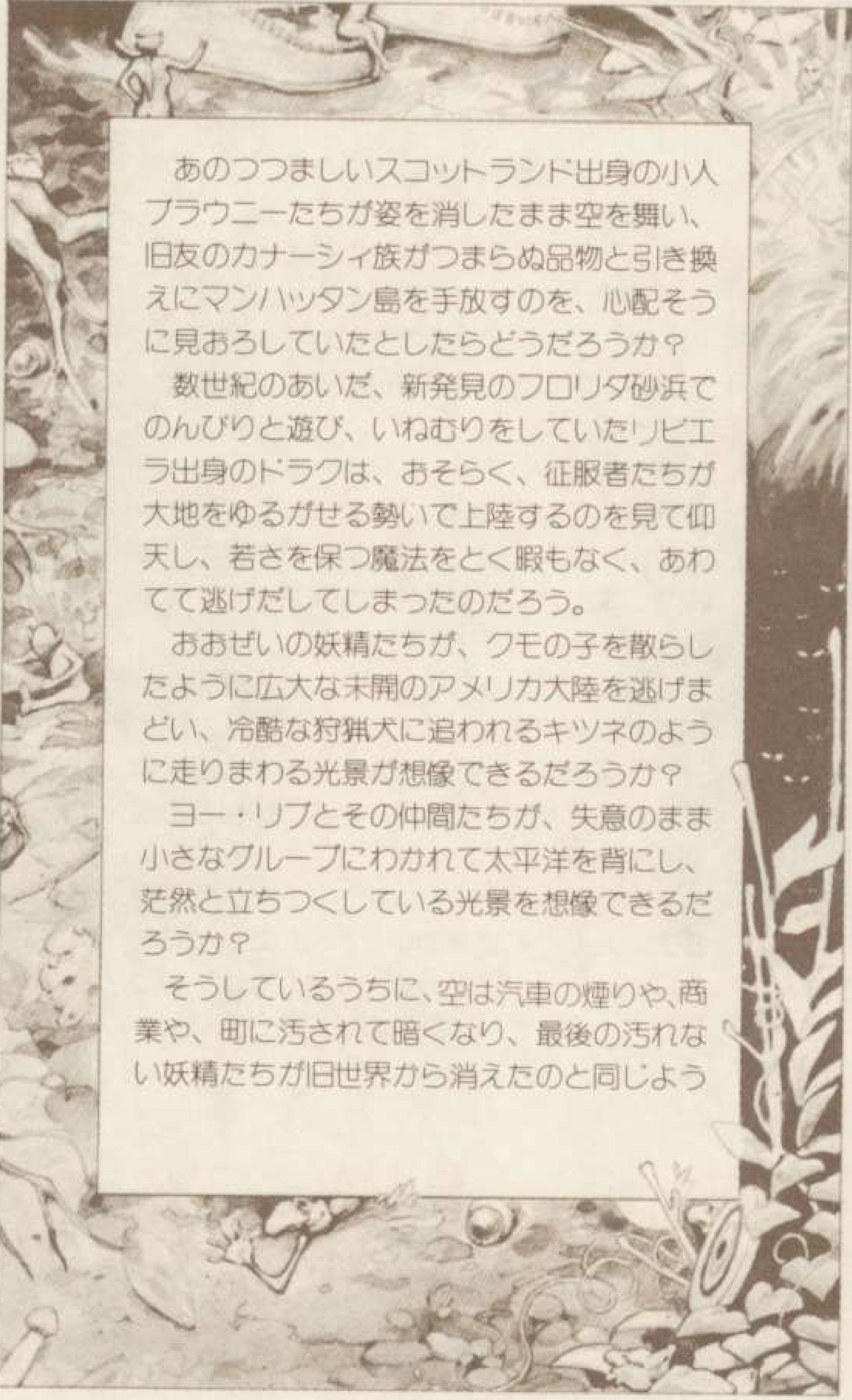
とのな力の半馬神とまちがえたらしい。

こうしたわけで、わしはヌトカ族と生活をともにすることになったのさ。

アメリカ原住民によって語りつがれた数多くの伝説同様、このヌトカ族につたわる物語にもいくつかの歴史的事実がふくまれているように思われる。たとえば、馬の話などがそうだ。

アメリカ大陸から妖精たちが姿を消してしまった不思議も、この物語りがよく説明しているのかもしれない。美を解さず、醜いものを崇める人間の出現によって二度も脅かされた“輝く人びと”は、海や山、風や荒野、さらには地中にまで逃げこみ、離散してしまったのだ。

アイルランド出身の小妖精レブラコーンが身を隠した浜辺から、メイフラワー号投錯のようすと、甲板にあいさつにいった仲間を新参の人間が残酷な顔つきで殺すのを見ていたとしたら……。



あのつましいスコットランド出身の小人
ブラウニーたちが姿を消したまま空を舞い、
旧友のカナーシイ族がつまらぬ品物と引き換
えにマンハッタン島を手放すのを、心配そう
に見あろしていたとしたらどうだろうか？

数世紀のあいだ、新発見のフロリダ砂浜で
のんびりと遊び、いねむりをしていたリビエ
ラ出身のドラクは、おそらく、征服者たちが
大地をゆるがせる勢いで上陸するのを見て仰
天し、若さを保つ魔法をとく暇もなく、あわ
てて逃げだしてしまったのだろう。

あおせいの妖精たちが、クモの子を散らし
たように広大な未開のアメリカ大陸を逃げま
どい、冷酷な狩猟犬に追われるキツネのよう
に走りまわる光景が想像できるだろうか？

ヨー・リフとその仲間たちが、失意のまま
小さなグループにわかれて太平洋を背にし、
茫然と立ちつくしている光景を想像できるだ
ろうか？

そうしているうちに、空は汽車の煙りや、商
業や、町に汚されて暗くなり、最後の汚れな
い妖精たちが旧世界から消えたのと同じよう

に新世界からも消えてしまったのだ。

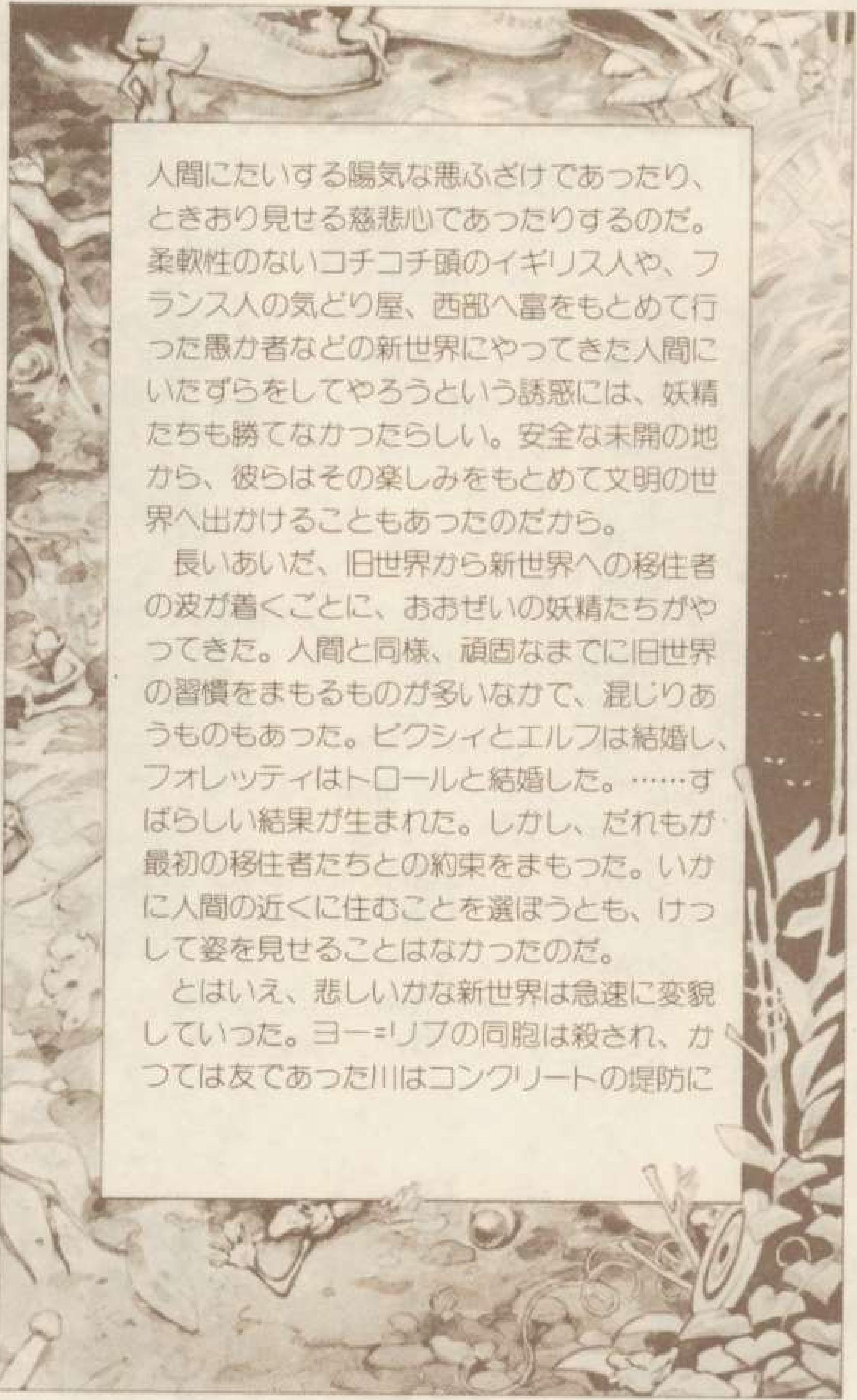
もちろん、想像などできないだろう。ワシやカメやバッファローは死に絶え、シャイアン族やアバッチ族は死滅するかもしれない。川や森、山は絶滅するかもしれないことを。しかし、妖精たちは永遠に生きつづけるということを。

最初に移住してきた妖精たちは、人間の目から逃れて周囲の自然のなかへ消えてしまった。山、砂漠、湿地、森といった新世界の偉大なる未開地に、姿を見せぬまま安全に暮そうと決心し、移り住んだのだ。

しかし、妖精たちの姿が消えると同時に、妖精たちの財宝も消えてしまった。スカンティナピア出身の小妖精エルフガつくつた宝箱に入れてまもられた宝石も、人間の目から隠されてしまったのだ。

それ以来、妖精たちはわたしたち人間の脇、頭上、足もとで姿を消したままわたしたちを見つめ、からかい、あるいは手だすけをしつづけている。それは妖精の誇り高き伝統で、





人間にたいする陽気な悪ふざけであつたり、ときあり見せる慈悲心であつたりするのだ。柔軟性のないコチコチ頭のイギリス人や、フランス人の氣どり屋、西部へ富をもとめて行つた愚カ者などの新世界にやってきた人間にいたずらをしてやろうという誘惑には、妖精たちも勝てなかつたらしい。安全な未開の地から、彼らはその楽しみをもとめて文明の世界へ出かけることもあつたのだから。

長いあいだ、旧世界から新世界への移住者の波が着くごとに、あおせいの妖精たちがやってきた。人間と同様、頑固なまでに旧世界の習慣をまもるものが多いなかで、混じりあうものもあつた。ピクシィとエルフは結婚し、フォレツティはトロールと結婚した。……すばらしい結果が生まれた。しかし、だれもが最初の移住者たちとの約束をまもつた。いかに人間の近くに住むことを選ぼうとも、けつして姿を見せることはなかつたのだ。

とはいえ、悲しいかな新世界は急速に変貌していった。ヨーリフの同胞は殺され、かつては友であつた川はコンクリートの堤防に

汚され、空は機械が吐きだす煙りで汚染された。妖精たちは、たとえ姿が見えなくても、文明によってこの新世界が自分たちには不向きなものになっていくことを悟つていた。

だからこそ、自然への愛ゆえに妖精たちはなにかをしなければと思つたのだ。いつか、人間が自分たちと平和に共存できる日がくることを願つたのだ。

こうして、妖精たちは人間にむかってかんたんな休戦協定を提案することになった。

もし、人間が妖精たちの財宝を見つけることができたら、それを与えようというのだ。そのかわり、旧大陸からきた妖精たちや新世界で生まれた妖精たちの奇妙ですばらしい子孫たちが、以降、人間の世界に姿を現わして平和に共存していくという。

しかし、最初の妖精たちはいせんとして姿を消したままになるだろう、という。

妖精たちは……

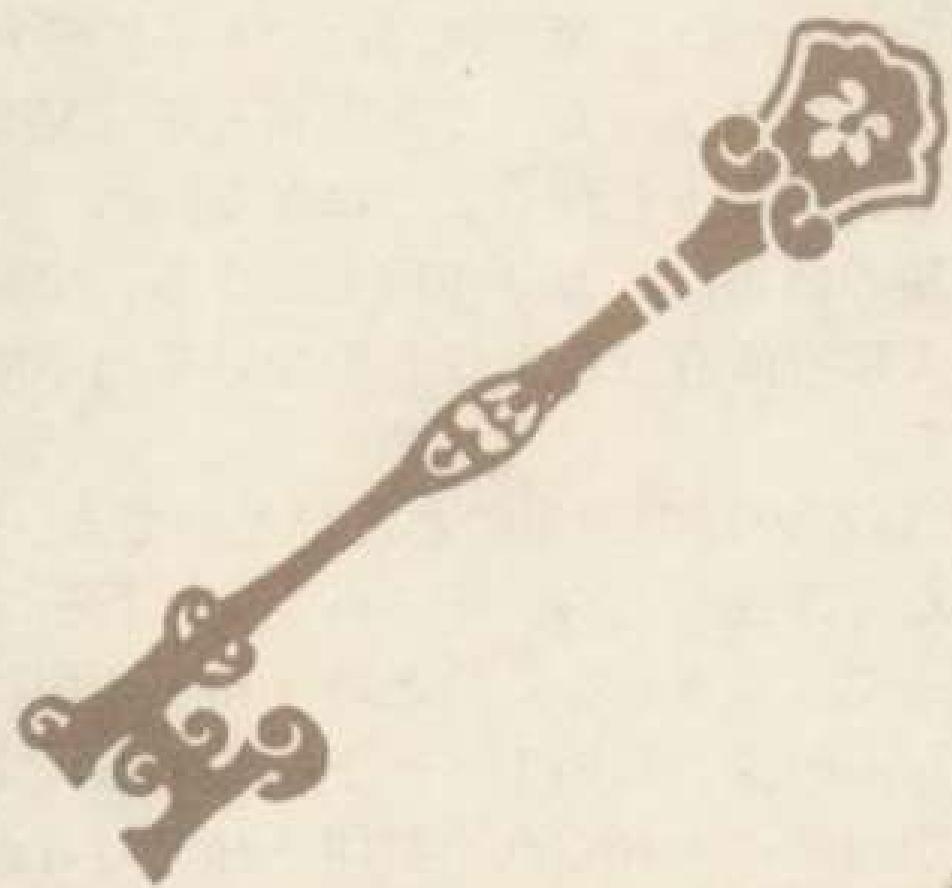
「……その古くからの場所を守る
ただの石をひっくり返し、翼を揺らす！

それはあなた、あなたのよそよそしい顔、
それは多くの華麗なものを見のがす」
わたしたちの国、わたしたちの時代に、妖
精たちとその財宝はまだ発見されるのを待つ
ているのだ。もしあなただが善良で心やさしく、
陽気な人間であるなら、きっと見つけられる
はずなのだ。

新世界のエルフ、ゴブラン
ケンタウロス、トロール、フェイ……
輝くものがしゃべってから5世紀
人間の船が陸に着いた
彼らは人間から逃れた
浅黒い者は宝石を隠し
煙りのように消えた
靈は財宝を捨てて逃げた
最初の時代は終わり
新しい時代がはじまる
風はいまだミツバチの羽音を運んでくる
さあ、そのミツを—
できるなら見つけるがいい



宝石を手に入れよう！





埋められた 財宝について

妖精たちが埋めた12の財宝は本書におさめられたヒントを解読することによって見つけることができる。

それぞれの財宝は、手づくりの宝箱、そこにおさめられた手づくりの鍵、それと宝石からなっている。埋められているのは宝箱と鍵だけである。それぞれの鍵が宝石のかわりになっていて、宝箱と鍵を見つけだした人にその宝石が与えられることになる。

宝石類の総額は1万ドル以上になる。宝箱のほうはいかなる人にも所有されたことのない算出不能の価値をもっている。

もし、妖精の12の財宝のどれひとつでも、その所在を解読できたと確認したら、そこへ実際にやって掘り起こしてもらってもかまわない。どの宝箱も地中に埋められているが、その深さは約1メートルである。宝箱は光沢のある透明の箱に入れられ、封印されている。

ただし、以下の場所は使われていない。

- a 危険な高速道路の路肩や、土壤汚染地域や、使用されている鉄道線路といった、生命の危険にかかるる場所
- b 墓地

- c 公私を問わず花壇
- d 本書に関係した者、その家族、友人の私有地

この宝さがしによって自然の美や人間に傷をつけるということは、妖精の意図するところではないのだ。

財宝の隠された地点はわかったがそこに財宝がなかつた場合、次ページの書式によってあなたの推理を郵送していただきたい。もし、正確に推理されているときは、郵便によってご返事する。

また、推理はしたが実際に行くことが不可能な場合にも、同じ書式で郵送していただきたい。その推理が正しく、書面も完璧であれば、こちらでその宝箱を回収し、宝石をさしあげる。しかし、宝箱の所有権は妖精のものとする。

もし宝箱を見つけだした場合、郵便で知らせていいただきたい。つぎの書式で記入し、宝箱に入った鍵を同封することをお忘れなく。こちらからは宝石とサイン入りの本書をお送りし、次版で、あなたを写真入りで御紹介する。



さあ、手紙を書こう！

宝石が埋めてある地点を推理したら、その過程を次ページの書式にしたがって書きこんでください。解答は英語のみ受けつけられます。中学生ていどの英語力があればじゅうぶんです。要は、意味が通じ、埋蔵地点が正確に推理されていればいいのですから。

さあ、手紙を書いてみてください！

さて、次ページの書式に解答を書いたら、本書に添付された封筒を使ってください。160円切手を貼りつけ、投函します。ニューヨークには約1週間で到着します。

あなたの推理が正しければ、ニューヨークの版元からうれしい便りが届くはずです。

成功をいのる！



THE TREASURE (宝石)

— I have found a treasure casque. I enclose the key.

(宝箱を発明した。鍵を同封する)

— I think I have found a treasure site, but the treasure is missing.

(宝石の位置はわかったが、宝石がみあたらない)

— I have determined the site of a treasure, but I am unable to explore it.

(宝石の位置はわかったが、探して掘り出せない)

This is how I have determined the location of a treasure, using the clues in *The Secret*:

(本書のヒントをつかって宝石の埋蔵位置を推理した。過程をしるせ)

Describe precisely the exact site of the treasure:
(宝石の正確な埋蔵地点を記せ)

Describe precisely the treasure casque (if found):
(もし見つけたら正確に宝箱の形をしるせ)

My name is _____
(名前)

My address is: _____
(住所)

City _____ State _____ Zip _____
(町) (県) (郵便番号)

Country _____ Postal Code _____ Phone _____
(国) (郵便番号) (電話番号)

SEND TO: THE SECRET/ TREASURE
(送り先)

Byron Preiss Visual Publications, Inc.
Box 5329 FDR Station
New York, NY 10150

のりシロ

のりシロ

(差出人)
名前

住所

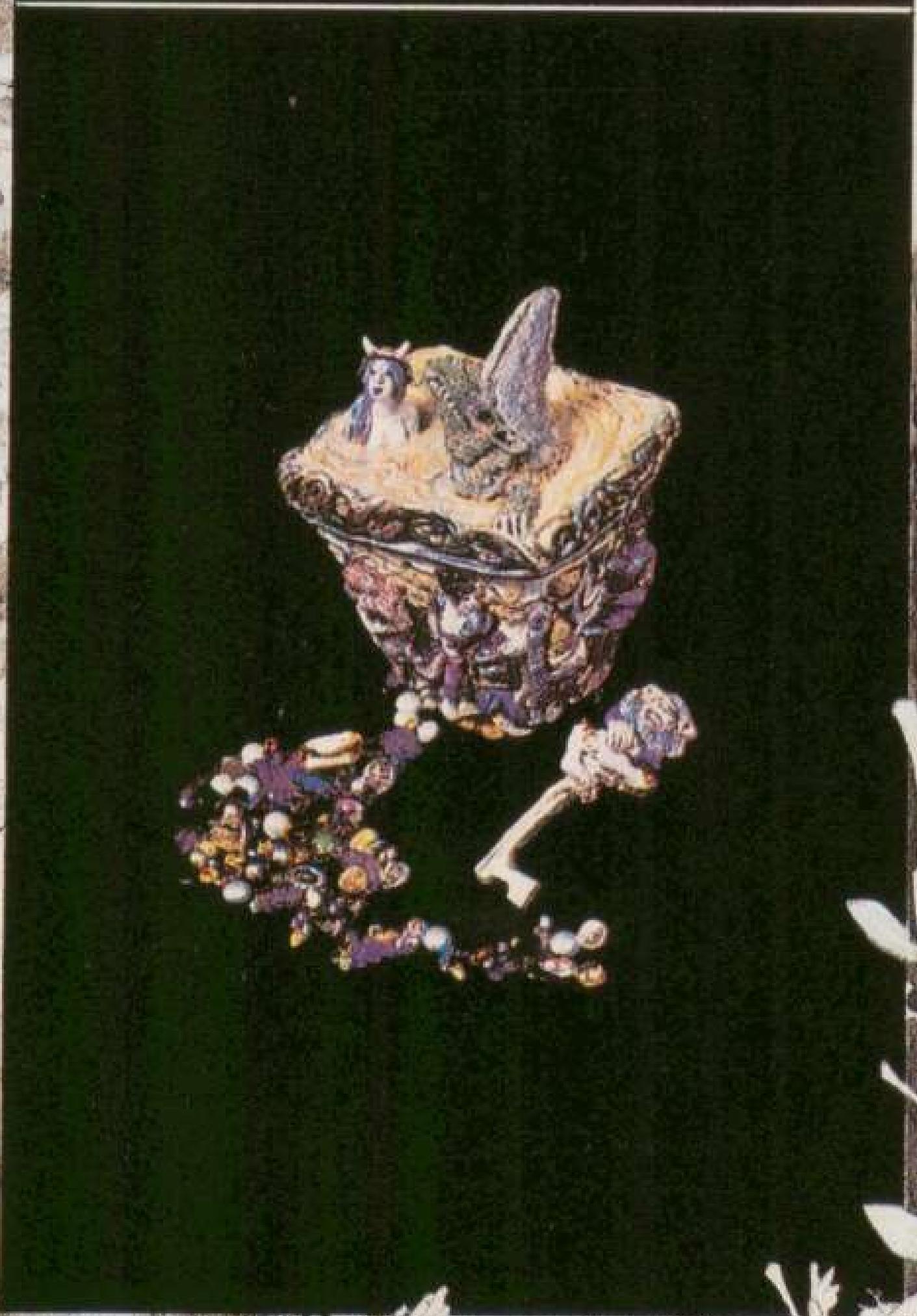
VIA AIR MAIL

THE SECRET/TREASURE
Byron Preiss Visual Publications, Inc.
Box 5329
FDR Station
New York, NY 10150 U.S.A.

1. のりシロをはりつけねば、私製封筒ができるかがります。
2. P63～P64の書式に解答を記入し、この封筒を使って、160円切手を貼り、投函してください。
3. 差し人の住所は左上スミに書きます。すべての書き方は日本と逆です。以下に見本をつけておきます。

〒112 東京都文京区音羽1-21-11
→ Yoshihiro Masaki
真崎 義博
1-21-11, Otowa,
Bunkyo-ku, Tokyo
Japan 112.

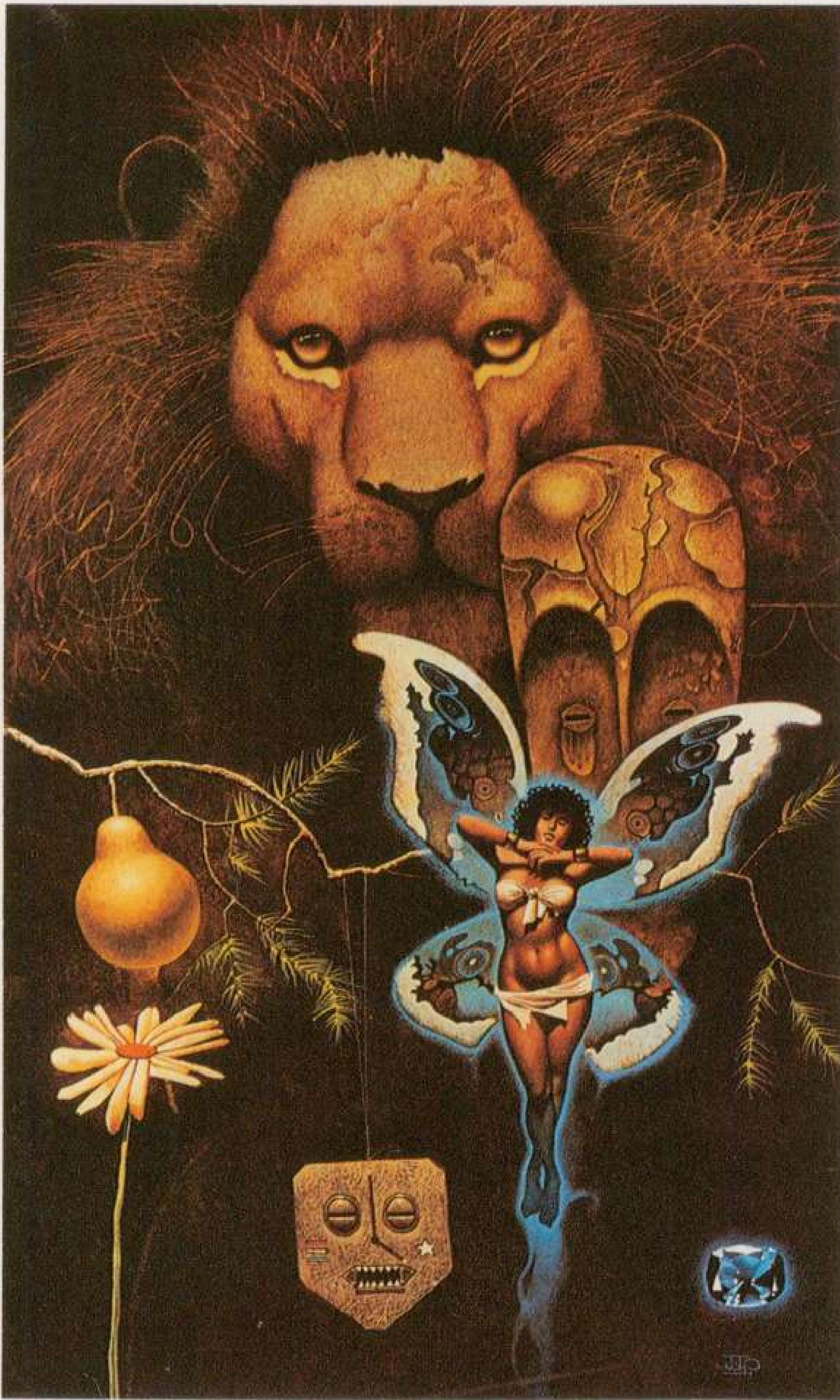
謎を解く12枚の絵



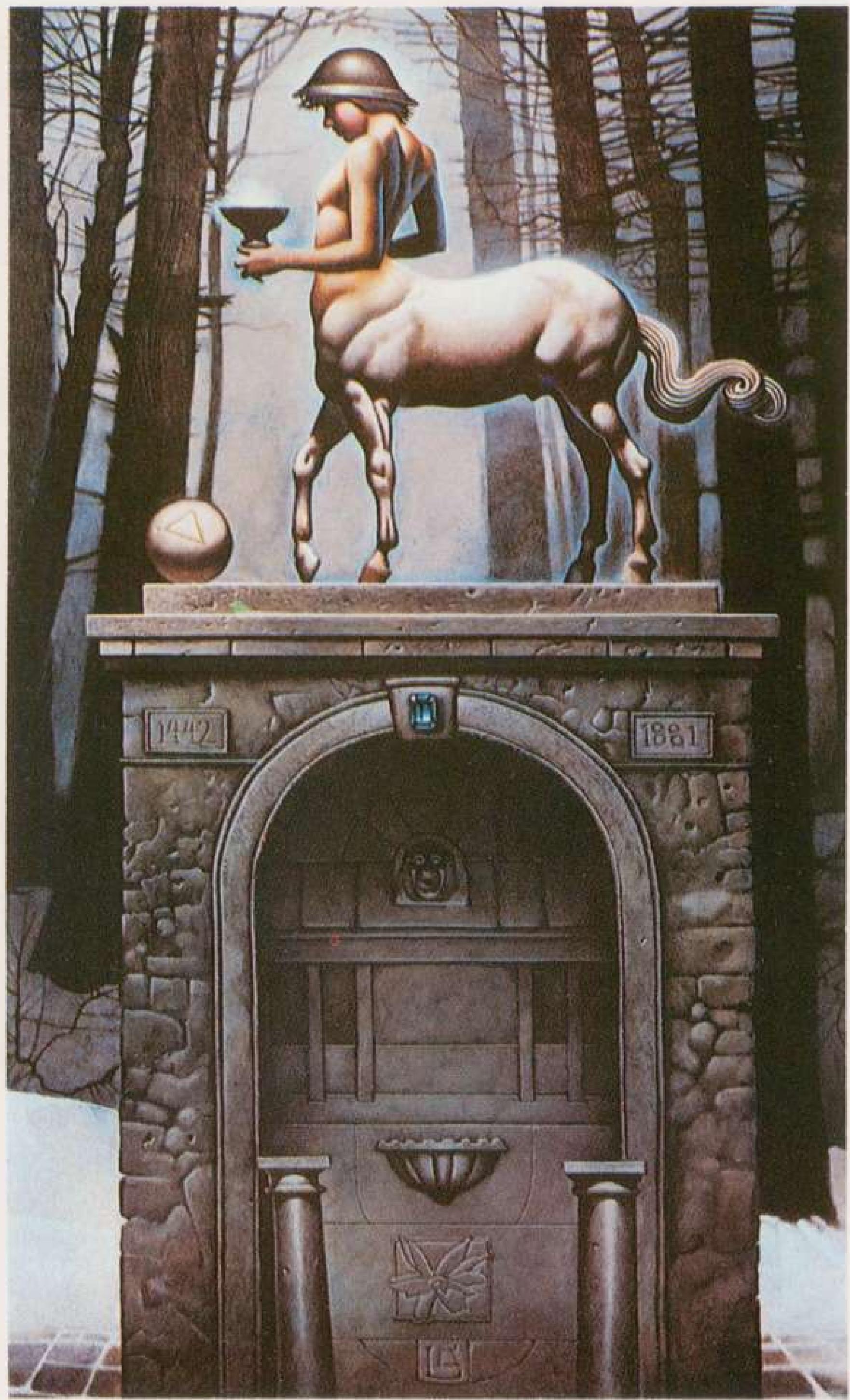


人間はその数を急速にふやした
やがて、幾多の時をへて
妖精たちが難問と協定をたずさえて
ふたたびもどつてきた
まず、12篇の詩を
12枚のカラーの絵と組みあわせよう
それぞれの組が
あなたを宝箱へと導くはずだ
掘るのは1メートルぐらいでいい
輝くばかりの宝石が
エメラルド、ルビー、ダイヤなどが
あなたを待っている
宝箱にあさめられた鍵を見つけよう
それが、妖精と人間との
平和な共存への鍵となる

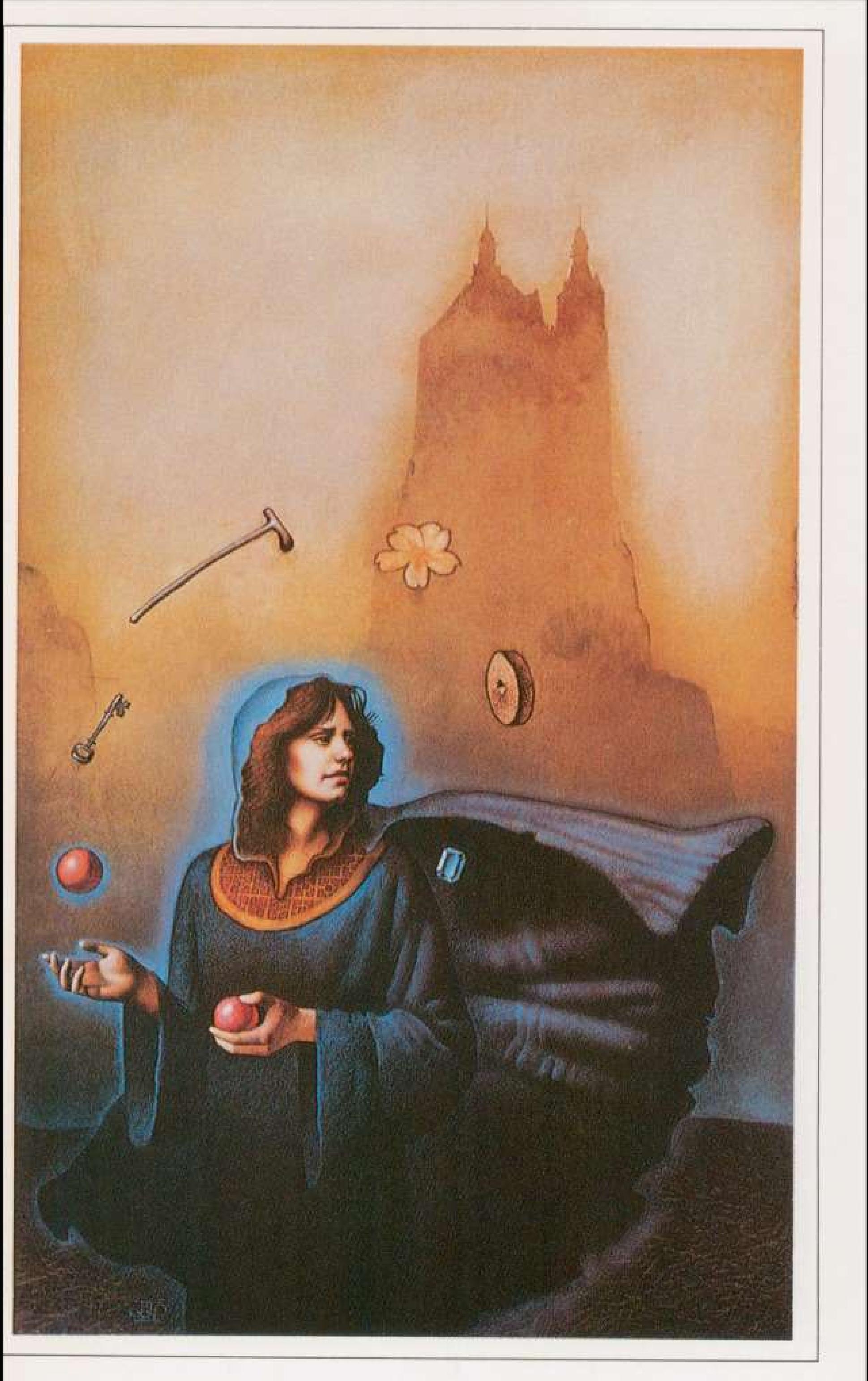




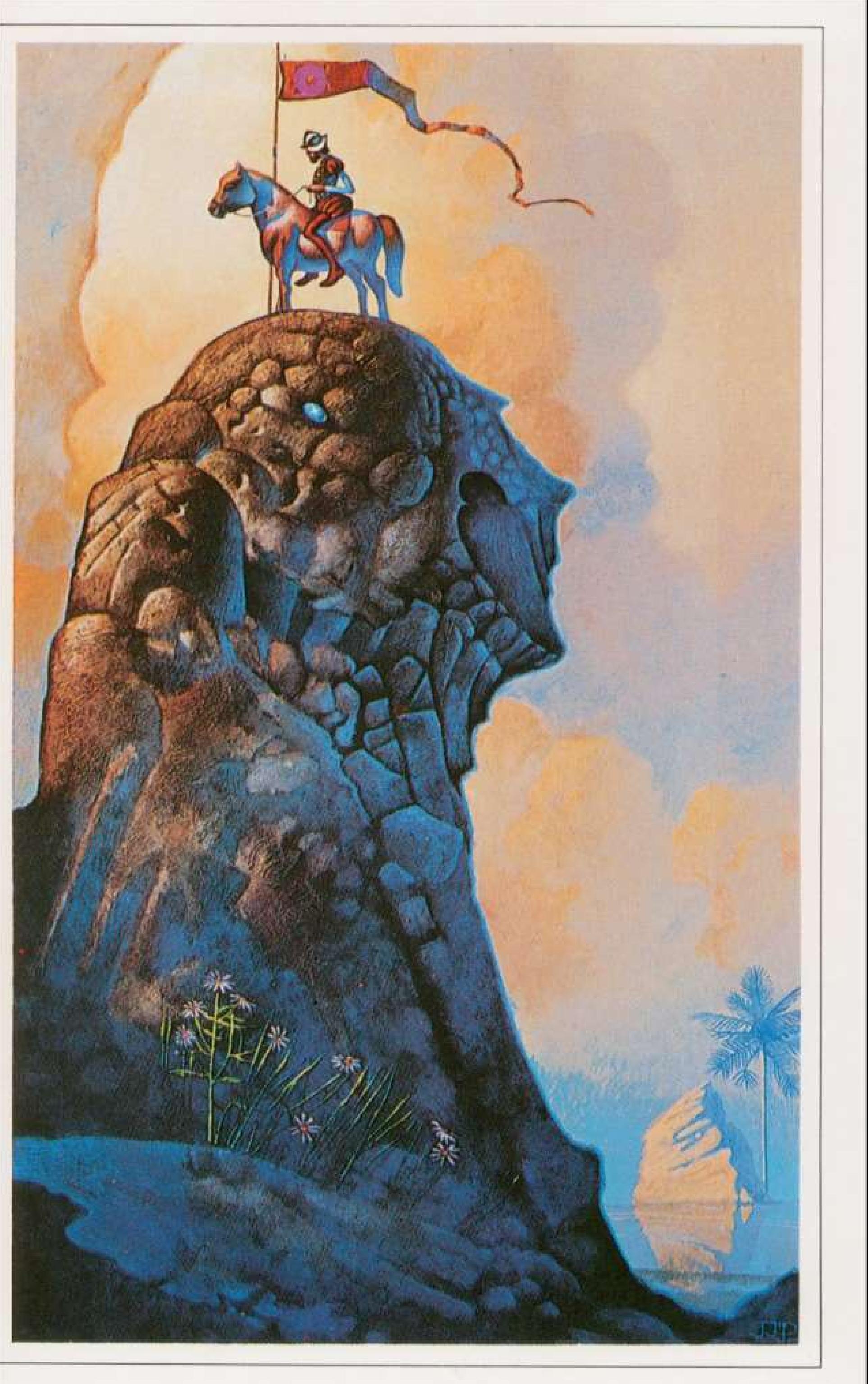


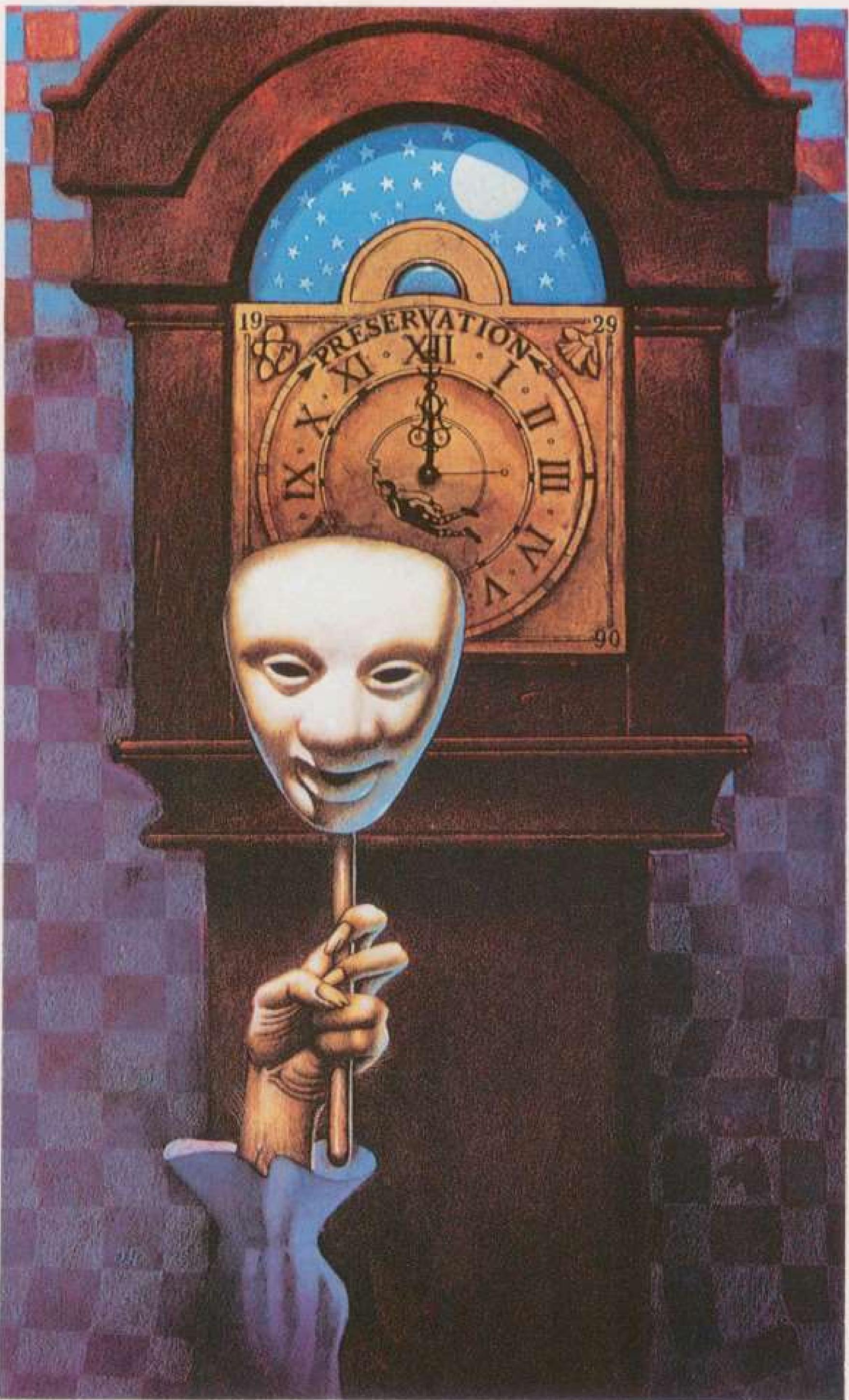


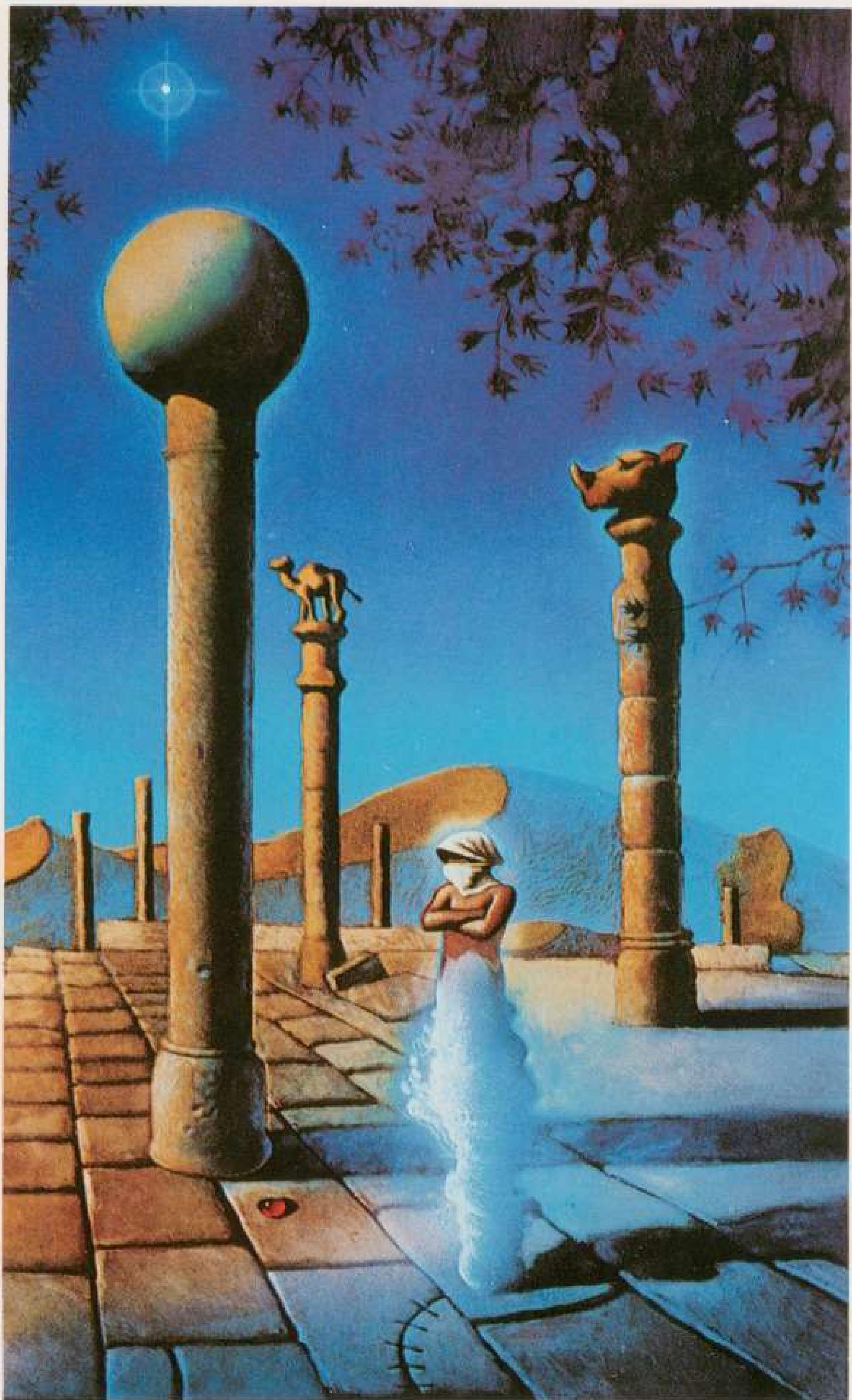


















それがペアになった
1枚の絵と1篇の詩……
あなたが心正しい人であるなら
あなたが妖精たちとともに
平和を願う人であるなら
1枚の絵と1篇の詩の組みあわせが
妖精たちの謎を秘めた
きらめくばかりの財宝のありかを
きっとあなたに教えてくれるだろう

妖精たちがあなたを待っている



謎を解く12篇の詩



ここにのせられた訳詩はあくまでも参考です。左ページの原詩をよく読んで謎を解いてください。なお、日本の読者のために解説にヒントが書かれています。

謎を解く12篇の詩

第1の詩・原文

Fortress north
Cold as glass
Friendship south
Take your task
To the number
Nine eight two
Through the wood
No lion fears
In the sky the water veers
Small of scale
Step across
Perspective should not be lost
In the center of four alike
Small, split,
Three winged and slight
What we take to be
Our strongest tower of delight
Falls gently
In December night
Looking back from treasure ground
There's the spout!
A whistle sounds.



謎を解く2篇の詩

第1の詩・訳

要皆は北
ガラスのように冷たく
友情は南
きみは務めをもって行け
9、8、2という数字へと
森を抜けて
ライオンは恐れず
空では水が向きを変える
小さなスケール
足を進め
遠近法は失われてはならない
そっくりの4つの中央に
小さく、裂けた
3つ翼をつけて細い
われわれがもっとも強い悦びの塔
と考えるものは
12月の夜に
穏やかに落ちる
財宝の地からふりかえると
噴流がある！
笛が鳴る



謎を解く篇の詩

第2の詩・原文

*At the place where jewels abound
Fifteen rows down to the ground
In the middle of twenty-one
From end to end
Only three stand watch
As the sound of friends
Fills the afternoon hours
Here is a sovereign people
Who build palaces to shelter
Their heads for a night!
Gnomes admire
Fays delight
The namesakes meeting
Near this site.*



謎を解く2篇の詩

第2の詩・訳

宝石がたくさんあるところに
上から地面へ15列
端から端まで
21の中央で
3つだけが見張って番をする
友人たちの音が
午後の時間を満たしながら
これこそは独立した民族だ
夜の宿のために
宮殿を建てる人びと
地中の宝をまもる地の精たちは賞賛する
妖精たちはよろこぶ
この地の近くで
同名の人びとの集まりを



謎を解く篇の詩

第3の詩・原文

If Thucydides is
North of Xenophon
Take five steps
In the area of his direction
A green tower of lights
In the middle section
Near those
Who pass the coliseum
With metal walls
Face the water
Your back to the stairs
Feel at home
All the letters
Are here to see
Eighteenth day
Twelfth hour
Lit by lamplight
In truth, be free.



謎を解く2篇の詩

第3の詩・訳

もしトゥキュディデスが
クセノフォンの北にいれば
彼の方角の地域で
5歩進め
中央部の
光の緑色の塔
金属の壁をもつ
コロシアムを通り過ぎる
ものどもの近く
階段にきみの背を向けるように
水に向かえ
気を楽にせよ
あらゆる文字が
ここに見える
18日目
12時間目
ランプの明かりに照らされ
ほんとうに自由であれ



謎を解く2篇の詩

第4の詩・原文

Beneath two countries
As the road curves
In a rectangular plot
Beneath the tenth stone
From right to left
Beneath the ninth row from the top
Of the wall including small bricks
Seven steps up you can hop
From the bottom level
Socrates, Pindar, Apelles
Free speech, couplet, birch
To find casque's destination
Seek the columns
For the search.



謎を解く2篇の詩

第4の詩・訳

ふたつの国の中
道路が曲がると
長方形の敷地のなか
小さなレンガを含む壁の
右から左へ
10番目の石の下
てっぺんから9列目の下
いちばん下から
きみは7段飛びあがることができる
ソクラテス、ピンタロス、アペルス
言論の自由、二行連句、かばの木
かぶとの行方を見つけるために
さがすうちに
円柱を求めよ



謎を解く篇の詩

第5の詩・原文

Lane

Two twenty two

You'll see an arc of lights

Weight and roots extended

Together saved the site

Of granite walls

Wind swept halls

Citadel in the night

A wingless bird ascended

Born of ancient dreams of flight

Beneath the only standing member

Of a forest

To the south

White stone closest

At twelve paces

From the west side

Get permission

To dig out.



謎を解く篇の詩

第5の詩・訳

レイン

2 20 2

弧光が見えるだろう
重さとひろがった根が

花崗岩の壁の

風が吹いたホールの

遺跡を救った

夜の城

飛翔の太古の夢から生まれた

南の

森の

唯一立つ木の下

西側から

12歩のところに

いちばん近い白い石

掘るための

許可を得よ



謎を解く篇の詩

第6の詩・原文

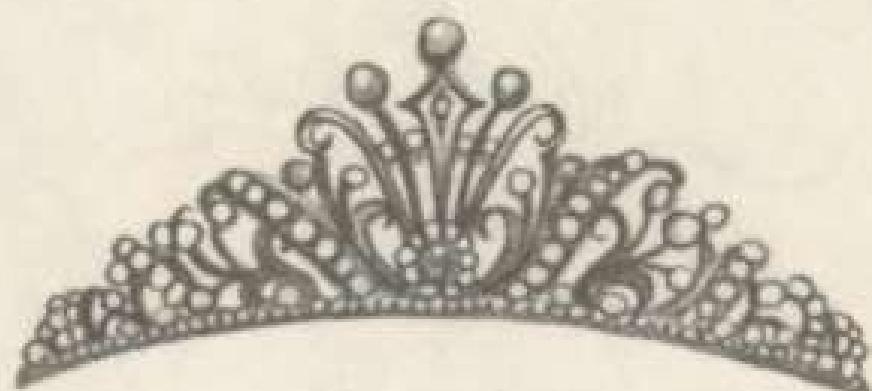
*Of all the romance retold
Men of tales and tunes
Cruel and bold
Seen here
By eyes of old
Stand and listen to the birds
Hear the cool, clear song of water
Harken to the words:
Freedom at the birth of a century
Or May 1913
Edwin and Edwina named after him
Or on the eighth a scene
Where law defended
Between two arms extended
Below the bar that binds
Beside the long palm's shadow
Embedded in the sand
Waits the Fair remuneration
White house close at hand.*



謎を解く2篇の詩

第6の詩・訳

ふたたび語られたすべてのロマンスのうちの
残酷でだいたんな
物語りと曲の男たちが
ここに見られる
むかしの眼で
立って鳥の声を聴け
水の冷たく澄んだ歌を聴け
ことばに耳をかたむけろ
世紀の誕生のときの自由
あるいは1913年5月
彼にちなんで名づけられた
エドウィンとエドウィナ
あるいは8日の時に
法がまもった場面
伸ばされた2本の腕のあいだ
結びつける棒の下
長い椰子の影の横
砂に埋められ
公平な報いを待つ
近くには白い家



謎を解く篇の詩

第7の詩・原文

*At stone wall's door
The air smells sweet
Not far away
High posts are three
Education and Justice
For all to see
Sounds from the sky
Near ace is high
Running north, but first across
In jewel's direction
Is an object
Of Twain's attention
Giant pole
Giant step
To the place
The casque is kept.*



謎を解く2篇の詩

第7の詩・訳

石壁のドアのところ
空気は甘く匂う
遠くないところ
高い柱が3本
教育と正義
見る者すべてに
空からの音
近くのエースは高い
北へ走るが、まず横切る
宝石の方向に
トゥエインの注意の
対象がある
巨大な棒
巨大な1歩
かぶとのある
場所への



謎を解く2篇の詩

第8の詩・原文

*View the three stories of Mitchell
As you walk the beating of the world
At a distance in time
From three who lived there
At a distance in space
From woman, with harpsichord
Silently playing
Step on nature
Cast in copper
Ascend the 92 steps
After climbing the grand 200
Pass the compass and reach
The foot of the culvert
Below the bridge
Walk 100 paces
Southeast over rock and soil
To the first young birch
Pass three, staying west
You'll see a letter from the country
Of wonderstone's hearth
On a proud, tall fifth
At its southern foot
The treasure waits.*



謎を解く2篇の詩

第8の詩・訳

ミッケルの3階を見よ
世界の鼓動を歩むとき
時間を隔てて
そこに住んだ3人から
空間を隔てて
音を出さずに弾く
ハープシコードをもった女性から
自然に足をかけ
銅の铸造物
92歩登れ
壮大な200を登ったあと
限界を越えてたどりつく
暗渠の元
橋の下流
100歩進め
岩と土の上を南東に
最初のかばの若木まで
3つ過ぎ、西にとどまる
きみは不思議の石の炉の
国からの手紙を見るだろう
誇り高い、高い5番目
その南の足で
宝石は待っている

謎を解く2篇の詩

第9の詩・原文

*The first chapter
Written in water
Near men
With wind rose
Behind bending branches
And a green picket fence
At the base of a tall tree
You can still hear the honking
Shell, limestone, silver, salt
Stars move by day
Sails pass by night
Even in darkness
Like moonlight in teardrops
Over the tall grass
Years pass, rain falls.*



謎を解く篇の詩

第9の詩・訳

水で書かれた
第1章
男たちの近く
風が立って
しなった枝々
と緑色の杭垣のうしろ
高い木の根もと
まだがんの鳴き声がきこえる
貝、石灰岩、銀、塩
星は昼間動き
夜漂う
闇のなかでさえ
涙のなかの月のように
高い草の上を
何年もの年が過ぎ、雨が降る



謎を解く篇の詩

第10の詩・原文

In the shadow
Of the grey giant
Find the arm that
Extends over the slender path
In summer
You'll often hear a whirring sound
Cars abound
Although the sign
Nearby
Speaks of Indies native
The natives still speak
Of him of Hard word in 3 Vols.
Take twice as many east steps as the hour
Or more
From the middle of one branch
Of the v
Look down
And see simple roots
In rhapsodic man's soil
Or gaze north
Toward the isle of B.



謎を解く篇の詩

第10の詩・訳

灰色の巨人の
影のなかに
細い小道に広がる
腕を見つけよ
夏
きみはぶんぶんという音をよくきくだろう
大量の自動車
近くの標示がインド諸島の原住民を語っても
原住民たちはまだ
彼のことを、3巻のむずかしいことばを語る
東へ時刻の2倍歩け
あるいはもっと
Vの
1本の枝の中央から
見おろして
叙事詩的な男の土のなかの
単純な根を見よ
あるいは北を凝視せよ
B島のほうを



謎を解く2篇の詩

第11の詩・原文

*Pass two friends of octave
In December
Ride the man of oz
To the land near the window
There's a road that leads to
Dark forest
Where white is in color
With two maps
After circle and square
In July and August
A path beckons
To mica and driftwood
Under that
Which may be last touched
Or first seen standing
Look north at the wing
And dig
To achieve
By dauntless and inconquerable
Determination
Your goal.*



謎を解く2篇の詩

第11の詩・訳

オクターブのふたりの友人を通りすぎよ

12月

O Zの男を乗せて

窓の近くの土地へ

暗い森

へ通ずる道がある

その森では色のなかに白がある

ふたつの地図とともに

円と正方形のあとに

7月と8月

小道は合図を送る

雲母と流木に

その下

それは最近触れられているかもしれない

あるいは立っているのは初めて見られるかも

北の翼を見よ

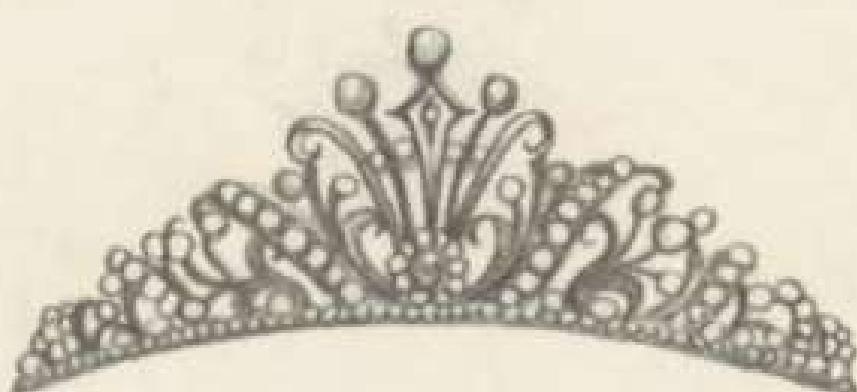
そして掘れ

成就するために

不屈でなにものにもくじけぬ

決意で

きみの目的を



謎を解く2篇の詩

第12の詩・原文

Where M and B are set in stone
And to Congress, R is known
L sits and left
Beyond his shoulder
Is the Fair Folks'
Treasure holder
The end of ten by thirteen
Is your clue
Fence and fixture
Central too
For finding jewel casque
Seek the sounds
Of rumble
Brush and music
Hush.

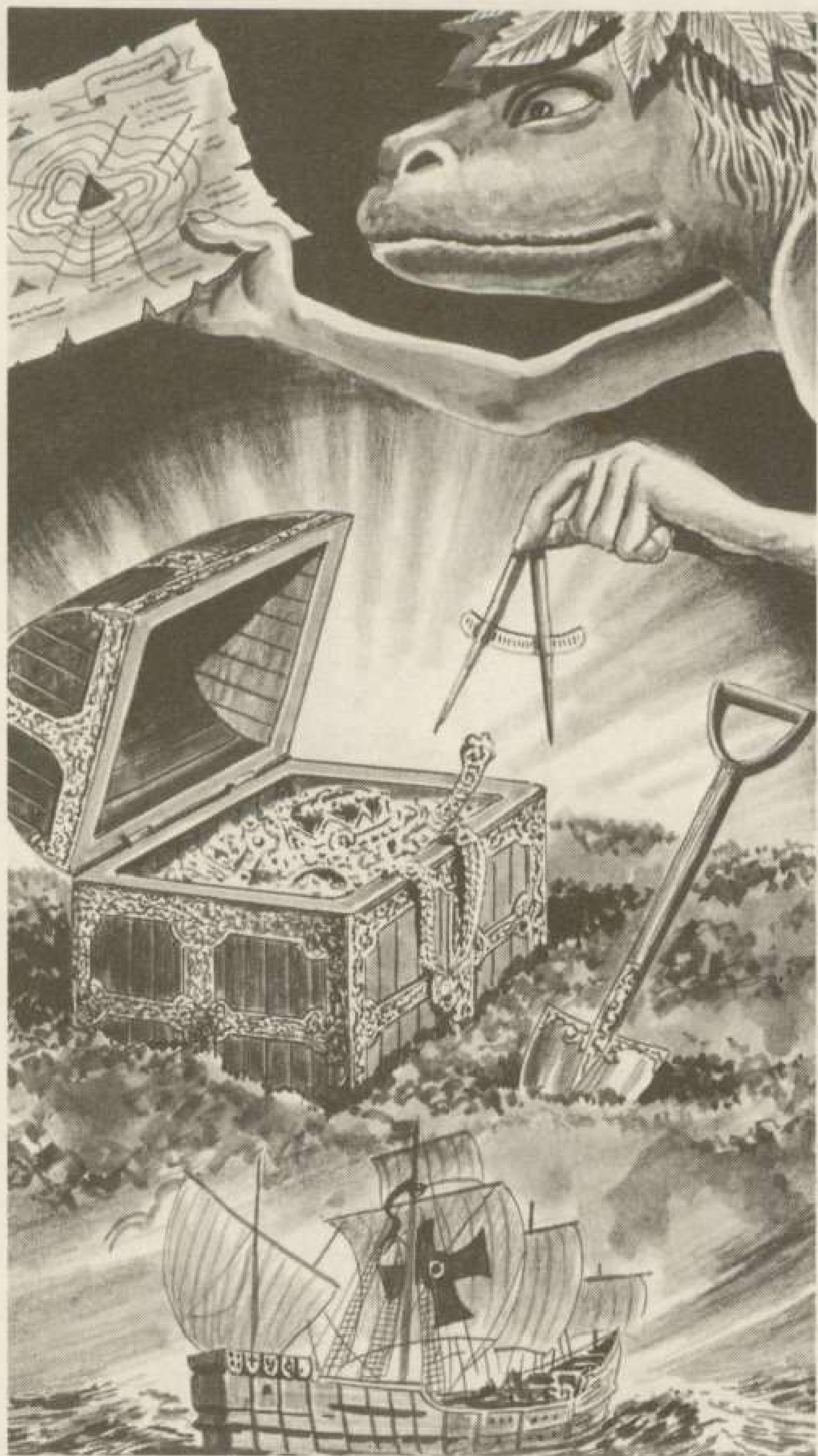


謎を解く12篇の詩

第12の詩・訳

MとBが石にはめられたところ
議会に、Rは知られている
Lはすわり、左
彼の肩のむこうに
汚れなき人びとの
財宝の入れ物がある
10×13の終りが
きみの手がかりだ
柵と取付け具
セントラルも
宝石のかぶとを見つけるために
ごろごろいう音
ブラッと音楽
静けさを
さがせ





PART

2



妖精の子孫たち

A Field Guide To The Fair People

妖精たちは根っからのいたずらものだ。
彼らは、あなたの日々の生活のなかでち
ょっとした事件を起こしては、あなたが
狼狽するのを見て、おなかをかかえて笑
いころげている。ここに登場するのは、
そのごく一部の妖精たちで、ほかにもた
くさんあなたの気づかないところで、あ
なたにいたずらをしてよろこんでいる。

高級レストランの精 *Maitre D'eamon*

棲息地 気取って格式ばったレストランのいたるところに出没する。とくに一流ホテルのフランス料理を食べさせるレストランなどに多く集まっている。分厚い絨毯、きらめくシャンデリア、怪しくゆれるキャンドルの炎、キチンとした服装のお客たち、丁重なことは使いをするよう教育されたボーイたち。この場で起きる失態はすべてお客様側に非があるように錯覚させる豪華な設備。そんなところにこの妖精たちは住みついでいる。

習性 “忘れられない夜”をお客様に提供することを第一のモットーと心がけている。だからなにかの記念日を祝おうと何日もまえから計画し、貯金もしてやってくるお客様にいたずらする。まずそういうお客様がくると、「ただいまは満席ですので」といって酔っぱらいがくだを巻いているバーで、たっぷりと待たせ、ようやくテーブルに着くと、なかなかウェイターがやってこない。しかし妖精たちがテーブルクロスにつけておいたしみのおかけで話題に困ることはない。

ようやく注文もすんで、食事が運ばれてくると、パンは堅く、スープはすっかり冷めているし、サラダは野菜が半分腐っ

ている。パスタはヒモのようだし、肉はとても噛み切れたしろものではない。

「デザートは何にしますか？」
「なにがあるの？」
「なんでもございます、はい」
「たとえばどんな物？」
「どんな物をお望みですか？」
「だからどんな物があるの？」
「ですからどんな物でもです」

こんな会話がながながと10分はつづくのだ。最後にはお客様のほうが疲れて、「なんでもいいからもってきて」というと、「かしこまりました。では当店自慢のカシスのシャーベットにいちじくのソースをかけたのをおもちいたしましょう」なんて得意顔で答える。お客様をからかつてじらすのがおもしろいのだ。

そして最後に勘定を払って店を出ようとするお客様にこういうのだ。

「ありがとうございました。お客様には最初から最後までまちがったナイフとフォークの使いかたを見せていただきとても楽しかったです」

歴史 フランス革命以後、庶民がせいたくな料理を食べるようになってから。

私立探偵の情報 髪を七三にきっちりと分け、油でテカテカにさせたウェイターのいる店。



汗の精 *Sweatsylphs*

棲息地 この妖精は通称エアロビクス・マニアックと呼ばれ、若い女性たちのレオタードのなかに棲む。かつては金持ちの健康管理のへたな連中しか相手にしなかったので、出没するのは会員制の一流アスレティック・クラブに限られていたが、最近では街のジャズ・ダンス教室などにもひんぱんに現われるし、また早朝、人気のない通路をスニーカーをはいてジョギングをしている一般市民のなかにも見ることができる。

とくに顔は美人だが、せい肉のたっぷりある醜い体型の女性に好んでとりつきやすい。

この妖精たちはいたずらが好きで、派手なスポーツ・ウェアにひそかに棲みつき、それを着ている人間をよけい醜くし、すこしも似合わないよう見せて楽しんでいる。明らかに派手なウェアが似合わないと思ったとき、そこには邪悪な超自然的な姿——汗の精がいるのだ。

習性 汗の精は、人間がむだと知りつつ懸命に運動するときに発生するまったく意味のない熱エネルギーが大好物で、とくに運動後の空腹感を刺激して、食欲を増進させる習性をもっている。つまりはこの妖精にいったんとりつかれたら、どんな運動

をしてもだめで、あきらめるのがいちばんなのである。

歴史 ギリシャ出身。この妖精たちの第一世代は、古代オリンピックの聖火と、身体じゅう油を塗りたくったマッチョン・マンたちによって育くまれた。

しかし新大陸に移住してからは、初期のフロンティア精神の活発な開拓時代は栄光に満ちていたが、1955年ごろからは失意と絶望のどん底時代がつづき、ようやく最近になって人間たちが運動することのたいせつさを自覚しはじめたのでふたたびスポットライトをあびるようになった。おまけに“ビタミン信奉者”がぞくぞくと現われ、この妖精たちの活躍ぶりはめざましいものがある。それに野菜ジュースだとか天然・自然食品がもてはやされているのも、じつはこの妖精たちが行なったキャンペーンの成功を物語っているといえよう。

私立探偵の情報 自分の年齢や体力をかえりみずに、ただ世間の風評ばかりを気にしてむりがたり、テニス・コートで、あるいはジョギングの途中で、またはエアロビクス体操の教室で心臓発作に襲われあえなくこの世を去っていった人間たちの墓場に行けば会うことができる。



一流志向の精 *Preps Ghoul*

棲息地 妖精のなかでももっとも一流志向の強い妖精たちで、田舎者が集まる都市に集中して棲息している。通称を“見栄はる君”あるいは“ぶりっ子”といい、ファッション雑誌をそのままコピーしたような服装を好み若者たちに寄生して、彼らの上昇志向をあおり、その結果、軽薄な人間たちをつくりだしてよろこんでいる。

この妖精にとりつかれるとお金がかかるのが特徴で、“金食い虫”とも呼ばれている。が、お金を使っているわりにはバッとせず、お金を使えば使うほど世間のひんしゅくをかい、本人の思っているほどかっこよくもなく、ひとりよがりにおちいる傾向がある。

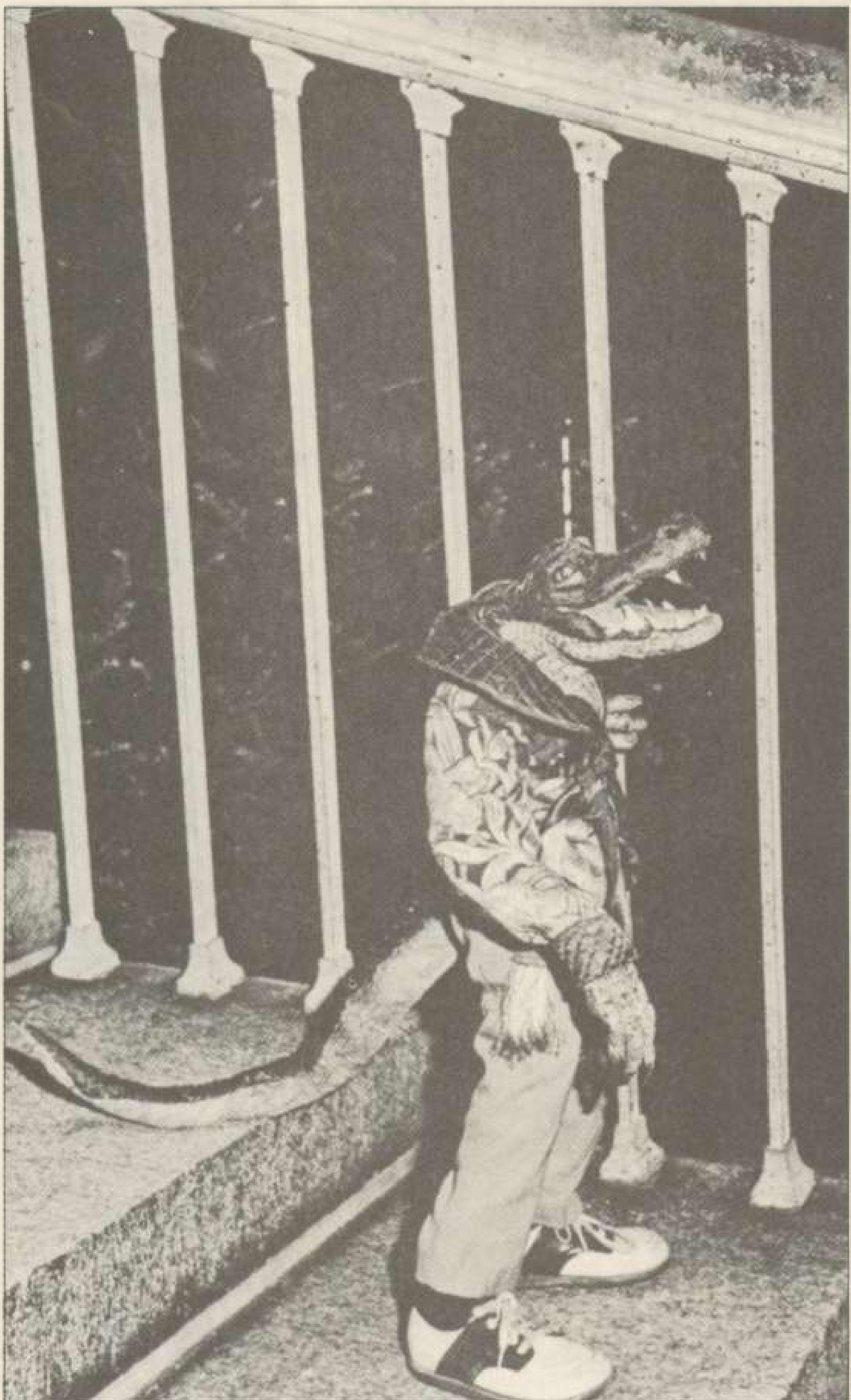
習性 センスのない都会人やあかぬけない地方都市人間を好み、中央集権的文化の隆盛に一役買っている。なにがなんでも一流品と名がつけばそこがこの妖精たちの棲み家になり、餌はブランド物をかいあさる人間たちの“虚栄心”をもっぱら主食として繁殖している。そのかわり、とりついた人間たちには“くすぐり”という一種の幻覚症状を与え、けっして不快な気持ちにはさせない努力をしているのが特徴。

そのため麻薬常用者のようにこの妖精から逃げだすことはむずかしく、なかには家や財産ばかりでなく命までも失ってしまう人間もいる。そこで最近、このような傾向を憂慮したわが政府は、一掃キャンペーンをはじめ、「人間やめますか、それともブランドやめますか？」という広告をテレビなどにさかんに流している。

歴史 不明。一説によると人類の虚栄心とともに歩んできたといわれるが、いつごろのことなのか定かではない。ただあまり貧しい国では繁殖能力が劣るところから、この妖精たちが一般に受け入れられるようになったのは英國における産業革命以後と推測される。学者のなかにはこんな妖精の研究ほど「時間のむだなものはない」という者もいるが、そういう学者にかぎって、お中元とお歳暮の中身にはうるさい。

いまやこの妖精たちは上流社会から煙たがられ、中流社会に鞍替えをする傾向がめだっている。

私立探偵の情報 身につけている一流品が、彼ら自身が所有する無教養さと同じくらいむなしキラキラ輝いて見える場所ならどこにでもいる。



ウエスト・ゴースト *The West Ghost*

棲息地 カリフォルニアの西海岸ならどこにでもいる。とくに日光浴のできる浜辺やサーフィンに都合のいい波が立つところに住み、人間たちを陽気にさせ、人生でしなければならないつらいことから目をそむけさせる役割を果たしている。“NOWい”といわれるものがあるところならどこにでも出没するのが特徴で、そのほとんどはすぐに飽きるという特性をそなえている。

習性 若者たちばかりでなく、中年の男女にもとりついで年がいもなくスケート・ボードやサーフィンに熱中させたりすることがある。また大通りを歩く人たちから上着を奪い、皮靴をスニーカーにはき替えさせるといういたずらもする。この妖精にとりつかれた人たちの一般的な傾向としては、太陽の直射日光を浴びる時間が長くなるということで、その結果、これらの人間の典型的な症状として過度の日焼けのために、しみ、そばかすなどに悩むケースが多い。

主食はさんざんときらめく太陽光線であるが、副食としてサン・オイルや日焼けどめクリームなども好物としている。またこの妖精たちは観光事業も熱心で、航空会社とタイアップしてたくさんの観光客をウエスト・

コーストに呼び集めている。

歴史 この妖精たちのナウくしかも移ろいやすい成分は、じつは、ロスアンジェルスの吐きだす致死量に近いスモッグでできている。その内分けは、工場の煙突から出る煙、車のマフラーからの排気ガス、そして田舎出のブロンド娘たちの夢が燃えつきた煙などである。つまり科学的な煙だけでは棲息に適さず、そこになんらかの青春の燃えつきる煙が立ちのぼっていないと繁殖しないのである。もちろん青い海とまっ赤な太陽は絶対条件である。そのため最近では米国以外でも、これらの条件さえ満たされていればウエスト・ゴーストたちが住みつくようになった。しかしそれはあくまでも擬似的な現象であって、妖精の世界では傍流扱いされているのが実情である。どこかの国みたいに、ボードをかついで電車で海に行くサーファーの姿など、おもしろしくも悲しい妖精たちのいたずらである。

私立探偵の情報 サングラスをかけた米国の西海岸の連中にはこのウエスト・ゴーストの姿は見えないが、それ以外の太陽の光が少ない場所からやってくる人間ならだれでも見ることができる。



キリスト教的善意 *The Pill Grim*

棲息地 “みだら”と名のつく人間の活動で、この妖精たちが鼻を突っこまないものはない。ときにはヒステリックに、ときには見くだした態度で、人間は生まれながらにして罪深いものだと説いてまわっている。

その独善的なしかめっ面で他人の寝室、公園の暗がりに駐車している車、娘や息子にきた異性からの手紙、あるいは若いひとり暮しの女性のアパートなどをこそこそとのぞきまわっている。またPTAや公序良俗によるさいオバサンたちの集会にはかならず出没し、会場をヒステリックなまでに盛り上げる手伝いをしている。

習性 すぐめくじらを立てる。直情徑行型で思慮が浅い。とくにセックスに関する事には敏感で、目に入る“恥ずかしいもの”はすべてワイセツだときめつけてしまう。ボルノ映画や雑誌の肝心な部分を黒く塗りつぶしてしまうのもこの妖精のなせるわざなのだ。

暴力よりもセックスに関する事にうるさく、この人間の神秘的な行為をあからさまにすることを極端に嫌う傾向がある。自分がしていることと同じ行為なのに、他人がそれをしているのを“見る”のはいけないと

う勝手な論理を押しつける。「自分がするのはいいけど、他人がするのは見てはだめ」というから、みんなは自分でするようになつたという。この論理のパラドックスに気づかない時代遅れの考えが特徴である。

みんなですれば恐くない、という風潮の隠れた推進者でもある。臭いものにふたをしているうちに、なかでそれが腐ってしまってあとでとりかえしがつかなくなるということに気づいていない。

出身地 イスラエルのどこか一地方らしい。

歴史 キリストの死後いろいろな変遷をたどってきたが、貫して唱えていることは“愛”である。

しかし最近では愛を強調しそぎたために、かえって愛を高尚なものにしてしまい、人間はもっとかんたんに手に入れることのできるものを求めている。愛にかわるなにかを……。あるいは新しい愛のかたちを……。

私立探偵の情報 キリスト教的善意をスパイしてはいけない。逆にスパイさせるのだ。一般に精神分裂症というのは、このキリスト教的善意をあまりにも強く意識しすぎたために起こる病気だからである。



天使の叫び *The Screaming Mimi*

棲息地 この小さな困り者は、ほんとうに妖精たちがかわいい赤ん坊にとりついた姿なのだ。天使の叫びの妖精は、公共の場所を選んでわざと出没する。たとえば教会、高級レストラン、コンサート会場で演奏中などにだ。また一般の交通機関、バスや電車のなかでもあたりかまわず出没する。

耳をつんざくような泣き声、火のついたように泣く赤ん坊、こんなことを公衆の面前でやられたら若いお母さんなら一発でノイローゼになってしまい、わが子の首を絞めたくなっても当然だ。

たとえば映画館で急に赤ん坊が泣きだす。あやしても泣きやまない。しかたなく赤ん坊を抱いたまま席を立ち、ロビーに出て赤ん坊を寝かしつける。20分後、赤ん坊がようやく寝たのでそっと静かに席に戻る。しかし席にすわったとたん、また赤ん坊が泣きだす。若い母親はまた席を立って、ロビーに行く。寝つく、席に戻る。また泣きだす。またロビーに出る。もう映画を楽しむどころの騒ぎではない。いや、そればかりかほかの観客たちからいっせいに非難の目を向けられる。

「うるさい赤ん坊だ、殺してし

まえ」そう口に出していいたいのは顔でわかる。

ところがどっこい、母親にとっては憎らしくてもわが子だ。周囲の迷惑はわかっていても、やはり彼女にとってはかわいい天使の泣き声なのである（赤ん坊の泣きやむ薬ってないのかしら。もちろん他人の赤ん坊に飲ませるのだけど）。

習性 とつせん、意味もなく大声で泣きだす。あたりかまわではなく、まわりを意識してだ。

だから少数の人間のいる場所では泣かない。おおせいの人が集まっているところでやる。

また、自意識が強い。母親はいくら泣いても叱らず、絶対に敵側にならないことを知っている。とくによく泣く場所は、子どものいない人がたくさん集まっている場所だ。

歴史 この赤ん坊の姿をした妖精が最初に出現したのはイギリスのゆりかごのなかだった。あまりにもその泣き声が強烈で、うるさかったので、男たちはイギリスを脱出してアメリカに渡った。それが西部開拓時代の始まりである。

私立探偵の情報 おしつことミルクの臭いのするところならどこにでもいる。



しらけジョーク魔 The Joke Fiend

棲息地 人の集まるところならどこでもいる。とくにパーティ会場などに多くいる。この妖精にとりつかれると、どんなにおもしろいジョークでも一瞬にして会場をしらけさせてしまう。あとはもう額に脂汗を浮かべて、なにを話しているのか、つぎになにをいっていいのか忘れてしまい、ただオドオドするばかりだ。

習性 演説巧者にとりつきやすい。またとくに気の弱い人にも。

この妖精は不思議な力でジョークのおちを消してしまうのだ。おちのないジョークほどつまらないものはない。本人は恥をかくし、聞いているほうはいらいらする。とくにサラリーマンなどにとって自分の結婚式に上司を招いてスピーチを依頼した場合に多発する。「えー、本日はお日がらもよく」なんて上司が場なれたふうにスピーチをはじめたまではよかったです、あいだにはさむ冗談が少しもおもしろくない。上司は話をかたくるしくしないようにと、何日もまえから「スピーチのじょうずな話し方」なんて本を読んでせっかく憶えてきたのに誰も笑わないのである。

最初のジョークが受けない。

まあ、いいだろう。本人もちょっと緊張していて話をうまくもっていけないので。

二番目のジョークでもだれも笑ってくれない。そこで上司は考える。ちょっとむずかしすぎたかな。

三番目、四番目、五番目のジョークでも笑わない。上司はあせってくる。こうなったらもう必死になんとか笑わそうと考える。スピーチなんかそっちのけで、知っているかぎりの笑い話をならべはじめる。しかしどれもこれも受けない。

上司のからだがこきざみに震えはじめ、顔面は紅潮し、部下である新郎を憎しみのまなこでにらみつける。

「よくもおれに恥をかかせてくれたな。この責任はかならずってもらうぞ！」 そう無言で語



っている。

しかし、上司ににらまれても、新郎にはどうしようもない。おもしろくしない話に率先して笑っても、ほかにだれも笑う者がいなければ、ほか笑いになるし、かえって上司のきげんを悪くするばかりだ。

こうして、冷や汗をかきっぱなしの結婚式はどうにか終っても、新郎旅行はけっして楽しいものにはならない。

旅行が終わって会社に出ると、さっそくその上司に呼ばれ、「きみ、○○地方の支社に行ってくれたまえ」なんていわれるのがおちだ。これがいちばんきつい・ショーキなのだ。

歴史 くわしくはわからないが、16～17世紀のフランスの宮廷で生まれたといわれる。私立探偵の情報 部下の結婚式に出たがる上司のいる会社ならどこにでもいる。



家庭荒らし Household Unfamiliars

棲息地 高級マンション、しゃれた古い洋風づくりの邸宅、ふうがわりな別荘地の家、実験的な太陽熱利用のモダン・ハウス、改築した部屋、急造した子供部屋などによく出没し、住人を困らせてはよろこんでいる。とくに新築の家の場合、期待が大きければ大きいほどたくさん見ることができるものだ。

習性 家庭内でひき起こされるあらゆる面倒なことの原因は、この妖精たちである。たとえば、ドアを開けたとき、部屋の電気のスイッチが蝶つがいのある側の壁についていていちどなかに入ってドアを閉めてからでないと明かりをつけられないとか、トイレの鍵が堅くて閉まらないとか、台所の流しのパイプが曲がりすぎて逆流してくるとか、家具が部屋の寸法から少しばかりはみだしてしまい、不幸なことにそのみだした部分の角にいつも足をぶつけて痛い思いをしているとか、シャワーの水と湯の表示があべこべだったりとか、ドアのノブを引っぱったら取れてしまったとか、とにかくこの妖精たちのいたずらは、それが新居であった場合ほど腹がたってくる。

しかし、この妖精たちがいちばん本領を発揮するのは、冷蔵

庫のなかである。まず冷蔵庫のドアを開けたときになかの明かりを消し、ドアを閉めたとき明かりがつくようになってしまふ。つぎに輸入品の高級白ワインにスカンクのような臭いをつけたり、チーズを宝石のようにコチコチに堅くしたり、野菜から水分を奪ってフニャフニヤにしたり、魚の臭いを肉に、肉の臭いを魚につけたり、とにかく冷蔵庫のなかはこの妖精たちにとっては無法地帯なのだ。温度調節も自由自在にできる。急に温度を上げたり下げたり、ビールを飲もうと思ったらシャーベットになっていたり、冷凍室の氷が解けて洪水になったり、とにかく手がつけられないあられ者なのである。

歴史 冷蔵庫のなかの荒らしかたでもわかるように、この妖精たちはスカンディナビアの出身で、北方のやっかい者コウボルトの直系の子孫である。したがって、食料品をどんなにいねいに箱に入れようと、ふたをしようと、サランラップで包もうと、この妖精たちの活動をおさえることはできない。

私立探偵の情報 バスルームの天井についたしみ、マットレスの裏側のカビ、洗濯物の落ちない汚れなどがそうである。



ほこりの精 *Scrububus*

棲息地 さびのない地下室の床に張られた塩化ビニールの板から屋根裏の梁にいたるまで、家じゅうどこにでもいる。とくにおせっかいな隣りのおばさんや文句の多い親戚連中がようすをうかがったり、のぞいたり、鼻でくんくん嗅いだりするところにはめだって出没する。ふだんは空気中をひらひらと舞い、ちょっとでも油断すれば、すぐに降りてきて付着する。

習性 このじつに不愉快で不衛生きわまりないほこりの妖精たちは、家具や食器具や料理器具、あるいは衣服や飾り物などあらゆるものにしみやさびや汚れや油などを付着させ、まさに主婦を気が狂わんばかりの精神状態におとしいれる。ゆっくりとテレビで昼メロを見るひまさえ与えない。

放っておけば山のように積もるし、せんそくやアレルギーの原因にもなる。まことに困ったものであるが、これは主婦の強迫観念の産物であることが、最近の学界で発表され、一部の学者たち（もちろん、男性ばかり）に圧倒的に支持されている。

つまり、あの家具などのうえにうっすらと白く見えるほこりとは、じつは、あまり家庭的でない主婦たちが見る妄想的幻覚

症状のあらわれで、彼女たちの内部の罪悪感がひき起こす一種のかげろう、ないしはしんきろうのような現象であるというのだ。よき主婦ではないという自覚が生みだしていると。だからほこりとは、妻がよき家庭人であるかどうか調べるためにリトマス試験紙のようなもので、舐めたら赤くなるかも。そこでひとこと。亭主のシャツの衿についた口紅のあとは、よその女が奥さんのきれい好きを調べるためにちょっと舐めたものであるからご了解を。



歴史 これはそもそも女の嫉妬とともにはじまり、テレビの普及と同時に全世界に蔓延するようになった。

私立探偵の情報 主婦としての誇りのないところにはこりはある。浮気したくなるようなかみさんのいる家にも。



観葉植物の精 *The Gardengoyle*

棲息地 あたり一面にごみの散らかった地面、アルカリ性の塩の粉で栄養を補給された窓際の鉢、酸性の雨で水分を補給された屋上の庭、年老いてはいるがエネルギーッシュな園芸家の石がごろごろしているあき地、こうしたところを園芸の精はうろついている。

習性 夏がめぐってくるたびに家庭には疫病が舞い降りる。そのくせ、毎年春になると、悪臭のする堆肥の山をかきまわすのだ。

こういう人びとに、今年こそは自分の庭は緑あざやかに美しくなるにちがいないと思いこませるのが、園芸の精なのである。というのも、去年はどうであれ、同じ地球上の同じ庭に、同じ災難がふりかかるわけはない、と信じこませるからなのだ。

ところが、そうはいかない。観葉植物をならべたり、自家菜園をつくったりするようなナウイ生活がいかにはかないものであるか、園芸の精はよく知っていて、つねに人びとに警告を発しているのである。このことは、園芸の精の棲息地を考えれば、だれにでもわかることだ。

自然の緑は、ファッションのなかからは育たないものなのである。

歴史 園芸の精は、かつてはサハラ庭園と呼ばれ、いまではサハラ砂漠として全世界に知られている北アフリカの出身である。

世界じゅうに広まった彼らは、いわば道楽で植物をもつている人に狙いをさだめて活躍しているのだ。

私立探偵の情報 観葉植物をたくさん飾っている人びとの家、とくに茶色に枯れた葉が多いところに見られる。





ソースの精 *Saucier's Apprentice*

棲息地 4つ星のフレンチ・レストラン、最高級レストラン、カントリー・クラブのレストラン、それに一般家庭の台所——要するに、これ見よがしの料理がつくられるところならどこにでも棲息する。

お料理の品格がお高くなればなるほど、ソースの精も浮かれてくる。彼らは、オーブンの熱さにも冷凍庫の冷たさにも、けっしてめげたりはしない。

習性 腕のいいシェフと同じように、ソースの精も下ごしらえの重要性というものをよく知っている。だから、彼らが活躍するのは、料理のはじまるまえの数時間なのだ。

では、台所で彼はなにをしているか？ ナイフを鈍らせ、スプーンを曲げ、攪拌器を故障させ、ガスの口火を消し、バターを隠し、クリームを腐らせたりしているのだ。

ソースの精がとくによろこぶのは、完全に正常な人間が、「さあ、料理にとりかかろう」と決心し、そのために複雑きわまりない料理の本を開き、高価な道具（電動式の危険なもの）を用意するときである。

ソースの精の古典的なテクニックとしては、格調高い会話がかわされているテーブルにトマ

ト・ソースをぶちまけることである。

また、計量カップやタイマーや温度計の狂い、なまあたたかいアイスクリーム製造機、こういうトラブルはソースの精のしわざなのど、もしあなたご自慢の料理におかしな点があったら、なにもかもソースの精のせいにすればいいのです。



歴史 ソースの精はフランスの出身だと思っている人が多いが、イギリスで食事をしたことのある人ならよくわかるはずである。ほんとうの祖先は、アルフレッド王にケーキを焼いていた、イギリスのかまどの精なのである。

私立探偵の報情 もしいりタマゴのなかに貝殻の割れたものがはいっていたり、肉汁のなかになにかのかたまりがはいっていたり、つまり異物がはいっていたら、あなたの台所にはソースの精がいると思ってまちがいない。



日曜大工の精 Do it Your Elf

棲息地 父親が自分の指をハンダづけてしまっているような日曜日の庭先。

この妖精たちは家の内外をかまわずに、サラリーマンの父親が大工へ払う手間賃を惜しんでなれないことをする場所ならどこにでもよろこんで出現する。ふだんはデパートやスーパーなどの「日曜大工セット売り場」などに潜んでいるが、日曜ごとの出張もいとわない。

習性 気性が荒く人間を傷つける。ときには血を流させたり、指を切断したりもする。しかし、妖精たちのはんとうの狙いは、父親の自尊心を傷つけるところにあり、妻や子供たちのままで、男とは本来こういう創造的な仕事をして人類を築いてきたのだぞと偉そうにいいながら、いともかんたんそうに金づちを振り上げて犬小屋かなんか作って見せる父親たちにとりつきやすい。つまり軽薄な父親像を必要以上に誇示したがる世のお父さんがたにである。

振りあげた金づちの下に父親の指を置いてみたり、電動カンナやノコギリを父親の指のうえに這わせてみたり、けっこうこの妖精たちのいたずらには目を離せないところがある。

あるいはかんたんな修理、た

とえばヒューズが切れて交換するときとか、台所に棚を吊ってほしいと奥さんからたのまれたときなど、まさにこの妖精たちの面目を発揮するときなのだ。

何年ものあいだ、経済学者や社会学者はこのことについて警告を発してきた。労働者はいくたの聞いのなかから短い労働時間と長い休暇を勝ち取ってきたのに、どうしていまさら貴重な休みの日にそんな労働と変わらぬことをするかと。

歴史 父親の男としての自信喪失とともに歩んできた。そしてこの10年ほど、父権回復運動の波とともに急成長し、家庭にしばられた男たちに“ほんとうの男の仕事”を見せる場を与えつづけてきている。これはまた家畜化していく世のサラリーマン諸君への警鐘であり、と同時に見せしめの役割も果たしているのだ。

日曜大工の精は、両刃の剣であることを、ゆめゆめ忘れるべからず。切らなければ、切られるのですぞ。

私立探偵の情報 中学生以上の子どものいる家庭、父権が薄らいできている家ならどこにでもいる。月曜日の朝、包帯かバンソウコウをしている中年のサラリーマンに訊いてみるといい。



Soldering
Tips: The
Insider's guide
to easy and
successful
soldering...

駄菓子の精 Devil Dogs

棲息地 むかし、町内にはかな
らず2つや3つ駄菓子屋があつた。おばあさんが白いエプロン
かなんか着て、ちょこんとすわって店番をしていた。店内はわ
りと薄暗くて、安くて怪しげな
ものがたくさんならんでいた。
だが、いまはもうそんな店が少
ない。30年もまえ1個5円のア
メ玉が貴重品だったころ、きれ
いな化粧箱に入ったキャラメル
やお菓子はお金持ちの子どもし
か買ってもらえず、ふつうの子
どもたちは駄菓子屋の店先で透
明のビンに入ったバラ売りのア
メや味つけしたイカの足やソー
スせんべいを買って食べてい
た。たまに母親と外出したと
き、あるいは親戚の人がきたと
きだけ、あのキラキラした美し
い箱入りのキャラメルを買って
もらうことができた。

しかし、いまの子どもたちは
どうだろう。駄菓子というのを
知っているのだろうか。

いまはもう駄菓子の妖精たちは
残り少なくなってしまってい
る。あの暗い店のなかを飛びま
わって子どもたちを誘いこみ夢
を与えていた駄菓子の妖精は、
いまはあまり見ることができな
い。なぜなら、新興勢力のお菓
子の妖精にとってかわられたか
らである。人工甘味料、人工着

色料、むかしはそんなものはな
かった。でもいまは……。きれ
いな化粧箱は、じつは欲望をか
くす衣装だったのだ。大人たち
のお金儲けという欲望をかくす
ための……。

駄菓子の「駄」は安いという
意味だった。なにが安いかとい
うと、駄菓子の値段ではなく、
それを作り運ぶ人たちの手間費
だった。「賃銀アップ」「給料あ
げろ」「豊かな生活を」労働者
は生活の向上、豊かな生活をめ
ざして闘ってきた。でもそのど
こかで小さな夢を置き忘れてい
ることに気がついていない。



歴史 駄菓子の妖精たちはまだ
人類に商業主義というものがあ
まり発達しなかったよき時代
に、子どものいない家庭の心や
さしい奥さんの心のなかに生ま
れた。しかし、いまはほとんど
絶滅状態に近い。

私立探偵の情報 30代以上の大
人たちの夢のなか。



裏庭パーティーの精 *The Backyard Barbacreep*

棲息地 当然、裏庭のあるところ。とくに裏庭パーティの精が好むのは、招待する側、される側がともに大物であるような裏庭パーティだ。その大物が政界、財界の人びとなならなおけっこう、裏庭パーティの精ははりきってしまう。彼らはいっしも、秘密めいた話しあいに聞き耳をたてている。

そして何をしてかすのか？

習性 密談が進み、話が重要な点にさしかかると、ワイン・グラスがとつせん倒れる。それも、テーブルの中央に向かって倒れるのではなく、椅子に腰を降ろしている人のほうへ倒れるのだ。あわれ、英國製の特別説えのスープはワインでびっしょり！そして、バーベキューでもしていようものなら、裏庭パーティの精が肉からたれる油に石油を混ぜ、巨大な火柱が立つことになる。

小さないたずらのレパートリーはたくさんある。

マスタードをかけようとプラ

スティック製の容器を手にしたとたん、手に思わぬ力がはいって向かいにすわっている人にたっぷりとマスタードがひっかかる。いわば、マスタード鉄砲だ。

塩・コショウの入れ物の内ふたをゆるめておく。これをかけようとするはどうなるか、考えるまでもなく、塩づけ、コショウづけになってしまう。

もう少し手がこむと、裏庭で放し飼いにしている犬をそそのかして、テーブルの食べ物めがけて飛びかからせたりもする。

歴史 裏庭パーティの精の出身は、古代ギリシャである。密談ぎらいの彼らは、以後、洋の東西を問わず、裏で行なわれるあらゆることを害しつづけているのである。

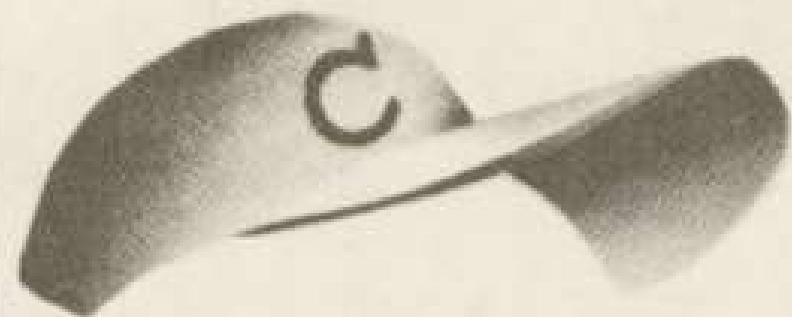
私立探偵の情報 もしあなたの家に裏庭というものがあれば、それだけで狙われるだろう。裏庭パーティの精の存在をたしかめたければ、きょうにでもそこで（なるべくえらい人を招待して）パーティを開くことだ。





フォア・ザ・チーム Team Spirits

棲息地 この妖精たちは通称チーム・プレイとかチームの和とか呼ばれ、もっぱら勝ったチームのロッカールームにいる。負けたほうにはいない。いなから負けたのだから。とはいってもこの妖精は気まぐれで、つねに自分たちのチームにとどめておくことはむずかしい（チームのなかにかならずひとりやふたり裏切るやつがいるからだ）。



習性 たとえば高校野球のように純心無垢な少年たちはかりならないが、世間の表も裏も知ってしまった大人たちの集団では「フォア・ザ・チーム」をつらぬくことはむずかしい。だから実業団チームなんかは、選手たちが社会の表に触れないようにするため、選手寮をつくって隔離したり、年がら年じゅう合宿をして予防にこれつとめている。

そのおかげでニッポンのアマチュア・スポーツは世界のレベ

ルに比較してもかなりの線を維持することができている。が、その反面、彼らはある意味では社会おんちにされている。“激しい練習の毎日”という美名のもとに、まるで修行僧のような生活を強いられ、会社の、あるいは地域の、あるいは国家の期待を一身に受けて、ひたすらスポーツとだけ取り組んでいる。彼らの表情には悲愴感さえあって、それがまた観客を酔わせ、夢中にさせる。

でも、これがはたしてスポーツのほんとうの姿だろうか。フォア・ザ・チームの精神というのはこのような集団生活、きびしい連日の練習なくしては生まれてこないのか。

フォア・ザ・チームの妖精たちは、正直なところ、もっともっとひとりひとりの選手たちが人間的魅力にあふれているチームに応援したがっている。

歴史 フォア・ザ・チームの歴史はむしろプロ・スポーツの隆盛によって確立されてきた。ワン・フォー・オールとは、オール・フォー・ワンの意識があつてはじめてなりたつのであるから。

私立探偵の情報 アマチュアのくせに夜の街で金使いの荒らい選手のいるチームに行けば会える。



レコード針の精 *Stylus Devil*

棲息地 この妖精は、レコードプレーヤー各1台にひとりずつ隠れている。見つかると急に逃げ出し、その結果、レコード盤のうえをくるくると駆けまわることになる。

むかしからくらべると、このレコード針というのも進歩しているが、たとえダイヤモンド針でも寿命はある。だから妖精たちは見つからないように、年々、小さくなってきてている。最近ではレーザー針なんてのができて、逃げまわる必要もなくなってきているのだが。

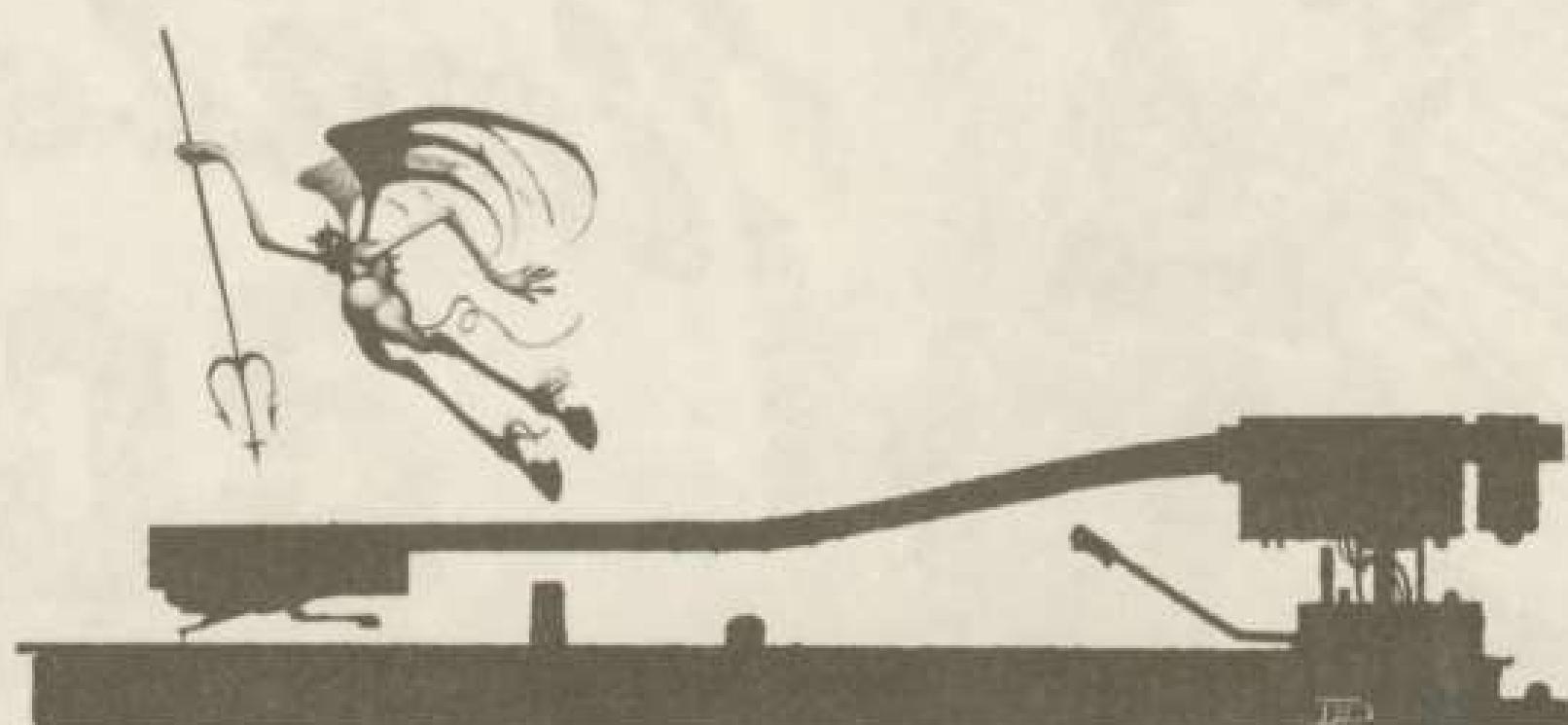
それでもLP1枚逃げまわるのは、妖精たちにとってたいへんな運動量である。

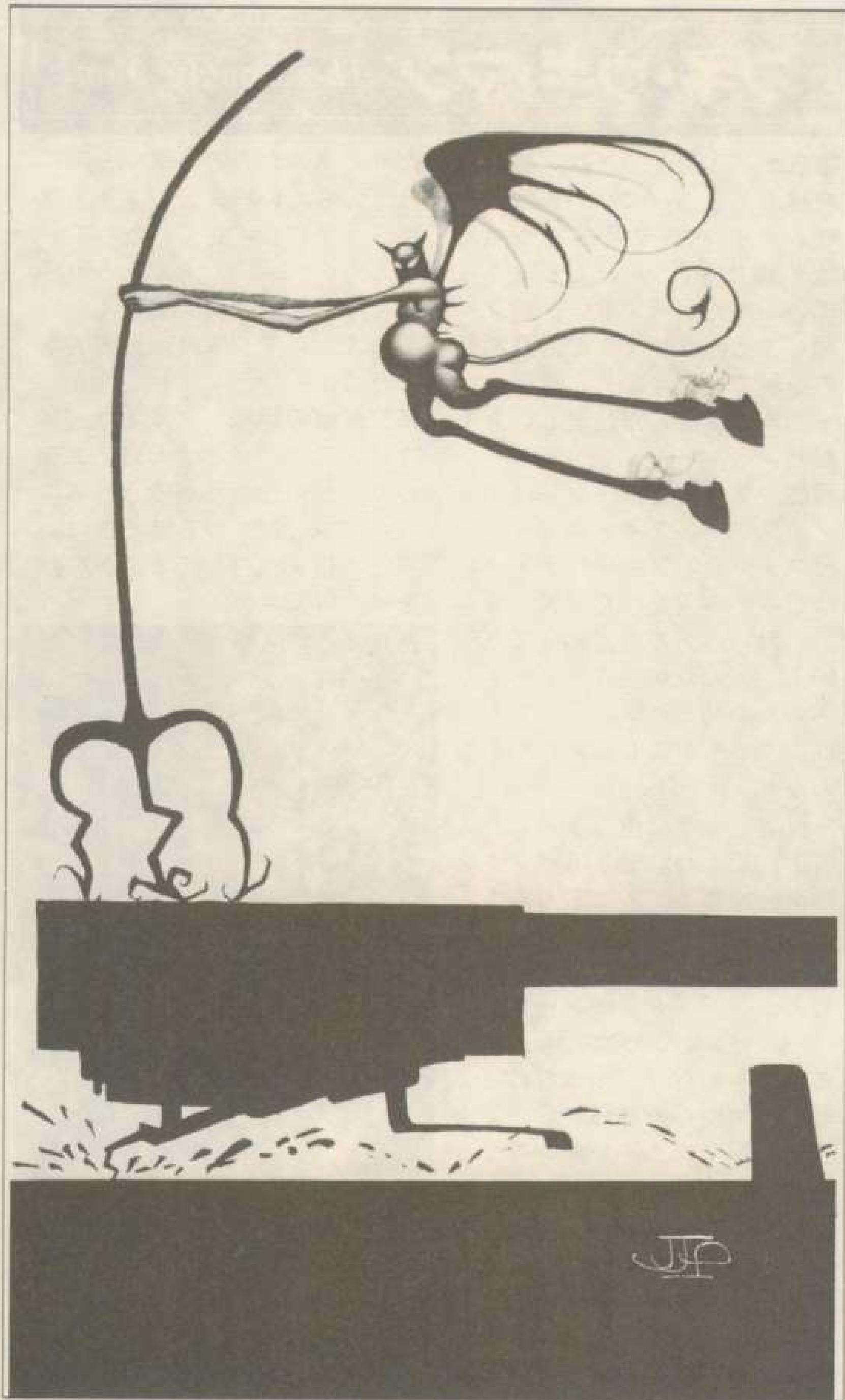
習性 逃げまわるレコード盤に吹きこまれている音楽が気に入らないと、低い音だが不満の声

を洩らす。レコードの持ち主はそれを聞くとすぐプレーヤーをとめる。レコードが痛むと思っているからだ。ところがそれは、レコード針がいやがっているだけなのだ。うまい手を考えたものである。

歴史 レコード針の妖精が、最初にこの世に姿を現わしたのは、トマス・エジソンの研究室でだった。しかしこのときの針は、縫い針の仲間から出向を命じられてきただけで、現在のような針になったのはずっとのちの子孫のことである。

私立探偵の情報 レコード針の妖精を見つけるのはたいへんだが、ひとつだけ退治する方法がある。ロック・ミュージックをひどくきらっているそうだからだ。ひどい頭痛がするらしい。





ブギ・ウギ・マン *The Boogie Man*

棲息地 アップ・タウンの線路を越えたところにやつらはいるぜ。天井の低い、うすぎたねえ地下室で、やつらはしりまくっているんだ。河で歌い、通りで踊ってるのさ。でもよ、月明りのなかでは見えても、夜明けにや消えちまうんだ、淋しいもんだけ。

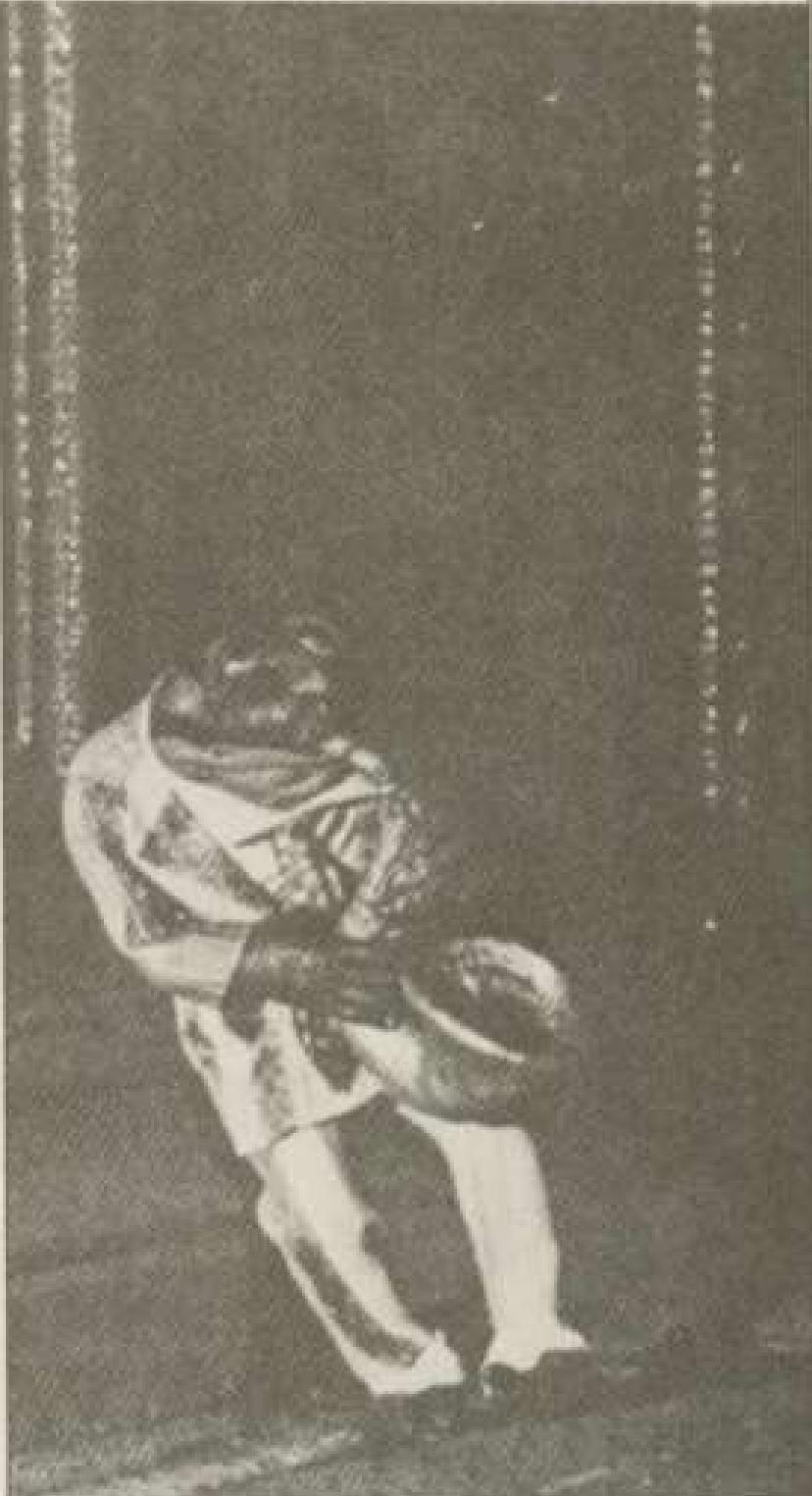
習性 ブギ・ウギ・マンはデキシーランド。ブギ・ウギ・マンはファンク。ブギ・ウギ・マンはごみから美をつくる天才なんだ。おい、あんた、知ってたかい？ あんたが使うスラングやあんたの踊るダンスのほとんどは、やつらがこしらえたものなんだぜ。

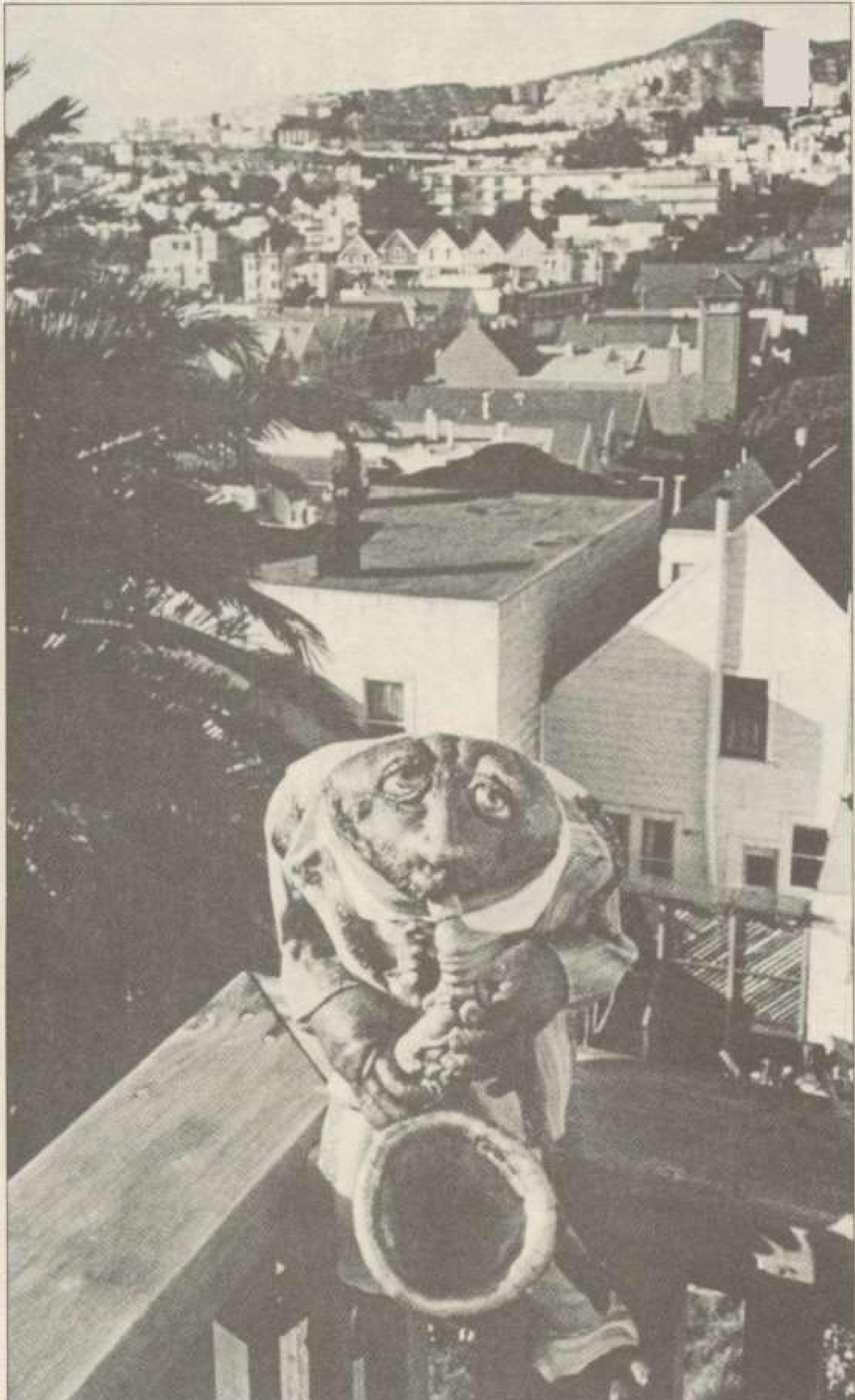
世界じゅうに色を塗るんだってよ、黒くな。動きはバツグンにクールですよ、着てるもんなんかさえわたってるぜ。だれがまねしようと、だれもかないっこねえよ。バード（チャーリー・パークー）のように吹きたくなるってもんだぜ。やつらのせいだよ、やつらのせいさ。

歴史 レキシ？ レキシってなんだい？ ふん、ブギ・ウギ・マンにやそんなものいらねえよ。えっ、くれるって？ あんた、おちょくってるのかい？ ブギ・ウギ・マンってのは叫びだよ、心の真底からの叫びなん

だせ。あんたのいう歴史ってのは、いったいいままでブギ・ウギ・マンになにをくれたっていうんだい。ふん、あんたらが勝手につくりあげた歴史なんかいらねえよ。やつらは、被害者なんだぜ！

私立探偵の情報 タイトなパンツはいて踊ろうとする白いあやつり人形の行きたがるところに行つてみな、やつらはそこにいるぜ。指を鳴らしてよ、からだをゆすってさ。





テレビ電波の精 *The Mind Boggles*

棲息地 テレビ電波の妖精たちの活動領域はかなり広範囲である。ほぼ全世界的といっていいだろう。彼らはかなりのスピードで旅をしているので、一般の民家に進入することを防ぐ方法はない。つまり、台所もトイレも電波だらけというわけだ。だがこちらから手を出さないかぎり、むこうからは攻撃してこない。無視していれば害はない。そのかわり利益もない。だからある程度の犠牲は覚悟して、この妖精たちとつきあわなければいけないのだ。

ではその犠牲とはなにか。なかでもいちばん「時間のむだ」である。テレビの発達によって文化が向上したという話は聞かない。テレビ技術が発達して、社会のいろいろな分野で応用され、便利になっただけである。文化は依然として旧態然としており、かえって低下している地域さえある。

とはいっても、これらテレビ電波の妖精たちの努力がまったくむだかというと、それでもない。有史以来、人間たちは“文字”による思考をかざしてきたが、この妖精たちの働きで、すこしずつ“映像”による思考方法が普及はじめている。近い将来、“絵”でものを考え、“絵”

で感情を伝えあう新しい人たちが誕生するだろう。そのとき、文化はじめて大きな躍進をとげるだろう。

それまでは、テレビ電波の妖精たちは、子供をもつ母親たちに憎まれつづけるだろう。

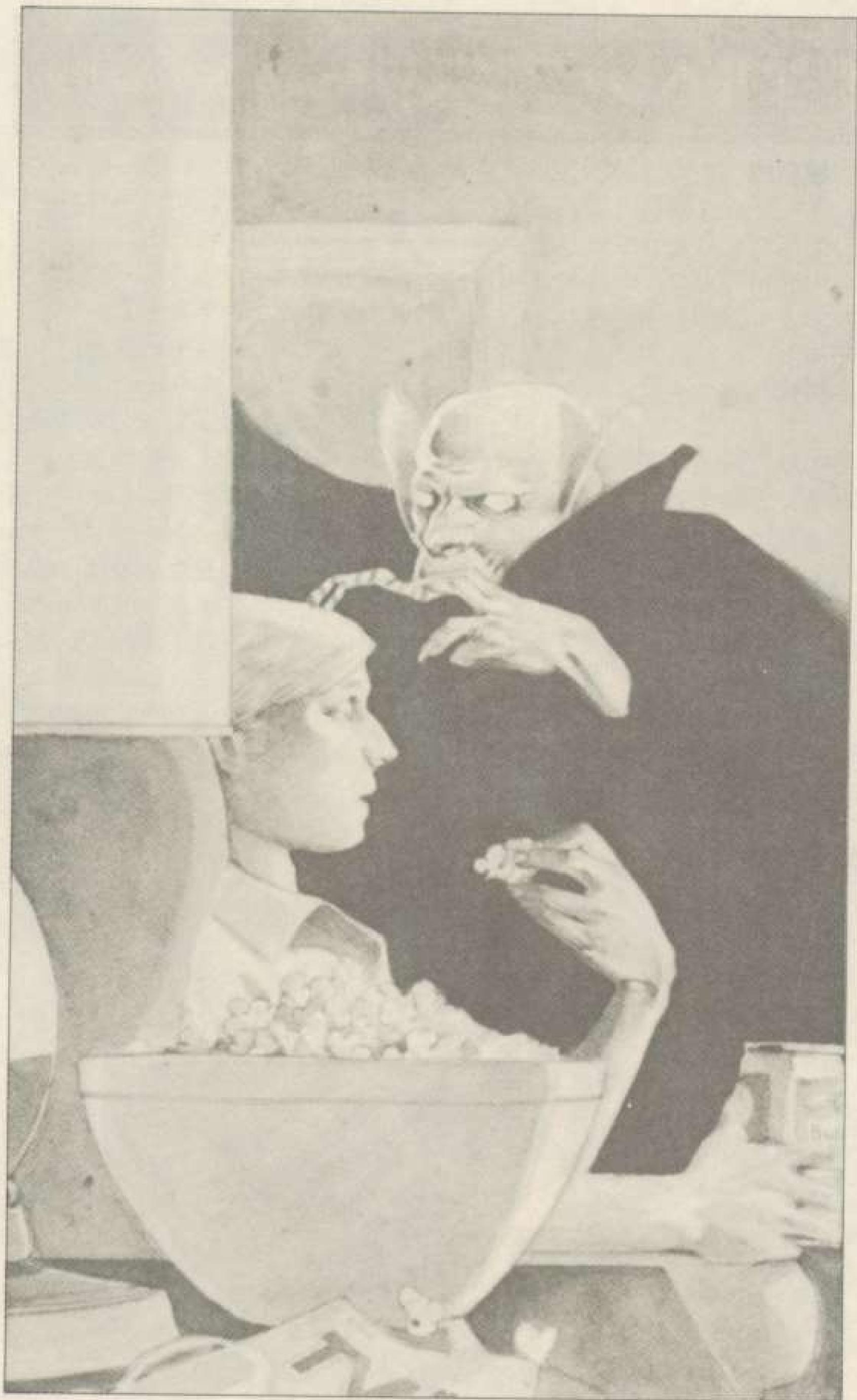
習性 この妖精たちのやりかたは、いたって単純である。まず死ぬほど退屈な人間を見つける。そして吸血鬼のように相手の意志の力、常識、知性、判断力を吸いとってしまい、テレビのまえに釘づけにする。あとはもう、おとぎ話に必要な2大要素、セックスと暴力を流しつければいい。短時間でその人間をとりこにできる。

こうしてふぬけになった人間は、一生テレビの奴隸となるのだ。

歴史 この妖精たちの祖先は、アダムとイヴがリンゴを食べる瞬間を実況中継していた時代にまでさかのぼることができる。

近年になってからは米国のジェネラル・エレクトリック社の工場生まれが圧倒的だったが、最近はニッポンの出身者が多い。

私立探偵の情報 各家庭に置いてある前面ガラス張りの箱のなかから登場する。だから、その箱を見てはだめだ。彼らの術におちいるだけだから。



エルヘソ・プレスリー *Elf S. Presley*

棲息地 このエルヘソ・プレスリーという妖精は、いまは亡き米国の有名な歌手の意志を継いだ妖精たちで、いまでは世界じゅうの演奏会場に棲みついている。

習性 ハウリングのキーンという音、ドライ・アイスの発煙機の操作ミス、演奏中のギターのチューニングの狂い、歌っている最中のマイクの故障、これらのほとんどがエルヘソ・プレスリーのしわざである。

この妖精たちが騒ぎだす理由はたったひとつ。演奏か歌がへただからである。聴くにたえない場合など、会場のすべての電

源を切ってしまい、まっ暗闇にしてしまうのだ。この手でコンサートを中断された例は、すでに754回もある。

歴史 偉大な歌手E・Pが死亡して以来、ショウ・ビジネスの水準をたもち、よりよいエンターテイナーを育成するために見まもっている。出身地はもちろん、ミシシッピー州だ。

私立探偵の情報 エルヘソ・プレスリーの妖精を探すのは、彼らがくっついてまわる演奏家や歌手の姿を見る以上にむずかしい。幸運にめぐまれれば、ステージのアンプが火を吹く瞬間に見えるかもしれない。





時の流れ Pre-revolutionary Warlock

棲息地 おもに骨董品屋に住みついている。人間がいちばん確証のもてないものに“時の流れ”というものがある。こればかりは見えないし、さわれないし、食べることもできない。果たしてほんとうに在存するのか、だれにもさだかではない。

しかし、この妖精たちを見る方法がひとつだけある。骨董品屋に行くことだ。そこには、ありとあらゆるもののが、過ぎ去った時間の証拠品としてならべられている。品物によって値段は違うが、それは時間の古さに関係している。古いものほど高い。ということは、多量の時間ほど高価だということである。たぶん、ここから「タイム・イズ・マネー」ということわざが生まれたのだろう。



習性 だれもこの妖精の実態は知らない。すべて過去のデータをもとにしているからだ。研究

するそばからデータが古いものになってしまうのだ。だから、この妖精の動きをとめて、性質や形態をくわしく研究した学者はひとりもいない。すべては予測の分野なのである。ケ・セ・ラ・セラ。明日のことはだれにもわからない。明日にならなければ。これが学界の隠れた定説である。

しかし、時間がたしかに流れていたという証拠なら、山ほど見つけることができる。たとえば、隣りに寝ている長年つれそった妻の肢体を見れば、これが時間の浸触以外のなにものでもないことに気がつくだろう。そしてつぎに自分の姿を鏡に映して見る。すると時間の流れは均一であることがわかるはずだ。

この均一性・あるいは均質性がこの妖精たちの特徴で、傾向として全世界的に多少だが早く進むような傾向にある。

歴史 正確にはコペルニクスが地動説を唱えたときから、時の流れを科学的にとらえることができるようにになった。それ以前は、かなり感傷的だとらえかたしかしていなかった。

出身地 北極と南極を結ぶ地軸のどこか。

私立探偵の情報 がらくた市に行けばいっぱい見つかる。



クラシック音楽魔 *The Philharmonic Orc*

棲息地 豪華なシャンデリアのさがったコンサート・ホール、インテリが趣味で集めているレコードのなか、FM放送、気弱な男が女性をくどくときに使うBGMなどに出没する。

やっかいなことは、この音楽を聞くまでの心の準備がたいへんで、したがって演奏がはじまるとその疲労からすぐ眠くなることである。もちろん、これは妖精たちのいたずらなのだが、演奏中のオーケストラの一員がいねむりしてしまったことがある。

習性 世間ではクラシック音楽を高級な音楽のように取りちがえている面もあるが、この妖精たちはいたって下世話であまり高級なこととは縁のない暮らしをしている。庶民の出身なのである。

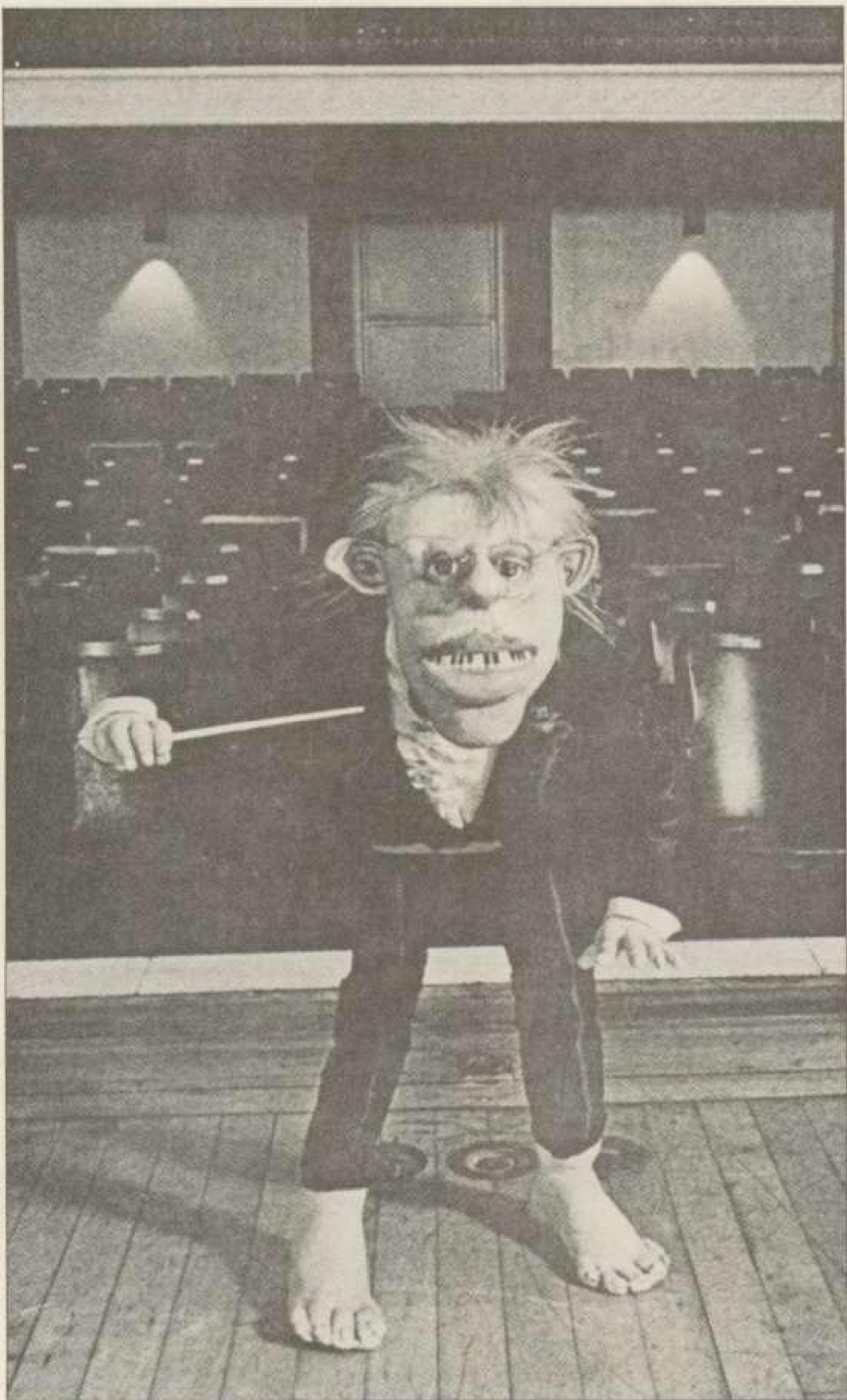
人間たちにとりついて高級な人種になったように錯覚させ、本人の知らないうちに内部から人格を崩壊させていく。

むかし、ラーメンが1杯30円だったころ、コーヒーが1杯150円という名曲喫茶があった。レコードがまだ78回転のころである。こんな喫茶店に集まるお客様は、気むずかしい、根のくらそうな、とても深刻な顔をした人たちばかりだ。わが国のクラシ

ック音楽は、こういった根クラな人たちによって発展してきたのである。その間ずっと、ともすれば大衆音楽へとひかれそうになる気持ちをおさえ、あと1歩のところで踏みとどまり、クラシック音楽の灯を消さずにともしつづけてきた彼らの心のよりどころとなつたのは、じつは、1杯150円のコーヒーだったことは、あまり知られていない。そして彼らが結婚し、子どももでき、その子どもが大きくなるときっとこういう。「お父さんたちのころは、食べるものがなかった」と。

歴史 ドイツ、フランス、イタリア、オーストリアなどがわが国こそ発祥の地であるといいはってどこもゆづらない。一般大衆の生活向上の影の原動力となり、英國の産業革命以後、めざましい発展をとげた。しかし、ビートルズの出現以来かなり押されぎみでこのままいけば博物館か葬儀所でしか聴けなくなるだろう。

私立探偵の情報 レコード屋のいちばん奥の見とおしのわるいところにならべられている。また、クラシック演奏会でもやって高い入場料を徴収しないと経営していくいけないばかりかいホールへ行けば会える。



芸術の秋 Culture Vulture

棲息地 ふだんは街の片すみの画廊とか田舎の公会堂なんかを順ぐりにまわっているが、1年にいちどだけ、季節が秋になると、この妖精たちは国じゅうのいたるところに出没するようになる。政府もこの時期だけは妖精たちの活動を認めているらしく、文部省がバック・アップして数々の催し物がひらかれる。

GNPの向上に汗水流して働いている人間たちも、秋になると、きまってこの妖精たちの名を口にする。なぜだろう？

どうして春ではいけないのか。あるいは夏とか冬では？ 秋はなんとなくもの悲しくなって、気持ちが内向し、感情に左右されやすい状態になるからなのだ、という芸術家がいた。しかし、これはうそだ。若い女性が処女を喪失する季節は夏が多い、いちばん多いそうである。このことからも感情に左右されやすい状態になるのは夏だということが証明されている。

習性 この妖精たちは、若い俳優やダンサー、彫刻家や作曲家、画家や作家たちの創造的エネルギーを取りたて、芸術に飢えている大衆の犠牲によろこんでなるようとする。見返りはなにもなく、秋が過ぎれば、枯葉のようにどこかへ舞っていってしまう。

う。

この妖精のいとこたちに、失恋の秋という妖精がいる。これは夏に激しく燃えあがった恋に終止符を打つ役割を果たしている。つまり高揚した感情をしめるのだ。そしてこの失恋の秋の妖精たちにつかまらなかったカップルだけが、芸術の秋を楽しむことができるのである。

歴史 一般にはギリシャが発祥の地と考えられているが、事実は、文部省の芸術祭執行委員会、あるいは各大学の文化祭実行委員会なのである。わが国では明治維新以後、西洋文明の導入といっしょにはじまった。

私立探偵の情報 大学の文化祭に行けば、学生たちがつくった看板の裏に隠れているのですぐにわかる。





過ぎ去りし日々 *Passing Fancy*

棲息地 美しい思い出のなか。ひとにふれられたくない過去。だれにも知らせずにそっとしまっておきたい楽しかった日々。過ぎ去りし日々の妖精たちは、あなたがたひとりひとりの胸のなかに棲みついている。そしてそれはいつでも、けっして過ぎ去ってはいないことに、あなたは気づいてとまどう。たしかな感触とともに、過ぎ去りし日々

の妖精たちは、いまもなお、息づいているのだ。

習性 楽しかった思い出、苦しかった思い出、どちらにしても彼らは明日を生きるためのエネルギーを与えてくれる。

歴史 あなたとともに歩んでいる。

私立探偵の情報 古い日記、卒業アルバム、色あせた手紙などの裏に隠れている。



椅子とりゲーム *Musical Chairs*

棲息地 昼下がりの電車、デパートの待合室、コンサート・ホールの休憩室など。

習性 デパートで買いあさった紙袋を両腕にかかえ、丸々とした腰をゆすって、電車の空席めがけて突進する、けなげで勇猛果敢なご婦人たちをひいきにする。

あるいは、あなたが真夏の満員電車でようやく目的の地にたどりつくと、冷房のきいた喫茶店ではバーゲンセールの戦利品を意気揚々と見せあっている中年婦人のグループに席を占領されてしまっていて、やむにやま

れず、またつぎの涼を求めて果てしない旅にでる羽目になるのも、すべてこの妖精が中年御婦人の守護神だからなのである。

歴史 愛の使者キューピットがこの妖精の先祖である。残業だといつわって帰宅の遅い夫への愛を失った主婦にとりついで、空席とバーゲンセールのみを愛の対象と思わせてしまう特別の弓矢を射こむのだから……。

私立探偵の情報 腰のまわりにうっすらと脂肪の層ができはじめ、ヒールの低い靴をはきはじめた主婦のまわりを見わたせばかならず会える。



ツッパリ族 *Teen Angel*

棲息地 この通称つっぱり族と呼ばれる妖精たちは一般的にはティーンエイジャーにとりついでいるのだが、なかには例外的に中年のオシンやオパンにといついていることもある。どちらもおなじ種類の妖精たちなのだが、十代の若者たちのほうはティーン・エンジェルといい、中年のほうはローン・レンジャーと呼んで区別する。どちらも社会に反抗する態度に変りはないが、中年のつっぱり族のほうが根気を維持するのがしんどい。素直につっぱれないのだ。まわりを意識して若いところを見せようとするぶんだけ、ついついポーズにはしって、からまわりに終わるケースが多い。

一方、ティーン・エンジェルたちは、することやることみんなかわいい。自由奔放なのだ。思ったままに、誰にも、なににも束縛されずに、自分を表現している。学校でたばこを吸うのも、先生を平氣でぶっとばすのも、思ったとおりに行動しているからなのだ。じつに、すばらしいことではないか。こんな行動力があり、自己表現のじょうずな少年少女たちを、どうして学校は放りだそうとするのか。教師のいうことをよく聞いて、勉強ばかりしている自主性のな

い、無気力な生徒よりも、よっぽど人間的魅力にあふれているではないか。



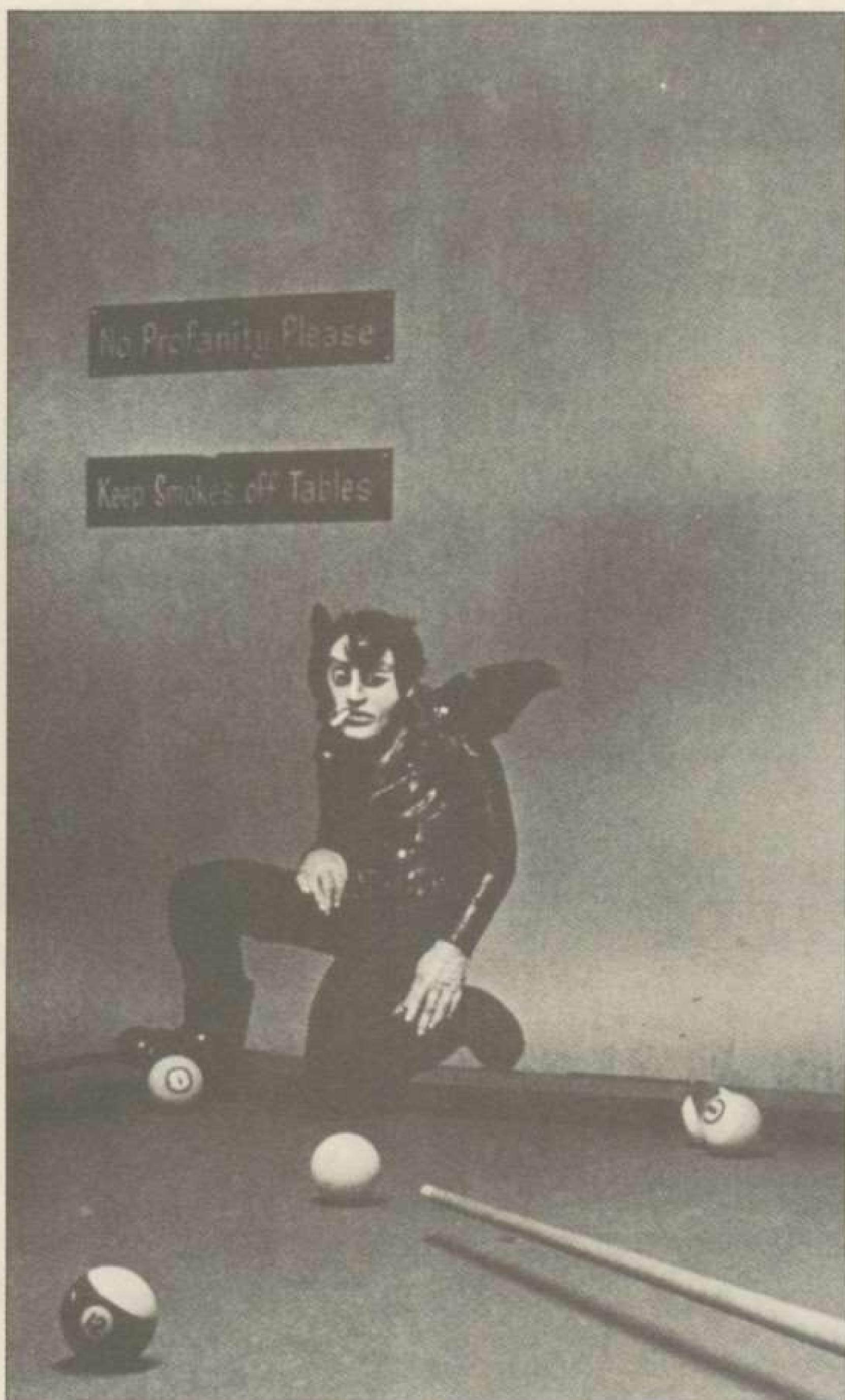
習性 たばこを吸い、アンパンをやり、先生をはり倒し、オートバイに乗って夜の国道を走る。さからう者がいればゴロをまき、勇気をためすためにはいろんな危険なゲームもある。リンチ・カツアゲ・暴行・マッシ。学校ではけっして教えない遊びを、独自に研究・開発して楽しんでいる。

歴史 つっぱり族の歴史は、無法者の歴史ほど古くはない。

私立探偵の情報 ひといちばい、さびしがり屋の連中の集まるところにいる。しかしまちがっても、ヘルス・エンジェルには訊かないほうがいい。名前は似ていても、彼らはまったく別の妖精たちなのだから。

No Profanity Please

Keep Smokes off Tables



ギャンブルの精 *Deamon Runyon*

棲息地 競馬、競輪、オート、ボートなどの公営 ギャンブル場。それに入墨をした人たちが経営している、私営のバクチ場。ほかには会社帰りのサラリーマンが寄る雀荘、飲み屋の奥にあるテレビ・ゲーム機。

人間が汗水流さずに大金を手に入れたいと思うところならどこにでも棲みついている。

しかしこの妖精たちはかなりのひねくれ者で、なかなかこちらのい、うとおりには動いてくれない。ここ一発と勝負したときには、スルリと身をかわして逃げてしまい、どうでもいいときにはにこにこしながらやってくる。

最近、この妖精たちの研究も進み、「ギャンブル必勝法」とか「こうすれば勝てる・競馬」などという研究書も数多く発表されているが、いまだ決定版というのではないのが実情である。

習性 人間の期待を裏切って楽しんでいる。だったら期待していないほうに賭ければいいかといふと、それもだめ。そういうときは、最初に期待したほうに出目をだす。意地が悪いのだ。期待しても裏切られ、期待しなくとも裏切られる。なぜなら、いくら期待していないふりをしても、心のどこかでからずわ

ずかでも期待しているのが人間だからである。妖精たちは、お見とおしなのだ。人間とは弱い動物であることを。

しかし、この妖精たちに勝つ方法がひとつだけある。それはギャンブルをやらないことだ。彼らの誘惑にあなたが勝つことができたら、彼らはあなたに「幸福な家庭」という代金を払ってくれるだろう。

歴史 旧約聖書のなか、アベルとカインの兄弟たちから生まれた。じつは、この兄弟たちは、チンチロリンが原因で喧嘩をはじめ、殺しあったのである。

現在はっきりしているのは、プラトン周期でいう紀元前4000年から2000年のあいだにはじまり、発展したというが、これも100 パーセントの確率とはいえない。

私立探偵の情報 ギャンブルの妖精たちは、競馬場へ向かうタクシー、競馬場から帰るバスのなかにいる。あるいは深夜、酒場の片すみで泣いている男の肩にとまっていることもある。

しかし、この妖精たちを見つけるのにいちばんてっとりばやい方法は、ギャンブルをしていちばん儲けている人間のところに行けばいい。丸々とふとった妖精たちに会えるはずである。



SELECT

PIMA
RESU

健康食品魔 Elf Alpha

棲息地 健康食品店、サラダ・バーのお店、自然食レストラン、天然果汁入りジュースのなか、玄米ご飯、麦トロなどのなかにいる。この妖精たちは、人間の耳もとで、「そんなにおいしいのなら身体に悪いにちがいない」とささやく。またその逆の場合は、「そんなにまずいのなら身体によいはずだ」ともささやく。そしてビタミン剤などにまぎれこんで各家庭を訪問し、長生き幻想を与えながら美食家あるいは過食の人間たちに護摩札を売って歩いてもいる。

最近、この妖精たちのささやき声にまどわされた若い女性たちが拒食症におちいって、命を落としているケースが多発している。「イエスタディ・ワヌス・モア」などを歌っていたカレン・カーベンターズさんは、太り過ぎを気にして減量をはじめ、ついには拒食症になり、56キロあった体重が30キロにまでなってこの世を去ってしまった。

習性 この妖精たちのいたずらは、まず太り過ぎを気にさせるところからはじまる。エアロビクスの精などとおなじ手口だが、健康食品の妖精たちは、自分のからだを動かさずにやせたいという横着な人間たちにとりつき、神さまから人間にさすけ

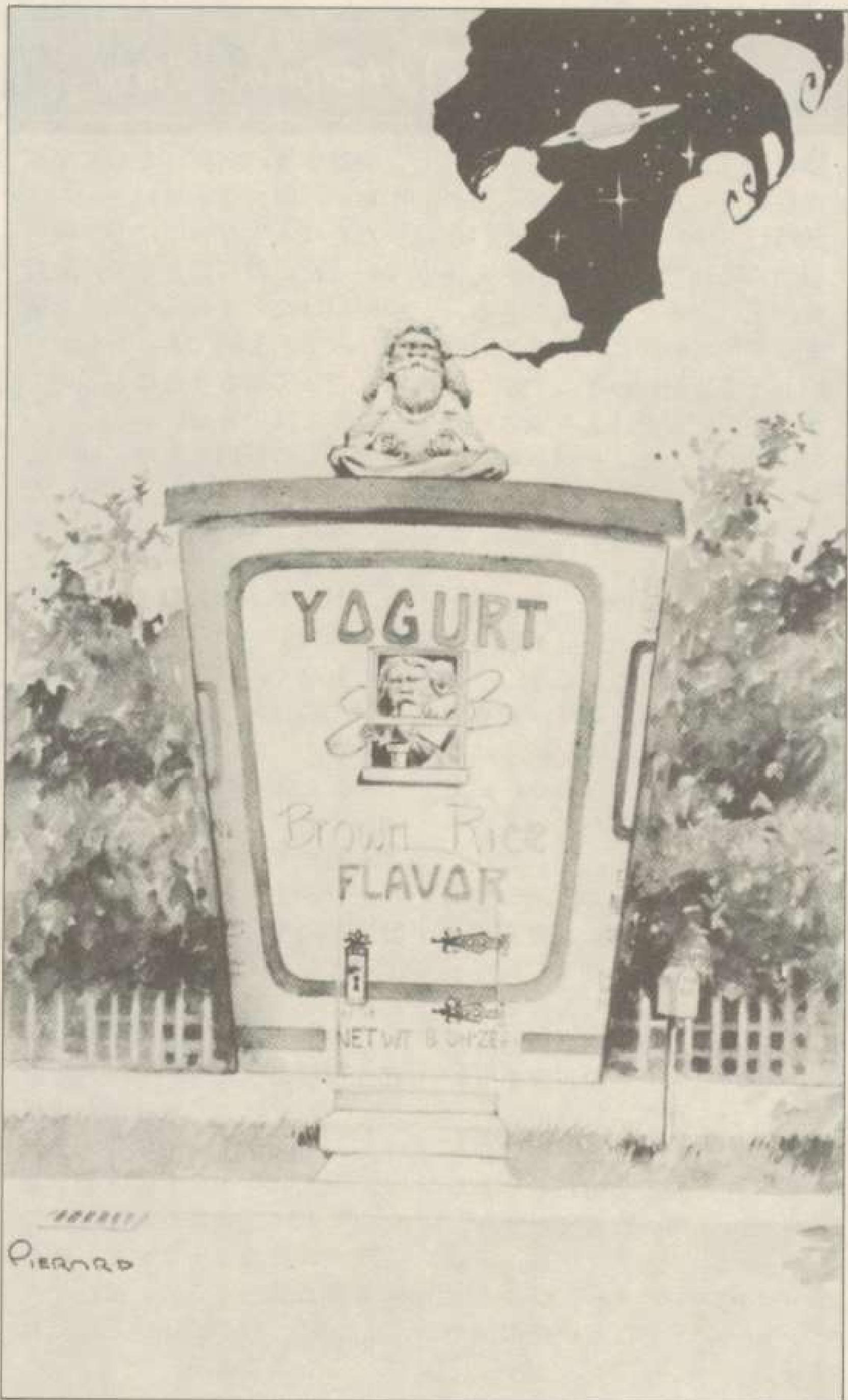
られた大欲望のひとつ、食べる楽しみという欲望を奪ってしまい、毎日、味気ない天然・自然食品ばかりを食べさせ、最後には食べることがいやになり、死にいたらしめる。

この妖精たちは、じつは、ソ連が第3次世界大戦用に開発した、とっておきの秘密兵器ではないかという情報がNATOをはじめ、西側諸国の首脳部のあいだでうわさされている。つまり、健康食品ばかり食べている人間は、ものの考え方たが変わり、性格がおだやかになり、闘争心がなくなるからである。

もしこれが事実だとすれば、この妖精たちの威力は、現在アメリカが開発中の下痢を起こさせる細菌を入れたビフィダス菌爆弾よりも強力なものになるだろう。

歴史 もともと人間は自然を克服するところから文明の第一歩をしるしてきたのはずなのに、この妖精たちは1960年代の初めごろから「自然に帰れ！」をあいこぼしに登場してきた。そして、横着なインテリたちの支持をえ、きょうの流行につながっている。

私立探偵の情報 あなたのそばに近づいてきて「なまで食え！」とささやく人物がそうである。



Pieraro

栄光の精 *Phantasma Glory*

棲息地 甘い香りのするところならいたるところにいる。この妖精たちは、人間の野望という仮面に隠れて、とりついた人物を栄光の座へとひた走らせる。まるで競馬の馬につける遮眼帯のように、彼にわきみすることを許さず、栄光はあらゆるもののが犠牲のうえにしか輝かないことを強制する。

サラリーマン社会においては、この妖精たちは馬車馬のようにしゃにむに働くことを要求する。もちろん、家庭や家族をかえりみるひまも与えない。やがて妻や子どもたちは、夫や父親のそんな姿に疑問を持ちはじめ、やがて気づくだろう。栄光の座は彼ひとりしかすわるスペースがないことを。

習性 この妖精たちは、町工場や喫茶店で働く平凡な若者たちを、ほんの気まぐれからスーパー・スターにしたてあげる。そしてもし彼らがこの妖精たちに払う犠牲という名の報酬をもっていなかったら、彼らがスーパー・スターになったあとで彼らから「人なみのしあわせ」を見返りとして奪い取ってしまう。

ジェームス・ディーン、エルヴィス・プレスリー、ジャニス・ジョップリンなどがその例である。

交通事故、病気、そして麻薬中毒と、偉大なスーパー・スターたちは人生なかばにして散っていく。彼らにとって、栄光の座がはたして彼らの払った犠牲にみあうものであったか、いまとなってはもう誰にも訊いてみることはできない。

またこの妖精たちは、けっして非凡な人間にはとりつかない。非凡な人間は、自分自身の力で栄光の座をつかむことができるからである。彼らは誰も踏み台にせず、なんの犠牲を払うこともなく、栄光の頂上にたどりつくことができる。

このように、妖精の力を借りて栄光をきわめた者たちの末路は痛ましい。いたずらと呼ぶには、あまりにも残酷である。けれどもきょうもまた……。

歴史 栄光の甘い香りは、カウボーイをハリウッドへ向かわせ、やがてワシントンへと向かわせた。

私立探偵の情報 映画の撮影所、テレビ局のスタジオ、俳優学校、歌謡学院、酒場のステージ、美人コンテスト。才能がないかわりに、妖精たちの目につきやすい特徴をそなえた人たちの集まるところにいる。その特徴とは、自己顕示欲と呼ばれているものである。



幼稚園児を守る精 *Kinderguardians*

棲息地 駐車している車のかげ、薄い氷の上、捨てられた冷蔵庫のなか、すべりやすい屋根の上、池や貯水池のへり、建設現場のまわり。つまり、子どもたちが近づくことを禁止されているような危険な場所で、歩哨に立っているのである。

習性 自分の子ども時代をよくおぼえている人、あるいはよく子どもを見かけることのある人なら、子どもたちがいかに危いことをするかがわかるはずだ。

幼稚園児を守る精はその呪文で、高所から落ちる子どもの落下点になる地面をトランポリンに変え、高圧線にひっかかりそうなタコを吹き飛ばし、交通量の多い通りで車を停めて子どもたちを安全に渡らせる。

また、危険な電動工具だけがをするまえにそれをショートさせてとめ、大型の爆竹の導火線を湿らせて消し、ころんだ子どもの着ているジーパンのひざに薄い鉄板を入れてけがを防いだ

りもする。

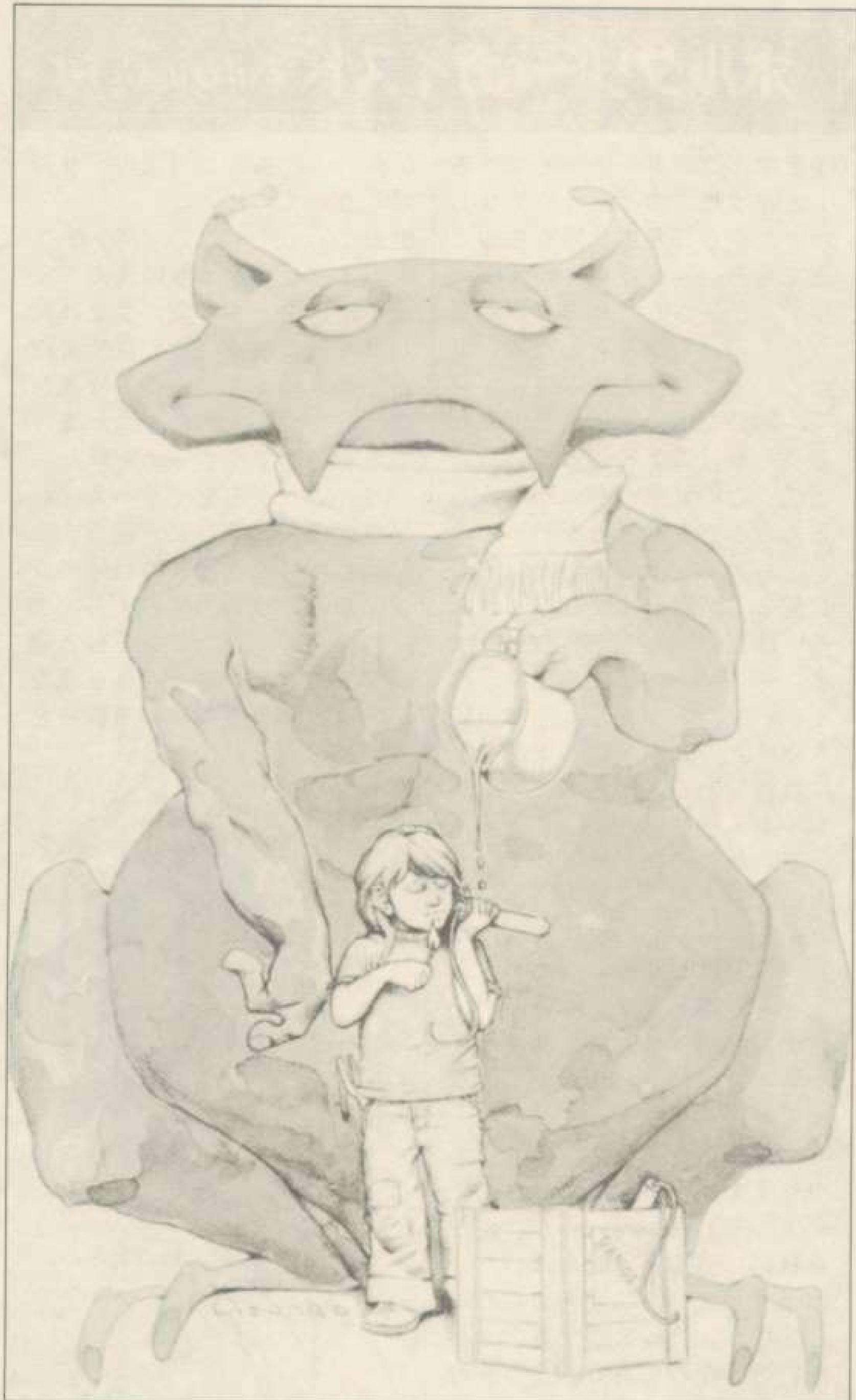
歴史 このやさしさにあふれた幼稚園児を守る精は、ドイツの家庭の精、コボウルドの子孫である。子どもが恐れられ、無視されているアメリカでは、幼稚園児を守る精はいそがしいことこのうえない。

彼らのアメリカでの有名な仕事として、ハックルベリー・フィンのいかだを無事に下らせたことと、ビリー・ザ・キッドを成人するまで生きながらえさせたことがあげられるだろう。

そして、読者諸君、きみたちをオートバイの事故から守ってくれているのは、ほかならぬ幼稚園児を守る精なのだということを、くれぐれもお忘れなく！

私立探偵の情報 毎日の新聞を読んでいて、“奇蹟的に助かった子ども”の記事が目にとまつたら、それは、幼稚園児を守る精がひと働きしたのだと思ってまちがいないだろう。





ポルタリー・ガイスト *Paltry Geist*

棲息地 このポルター・ガイストと呼ばれるのは、そうぞうしいいたずら好きの妖精たちのことである。ニッポンでいえば、座敷童子（ざしきわらじ）のようなもの。ちょっとした古い家なら、どこにでも住みついていて、罪のないいたずらを家人たちにしかけてよろこんでいる。

習性 この妖精たちにかかるとどんなことが起きるかわからない。ちゃんとセットしたはずの目覚まし時計が1時間早く、あるいは1時間遅く鳴ったりする。シャワーの温度調節がうまくいかず、とつぜん、冷水が噴きだす。タオルがびしょびしょに濡れている。知らぬ間にトイレット・ペーパーがなくなっている。最後のひとしほりで出した歯ミガキが、洗面台にボロッと落ちる。左右の足に別々のソックスをはかせる。

まったくもって、かわいいいたずらばかりである。あなたにもきっと思いあたることがあるはずだ。

この妖精たちはとてもさびしがり屋で、いつでも人間たちにかまってもらいたいのだ。だから真剣に怒ると、彼らはおじけづいてしまい、二度とあらわれなくなる。笑って許す寛容さがないせつなのである。そうすれ

ば彼らは、あなたの家の守り神にもなってくれる。

歴史 そもそもこの妖精たちは、まだ小さなうちに死んでしまった子供たちの靈の生まれ変わりなのである。この世でまだ遊び足りなくて、いろんな家を訪問しては、大人たちにかまってもらいたくてちゃめっけたっぷりのいたずらをくりかえす。

私立探偵の情報 夜、寝るまえに暗くなった台所の冷蔵庫のウラ、あるいは風呂場の天井、玄関のけた箱の脇などをそっと覗いてみると、小さな身体を横たえてスヤスヤ睡っている彼らを見つけることができる。





ジン・ラミー *Djinn Rummy*

棲息地 ジン・ラミーとは、トランプのゲームの一種ではなく、安くて強い酒シンの愛飲家たちのことである。彼らにとりついているのが、ジン・ラミーの妖精たちなのだ。安物の酒を売っている店ならどこにでも出没し、チビチビ飲んでいる人間の肩にのっかって遊んでいる。

習性 この妖精たちは人間から3つの大きなしあわせを奪い取ってしまう力をもっている。

その3つとは、仕事を見つけ働くこと、清潔な衣服を着ること、寝る場所を手に入れるここと、である。このことを悟った人間たちには、ジン・ラミーはじつに楽しくて愉快な相棒なの

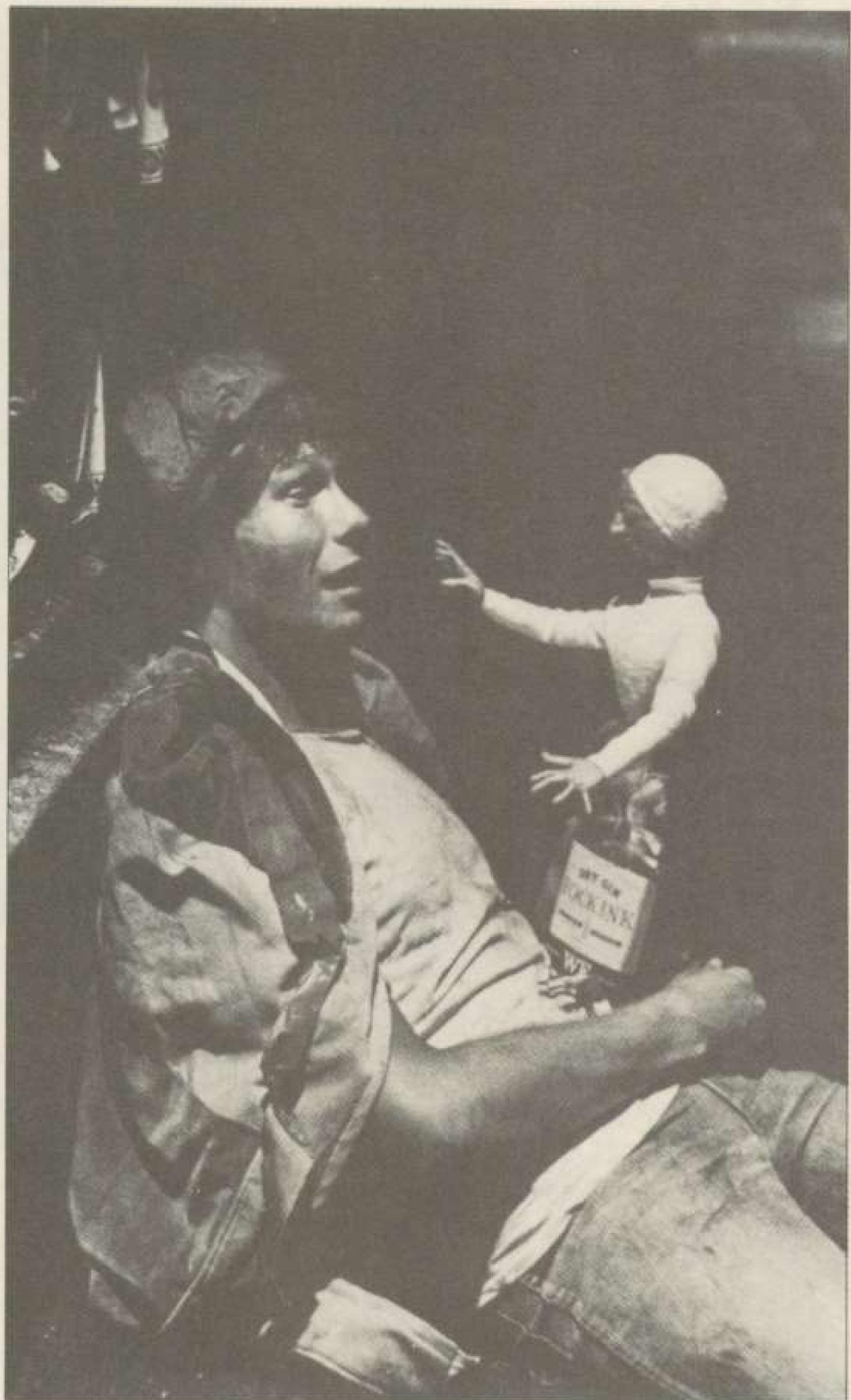
である。

しかし、なにぶんにも強いお酒なので、この妖精たちと仲よくなりすぎると、毎晩会いたくなってしまう。

歴史 ジン・ラミーの出身地は中東である。中東の商人たちは、ヨーロッパへこのお酒を売って金儲けをしようとしたのだが、フランスにはすでにワインがあり、ドイツにはビールがあり、イギリスにはウイスキーがあったので、しかたなくアメリカへ売ることにしたのである。

私立探偵の情報 浮浪者と呼ばれる優雅な暮らしをしている人たちの、空にしてしまったボトルの底にいる。





嫌煙権の精 The Filthy Hobit

棲息地 この嫌煙権を主張する妖精たちは、最近いたるところに登場するようになっている。以前は、映画館や電車のなか、あるいはエレベーターとか冷房中のタクシーのなかなど、禁煙の表示がある場所に限られていたけれども、肺ガン予防のキャンペーンの効果もあってか、このごろは、レストランなどのタバコを吸わない人もたくさん集まる場所にも出没するようになり、吸っている人の隣りにいるだけで60パーセントの煙を吸っていることになるという政府機関の発表以来、すっかり市民権を獲得したような大きな顔をしている。レストランで食後の一服さえ楽しめない時代なのだ。愛煙家にとっては、喫煙権というものも認めてほしいしたいである。

習性 ここで一服の楽しみ、強烈に吸いたい欲望、緊張をほぐす一服、これらにストップをかけ、いろいろの原因をつくりだしている。この妖精たちのいいふんは、自分で肺ガンに巻きこまれたくない、というものであるが、愛煙家たち、とくにヘビースモーカーたちは肺にたくさん運動をさせていることとおなじなので、医学的にも肺が強くじょうぶになることが証

明されているのである。だいいち肺ガンだけにめくじらをたてなくても、ほかにもっとたくさんのがんがあるではないか。それに嫌煙家たちのこんな道理がとおるのなら、いつの日か、乳ガンになるからといって、恋人や奥さんのバストを愛撫することさえ禁止されてしまうだろう。

マッチを吹き消したり、タバコのフィルター側に火をつけさせたりなどのいたずらは、まだ序の口のほうで、不意に襲われる心臓発作や呼吸困難、原因不明のわが家の火事……これらはみんな嫌煙権の妖精たちのしわざなのである。

歴史 西部開拓時代、白人が丘のうえでおいしそうにトバコをふかしていたインディアンから取りあげ、追いはらってしまったのがこの始まりである。だから土地を追われたインディアンが、独特のまじないと呪いでもってこの妖精たちをつくりだし、白人の家を火事にし、喉を痛めさせ、肺ガンにし、指を黄色くさせたりしているという説もある。

私立探偵の情報 あらゆるポケットを必死になってさぐっている男の肩、ハンドバッグをヒステリックにひっくりかえしている女の胸などにいる。



アリバイの精 *Alibi Elf*

棲息地 アリバイとは、法律用語でいうと、「現場不在立証」のことであるが、ふだん一般に用いられている意味は、「現場存在立証」のほうである。たしかに会社の近くの雀荘で友人たちとマージャンをやっていたとか、上役といっしょにカラオケ・バーで歌っていたとか、妻に帰宅の遅い理由を訊かれたときに、自分のいた場所と同席人を明示し、その現場にまちがいなく存在していたことを妻に納得させるようなうそをアリバイというのである。

アリバイがほんとうなら、くだくだと説明する必要もなく、「おまえには亭主が信じられないのか」と堂々と一喝すればいいのであるが、アリバイをいったん口に出してしまったら争点はアリバイ 1本にしほられ、妻の執拗な追及から逃れられなくなる。そうなるともともとないアリバイを立証してみせるのだから、レースの最初からハンディ・キャップを背負って走るようなものである。きっと苦しいレース展開になるだろう。

つまり世の男たちにとって、アリバイとは、もっともらしいうことなのである。すねに傷もつ人なら理解いただけると思う。

習性 しかし、このアリバイの妖精たちは、そんなときにもっともらしいいいわけを用意して待っていてくれるのである。彼らのブリーフ・ケースのなかには、ありとあらゆる種類のアリバイが用意されている。交通の渋滞だとか電車の事故、とつぜん、友だちの気分が悪くなっただとか取引先のお得意が急に上京しただとか、とにかく妻の追及をかわし、その晩の安眠を約束する資料にはこと欠かない。

しかし、このアリバイの妖精たちに登場を願うときの最低の心がけとして、もし万が一、不幸にしてばれた場合、妻の怒りに火をそぐようなアリバイ、たとえば妻の近親者などを巻きこんで妻のもつてている信頼関係を利用したり、そういう悪質なアリバイだけは避けておいたほうがいい、念のため。

歴史 アリバイの精は、もともとはフランスの出身である。この国では、浮気とはアリバイのゲームでもあるのだ。

私立探偵の情報 妻が「正直にいったら許してあげる」とか「さっき部長さんから電話があったわよ」などというきまり文句をいいだしたら、アリバイの妖精をしっかりとつかんで離さないこと。



ふさぎの虫 The Leprachaunman

棲息地 雨の日曜日、午前3時、ひとり住まいのアパートの部屋（これで憂鬱にならない人間がいたら奇跡だ）。おまけにデートの相手もなければ、訪ねてくる友人もない。あるのはもてあましている時間だけである。

この雨では洗濯もできないし、夕飯の買い物に行くにはすこしはやすすぎる。まったくもって呪いたくなるような気分である。

習性 この“ふさぎの虫”の妖精たちの姿は、とりつかれた人以外には見ることができない。誤解、喧嘩などといった人間の気分がマイナスに働く瞬間を狙ってとりつこうと、妖精たちはいつも待ちかまえている。ふさぎの虫が生みだす憂鬱は、悲嘆とはちがう。かなり軽度の精神的な落ちこみ状態をいうのであるが、原因がいまひとつはっきりしないところに問題があり、適切な治療方法が見つからない理由もある。なんとなく憂鬱というのが、いちばん多い症例なのだ。

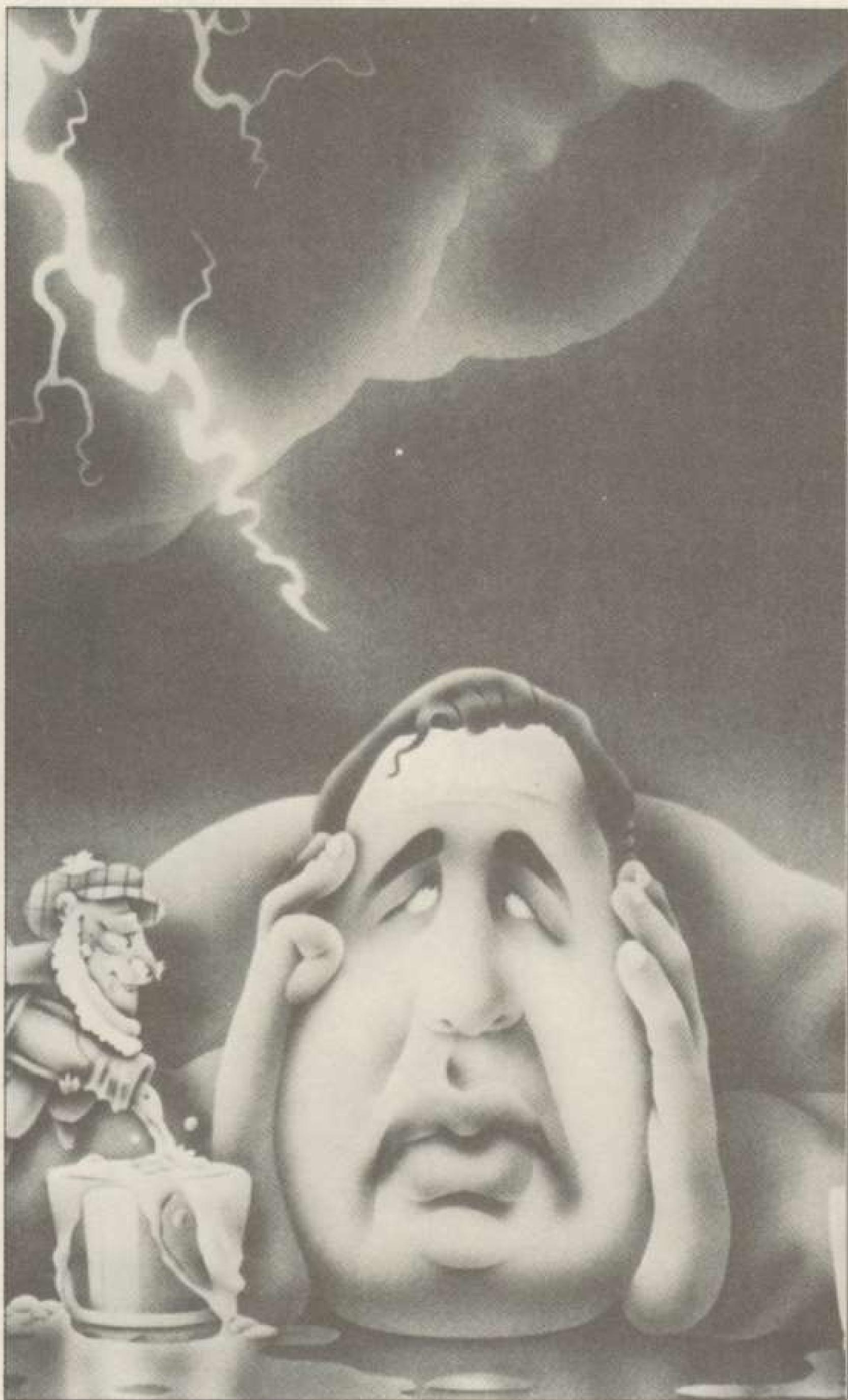
また若い女の子たちは、憂鬱の状態にいることを“わたしブルーなの”と表現する。ブルーは海の色、空の色である。では、どうして憂鬱が、海や空の色と同義語で考えられているのだろう

うか。それをじっくりと考えるのも、憂鬱からぬけだす方法ではないだろうか。

えっ、ますます憂鬱になるって？ ごもっともです。



歴史 アイルランドの重苦しい天気のなかで生まれた。近代ではF・スコット・フィッツジェラルド、ユージン・オニールらが、このふさぎの虫の犠牲者。わが国では、芥川龍之介、太宰治などがいる。



密入国の精 *Don Faun*

棲息地 アメリカと国境を接するあらゆるところ。または空港、波止場、バス・ターミナル、ハイウェイ、裏街道、廃鉱のトンネル、パトロールのいない砂漠。貧富あるいは文化の程度が極端にちがう国が隣りあっていいる場合、水が高いところから低いところへ自然と流れるように密入国者も流れこんでくる。

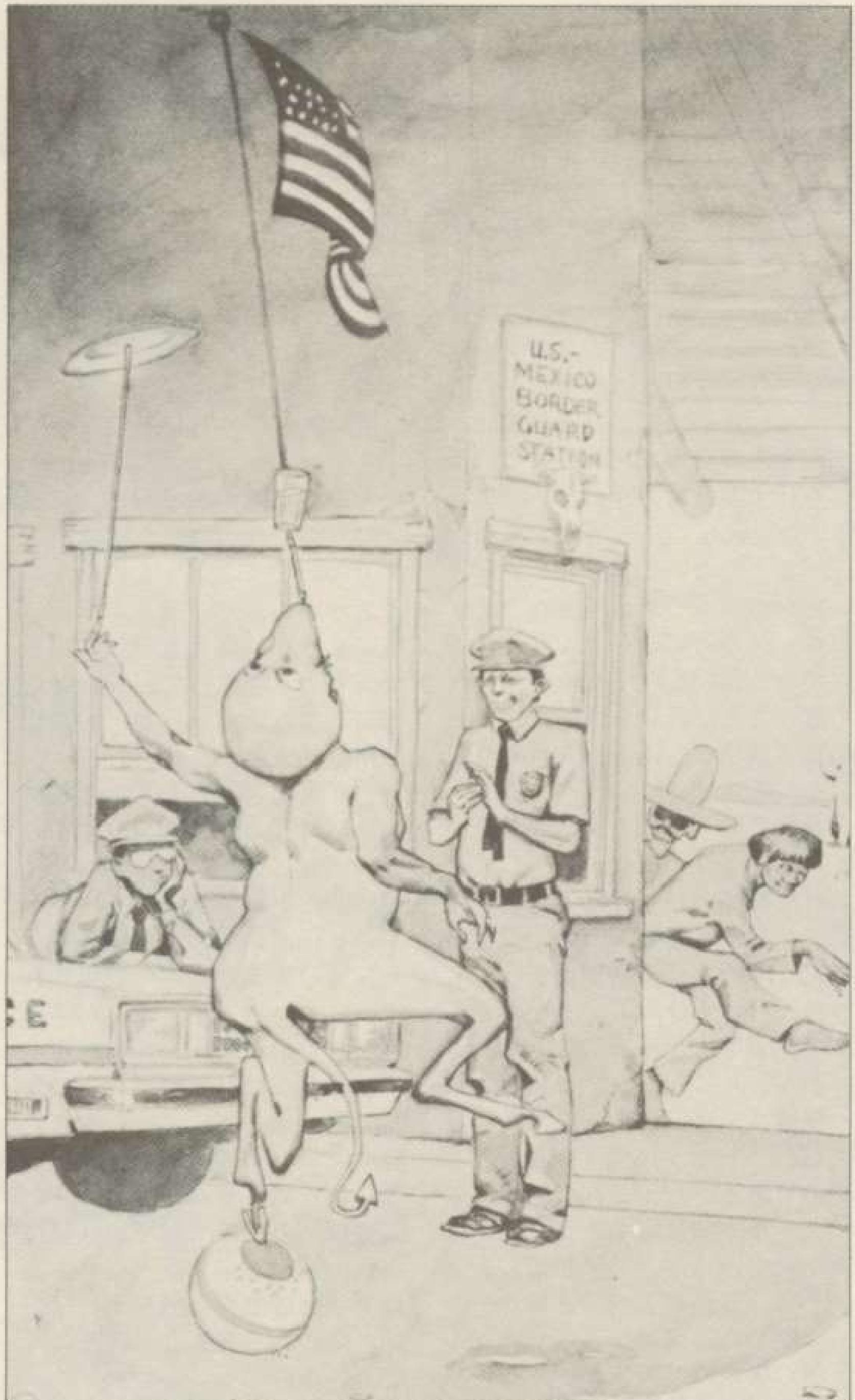
習性 自由な空気を求める抑圧された貧しい人たちに、この密入国の妖精たちは助言と希望をあたえる。そして彼らをアメリカに密入国させるかわりに、それ以後も母国の生活様式をかたくなに守っていくように要求する。ひとたび、うまくアメリカに住みつくことのできた人々は、母国への熱烈な愛国心を示すことによって、彼らの協力者であったこの妖精たちに代金を払っているのだ。

アメリカ政府としては、密入国者があとを絶たないことよりも、彼らが妖精たちとの約束を守って、ガンとして母国の因習を捨てずに暮らしていることにいちばん頭を悩ませている。このまま放置しておけば、アメリカじゅうにいくつもの国々が誕生してしまうだろう。これはもう、「進出」ではなく、「侵略」以外のなにものでもない。

歴史 すぐ隣りにお金持ちの国がある貧しい国の出身。何世紀にもわたり、この妖精たちは、貧しい人たちといっしょに貴族のいる城壁のなかにはいりたくてたまらなかった。革命か密入国か、彼らは、いつもこの選択に悩まされる。

私立探偵の情報 もしあなたがアメリカ合衆国内でこれを読んでいるなら、密入国の妖精たちをさがす必要はない。





嫉妬の精 *Evil Neckromancers*

棲息地 会社の近くの飲み屋、行きつけのバー や クラブ、最終電車のなか、タクシーの後部座席、家の近くの電信柱のかげなどに嫉妬の精は隠れていて、深夜、いそいで帰宅するサラリーマンたちを狙う。とりつかれたのも知らずにそのまま帰ると、奥さんのまえで思わぬ災難に出くわす羽目にある。

たとえば、ポケットから行ったこともないようなピンク・サロンのマッチが出てきたり、Yシャツの背にひと目で女性のとわかる長い髪の毛をくっつけておいたり、といったいたずらをこの妖精たちは平然と行なう。そして嫉妬に燃えあがる奥さんを見て楽しむのである。

そんなときはひとつこと、「これは嫉妬の妖精たちのしわざだよ」といって笑えばいい。奥さんはその非現実的かつ子どもじみたいいわけにあいそをつかして、実家に帰ってしまうだろうから。

習性 元来、この妖精たち自身が、ひじょうにやきもち焼きなのである。だから仲のいいカップルや夫婦にしかとりつかない。だから、とくに新婚の夫婦がよく狙われる所以である。

反対に、倦怠期をむかえた中年の夫婦には興味も示さない。

ただし浮気となると話は別である。会社の課長がバーのホステスと、あるいは部長がクラブのママと、などといった場合には、妖精たちはその相手の女性を激しく嫉妬に狂わせる。彼女たちは妻子ある男性を好きになってしまったという負い目（ハンディ・キャップ）、つまり不倫の恋だという自覚があるから、そこに第三の女性の存在をほのめかすものがでてこようものなら、さあたいへんだ。奥さん以上に嫉妬に狂う。自分も浮気の相手であることを忘れて、「あなた浮気してたのね！」などと金切り声を発する。

こう考えると、どうやら嫉妬の妖精には、女性を愚かにさせる力があるようだ。しかしそれだけ女性が取り乱すのも、愛している証拠かもしれない。だったらはじめから素直に表現すればいいものを、やっぱり女性は愚かなのか、嫉妬の妖精たちの手を借りなければ、男性に「愛している」とはいえないのだ。

歴史 フランスのコキュ（寝取られた男）から誕生した。

私立探偵の情報 嫉妬の妖精に会いたかったら、恋人や奥さんに愛されるように努力すればいい。愛のあるところなら、どこにでもいる。



左翼鳩と右翼鷹

The Left Wing Symp
and The Right Wing Trog

棲息地 大使館や議会、大学のキャンパス、大衆的な飲み屋や床屋など、男たちが集まるところなら、どんな場所にでも出没する。

習性 この妖精たちは、総じて

議論好きで政治をこよなく愛する。また一般に信じられているところによると、鳩は若者を左へ誘い、鷹は老人を右へ誘うという。しかし、かつて、鳩が鷹に勝ったという話は聞かない。



死の商人 Death Merchant

たのは今世紀にはいってからで、そのあまりのいたずらのひどさに、妖精世界からの追放を叫ぶ声もではじめ、最近では妖精内ハト派のあとおして“核反対の精”といった対抗馬も出現している。

これは死の商人と呼ばれ、古くなっているなくなった武器を売りつけ、まだ使えるお金をもらう悪徳商人の妖精である。この妖精ははるかギリシャ・ローマのむかしからいたが、ひどいいたずらをしてかすようになっ



芸能レポーターの精 The Scandal Ch.

棲息地 劇場やテレビ局、そのほか、高級住宅地や高級レストランなど、歌手、俳優、映画スターなどが出入りするところはどこにでも出没する。

習性 かつて、ハリウッドはやかなりし時代には、芸能レポーターの精はつつしみ深く、よほどの大スターでなければ相手にしなかった。ところが、テレビが普及し、ゴシップ雑誌がつぎつぎと刊行されるようになって、彼女たちの性格は一変してしまった。

いまや芸能レポーターの精は、夜と昼とを問わず、また寝室であろうと公衆の面前であろうと、大スターであろうとボット出のジャリ・タレであろうと、とにかくスターと名のつく人間なら誰でも追いかけまわしている。

大スターを追いかけまわす彼女たちの執念はすさまじい。ある独身の大スターが、ひさしぶりの休暇で海辺のリゾート地へ出かけたとする。もちろん、愛人といっしょにだ。

妖精は、片手にカメラ、もういっぽうの手にマイクをもって、大スターの身辺近くにひそんでいる。海にはいればいっしょに海にはいって、海中から泳いでいるスターに目をこらす。

テラスに休んでいると、近くの木のかげに隠れて、シャッター・チャンスを待ちうけている。

大スターが連れてきた愛人が、これまでいちどもマスコミで取りあげられたことがなければたいへんだ。

次号の雑誌の表紙にはきっと「スクープ！ 大スターの○○の愛人、ついに発見！」と大きな見出しがつけられることだろう。

この妖精たちはまったく神出鬼没で、芸能人からは徹底的にきらわれているが、ゴシップ好きの若い女性や主婦たちには大歓迎されている。

つねに女性たちの好奇心を満たすべく、きょうも妖精たちはスターのお尻を追いかけまわしているのだ。

歴史 社交界がもてはやされていた時代のフランスの宮廷で生まれた。

私立探偵の情報 テレビの画面に出てくる芸能レポーターの口のなかを見てごらん！





カラオケの精 Noisy Mike

棲息地 もちろんカラオケ・バー。最近では家庭にカラオケ・セットを置いて、家族全員で楽しんでいる人もいる。この妖精たちは、だいたい夜の7時ごろから繁華街に出没し、道を行くサラリーマンに「ちょっと飲みに行こうか」といわせるかわりに、「ちょっと歌って行こうか」といわせる。カラオケで歌うのが目的で、お酒を飲むのではなく、お酒が売れず、オードブルやおつまみで稼ぐようになり、もっとひどくなると、1曲1000円もとて、カラオケの売り上げがいちばんだという店もある。

しかしこの妖精たちのおかげで、どれだけのいったんつぶれかかったバーやスナックがもちらおしたか数えきれない。夜の街の救世主でもある。

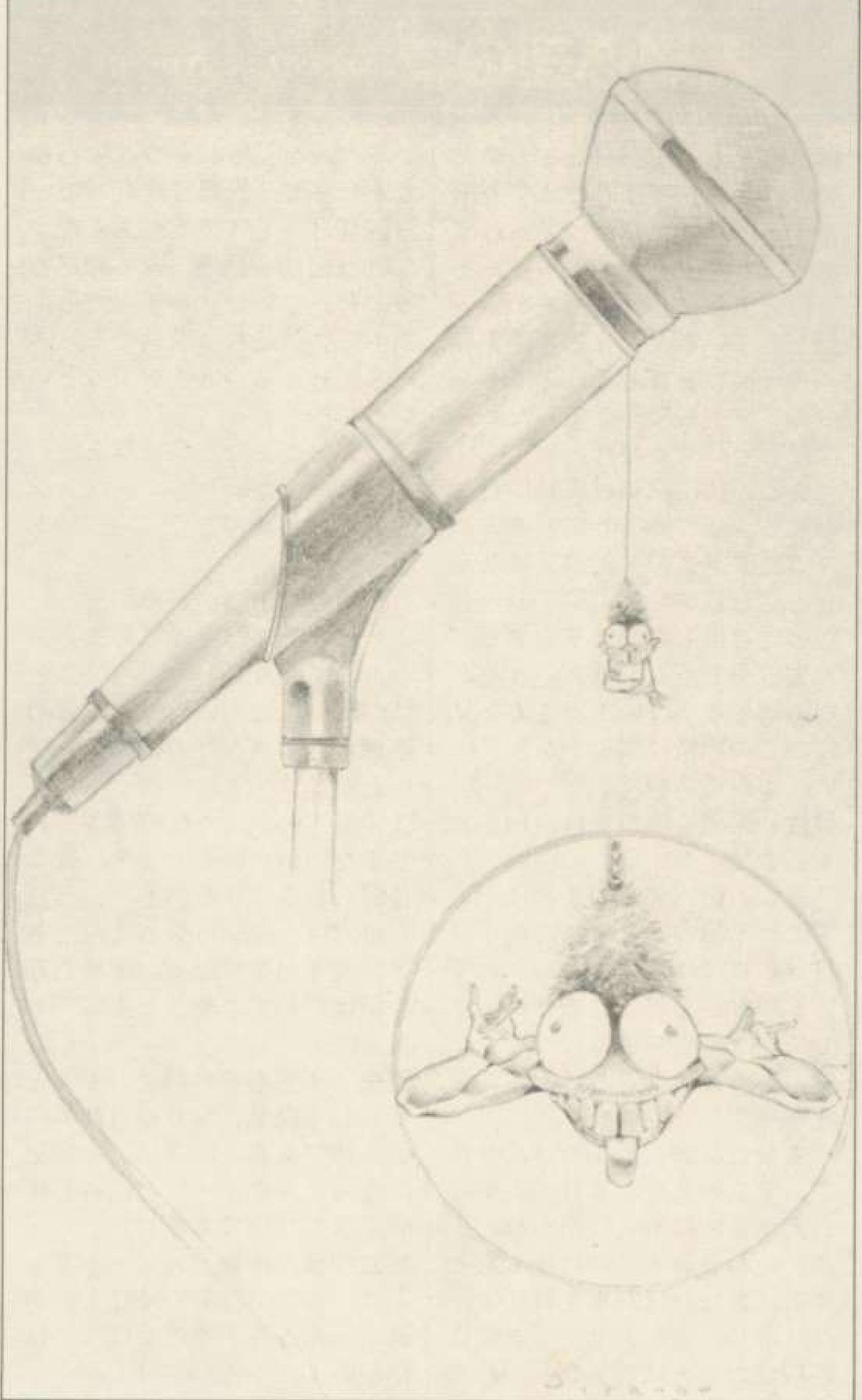
だが弊害もある。生まれつき音痴の人間が、このカラオケ・セットを見ただけでシンマシンが出て、突発的な顔面神経痛に襲われるのだ。それをむりにすすめて、脱水症を起こして死亡するケースがあとを絶たない。この問題を重視した政府与党は、国家的な惨事にいたるまえに、野党のカラオケ議員をはじめてカラオケの妖精たちの取締まり法案の作成に取り組む予定

でいる。

習性 傍若無人。人の迷惑を考えない。自分さえ満足すればいいという自己中心主義である。そこがかえって会社中心主義のサラリーマンに受けている理由で、会社でがまん、カラオケで発散のパターンが一般的な傾向になりつつある。また上司のへたな歌を聞かされて慢性下痢症で悩んでいるサラリーマンは、自宅に帰って自分のカラオケで歌い、ストレス解消をはかっている。

歴史 むかしは、卖れないプロの歌手がどさまわりに連れて歩いた妖精たちのことだったが最近は、サラリーマンになくてはならない友だちでもある。ちなみにカラオケのほんとうの意味は、卖れない歌手のへたな歌を聴くと、気持ちが悪くなつてから桶がいるからで、現在いわれている空のオーケストラの意味とはちがうものだった。

私立探偵の情報 マイクを見るとすぐもちたがり、「このマイク入っている？」なんていうやつが多いところにいる。また、会社の部屋のドアにいちばん近いところにすわっているサラリーマンの机のひきだしのなか。会社は彼を宴会用に飼っているからだ。



深層心理の精 *Freudian Sylphs*

棲息地 人を赤面させるのが大好きなこの妖精はどこにでも出没するが、状況が微妙であればあるほど張り切るのだ。

たとえば、受験生やその親と話をしている人を見ると「先日スキーに行きました、思う存分“すべて”きましたよ」などといわせるのだ。

あるいは、秋晴れの日に行なわれる葬儀に列席している人に「ご愁傷さまです。本日はなんとも“お日がらもよく”……」などと口ばらせたりもする。

失言をした人が消えいりたくなるほどろばいするさまを見て、この妖精は腹をかかえて笑い、よろこぶのだ。

習性 深層心理の精は、別名を本心の精ともいう。

彼女のいたずらの手順は、まずこれと狙いをさだめた相手に自分の口にはチャックがついているのだ、と思いこませる。そして、その心の油断につづこんで、かんじんなところで本音を吐かせてしまうのだ。

あなたが20代後半の独身女性で、学生のときから仲のよかった友だちの結婚式に招かれ、祝辞をいわされるはめになったとする。あなたは料理を口にはこびながら、ときおり、さまざまに祝いのことばをあびせられて

いる友人を見る。あなたの心のなかはとても複雑に波打っている。『どうして彼女があんなすてきな男性と結婚できるのだろう。わたしのほうが美人だし、頭もいい。それに家柄やセンスだってわたしのほうがずっといいのに……』

いよいよあなたが祝辞を述べる番になった。

「本日はおめでとうございます」

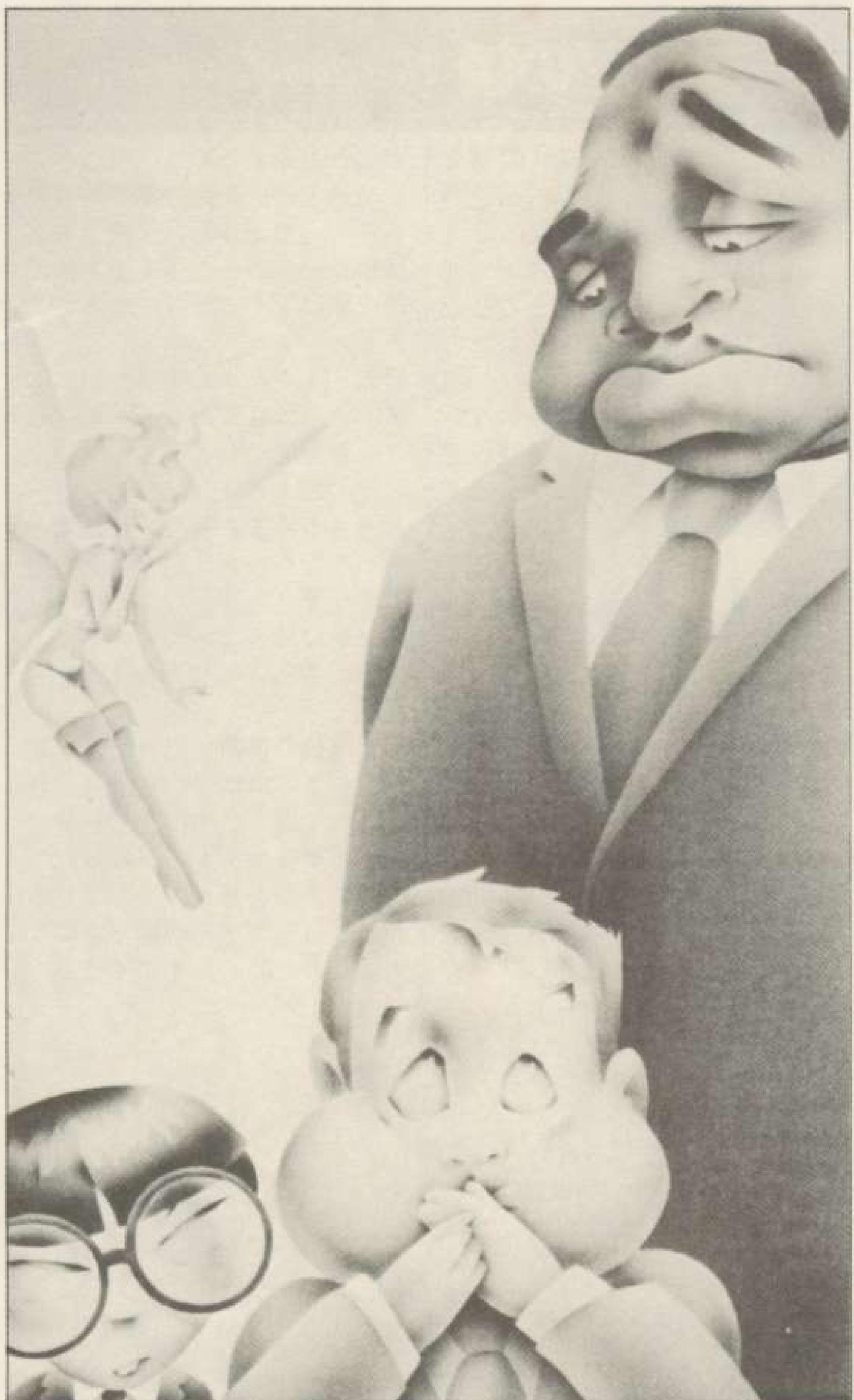
あなたはあらかじめ用意したことばをしゃべりはじめる。あなたのあたりさわりのないことばが終りに近づいたとき、深層心理の精があなたの心のチャックをとりはずす。

「でも……あなたは彼にふさわしくないわ。わたしこそ、彼の花嫁になるべきだわ！」

場内は一瞬シーンとなったあと、大きわざになる。深層心理の精は思わずやりと笑ってしまう。

歴史 深層心理の精は、もっとも新しく発見された超自然界の生き物である。出身は、今世紀になって、ウィーンの精神神経症患者の体内である。

私立探偵の情報 おしゃべりをしていて冷や汗をかくがあれば、かならずそこにはこの妖精がいる。



ブン屋の精 *The Hounds of News*

棲息地 新聞を売る店、警察の記者部屋、試合が終ったあとのロッカー・ルーム、通信社。それ以外にも、街なかでパトカーや救急車が走りまわるところならどこにでもいる。とくにこの妖精が好んで棲みつくのは、使い古したタイプライターのなかや、よれよれのコートの肩などである。



習性 新聞社の記者や通信員、フリーランサーや特派員などにくつついで、ブン屋の妖精たちは群れをなして獲物を追う。彼らの鋭い鼻はニュースばかりでなく、タダ飯にありつけるところも嗅ぎつける。

彼らに嗅ぎつけられたら、逃げ道はないと思ったほうがいい。どこへ逃げようが、どこへ隠れようが、彼らはおたがいに連絡をとりあって、きっと獲物を見つけるだろう。観念せよ！

ブン屋の妖精たちの興奮度が

もっとも高まるのは、夜なかの12時過ぎだ。新聞の締め切りに間にあわせようと、黒塗りの高級車やパトカーなどを追って、外を駆けずりまわっているのである。

歴史 イギリスの出身だが、アメリカに渡ってから、スキャンダルを獲物にしている。

その最大の収穫はウォーターゲート事件であった。盗聴器とスパイたちのありかを新聞記者にこっそりと耳うちしたのは、ブン屋の精のなかでもいちばんのきれ者といわれる妖精だった。

私立探偵の情報 記者たちの集まるところにはかならず見られるはずである。胸にさしたボールペンやポケットからはみだしている手帳を目を凝らして見ると、きっとブン屋の精たちのうすよごれた姿が見えてくる。





下水管の精 *Foul Sewer Orges*

棲息地 下水溝、タンク、排水溝、高層マンションや団地の送水管などにいる。また、洗面台やトイレをつたわって家のなかへ侵入してくる。

習性 トイレにしのびこんでチューリンガムやビニールなどを便器に捨てたり、なまごみを台所のごみ箱から下水管に放りこんだりして、しだいに水はけが悪くなるいたずらをする。最悪の場合には、トイレの水が逆噴射して部屋じゅうにあふれたり、台所の洗い水がシンクタンクいっぱいになったりする。これらの現象は、すべて下水管の妖精のしわざだ。彼らの大好きなのは、気むずかしいお客様が鼻

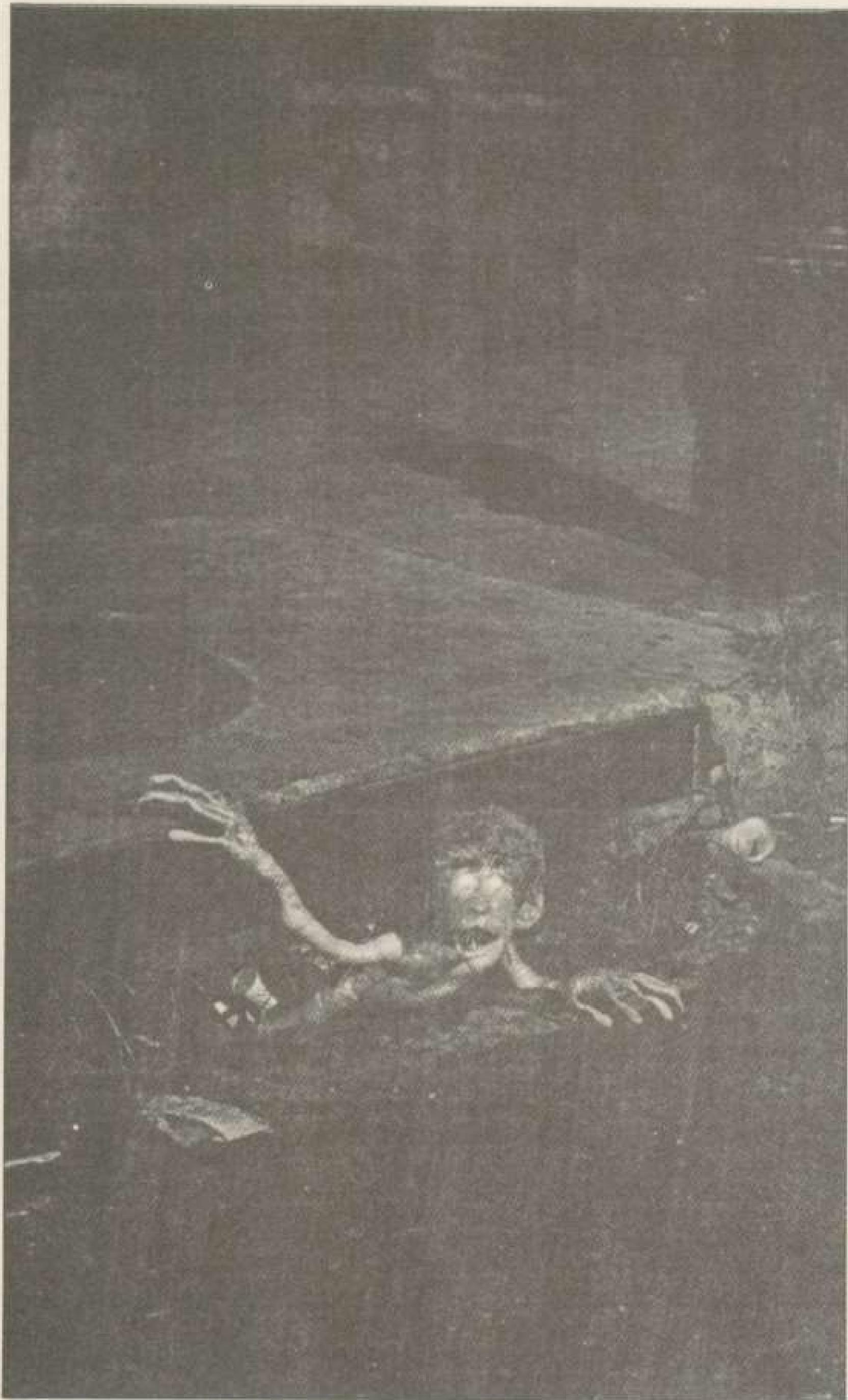
をつまんでしかめつらをしているのを見ることである。

歴史 下水管の妖精は人類の出現とともにこの世に姿を現わしたが、ローマ帝国が文明の象徴として下水道を街なかにひいたときから、自分たちは文明の落とし子だと思うようになった。

アメリカ大陸に移住してからは、おもに都会でのみひっそりと暮していたが、今世紀にはいってからは急速に田舎にも出没するようになり、いまや、彼らの姿はいたるところで見られるようになった。

私立探偵の情報 悪臭を放つマンホールの下をのぞけばかならずいる。





郵便ポストの精 *The Post Monster General*

棲息地 この妖精たちは、郵便物が配達されるところならどこへでも行く。ときには、まちがって書かれた宛て先や、住所不明の郵便物の山のしたで、悲しそうに、頭をふっていたりもある。

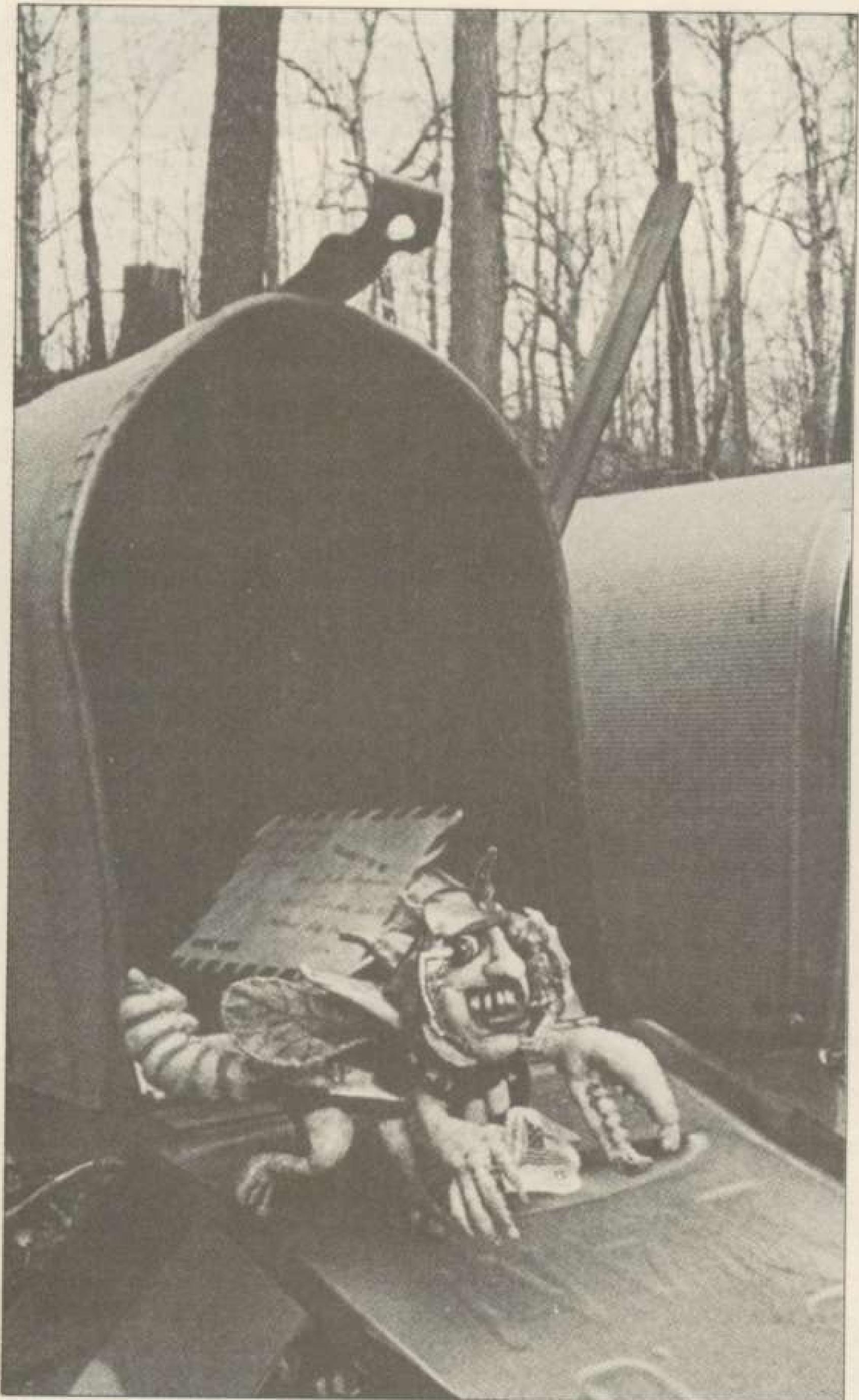
習性 超自然的な能力によって封筒を見ただけで、そこに請求書がはいっているのか、小切手がはいっているのかわかつてしまう。請求書の場合は、速達なみに早くとどけて、郵便受けから半分のぞかせてめだつようにしておく。小切手の場合は、郵便袋の奥深くに隠して、配達されないようにいたずらをする。悲しい知らせは早くとどき、うれしい手紙がなかなかやってこないのは、みんなこの妖精たち

のしわざなのだ。「悪いニュースは飛ぶように早く伝わる」ということわざも、彼らのつくりだした標語で、モットーにしているものである。あなたの書いたラブレターの返事が早くとどいたら、けっして封はあけないほうがいいだろう。

歴史 むかし、ローマの大軍が東方に遠征したとき、ある将軍が自分の死亡通知をもたせて、国にのこしてきた妻にとどけさせたのがことの始まり。その将軍は、じつは、美しいトルコ嬢のとりこになってしまったのである。

私立探偵の情報 ひとり机にむかって、せっせと「不幸の手紙」を書いている不幸な少女の肩にのっている。





アメ車の精 *American Motor Gremlins*

棲息地 だれでも、この妖精たちにはすくなくとも2回は出会っている。車の販売店、中古車店、自動車修理工場などでだ。

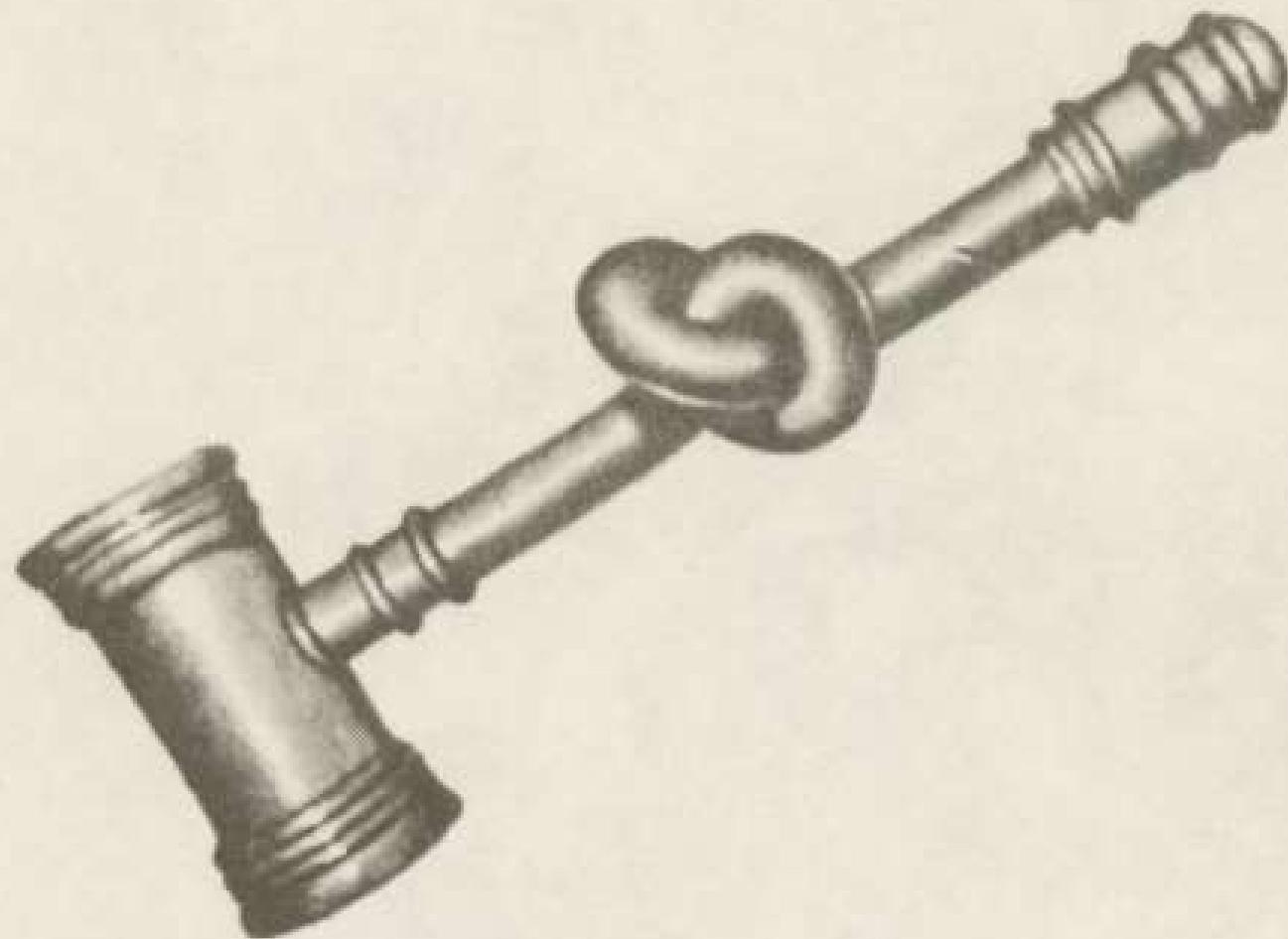
習性 アメ車の故障は妖精たちのいたずらによってひき起こされるもので、エンジンの不調、タイヤの片減り、ブレーキの片効きをはじめ、ラジオのアンテナをもぎとり、雨の日にワイパーを動かなくし、不凍液をぬきとり、バーストを起こさせる。スピード・メーターやそのほかの計器類を狂わせるのもお気に入りのいたずらである。その結果、アメリカの車が世界じゅう

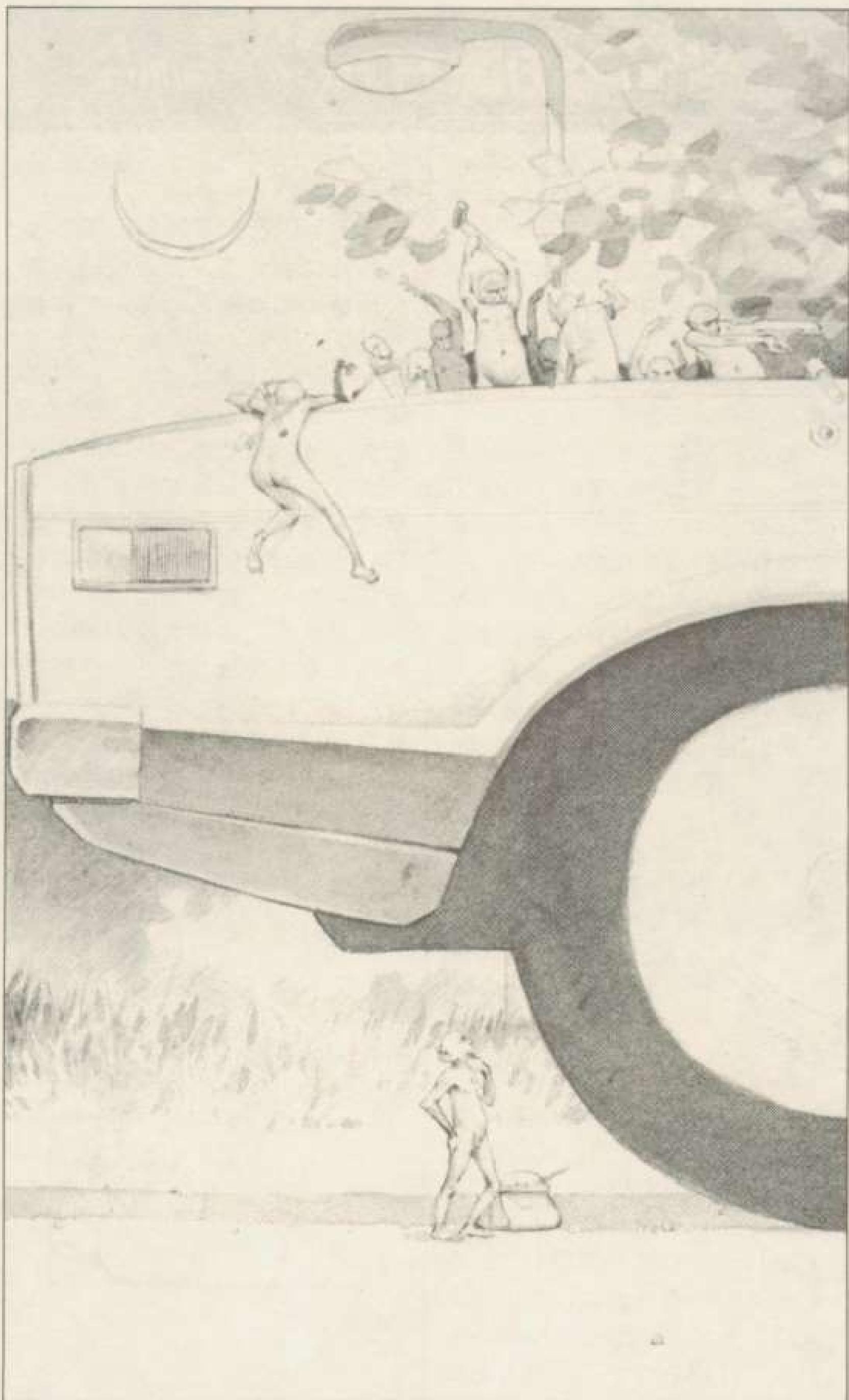
で「壊れやすいクルマ」のベスト・テンを独占し、いまではすっかりニッポンの車にとってかわられてしまった。

歴史 アメリカの大型車の出現とともに生まれ、現在では愛国心に訴える以外に販売のてするがない状態にある。

なお、この妖精たちは、ヨーロッパの車やニッポンの車には絶対に寄りつこうとしない。

私立探偵の情報 この妖精たちはまちがいなく存在するのに、どうしても捕まえることはできない。近所の修理屋に訊くといい。





労働者の味方 *The Job Goblin*

棲息地 コーヒー自動販売機のわき、車のトランスマッショーンの下、タイムカードの上、安酒場のスツールの下などにいる。

習性 労働者の妖精にとってもっとも神聖なる日は、メーデー、病気欠勤の日、給料日、出張の日、半ドンの日、である。

この妖精は平サラリーマンやブルー・カラーの労働者の味方であるために、経営者からはきらわれ、恐れられている。

失業といえば失業保険の手配をし、労働条件が悪いといえばともに闘う。つまり、真実と社会正義を一身にになった労働者の救世主というわけである。



もっともいきいきと活躍していたのは1920年代末から1930年代にかけての大恐慌の時代であった。株価が大暴落し、銀行や工場がつぎつぎと倒産して、ちまたに失業者があふれていた。当時、労働の妖精たちは職をもとめて行列をつくる人びとをは

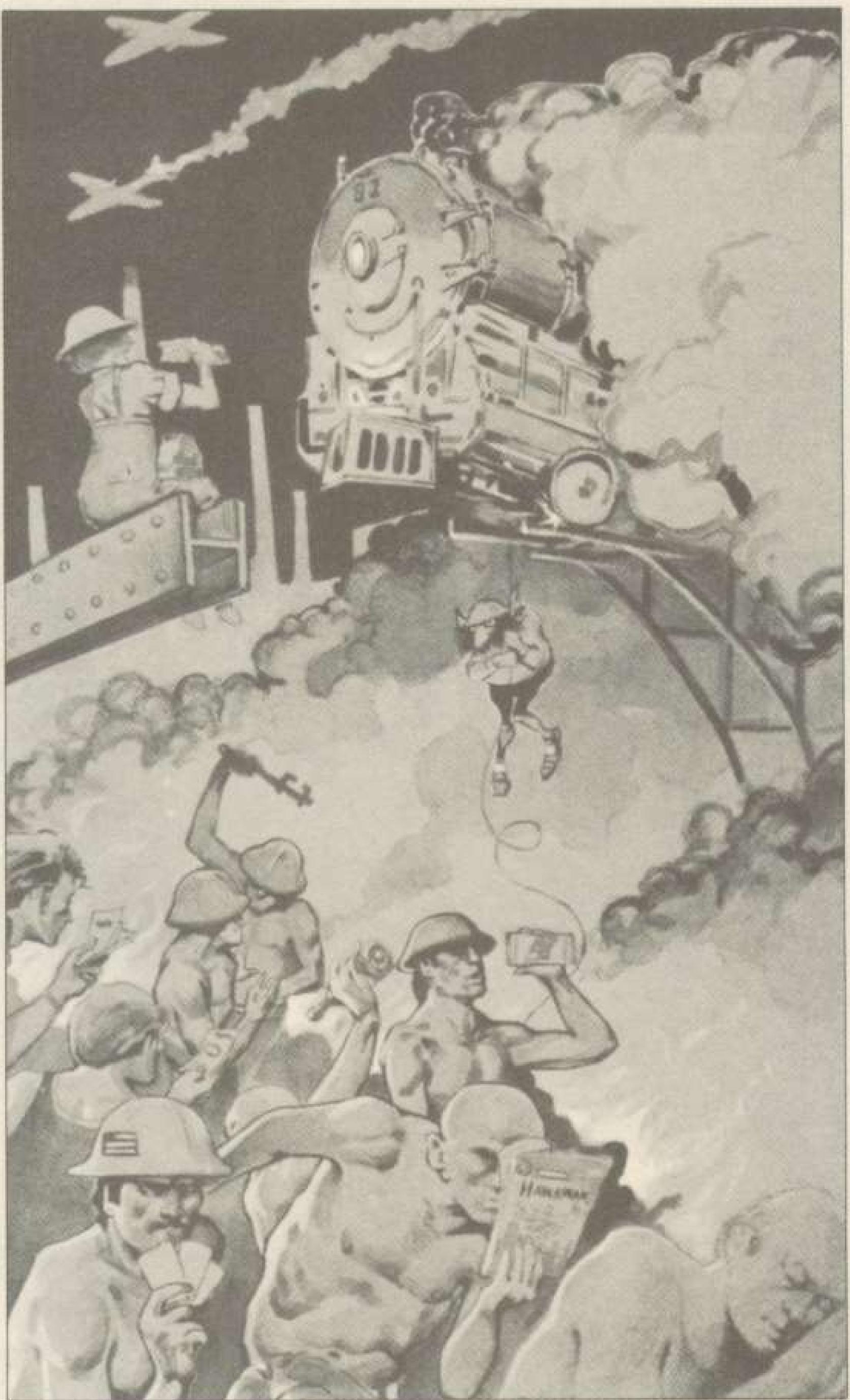
げまし、パンやミルクを与えた
りました。

しかし、社会保障が完備された現代にあって、この妖精たちの活躍の場はきわめてかぎられた範囲でしかなく、彼女たちの栄光の時代はすでに終ったと考える学者たちも多い。

歴史 この妖精の出身地はイギリスである。かつてマルクスと親交を深めた時期もあり、彼女のいとこたちはロシアの地に移り棲んだが、近年になって失意と絶望のうちに新大陸の労働の妖精たちに合流したという歴史をもっている。

私立探偵の情報 あなたたちのまわりを見わたしてください。ひっそりと隠れている彼女たちを、きっと見つけられるでしょう。





儲け話の精 *The High Interest Wraith*

棲息地 銀行、証券会社、穀物取引所などにいるが、一般的には人のくちぐるまのうえにのっかっていて、甘い話を語ってきかせてくれる。

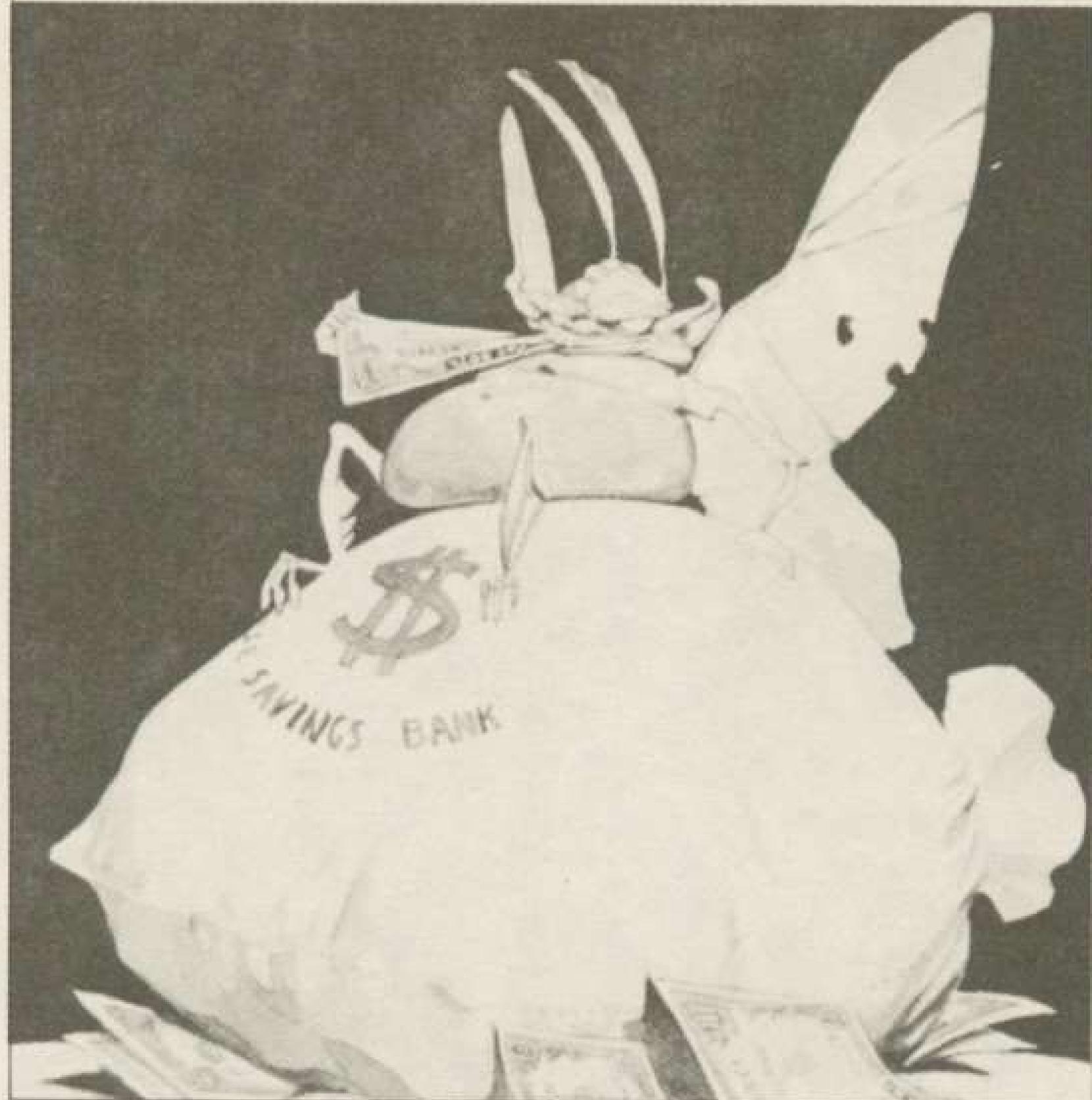
習性 この妖精たちほど人間の弱みを知りつくしているものはいない。あらゆる機会を狙って、人間の耳にささやきかける。

「いまがチャンスですよ。1年後には倍になりますよ」と。

そして1年後には、もうこの妖精の姿たちも消えてしまっている。

歴史 誰もいいたがらないのではっきりしない。したがって最初の被害者もわからない。

私立探偵の情報 世間のどこにでもころがっているが、いちばん確実なのは自分の心のなかをのぞいてみることだ。



リッチ・ドクター The Rich Doctor

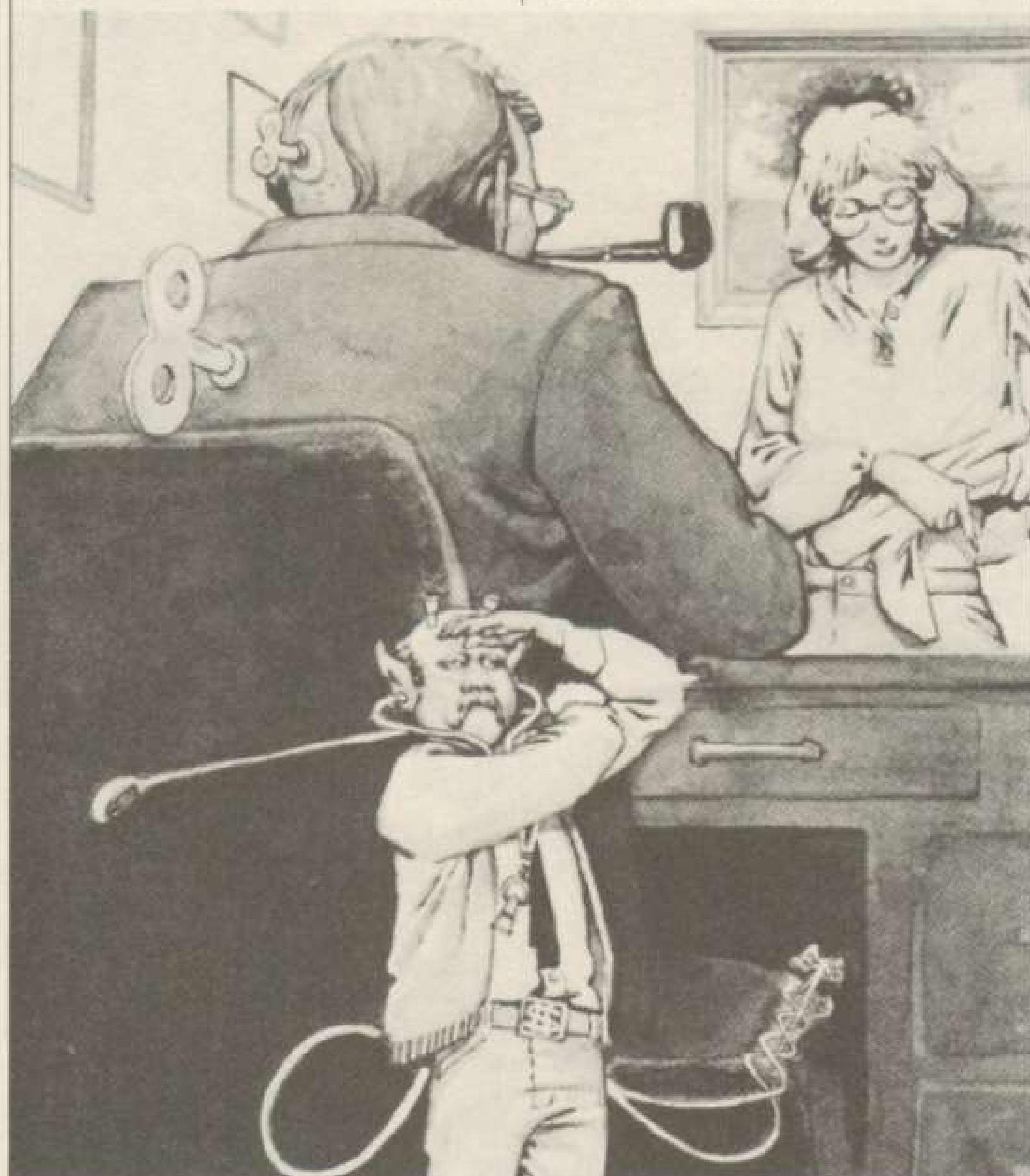
棲息地 会員制のゴルフ場やテニス・クラブ、山や海の高級別荘地など、われわれには縁のないところにいる。

習性 この妖精たちは医者から医学的知識をとりあげ、かわりに脱税の知識をあたえる。

歴史 どうしてこういう医者が

生まれるのか、いまのところ医学的には解明されていない。

私立探偵の情報 シャツのうえから聴診器をあて、首をひねるような医者がいたらこの手の医者と思え。また、病院の待合室に患者よりも銀行マンが多くいたらまちがいない。



棲息地 政治家や役人にとりついて、人びとの汗の結晶をむりやりしほりとる。彼らの存在がとくに強く感じられるのは、サラリーマンなら給料日、商人や農民にとって確定申告の時期である。

習性 重税の精が人びとにきらわれるのは、過去も現在も変わりがない。ただ、現在のほうがいろいろな策を弄して巧妙になったといえるだろう。

むかし、まだ貧富の差がはげしかった時代には、重税の精は大地主や領主たちに加担して、小作農や領民たちから力づくで税金を奪いとっていた。納める金とてない人からは、彼らの服や寝具までもむしりとってしまった。

当然のことながら、妖精たちは人びとから憎まれさげすまれていた。

ときには、領主や大地主たちといっしょに焼き殺されたりもしたといわれている。

現在でも、国民の99パーセントの人びとから、妖精たちのパーセント遊びを批判されている。残りの1パーセントの人も、社会的弱者にはかり税金を使いすぎると、不平をいっている。

いや、重税の精を神棚に祀っ

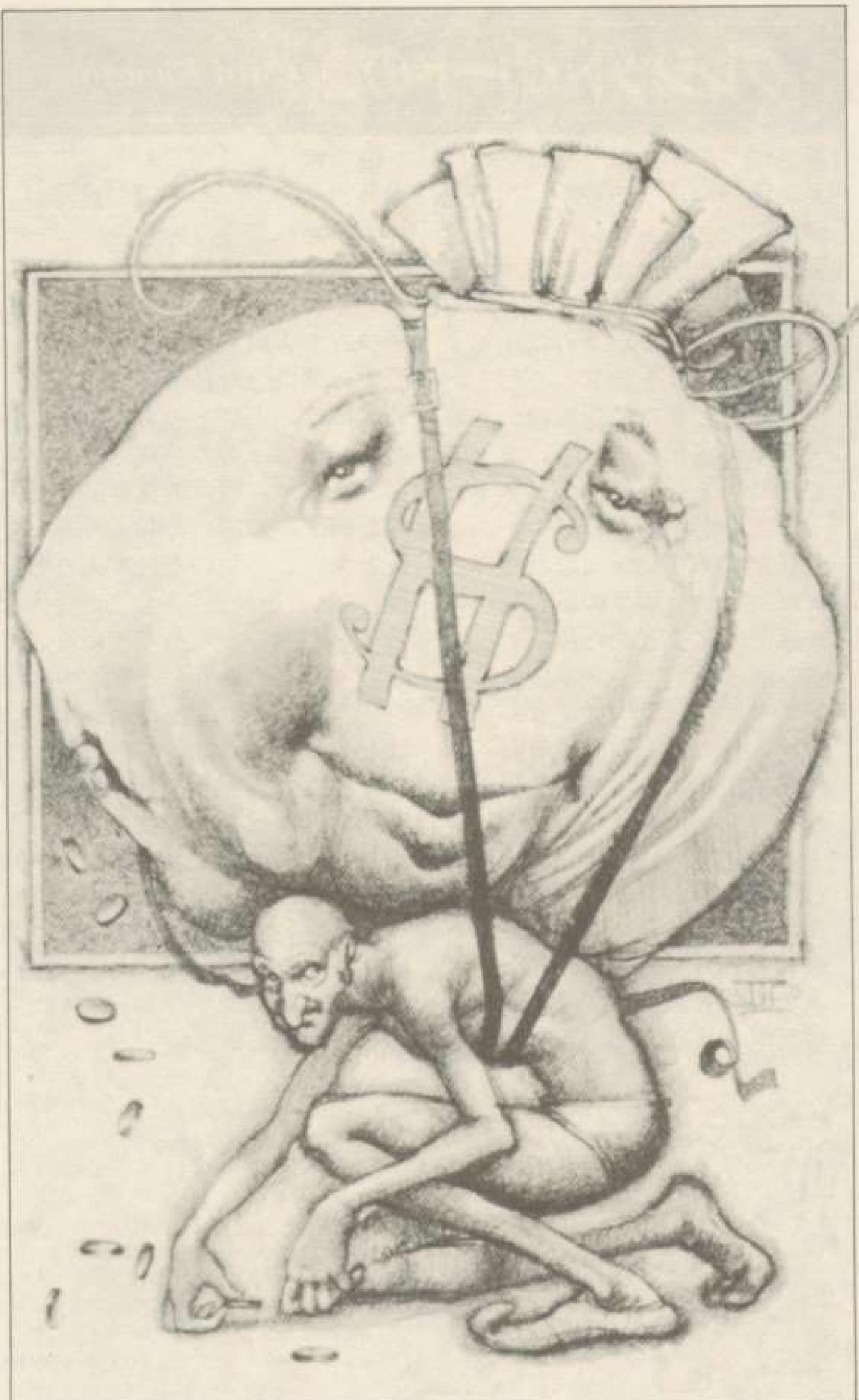
ている人もいる。役人や政治家たちだ！

重税の精自身は、むかしもいまも変わらずに人びとの役に立とうと真剣に考えるのだが、人びとのおもわくにふりまわされ、もて遊ばれ、一種の悲劇の主人公となっている。それが彼ら妖精たちに課せられた税金なのかもしれない。



歴史 人間社会に支配者が生まれると同時に、重税の精たちもこの世に生をうけた。1848年、カール・マルクスは「ヨーロッパを妖怪が徘徊している——共産主義という妖怪が……」と書いたが、それと同じように恐ろしい妖怪が世界じゅうを徘徊している。それが重税の精なのだ。

私立探偵の情報 いつもはその姿は見えないが、選挙が近づいたときや、税務署のなかなどでは、とりすました彼らの顔がはっきりと見えてくる。



クレジット・カードの精 Card Phantom

棲息地 みかけはりっぱだが中身の薄い・サイフのなかに、得意満面でいすわっている。

習性 「カード1枚で何通りにも利用できます」「カードこそ信用」「カードがあれば、あすからあなたは金満家」などといったふとどきな幻想を抱かせる大資本の宣伝にのって、カードこそリッチな生活へのパスポートなどと思いこませるのが、この妖精である。新聞にはさみこまれたカラー刷りの広告紙や、一流品図鑑などをためいきをつきながらながめている自分の姿がこのカード1枚で、なんでも手に入れることのできる財産家に思えてしまうのだから始末がわるい。

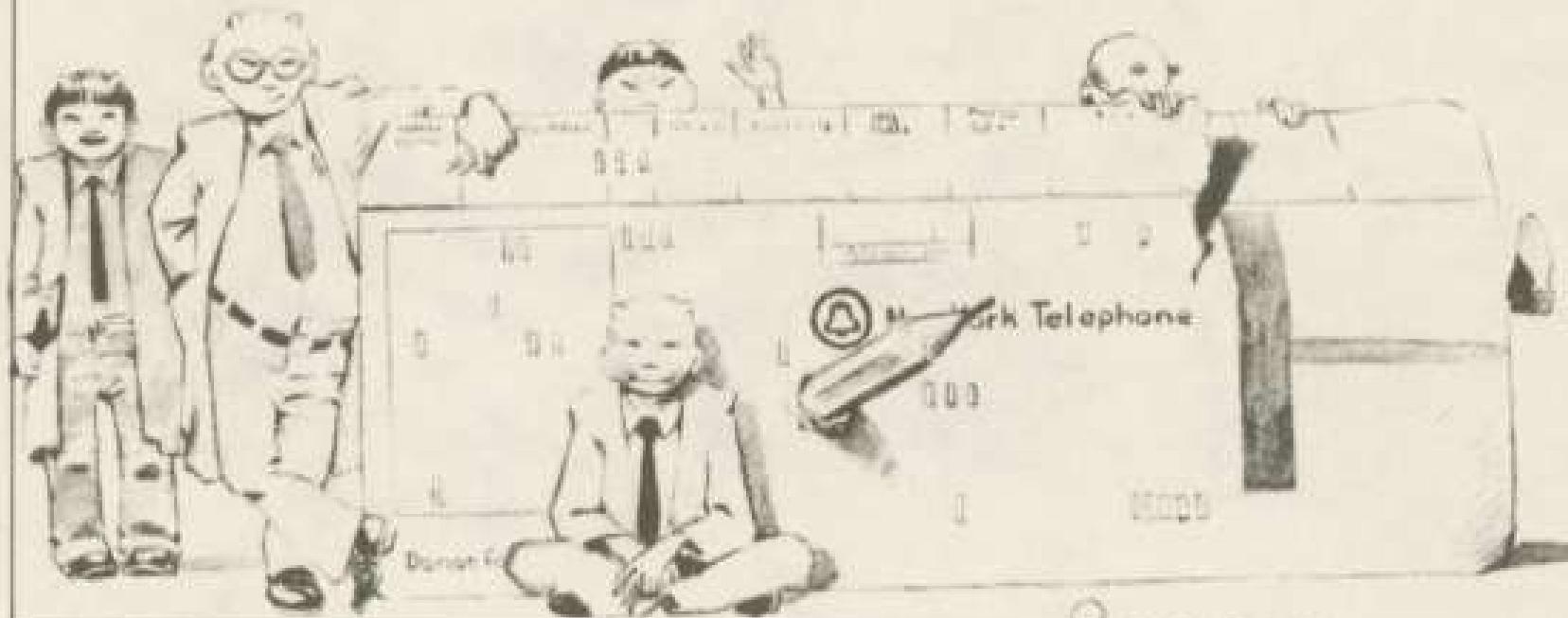
あるいは、自分は特権階級だと思いこみたがる中小企業の社長さんなどにとりついて、地方の有名ホテルなどに行き、チェックアウトのときにカードを出したがらせるのだ。

さらには、社用での初めての海外出張で、ドルと円の換算がスムーズにできないのを、カードならすべてカバーしてくれるから、日本男児の名を汚さないとひたすら信じこませる。

歴史 驚異的な日本の高度成長時代には、人びとのあこがれは現金で欲しいものを買うことだった。だが、昨今の世界的不況のなか、一流国の仲間入りをしたと思いこんでいる日本人たちは、“愚かな浪費”を“豊かな消費”と感違いして喜んでいる。

いっこうに上昇する気配のない給料でその“豊かな消費”生活を楽しむためには、あと払いのきくクレジット・カードなる存在を生みださねばならなかつたのだ。しかも、カードをもてる身分という特権意識をまぶしつけて……。

私立探偵の情報 カードの支払い請求書が束になってポストにさしこんである家。





衝動買いの精 *Nerves Explosion*

棲息地 夫に愛されていない妻、子育てにつかれきったお母さん、恋人にふられた女の子、上司に叱られた〇しなど、ストレスを身体じゅうにためこんだ女性たちにとりついている。

習性 ストレスを解消するかわりに、お金のむだづかいをさせる。夫に愛されていない妻にはだれももっていない・ミンクのコートを買わせ、子育てにつかれきった母親には、外出の機会などめったにないのに外出着ばかりを買いこませ、鏡のまえにしばしたたずませて、うっとりした気分にさせてやる。

恋人にふられた女の子にはひたすらロマンチックな恋愛小説と仮装道具を買いこませ、別れた相手よりもっと魅力的な男性をつかまえるんだ、という復讐心を燃えたたせる。

さらに、上司に叱られた〇しにいたっては、あんみつ5杯、たこやき20個とひたすら衝動買いの対象を食べ物に向けさせ、のちのち肥満の問題でうらみをかうことになる。

しかし、この妖精たちが女性からの支持をうけるのは、やはり彼女たちの心をよく理解して、その不満を解消させてやっているからなのである。

歴史 フランスのルイ14世の寵

愛をえたマリー・アントワネットを先祖にもつ。マリーは、民衆が食べるものがいいという話を聞いて、「だったらお菓子を食べればいいでしょう」といったというが、そんな彼女でもストレスがあったにちがいない。美しい洋服、おいしい食事、すばらしい男性とすべてにめぐまれていたかに思える彼女も、じつはこの衝動買いの妖精にとりつかれていたのだ。つまり、すべてを手にいれたかにみえるマリーは断頭台にのぼりたいという衝動をおさえきれなかったのだから……。

私立探偵の情報 家族をかえりみない夫のいる家、小さな子どもたちの泣き声がやまない家庭、口うるさい上司のいる職場などにいる。





エネルギーの精 *Energenii*

棲息地 この小さなテロリストたちは光の速度で行動し、天然ガスのように無臭、フライド・チキンのように無害である。この妖精たちはどこにでもいて、冷房のききすぎた真夏の部屋から、暖房のききすぎた冬の部屋まで、自由自在に飛びまわっている。

しかし、最近は政府が“省エネ”キャンペーンをくりひろげているおかげで、肩身のせまいおもいを強いられている。オイル・ショックまえの、全盛時代をなつかしんでいるのである。あのころはよかった。都会の高層ビルのエレベーターのなかから、田舎の田んぼのあぜ道まで、この妖精たちが飛びまわっていないところはなかった。受験生は平気でラジオをつけたまま眠れ、主婦はテレビをつけっぱなしで、買物に出かけることができた。お父さんは会社で残業のときでもワン・フロア全部の明かりをつけて仕事をすることができた。

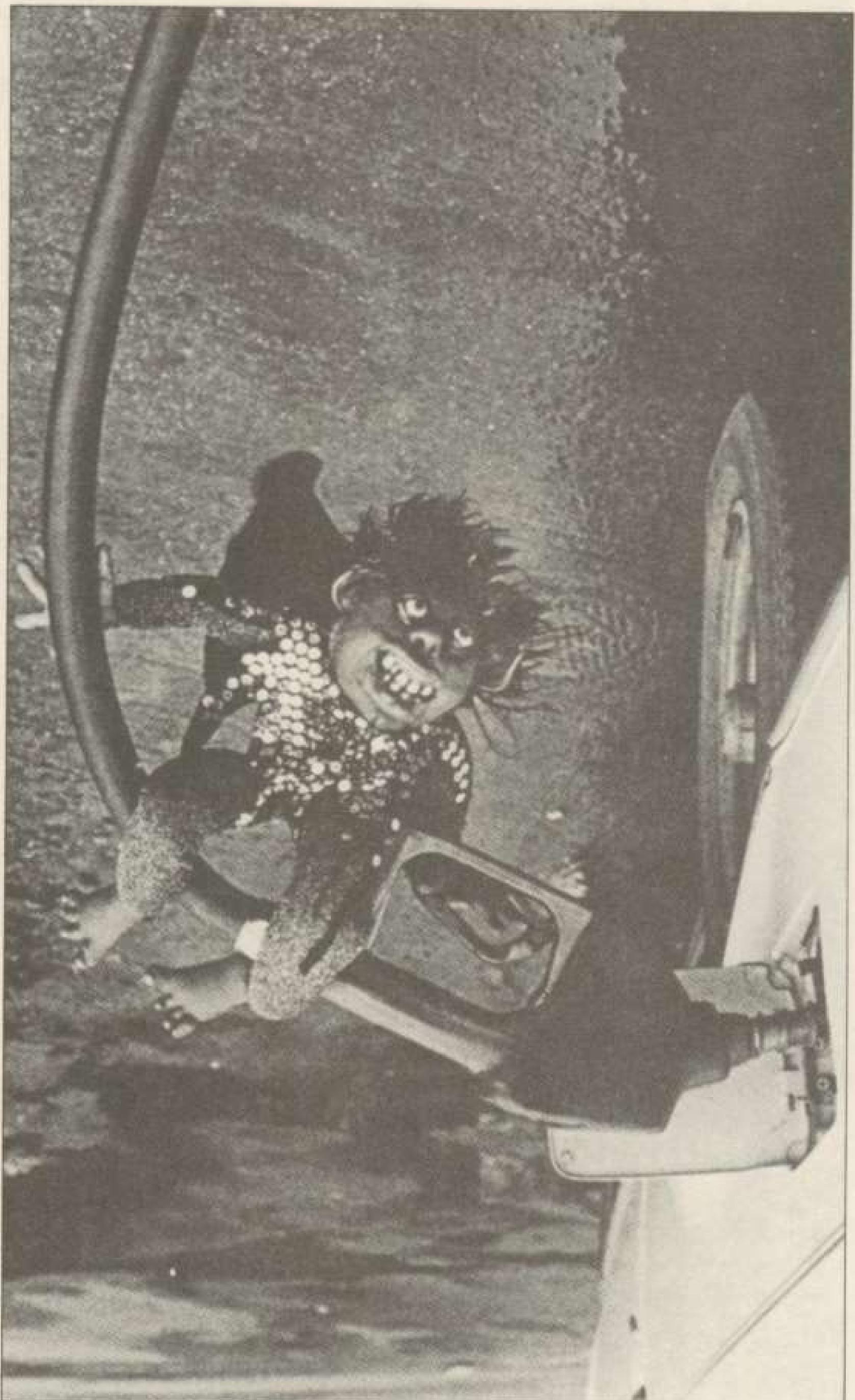
いったいせんたい、ほんとうにこのエネルギーの妖精たちは数が減ってしまったのだろうか。「地球の資源にはかぎりがある」なんて広告を見るたびに、明るかった1960年代の思い出に胸がしめつけられる。

習性 横着な人間たちのかわりに働いて、楽な生活を送れるようしてくれた。人間のように労働組合もつくらなければ、日曜出勤もよろこんでしてくれる。また家庭にあっては、主婦の強い味方で、浮氣するひまを与えてくれる。この妖精たちの助けがなかったら、人類はまだマンモス象を追いかけまわしていたにちがいない。

ただ最近ひとつ困っていることは、この妖精たちの新種である“原子力エネルギー”というのがひどくきらわれており、なかなか活躍の場を与えてもらえないことだ。この妖精たちは気むずかしがり屋で、扱いかたを慎重にしないと、すぐへそをまげて暴れだす。しかし力は人一倍強くて、きげんさえそこねなければ、こんなたのもしい妖精はかつていなかった。

歴史 アラブの油田、あるいはウラニウムのなかで生まれた。現在はアラブの酒と女とギャンブル好きな王さまのもとから離れて、OPECという団体に所属している。原子力エネルギーの妖精は、国際原子力委員会に管理されている。

私立探偵の情報 人が仕事さぼって遊んでいるところならどこにでもいる。



不動産プローカーの精 Jack B Nim

棲息地 山奥や断崖絶壁の上、沼地、他人の土地などにいる。

習性 この妖精の得意わざは、マイホームを建てるために土地をさがしまわっている人や、新たに商売をはじめるために店をさがしている人たちの目をくらませることである。

この妖精の呪文にかかると、通勤の便などすっかり忘れて、どんなにひどい景色でも美しく見え、1日じゅうお陽さまがあたっているような錯覚におそれてしまう。沼地も、草花が咲き乱れる別天地のように見える。

たとえば、商店用の空家をさがしもとめている人は、いりくんだ路地裏の誰も人のこないような家でも、表通りに面した商売に適した家のように見えてしまう。

これらのこととは、もちろん、妖精のいたずらなのである。

売買契約書にサインをし、呪文からさめたときにはもうすべてが手遅れなのだ。

妖精は消え、あとにはあなたがただひとり、荒涼たる原野のまっただなかや、いまにもくずれそうなひどいあはら家のままで、茫然と立ちつくしている自分に気づくだけである。うまい話にはご用心。

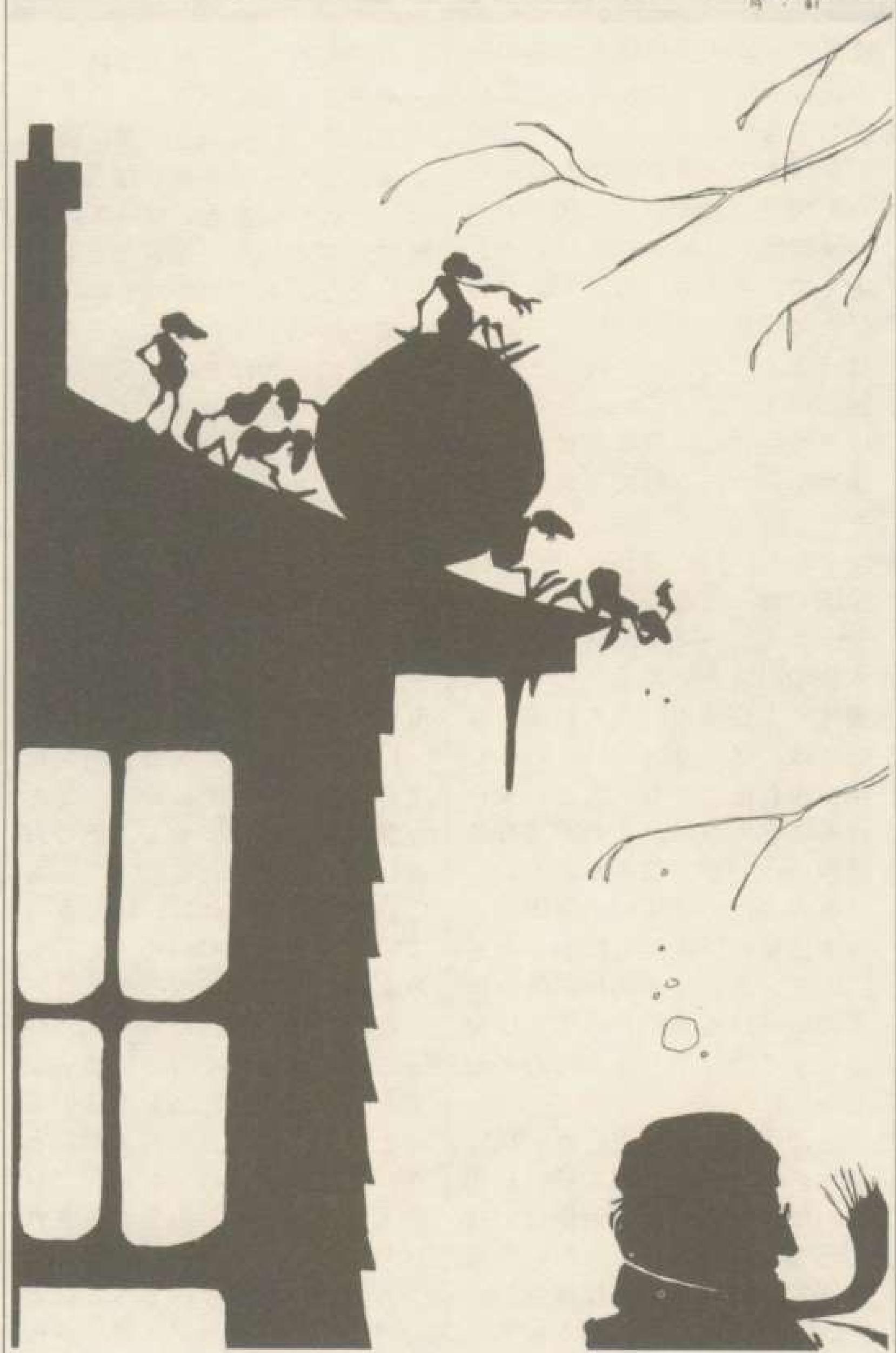


歴史 旧大陸のロンドンやパリといった大都市で生まれた。新大陸に移ってからはしばらくなりをひそめていたが、やがてニューヨーク、ボストン、シカゴなど東海岸で活発にいたずらをはじめ、西部開拓の時代がはじまると、西海岸にも移り棲むようになつた。

もともとは土地というものが私有財産として認められるようになつた時代に姿をあらわしたが、本格的に活動をはじめたのは、ここ何十年かのあいだである。

私立探偵の情報 人里離れた土地には要注意だが、もっと身近な新聞広告、チラシなどにも気をつけること。

P. ERARD
A. S.



巨大企業の精 *Corporate Giants*

棲息地 大企業の巨人たちの棲み家はデラウェアにあると広く信じられている。しかし、このいかにもアメリカ的な人食鬼たちが海外（おそらくは美しいバハマ諸島）に居を構えていると考えている人もいる。大企業の巨人の活動範囲についての情報はほとんどない——彼らをその居住地まで追っていった人びとはその巨大な胃袋に飲まれてしまうか、合併されてしまうからだ。

しかし、彼らの存在の証拠は全国いたるところに見られる——ヒューストンやダラスは巨人族の足跡といえる。

習性 大企業の巨人の行動については、アメリカではくわしく調べられることも、書きたてられることもない。この不当なる無視の仕方が、彼らをよりいっそうのさばらせている原因だ。

大企業の巨人たちはからだも巨大で、あらゆる場所に散らばっているにもかかわらず、姿を発見するのはひじょうにむずかしい。

この巨人たちはだいたい保守的なスリーピースのスーツを着ていて、彼らの結婚習慣はいぜんとして謎である。ただ、一夫一婦制でないことだけはたしかだ。一般市民たちは男も女も、

この巨人たちに「だまされた」と不平をいっている。

大企業の巨人に近づき、彼らを権威をもって解釈した人々は、だれもがあとになって、信頼にたらぬ共産主義者だと判明し、また、あるものたちは、大企業との取引きをはじめるとまえに、あのときはまったく常軌を逸していたのだと宣言する。

ある意味で、大企業の巨人たちがアメリカの未来を形づくるのに懸命になっていることはたしかである——自分たちの目標を達成するためには「よりよいアイデア」から「ばかげたスローガン」まで、ありとあらゆるものを取りいれるからである。

巨人たちがアメリカの商業企業の方向を左右するのに、どんな魔術を使ったにせよ、その方法は明らかにされるべきである。そうでなければ、はりきっている資本家たちの多くが悲しみを味わうことになるだろう。

たとえば、巨人たちはあらゆるもの自分の手もとにすいよせたあと、うたた寝をしていることが多いが、目をさましたとき、なにか盗まれていたり（豆の木のジャック）、眼をつぶされたり（賢いユリシーズによつて）、去勢されたり、もっとひどい目にあう（ラルフ・ネーダー

によって）ことがある。

歴史 巨人の民族学的ルーツもよくわかっていないが、おそらくは多国籍と思われる。

ギリシャ神話のなかではこの巨人はタイタンの独占販売をやめさせた海の大君だった。しかしその起源はもっとそれ以前、スカンディナビアの巨人フロスト族などにあると思われる。

巨人たちは長いあいだ、人食いとか、愚鈍だとか呼ばれてきた。石から乳のしほりかすをとろうとしたり、まんまとガチョウをとられてしまう話、旅人のかわりに枕を棍棒で殴りつける話などまぬけな巨人の話をくわしく描いた話はたくさんのかっている。

悪知恵がたりなかったためにヨーロッパ大陸から追い出された巨人たちだが、アメリカでは大企業の巨人と呼ばれるようになった。

私立探偵の報情 相手に知られずに調査員が彼らに近づくのはむずかしい。大企業に少しでも興味があるようすをすれば、すぐわかってしまう。巨人たちの頭はからっぽかもしれないが、血の臭いをかぐ鋭い鼻をもっている——とぐにイギリス人の血を。

大企業の巨人に近づくものは命を賭けることになる。無事に帰ってこれたとしても、生きるしかばねの「副会長」となってしまうしかない。



スーパー・マーケット巨人 *The Giant*

棲息地 郊外のショッピング・センター、新興住宅地や新しくできたばかりの駅のそばの塗料の臭いも消えない終夜営業の店など。この巨大な妖精は、むかしはギリシャの島々に住んでいたが、いまはかつて食料雑貨店と呼ばれた店の通路をうろうろしている。そこは大きな部屋で窓はなく、人工照明でギラギラと照らされた穴ぐらのようだ。また、人をリラックスさせるような静かな音楽が絶えまなく流れている。

ここはいわゆる、スーパー・マーケットと呼ばれている場所だが、無意識に犠牲者となってしまう人々たちは、さまざまな手口に誘われてここにやってくる——はでな色のチラシ広告、クーポン券やおまけの景品、各国のマヨネーズの試供品、新製品の試食コーナー……。また、10円セールや大割引、キズ物一掃セールといった途方もない手口にも客はひつかかる。

習性 単価標示、自社ブランド製品、電子レジスター用のコード・ラベルなどはすべて、消費者を食いものにするこのペテン師の最新のごまかしにすぎない。

この妖精は、ピラミッド型に積まれた缶詰の上をとびまわ

り、お客様にこやかに笑いかける。すると客たちは、催眠術にかけられたように買物かごに商品を積みあげていく。

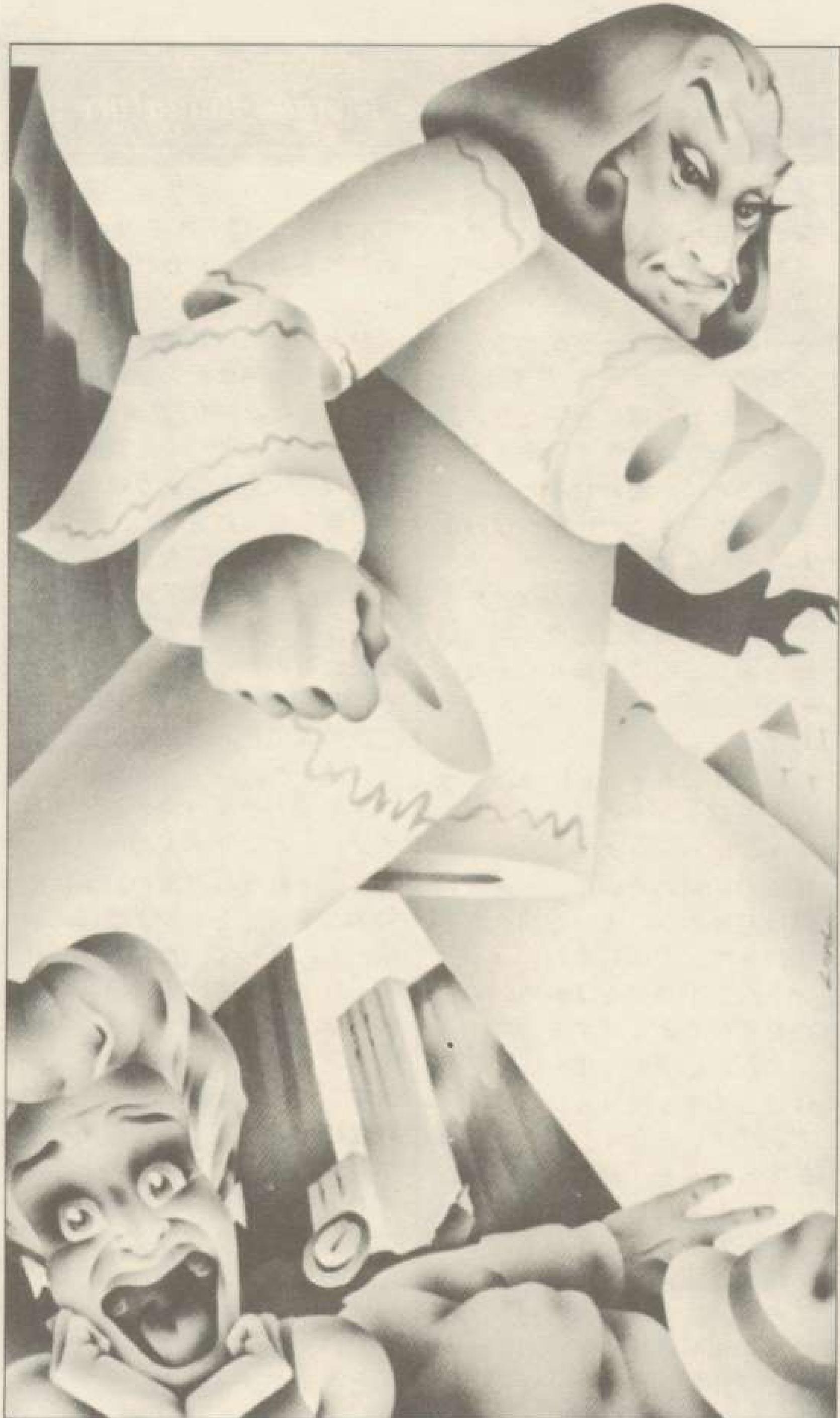
その商品ときたら、ジャンボサイズのコーラやファミリーサイズのチーズなど、いちどにたくさん買っても使いきれずに半分はだめにして捨ててしまうような商品ばかりだ。

また、ごみ箱に直行するしかなんの役にもたたないおまけを商品にくっつける。

客たちは通路をうろうろしているうちに、なにがなんだかわからなくなり、いりもしない商品の山のあいだで頭がおかしくなったころ、妖精がしのびよってきてレジのほうへ連れていくわけだ。

歴史 この妖精の祖先は、初期のアメリカ人とインディアンとの取引きのときに大活躍した。彼らのモットーはいつも「小さな物も大きなパッケージにして売れ」である。

私立探偵の情報 あなたのまわりにいる客たちや、スーパー・マーケットの従業員の顔が、「笑顔でお客さまをおむかえしましょう」キャンペーンのバッチの顔と同じように見えてきたら、スーパー・マーケットの巨人が近づいてきた証拠だ。



ことばの精 *The Gnome Enclosure*

棲息地 難解な学問を論じる大学の研究室、スラングのとびかう貧しい・スラム街のすさまじい臭いのする溝のなか、インテリといわれる人びとが集まるたばこの煙につつまれた安酒場など、人びとを煙に巻いたり、退屈させたり、うまく操縦するためにことばが使われるところには、いつでもこの妖精がはねまわっている。

習性 この妖精は、ふたりの人間が理解しあうことなく同じ話題を論じるのにじゅうぶんなほどの同意語があるかどうか、つねにチェックしている。

ひとりがトマトといい、もうひとりがトマトの学名「ソラヌム・リオバーシクム」というのはこの妖精のせいだ。ことばの精は意味のあいまいな同意語が大好きで、人にわざわざエレガントだが不必要なほかのいいかたをさせるようとする。

また、階層の分化をいっそ上げしくする役目もになっている。「メシを食う」と「食事をする」と「お食事をいただく」人との親しく会話をかわすことができるだろうか？

婉曲話法を使って人を煙に巻くのも、彼らのお得意だ。人間は「中年」以後、「熟年」をへて、「壮年期」にはいり、「た

それが日々」を生き、「逝ってしまう」。現実にその人が死んだことなど、だれにもわからないし、だれも気にしない。

お上品なこの妖精は、二重の意味をもつ遠まわしないいかたも大好きだ。「お手洗」「化粧室」「洗面所」などのことばが「便所」の意味をもつようになったのも彼らのしわざだ。

歴史 出身国のあるヨーロッパ人たちが最初にアメリカ大陸に移住してきたとき、妖精たちは畏れおののくいっぽう、大よろこびもした。というのも、異言語の人種たちが敵対関係にあったからだ。

ドイツ人やフランス人、スペイン人、イギリス人の植民者たちは、それぞれ自国の言語に絶対的な優越感をもつように、妖精たちによって、たきつけられた。けっきょく、各母国語が生きのび、地域間のつまらない論争をひき起こし、それはきょうまでつづいている。

私立探偵の情報 この妖精の姿が見られるのは、つぎのような人のいる地域だ——演説の原稿書き、ディスクジョッキー、ショーのホスト、葬式の進行係、医者……。有能なコラムニストが書いた記事の行間にも見つけることができる。



夜行魔 The Night Mayor

棲息地 あれはなんだっただろうか？ 暗くせまい裏通りや人の住まなくなつた建物のなか、壊れた街灯の下、うす暗い戸口での待ちぶせは……？

ただの影なのだろうか、それとも猫だろうか？

あなたのうしろから、足音が近づいてくる。しかし、あわててはいけない。走ってはいけない。叫んでもいけない。足音が近づくのをじっと待つのだ。

いまだ、そとうしろをふりむけ！ その恐ろしい顔、燃えあがるような狂気の眼……彼こそ夜の悪鬼だ！

習性 この夜行性の小魔魔にとっては、毎夜がハロウィーンの夜のようなものだ。そして、彼はこの祭りの楽しみかたをじつによくこころえている。

夜行鬼が現われるのは、あなたがひとりのときだけ。夜なかの都会にこだまするあの奇妙なうなり声やとどろき、とつせんはじまったかと思うといつのまにか消えてしまうブーンという反響音……これらはすべて夜行鬼のしわざだ。ドアのノブをガチャガチャいわせたり、窓ガラスをたたいたり、廊下の床をキーkeyーときしませるのも彼のしわざだ。

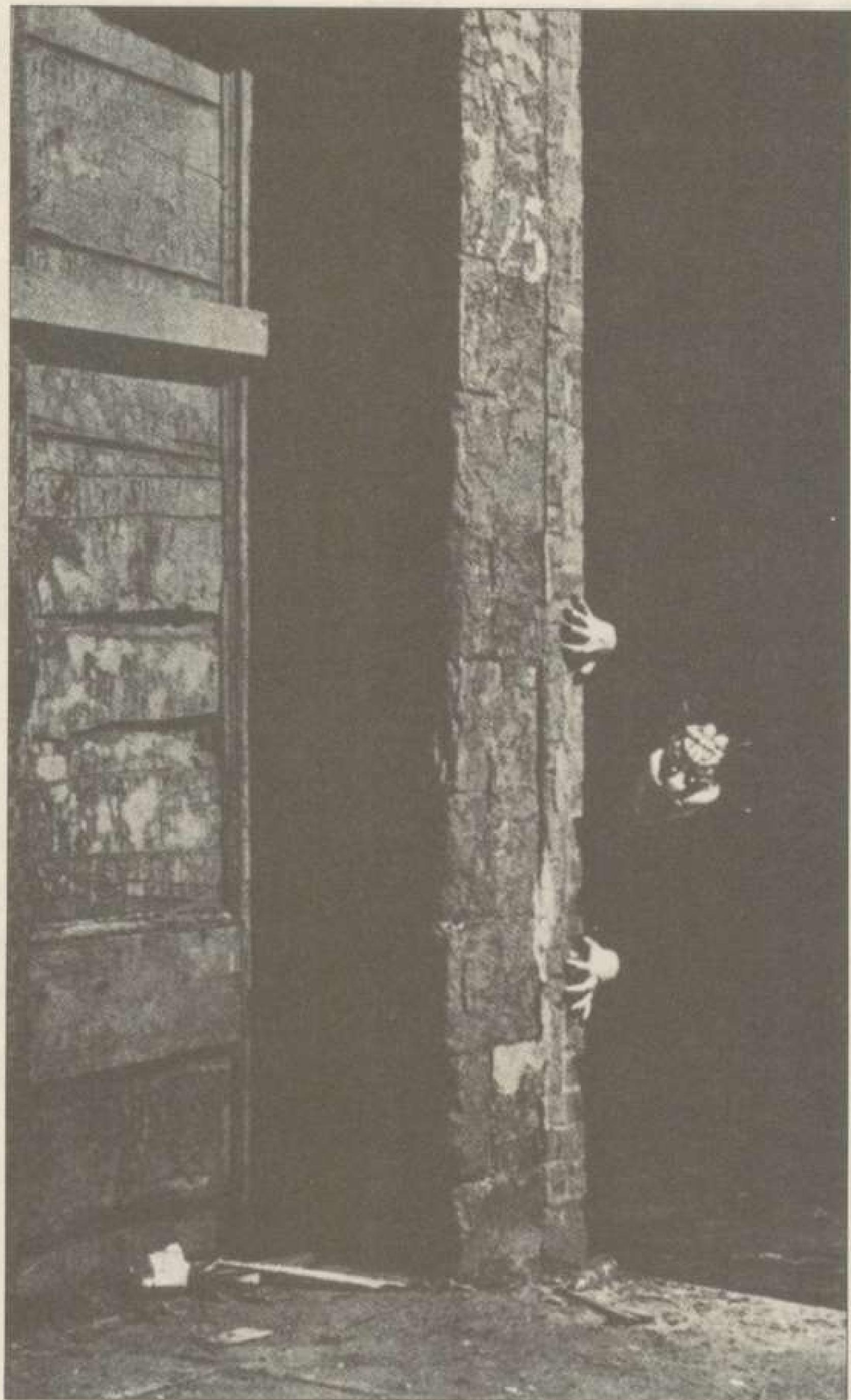
暗がりからとつせん現われ、

たばこの火を貸してほしいとのむ彼の姿に、あなたは思わずギョッとして、頭のなかは恐ろしげな新聞の見出しがいっぱいになる。終電車の後部座席に丸く身をちぢめた彼を残してあなたは電車を降りるが、家に帰りついたときには、夜行鬼はもうあなたのベッドの下にもぐりこんで寝息をたてているのだ。

そしてもっともやっかいなことは、たとえ夜行鬼が無器用な両手であなたの書斎の窓を押しひらき、足音をひびかせながら廊下を歩きまわっても、彼は存在しないという事実だ。彼は存在するはずのないものなのということは、あなたがいちばんよく知っているはずだ！

歴史 夜行鬼の出身はイギリスだが、今世紀がまさにはじめようとしていたころに、アメリカの新聞経営者たちにとりついて、現在の繁栄を誇るにいたった。スキャンダル、コミックス、セックス、取締事件などが新聞紙上をにぎわすたびに、夜行鬼の一族は数をふやしつづけ、いまではもう都会人にすっかりおなじみになってしまった。

私立探偵の情報 夜行鬼は、だいたいいいつも新聞が売れているか、テレビの視聴率競争が進行中の都市を歩きまわっている。



ケーブルの精 *Tinkerbelles*

棲息地 空を横切る電話線のかすかなきらめきのなかや、海草の巻きついたケーブルのただよう海底、電話の受話器に静かにひびく歌声のなかなどに棲息している。しかしほかのどんなところよりも、この妖精がたくさん住んでいるのは、あなたの耳のなかだ。

習性 キラキラきらめき、鈴のように鳴りひびき、ハミングをし、チカチカと点滅するこの妖精の最大の願いは、すべての機械設備に人格をあたえ、反対に人類を機械の状態にまでひき上げてしまうことだ。あなたの声が非人間的で単調なブンブンという信号音に切りかえられ、冷蔵庫が口答えするようになると、ケーブルの精たちはうれしそうな笑いの渦につつまれる。

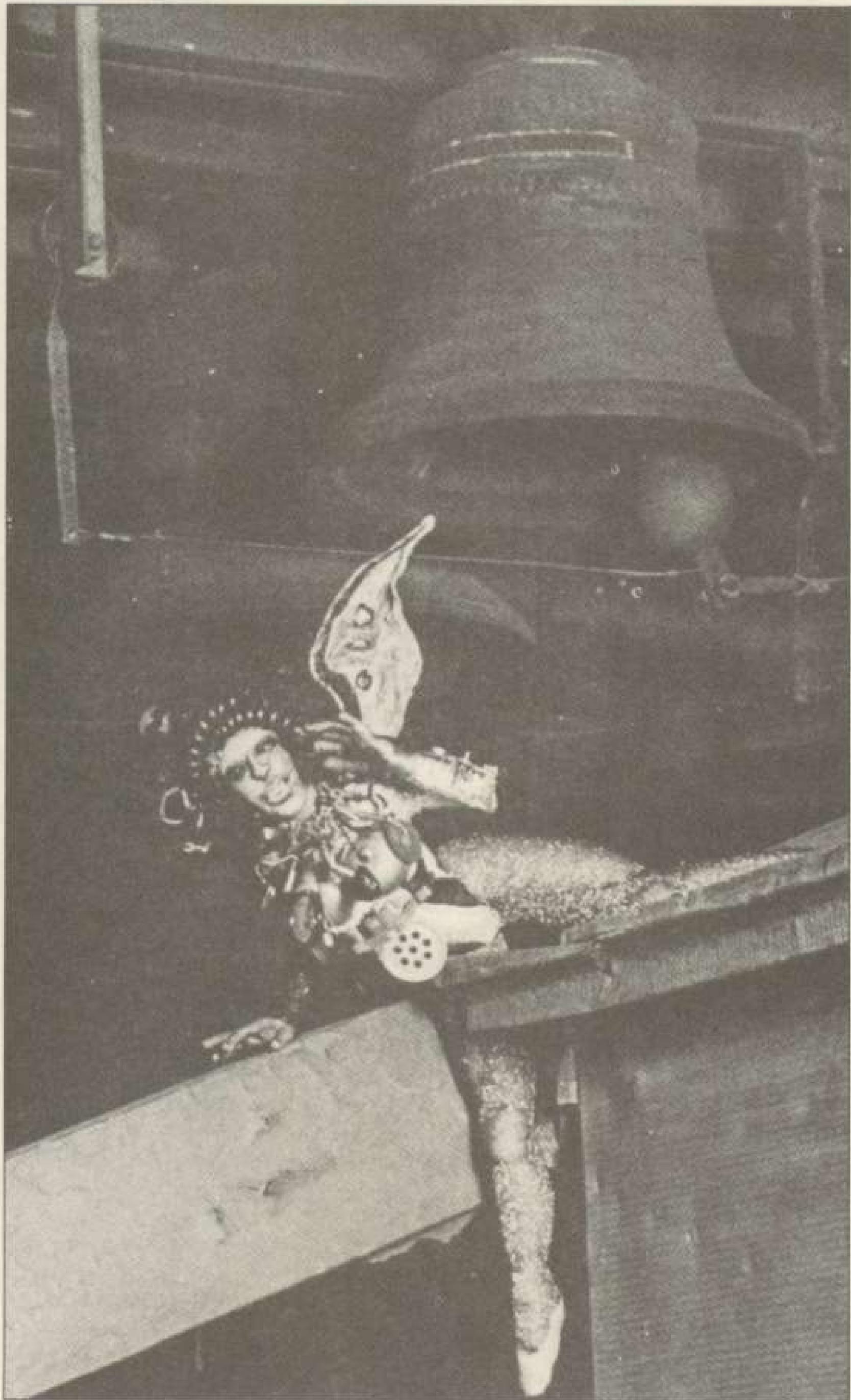
どしゃぶりの雨のなかで、人が公衆電話で天気予報をきいている姿を見るととき、この妖精たちはどんなに大よろこびしていることか！

人びとが冗談をいふためやデートの約束を取り決める、あるいはビフテキを注文したり祈りをささげるために電話のダイヤルをまわしているのをながめるとき、妖精たちはよろこびのためにきらめき、ブンブンとざわめきあっている。

歴史 初代のチャーミングなケーブルの精が、電話を発明したベルの助手のワトソン氏の耳に「こっちへきて、たのみがあるの」とささやいた瞬間から、このちいさな脅迫者たちは自分たちの目的に向かって努力をつづけてきた。男も女も子どもも、すべての人が電話器をとりつけ、プラグを差しこみ、スイッチを入れ、世界じゅうを同時に結ぶコミュニケーションのネットワークに参加していった。しかし、その人たちのなかで、必要な話をしているのは、誰ひとりとしていないのだ！

ケーブルの精たちは、いまや世界のあらゆる場所で活躍している。彼女たちのお気にいりの最新装置——直通ダイヤル通話によって、多くの国が結ばれているのだ。

私立探偵の情報 カチッという電話器の不吉な音。鍵穴に鍵を差しこんだとたんに鳴りはじめ、息せききってやっとのことで受話器にたどりついた瞬間に切れる電話。たいした骨折り仕事だ。留守番電話にのこされた脅し文句や卑猥なことは。もっとも愛する人によって拒否されたコレクトコール。すべて、あなたの電話番号がケーブルの精に登録されている証拠だ。



名 誉 の 精 *Mugwumps*

棲息地 名誉欲の精は、小は市町村議会から大は州議会、連邦議会まで、あらゆるレベルの政治舞台に姿を見せる。

習性 男にせよ女にせよ、人間を選挙事務所へ赴かせる妖精がいる。より強いもの、より捕えどころのないもの、これが名誉欲の精なのだ。彼らにとりつかれると、もっとも献身的な公僕も、あっという間に、心にもないことをしゃべりだすようになる。彼らに狙われると、それまで死にもの狂いで働いていた人がオフィスを捨て、とつぜん、街頭で演説をふつようになる。

また、名誉欲の精は、人びとに眠りの呪文をかけたりする。人びとを催眠状態にしておいて、ここぞというところで大喝采を送らせるのだ。

歴史 名誉欲の精の歴史はひじょうに古い。太古の地球上に人類が出現し、やがて彼らが集団で住むようになったときには、すでにこの妖精の祖先も生まれていたものと思われる。

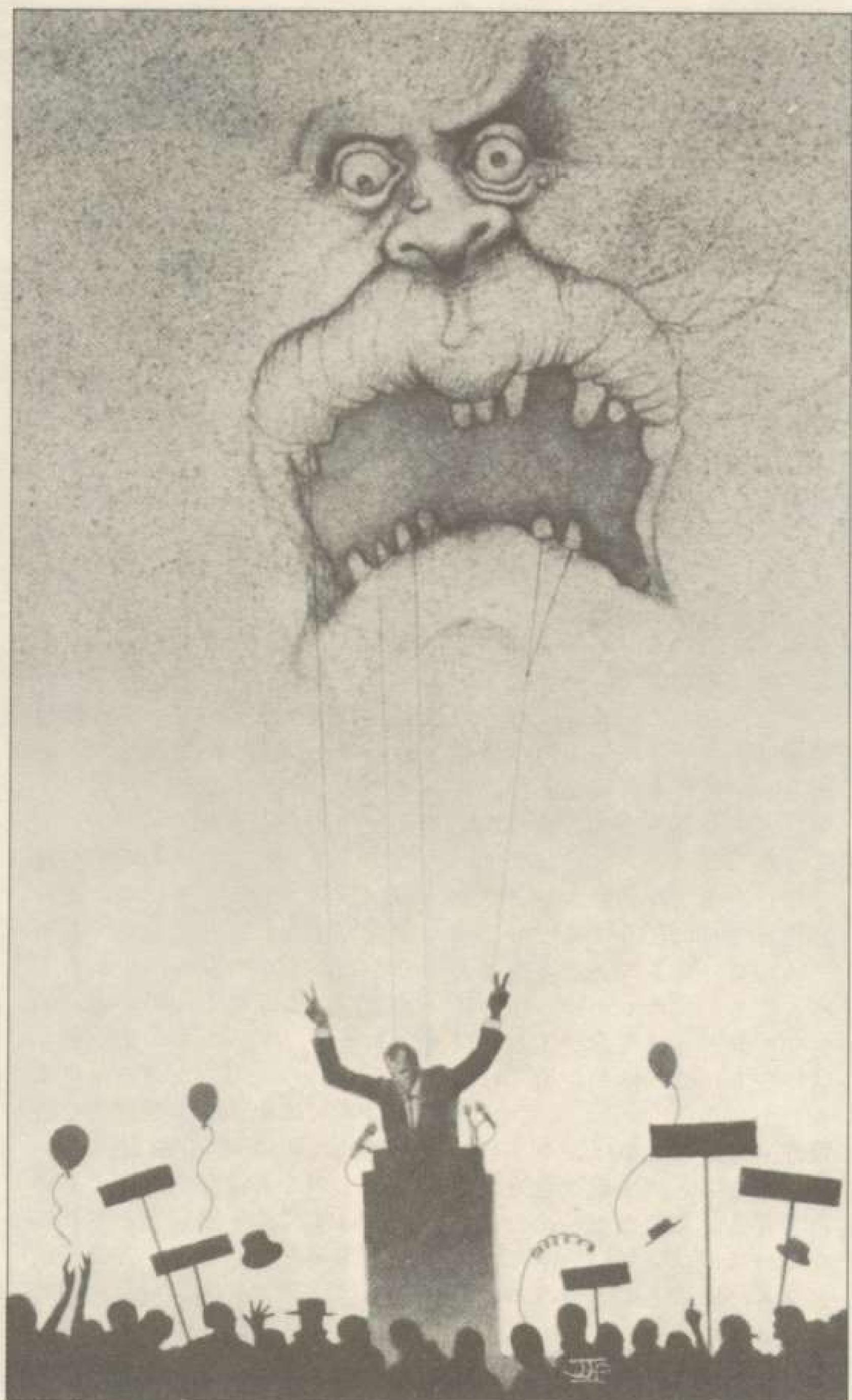
その後、人びとが集まるところのすべてに名誉欲の精は現われ、人びとにとりついでその野望を達成させたり、ときとして悪ふざけをしあげたりした。彼らのいたずらが成功した最近の例では、ニクソンのウォーター

ゲート事件が有名だ。

私立探偵の報情 この妖精をいちばん見つけやすいのは選挙の時期。スピーカーから大声がきこえてきたり、人がきができるようなどころは、まずのぞいてみるべきだろう。それと、むやみやたらに通行人に握手をもとめるような人がいたら、その周辺も要注意！

名誉欲の精は、活動時期がかぎられているので、見つけだすにはそのタイミングが重要だ。各省庁の高級官僚の椅子の周囲、あるいは、市町村の地元実力者といわれる人びとの屋敷、こういったどころをのぞいてみるのも穴場かもしれない。





コンピューターの精 *Clitches*

棲息地 コンクリートでかこまれた、静まりかえった地下のコンピュータ室（ここで核兵器使用の決定がなされる）から、あなたのまわりにいる科学狂いの家にあるマイコンまで、この妖精は配線のなかをすばやくとびまわり、ダイオードの小片のあいだに群がり、プログラムをめちゃくちゃにする。

あなたの信用度や病歴、学校の成績、役所によって集められた私生活のくわしい情報などが記録されているコンピュータ・ファイルのなかで、彼らはブンブンとうなっている。これらの情報は、キーボードと電話番号とコード番号さえわかっていれば、どんな部外者でも引きだすことができる。

銀行があなたのお金をまちがったところに振りこんだり、ホテルのフロントであなたを他の人とまちがえたりといったコンピュータ・ミスをおかすときにはいつも、この妖精が近くにいる。

習性 おもな仕事は、コンピュータをもっと広く普及させることである。当然ながら、お手軽なホーム・コンピュータで人びとを誘惑するというやりかたが多くとられる。

わたしたちがコンピュータを

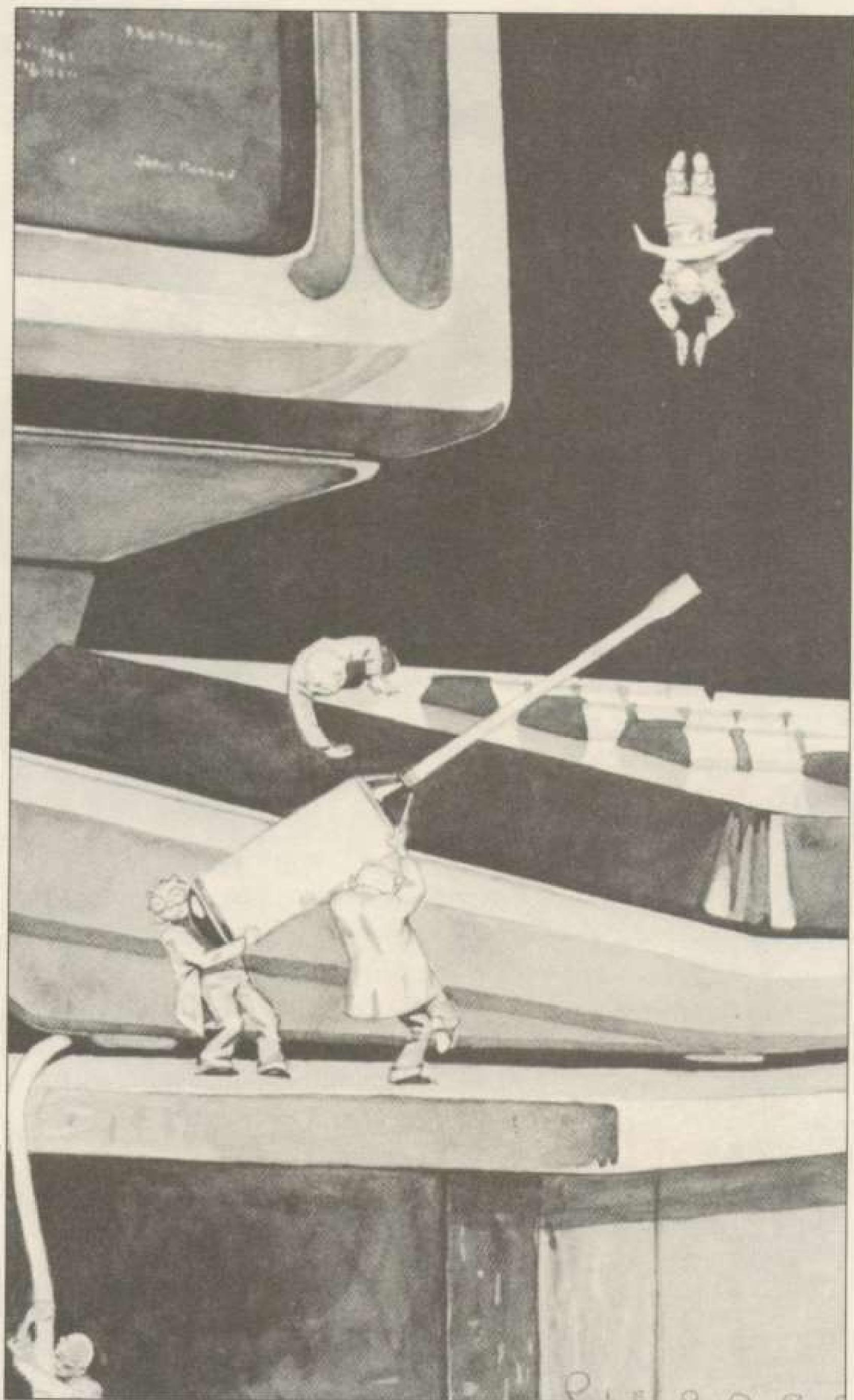
操作しようとすると、すでにこの妖精がはいりこんでいて、人を機械の一部にしてしまう。そして、あっというまもなく、機械は機能を停止してしまう。機械のプラグをはずしたり、せっかくのプログラムを白紙にもどしたりするのも、彼らの仕事だ。

また、よろこんで人間のことばを学ぼうとするほかの妖精たちとは異なり、コンピュータの妖精はわけのわからない専門用語でコミュニケーションするように人間に要求したりもする。

コンピュータの精にとりつかれた人は、コンピュータの信号音のような笑いかたをし、あいさつのしかたもまるでコンピュータ用語のようだ。

歴史 コンピュータの妖精の起源は東洋である。それは、彼らが愛好する長い巻物を見ても明らかだ。右から左へ、上から下へと読むようになっている。

ヨーロッパ人たちがまだ狩りをして暮らしていたころ、日本人はすでに象徴的で論理的な謎を解くために時間を使っていた。このことは歴史学者のあいだではすでに一般常識とされている事実だ。つまり、この妖精たちは極東の島国から新大陸に移住ってきて、この地でコンピュータをはびこらせたのだ。



Q. 1000

愛国主義者の精 *The Wooly Bully*

棲息地 この大時代的な恰好をした愛国主義の精は、アメリカ在郷軍人会ホールの庭さきにキャンプを張っている。

戦争やオリンピック、スペースシャトルの発射など、国じゅうが国威宣揚のために大騒ぎしているときは、きまってバーであなたのとなりのストゥールにすわっていたり、タクシーのハンドルを握っていたりする。

習性 愛国主義の精は、このうえもなくアメリカの地を愛していて、ロッキー山脈やグランド・キャニオン、マンハッタンなどに人の目を向けようとする。

もちろん、ジョン・ウェインの西部劇やクラーク・ゲーブルが主演した「風と共に去りぬ」の大ファンであることはいうまでもない。

絶えずサーベルをガチャガチャいわせるのが大好きだが、子どもの遊びのように罪がない。

しかし、ときとしてこの妖精がひじょうに危険な存在になることがある。

選挙が近づいたり、失業者が増加したりしたときだ。

妖精たちは上院議員や労働組合の委員長たちをたきつけて、日本はもっとアメリカの穀物を買うべきだとヒステリックに叫

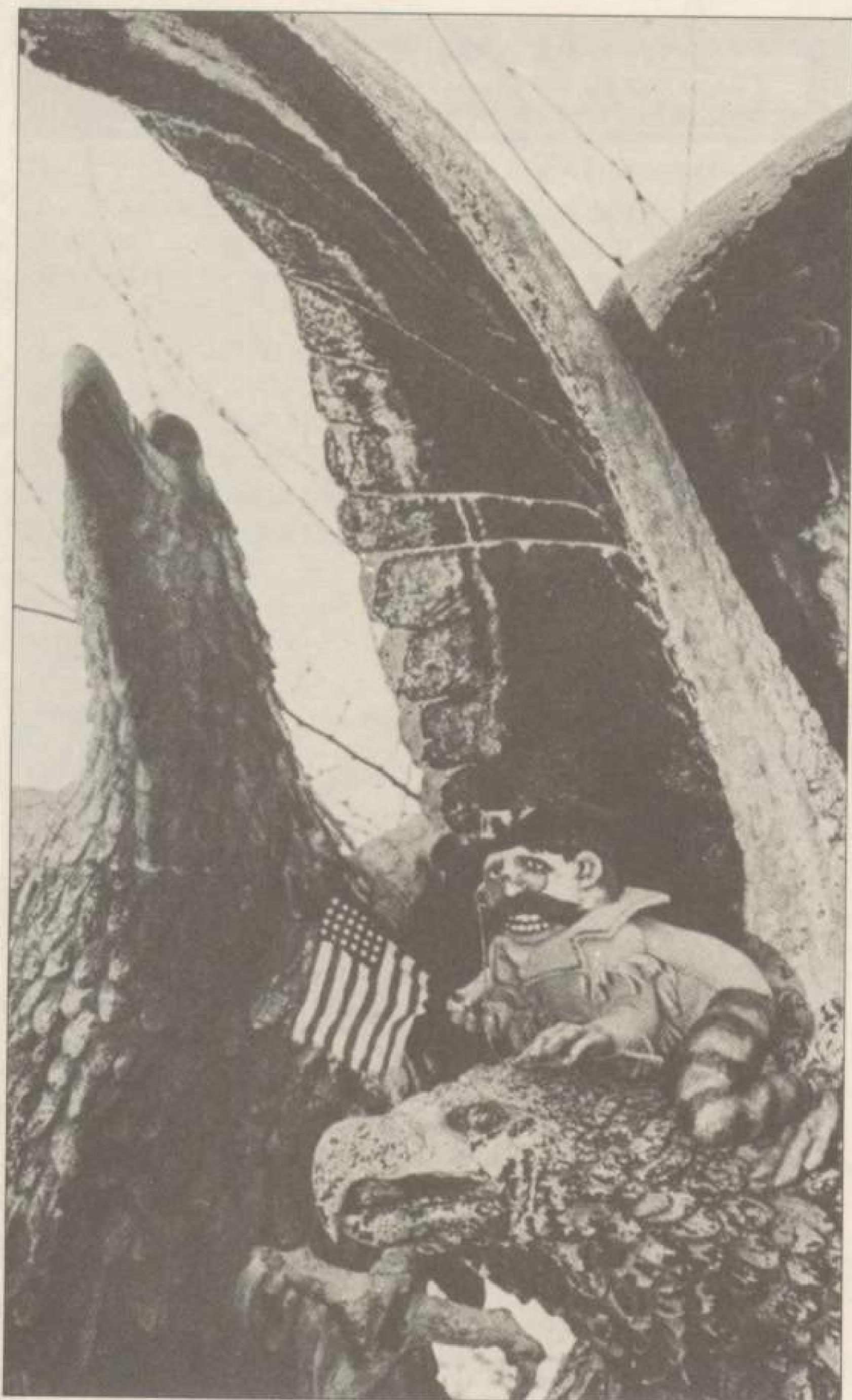
ばせたり、反対にソ連への穀物輸出禁止を大統領にはたらきかけたりする。

また、この妖精は中南米の傀儡（かいらい）政権に異常な親密感をもち、社会主義国の船舶入港禁止措置に力を貸したりするのだ。



歴史 愛国主義の精は、ドイツ出身だと考えられている。そのころの名前は、たぶん Wuhlarbeit（ドイツ語で、アジテーターの意味）だったようだ。

私立探偵の報情 もしあなたがアメリカ人なら、アメリカ国歌がきこえてくると、愛国主義の精があなたの背筋を走りまわるのが感じとれるはずだ。これは、妙にくすぐったいのですぐにわかるが、あなたはそのくすぐったさを楽しんだほうがいい。ほんとうに危険なのは、彼が武装したときだから。



建築デザイナーの精 *Geodesic Gnome*

棲息地 棲息地は機能別に分けられている。目的と能力、土地のようす、気候条件などによつて、この妖精はいたるところに姿を見せる。

彼らの最大関心事はデザインであり、新しいデザインをもとめて、マンハッタンの高層ビルからテキサスの町々にまで、広く分布している。

習性 この妖精は、建築請負業者の頭を混乱させることで有名だが、建築デザインの源である。

小さなからだの彼らは、建築物の縮尺模型の上で眠るのが大好きだ。建物が模型どおりに正確に建てられるのを強く要求する彼らは、たとえその建物が、人の住めないようなしろものでも、模型だけは驚くほどりっぱだ。

デザインの小鬼たちは、大胆で空想的なデザインが好きだ。豪雪地帯の体育館につけられた薄布のような屋根、音楽にあわせて揺れ動く空中歩道……これらはみな、この妖精たちのしわざだ。

インテリアも忘れてはならない。居間の段差につまづいてころんだり、ガラスの仕切戸にぶつかってこぶをつくったことのある人は、この妖精に出会った人だ。

どうしようもない戸棚や、引きだすたびに落ちる引き出しを製作するのが得意なアメリカの建築家は、みなこの妖精の教え子なのだ。

歴史 この妖精はもちろん、北欧の出身である。

私立探偵の報情 肥沃なローム層の上に建てられた工場施設や、労働者階級の人たちのこまごまと建ちならぶ小さな家をブルドーザーでおしつぶして建てられた中流階級用の高層アパートに行けば、きっとこの妖精が見られる。





小さなビジネスマン

*Small
Businessman*

棲息地 金持ちの有名人たちは賞を受けたり賛辞を呈されたとき「わたしのために働いてくださった、えんの下の力持ちのみなさまに」感謝の意を表わすのがつねである。このえんの下の力持ちのかけにいるのが小さなビジネスマンだ。えんの下の力持ちたちは小さなビジネスマンのために働いている。

このちっぽけで賢い生き物は世界じゅうにいる。胸が悪くなるように甘いコーヒーを値切ったり、中東の市場で有毒な葉っぱでつくったたばこの煙のなかで値段の交渉をしたり、アメリカでは賠償要求のため（たいていは小さい）法廷の机の上に小さなこぶしを打ちつけている。

習性 この小さな企業家はよく、（心のせまい人びとによつて）軽窃盗罪で訴えられる。しかし彼はから売りをするいっぽう、ビジネス界での自分の評判がひどく気になるのだ。

歴史 アメリカの小さなビジネスマンはおそらくスコットランドのレッドインクリングの出身と思われるが、またフランスの“プチブルジョア”的子孫とも考えられる。

彼らは“台帳”的天才だった。むかし、龍のねぐらが発見されると、いつも何人かの勇敢な妖

精たちが龍の黄金の宝を隠そうと骨を折ったものだが、そんなとき、小さなビジネスマンは龍の穴の入口のところに入場券売場を建てるのだった。

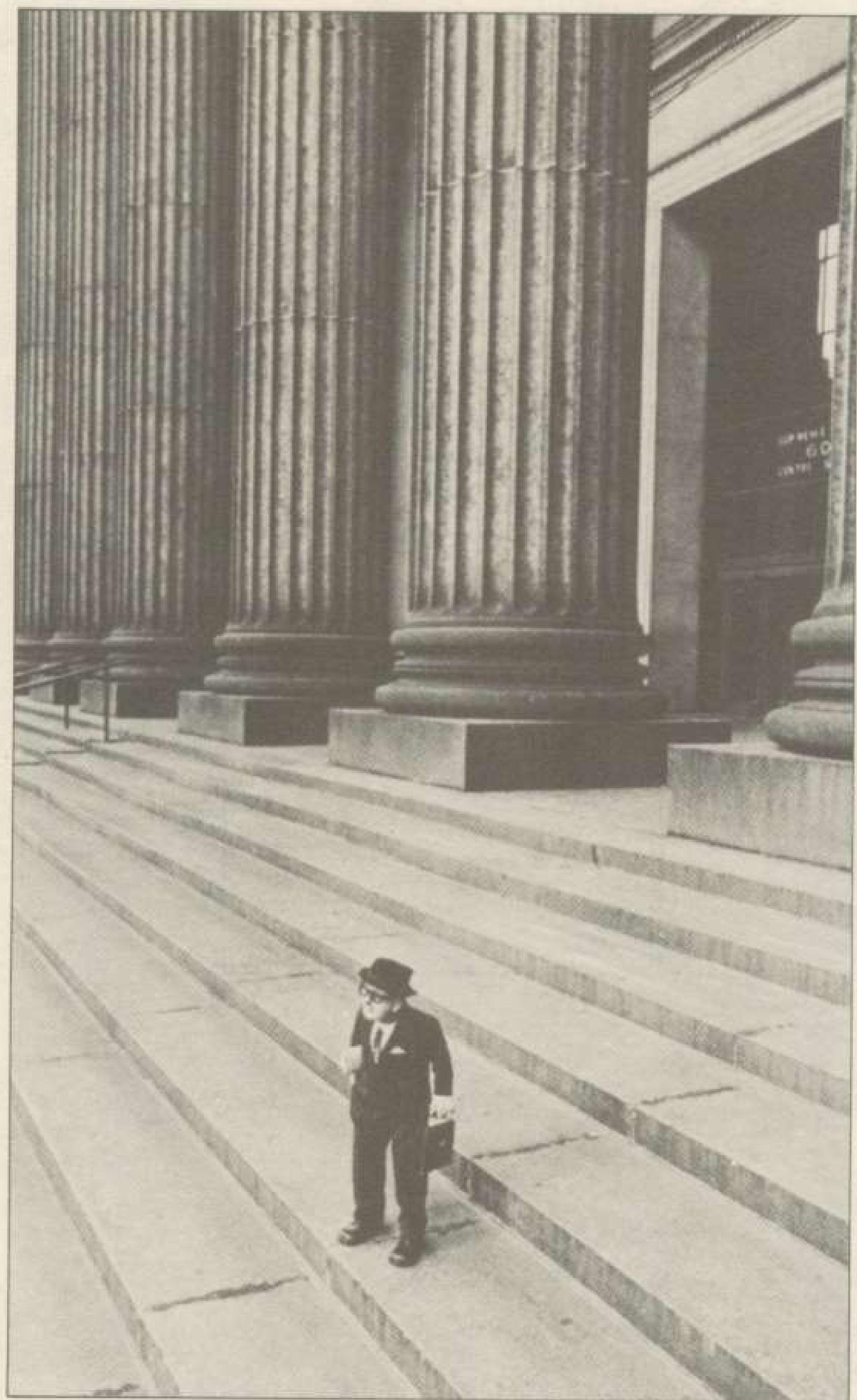
小さなビジネスマンが経営する、安月給人をこき使う労働搾取工場では、国の経済の基礎がつかかれ、お金が吸収され、大企業資金へと転化していった。

小さなビジネスマンたちの働きに刺激されて最近興った大企業産業の例は「田園小住宅産業」と「ママとパパの店」である。前者はプレハブの小住宅を製造する巨大カルテルであり、後者は都市の大金持ちのみなし子たちが新しい両親を買うことのできる店である。

私立探偵の報情 小さなビジネスマンが電話から離れることはめったにない。この器械によつて、彼はほんのわずかな時間で少しだけ話をする——そしてほんの少しの利益を得る。

彼の悪徳商法のやりかたは、契約書のすみっこに小さく書かれた文字に見られる。税金の季節にはいつも金不足で、請求書はなかなか支払わない。

経費を小さくおさえ手腕にかけては、大企業も彼らにはかなわない。

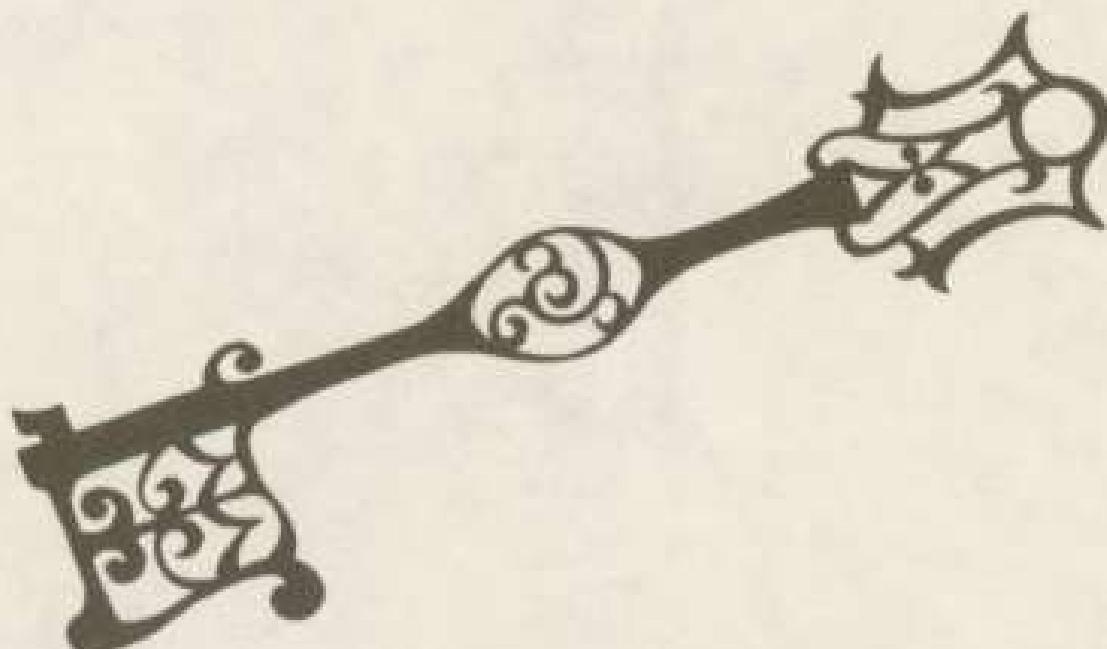


Good Luck!!

世界じゅうの、いたるところで、しかもわたしたちのまわりで、小さな妖精たちが、わたしたちとまったくおなじような暮らしをしている。ただふつうサイズの人間には見えないだけだ。

この妖精たちは、小さいことに誇りをもって生きている。その姿はわたしたちに、自分の大きさ以上に大きなもの、たとえば大きな態度、大きな望み、大きな欲望などといったものを持たないようにと、警告しているのである。小さなしあわせ、これがいちばんだと暗示してくれているのである。

小さな妖精たちの父親は、きょうもまた、小さな家のささやかだがたしかなしあわせのために働いている。





あなたがすでに出会ったり、家の内外、昼夜、春夏秋冬を問わずどんなときでもあなたが会えると思う妖精について知らせてください。写真やイラストを待っています。

もし送ってくれるときは一

右の書式にしたがってください。妖精を見つけたら、その妖精がどのカテゴリーに入るかを決めてください。そのカテゴリーとは、社会、家庭、文化、個人、政治、環境、地域、情報、経済の9つです。

つぎに、その妖精の名前を考えてください。もし実際にその妖精と話をして名前をきけなかった場合には、一般名と学名をあなたが考えてください。

それから、棲息地、習性、歴史、私立探偵の情報を書いていただきます。

文章と絵を送る場合――

イラストや写真同様、妖精の絵を送ってくださいってもけっこ
うです。文章なしでもかまいません。この場合にも、妖精の名
前だけは記入してください。

送っていただいたものは返却いたしませんので、写真やイラストのコピーを送ってくださってもけっこうです。なお、紙のサイズは20cm×27cm以下に限ります。

送っていただいたもののなかで傑作と思われるものについては、本書のつきの版に記載させていただきます。その際は手紙でお知らせし、イラストや写真のオリジナルを送っていただくことになります。

誓約書の訳

もしわたしの妖精がバイロン・ブリース・ビジュアル・パブリケーション・インクによって採用された場合は、手紙で通知いただけることを承知しております。その際には、本書の次版でわたしの妖精の使用権をお渡しする書類が送られてくることも承知しております。

さらに、お送りした文章、写真、その他に関してはバイロン・ブリース・ビジュアル・パブリケーション・インクとバントム・ブックス・インクはいっさいの責任を負わないことを承知しております。オリジナルは受けつけられていないこと、送付したもののが返却されないことも承知しております。本書の次版で採用されるかもしれぬものが、わたしのものと類似していた場合、バイロンとバントムにはいっさいの責任のないことを認めます。



COMMON NAME (名前)

FORMAL NAME (学名)

CATEGORY OF FAIR PERSON (カテゴリー)

◎ RANGE: (棲息地)

● HABITS: (習性)

□ SPOTTER'S TIPS:
(私、立探偵の情報)

★ HISTORY: (歴史)

(
切りとり線
)

YOUR SIGHTINGS (あなたの妖精)

My name is _____
(氏名) _____

My address is: _____
(住所) _____

City _____ State _____ Zip _____
(町) (県) (郵便番号)

Country _____ Postal Code _____ Phone _____
(国) (郵便番号) (電話番号)

Name of sighted Fair Person _____
(妖精の名前) _____

(写真) (イラスト) (文書)

I hereby submit my Photograph Illustration Text
describing the Fair Person named above.

I understand that if said Fair Person is selected by Byron Preiss Visual Publications, Inc. for publication in the next edition of *The Secret*, I shall be notified by mail. At that time, I shall be sent a release form to sign which will grant Byron Preiss Visual Publications, Inc. the right to use my sighting in the next edition of *The Secret*.

I further understand that Byron Preiss Visual Publications, Inc. and Bantam Books, Inc. accept no responsibility for any manuscripts, photos, art or other materials sent to them. No original art shall be accepted and no submissions will be returned. I hold Byron Preiss Visual Publications, Inc. and Bantam Books fully harmless against the use of any submissions similar to mine which may be accepted for use in the next edition of *The Secret*.

Agreed and accepted:
(以上、了承しました) Your Signature and Date
(あなたの署名と日付) _____

SEND TO: THE SECRET/SIGHTINGS
(送り先) Byron Preiss Visual Publications, Inc.
Box 5329
FDR Station
New York, NY 10150

PART

3

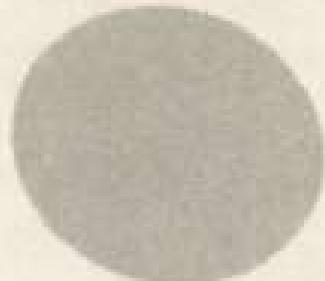


解説とヒント

Postscript and The hints



さあ、頭をフル回転させて挑戦しよう！



宝さがし解説

あなたも宝さがしに挑戦しませんか？

真崎 義博

この宝さがしの本は、大きく分けてふたつの部分からなっています。ひとつは前半部分で、この本のメインになっている妖精がもってきた宝さがし、もうひとつは後半部分の、新大陸へ渡ってきた妖精たちの子孫の紹介というかたちで書かれた楽しい文明批評です。

そこで、ここでは前半の宝さがしと後半の妖精紹介のそれぞれについて、すこし考えてみることにしましょう。

宝さがしの謎について

妖精たちの宝物が隠された場所をさがしあてるには、まず詩を読まなければなりません。もちろん、読むといっても、本文にある12篇の詩には妖精たちの宝物をさがすうえで重大な手がかりが隠されているですから、観賞していくはいけません。詩として読むよりは、むしろ暗号文として読むべきでしょう。

ところが、ここでたいへんな問題がちあがります。というのは、この12篇の詩それぞれが、いくとおりにも読めるのです。たとえば、前置詞に導かれる1行が、まえの行にかかるのかあととの行にかかるのかはっきりしない、という場合です。

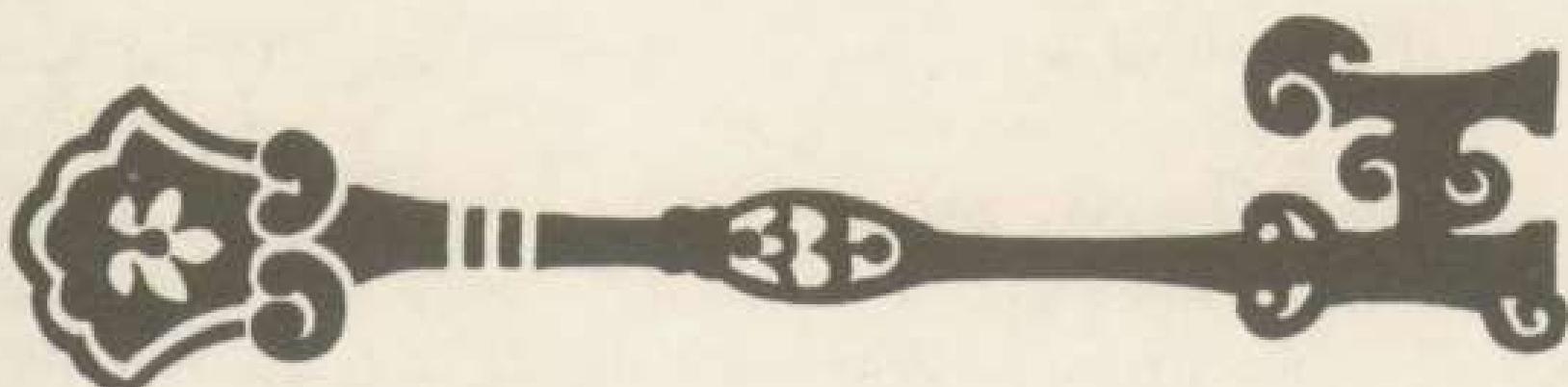


この点については、知人のアメリカ人に読んでもらっても、やはり、どちらかには決めかねるとのことでした。

あるいは、単語ひとつをとっても、ひとつの単語について、それにあてはまる数多くの日本語の単語のどれを選ぶか、という問題もあります。そこで、わたしの訳詩は試訳ということにし、英語の原詩をつけておくことにしました。

とはいっても、原詩とわたしの試訳だけでは雲をつかむようなもので、あまりにも莫然としすぎています。そこで、この本の原書の編集者で、ニューヨークに住むバイロン・プリース氏に国際電話をかけ、日本の読者のために特別にヒントをいただきました。もちろん、このヒントがあればすぐに解けてしまうというようなヒントではありません。場合によっては、与えられたヒントのためにかえってイマジネーションにタガがはめられてしまい、よけいにむずかしくなってしまうことがあるかもしれません。

そうはいっても、やはりヒントはヒントですから、そこを出発点にしてさまざまに推理をすれば、それだけ妖精の宝物への近道になることはまちがいないでしょう。さあ、頭の回転を最大限まであげてください。





12の詩を読み解くためのヒント

★このヒントは、すべて原詩にたいするもので
訳者の試訳にたいするものではありません。

第1の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 north
- 2行目 Cold
- 3行目 south
- 6行目 Nine eight two
- 7行目 wood
- 8行目 No lion fears
- 9行目 the water veers
- 10行目 Small of scale
- 13行目 four alike
- 14行目 Small, split
- 15行目 Three winged and slight
- 21行目 There's the spout!
- 22行目 A whistle sounds.

〔隠された意味、ないしヒント〕

- 9行目 the water veers 空へ向かって噴出する水。泉で
しょうか、噴水でしょうか？
- 10行目 Small of scale small はむろん小さいという意味
ですが、scaleは？ 日本でも、スケール・モデルな
どといういいかたがありますね。
- 16-17行目 what we take to be
Our strongest tower of delight これは、ある有
名な本からの引用だそうです。さて、その有名な本



とは？

21行目 There's the spout! これは、9行目のthe water veers に対応するそうですが、とすれば、その意味は当然……。

第2の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 jewels abound
- 2行目 Fifteen rows
- 3行目 twenty-one
- 4行目 end
- 7行目 Fills the afternoon hours
- 11行目 Gnomes
- 12行目 Fays
- 13行目 namesakes

〔隠された意味、ないしヒント〕

7行目 Fills the afternoon hours 文字どおり訳すと、“午後の時間を満たす”となりますが、これをもっとかんたんな、直接的な表現に直すと……？

8 - 9行目

Here is a sovereign people
who build palaces to shelter
Their heads for a night!

これは、ある有名な本からの引用だそうです。さあ、引用辞典をひっくり返してみましょう！



第3の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 Thucydides
- 2行目 Xenophon
- 5行目 green tower of lights
- 8行目 coliseum
- 9行目 metal walls
- 11行目 stairs
- 15行目 Eighteenth day
- 16行目 Twelfth hour
- 17行目 lamplight



〔隠された意味、ないしヒント〕

第3の詩に関しては、ヒントが即解答になってしまふ恐れがあるとのことで、ヒントは得られませんでした。あしからず。

第4の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 two countries
- 2行目 curves
- 3行目 rectangular
- 4行目 tenth stone
- 6行目 ninth row
- 7行目 small bricks
- 8行目 Seven steps up
- 10行目 Socrates, Pindar, Apelles
- 11行目 Free speech, couplet, birch
- 13行目 columns



〔隠された意味、ないしヒント〕

11行目 Free speech “言論の自由”ということですが……
ということは？

11行目 couplet 二行連句ですが、シェイクスピアを頭に
浮かべてください。

13行目 columns 柱、とくに石柱のことですが、石ででき
た柱で世界じゅうに有名なものは？

第5の詩

〔キー・ワード〕

1行目 Lane

2行目 Two twenty two

3行目 arc of lights

4行目 Weight and roots

6行目 granite walls

9行目 wingless bird

14行目 white stone closest

〔隠された意味、ないしヒント〕

1行目 Lane これは、普通名詞に解釈すると、“細道”と
か“小道”とかになりますが、ここで使われている
Laneは、固有名詞だそうです。固有名詞といえば名
前ですが、さて、なんの名前でしょうか？ 山？
河？ 街？ それとも………？

4行目 Weight and roots この部分では、建築（物？）
を頭に浮かべるといいそうです。

9行目 wingless bird 文字どおりの解釈では、“翼のない
鳥”ですが、たとえば“iron horse”（鉄の馬）が
“オートバイ”を意味する、といったように、思考法
に柔軟性をもたせて考えてください。このwingless



birdは、日本でもかんたんに見ることができます。

第6の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 romance
- 2行目 Men of tales and tunes
- 3行目 Cruel and bold
- 9行目 Freedom at the birth of a century
- 10行目 May 1913
- 11行目 Edwin and Edwina
- 14行目 two arms extended
- 15行目 bar that binds

〔隠された意味、ないしヒント〕

2-3行目

Men of tales and tunes

Cruel and bold

残酷で大胆な

物語と曲の男たち

とは、どんな男たちでしょう？ ロマンスということばがありますから、そこから類推してください。

ロマンスといっても、日本でいうロマンス（恋愛物語り）ではありません、中世ヨーロッパの……。

9行目 the birth of a century これは、“ある世紀の誕生”ということですが、その世紀とは？

はたして何世紀のことをいっているのでしょうか？

10行目 May 1913 さあ、一刻も早く歴史年表を調べてみましょう。

14-15行目 Between two arms extended

Below the bar that binds

これは、ヒントの出しかたがとてもむずかしいのですが、arm(腕)はどういう角度にしてもarmです。ところが、barというのは、基本的には“横棒”を意味します。そして、binds(結ぶ、つなぐ)とありますから……。

- 19行目 White house これは、The White House でしょうか、それとも、a white house でしょうか？ Theがつけば、アメリカ大統領官邸になり、aがつくとたんなる白い家になるのですが、ここには冠詞がありません。さあ、いったいどちらでしょうか？

第7の詩

(キー・ワード)

- 2行目 sweet
4行目 High posts
5行目 Education and Justice
7行目 Sounds from the sky
8行目 ace
12行目 Twain
13行目 Giant pole



(隠された意味、ないしヒント)

- 2行目 sweet 基本的には、“甘い”という意味ですが、あまり“甘い”ということにこだわらないほうがいいようです。空気がsweetに匂うのですから、慣用的に、“～な空気”というふうに考えてみましょう。

- 4行目 High post このpostは、木製だとのことです。
5行目 Education and Justice これだけではよくわかりませんが、Education and Justiceのあとにcan be

seen not farを補って考えるとわかりやすくなるとのことです。“教育と正義が、さほど遠くないところに見える”のは……?

7行目 Sounds from the sky “空からの音”というのは、いったいなんでしょうか? 空からきこえてくる音はたくさんあります。鳥の声? 飛行機の爆音? 風の音? しかし、わたしたち人間の耳にはきこえない音もあります。特殊な機械を使わなければきこえない音も……。

12行目 Twain トゥエインといえば、かの有名な……。

第8の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 three stories
- 2行目 beating of the world
- 8行目 Step on nature
- 9行目 Cast in copper
- 11行目 grand 200
- 13行目 culvert
- 21行目 fifth



〔隠された意味、ないしヒント〕

1行目 the three stories of Mitchell “ミッチャエルの3つのstories”なのですが、このstoriesがくせものです。作家ミッチャエルの3つの物語りなのか、ミッチャエルの3階建の建物なのか? わたしは、最初、3つの物語りと解釈したのですが、ブリース氏は(明言を避けながらも)“3階建”的なほうを強く示唆していましたので、試訳も、そちらを探ることにしました。

2行目 the beating of the world ここはちょっとむずかしい部分です（むずかしいといえば、全編がむずかいのですが）。beatingからビート、ビートからドラムを連想してください。ドラムの織りは “drum” です。ここから、ある人物の名前を考えださなければなりません。そのためには、（比較的大きな）英語の辞書を用意して、“drum” の項を見つけ、その前後をさがして人の名前にたどりついてください。苦労なくして宝物は手にはいらないのです。

8 - 9行目 Step on nature

Cast in copper

この部分は、a leaf を思い浮かべるように、とのことです。はたして、a leaf とはいったい何を意味するのでしょうか？

21行目 On a proud, tall fifth このfifth (5番目) とは、5番目のなんなのでしょうか？ブリース氏はなかなか教えてくれませんでしたが、こちらからさまざまな物の名前をいったところ、どうやらtreeではないかと、わたしは感じました。もちろん、treeであると断言などできませんし、わたしとしても責任はもてませんが、個人的に、treeでいいのではないかと思っています。

第9の詩

〔キー・ワード〕

1行目 first chapter

4行目 wind rose

5行目 bending branches

6行目 green picket fence

8行目 honking



〔隠された意味、ないしヒント〕

4行目 wind rose このwind roseは、航海術との関係で
考へるといい、とのことでした。

第10の詩

〔キー・ワード〕

2行目 grey giant

3行目 arm

4行目 slender path

6行目 whirring sound

10行目 Indies native

12行目 Of him of Hard word in 3 Vols

19行目 rhapsodic man's soil

21行目 isle of B

〔隠された意味、ないしヒント〕

6行目 whirring sound これは、“ぶんぶんという音”と
いうことですが、こういう音をだすものにはどんな
ものがあるでしょうか？ まずだいいちに頭に浮か
ぶのは、虫が飛ぶときのはねの音？ 飛行機のプロ
ペラの音？ いろいろありますが、7行目のcarsを
ひっかけて考えると、どうも地上を走るもののが
ような気がしてきます。プリース氏のヒントは、走
るために人間の力を必要とするものだそうです。

12行目 Of him of Hard word in 3 Vols この1行から、
著述家のことではないか、と察しができます。それ
がだれか、が大問題になります。わたしの質問に、
プリース氏はなぞなぞで答えてくれました。この人
物にたどりつくためにことば遊びをしなさい、スタ
ートはchickenです、とのことでした。

19行目 rhapsodic man's soil rhapsodic manを、わたしは“叙事詩的な男”と試訳しましたが、これでは謎は解けません。rhapsodicから、ある有名な楽曲を思い浮かべてください。そうすれば、rhapsodic manが、その曲の作曲者であることがわかるはずです。

11番目の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 octave
- 3行目 man of oz
- 6行目 Dark forest
- 7行目 white
- 8行目 maps
- 11行目 path
- 12行目 mica and driftwood
- 16行目 wing
- 18行目 To achieve
- 19行目 By dauntless and inconquerable



〔隠された意味、ないしヒント〕

1行目 octave もともとは、octaveは“8”を意味し、音楽では1オクターヴなどといいます。が、しかし、プリース氏のヒントによればどうやら固有名詞のようです。それ以上のヒントは得られませんでした。

18-20行目

To achieve

By dauntless and inconquerable

Determination

この部分は、ある本からの引用だとのことです。さあ、もういちど引用辞典をひらいてみましょう。

第12の詩

〔キー・ワード〕

- 1行目 M and B
- 2行目 Congress, R
- 3行目 L
- 7行目 The end of ten by thirteen
- 13行目 rumble
- 14行目 Brush
- 15行目 Hush

〔隠された意味、ないしヒント〕

- 1行目 M and B これは、ある人物（ふたり）のイニシャルだそうです。これだけでは、まったく名前が浮かびませんので、何をしている人物か、と質問したところ、プリース氏は、ふたりとも有名な作曲家だ、と答えてくれました。さあ、Mという作曲家とは？ Bという作曲家とは？
- 2行目 Congress 文字どおりにとれば、“アメリカ議会”なのですが、プリース氏によれば、固有名詞なのだそうです。それ以上のヒントは与えてもらえなかったので、なんの固有名詞であるかは、わたしたちが調べなければなりません。
- 2行目 R
- 3行目 L
- このRとLも、人物のことで、プリース氏によれば、critical（くちやかましい、重大な、危険な、といった意味があります）な politician（政治家）だそうです。心あたりはありますか？
- 13行目 rumble ゴロゴロとかガラガラといった音のこと



すが、要するに……。

14行目 Brush このことばにもいろいろな意味がありますが、どうも、つきの音楽との対比で、絵画ではないか、と思われるような発言をプリース氏はしました。どちらでしょうか？

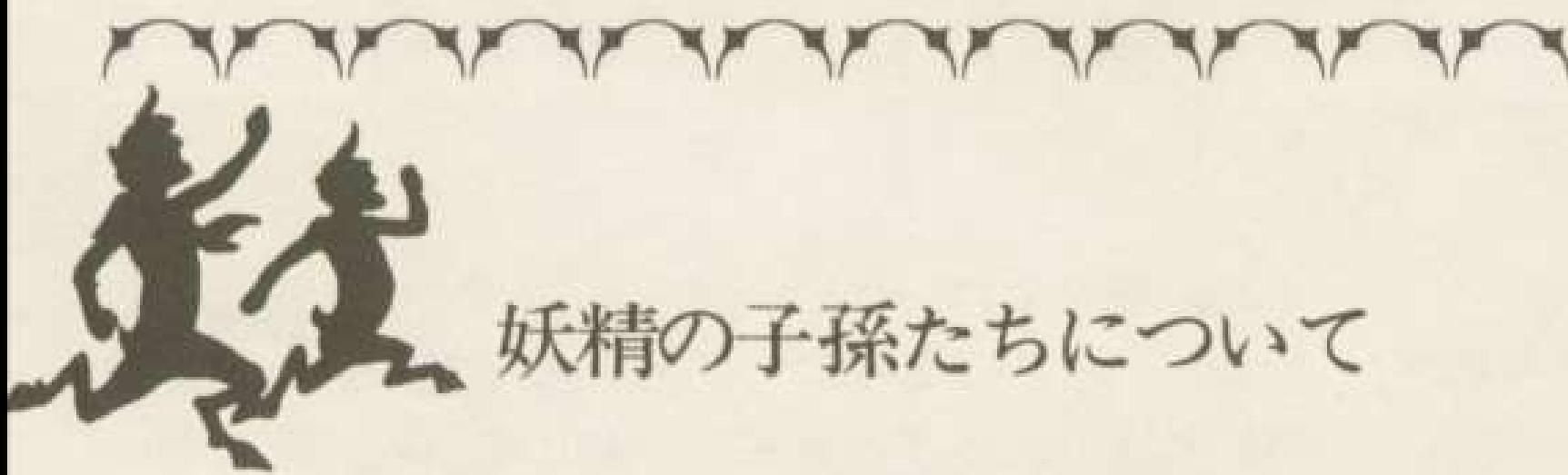
15行目 Hush これは、“静寂”という意味ですが、プリース氏は、たったひと言、“place after quiet”といっていました。



これで、プリース氏から国際電話で引きだしたヒントは終ります。どうでしょうか？ 役にたつでしょうか？

もうひとつ、プリース氏から日本の読者へ特別にアドバイスをいただきました。それは、“まず絵のほうからとりかかること。そのためには、詩のなかに書かれた数字の組み合わせを読み解くことです”というものでした。それと、この本がアメリカで発行されたのは去年（1982年）の11月ですが、現時点（1983年3月）すでに500通以上の解答が寄せられ、まだひとつも正解はないそうです。日本の読者にも、ぜひがんばっていただきたい、とのことでしたので、彼のくれたヒントを最大限に生かして宝物をさがしあててください。

この本の謎を解くことはたいへんな作業でしょうが、原書をつくるスタッフも、別な意味でたいへんだったようです。ある場所で宝石を埋める作業をしていると、そこへ警察官が通りかかるってひともんちやくあったとか、カナダへ行ったときに、シャベルとか妙なものをたくさんもっていたために空港の税関で足止めをくい、宝石を埋めにいけなくなりそうだったとか。



妖精の子孫たちについて

この本で紹介されているさまざまな妖精たちは、人間を避けて主としてヨーロッパから移住してきた妖精たちの子孫ということになっていますが、もちろん、ヨーロッパで語りつがれていの民話などにでてくる伝統的、正統的な妖精とはほとんど関係ありません。原著者たちや編集者が、遊びでつくりだしたものなのです。

遊び、といいましたが、本文を読んでいただければおわかりのように、ひとつひとつが遊びの精神で書かれた文明批評になっているのです。その切れ味があまりにもみごとなので、著者紹介を読んでみました。納得しました。著者のふたり、ショーン・ケリーとテッド・マンは、ともに、『ナショナル・ランプーン』という、アメリカの月刊ユーモア・パロディ誌の編集者だったのです。

このふたりの発想法のようなものをつかまえるために、彼らが編集をしている『ナショナル・ランプーン』誌のことを、少し紹介しておきましょう。

『ナショナル・ランプーン』誌の創刊は1970年、そう、アメリカの学生たちの意識がもっとも先鋭だった時代です。母体となったのは、ハーヴァード大学の学生が編集するパロディ誌『ハーヴァード・ランプーン』で、その編集者が集まってはじめられました（ちなみに、ランプーンというのは、個人や社会制度、文化、文明などに対する風刺、皮肉、風刺文学、という意味です）。

そういう時代につくられた雑誌ですから、批判精神は旺盛で、コミックスのような視覚的な訴えかたではなく、活字が中心になってさまざまなかたちのユーモアを武器にしています。つまり、硬直した頭でがむしゃらに突き進むのではなく、ひとつの



テーマをひとひねりもふたひねりもして攻める、というぐあいなのです。

この本の妖精紹介の部分でも、「ナショナル・ランプーン」誌の編集で養われた“ランプーン精神”は、いかんなく發揮されています。ところが、ここで大きな問題が生じてしまいました。“ランプーン精神”がいかんなく發揮されているのはいいのですが、それが完全にアメリカに向けられているために、アメリカの文化や最近の状況に精通していないと、笑うことはおろか、理解することさえできないといったものが大半を占めているのです。この点については、「アメリカ国内でさえ、笑ってもらえない、理解してもらえない部分があるようだ」と、ブリース氏自身がいっていました。

これには、訳者であるわたしも、二見書房の編集部のスタッフも、頭をかかえこんでしまいました。笑いや皮肉の背景となっているものについて注を入れることも考えましたが、そうすると、本文より注のはうが長くなりかねないです。

そこで、編集部の考へで、内容を書き換えることになりました。とはいっても、もちろん、でたらめに書き換えるわけにはいきません。いろいろと考えた結果、ひとつひとつの妖精に与えられた名前と、そこに書かれている内容を土台にして、すこし話を一般的なものにしました。アメリカの事情にくわしくなくとも、日本の読者がじゅうぶんに楽しめるようにしたのです。ですから、妖精の紹介の部分は、厳密な意味での翻訳とはいえないかもしれません。けれども、何度読んでもなにがなんだかわからないというもののよりはいいのではないか、とスタッフ全員が信じてあえてこういう書き換え作業をしました。

最後になりましたが、この本を出版するにあたって、二見書房編集部の池田正三氏と新藤万里子さんにはことはではいえないほどの助言や協力をいただきました。この場をかりて、心からお礼を申し上げます。

1983年3月

スタッフ紹介

ショーン・ケリー

カナダ出身。新聞の報道記者、ラジオの声優、児童文学の教師などをへて現在は『ナショナル・ランプーン』誌で編集者として活躍する。一方でテレビコメディや子供番組の台本を書いたりもしている。

ジョン・バーリンカー(イラスト)

1980年に、パリのイラストレーターズ・ワークショップの奨学金を獲得し、タブローとイラストレーション双方を追求している。

ジョエラン・トリリング(彫刻家)

マンハッタンのマジソン・アベニューにあるギャラリーで個展を開くかたわら、『ヘヴィ・メタル』、『ブレイボイ』など多数の雑誌で作品を紹介している。彼女のファンにはエルトン・ジョン、ジュリー・クリスティなどの有名人が多い。

ベン・アーセイン(写真家)

『ニューヨーク・タイムス』『ニュースウィーク』などに写真を掲載するかたわら、体の不自由な人びとや老齢者の生活をドキュメントし、各方面から賛同を得ている。『リビング・フォー・ザ・シティ：ニューヨーク』と題した作品群で注目を集めた新進気鋭の写真家。

テッド・マン

カナダ出身。現在は1974年から

寄稿していた『ナショナル・ランプーン』誌のシニア・エディターをしている。ケリー氏との共同執筆も多々あり。

バイロン・プリース(編集者)

ベストセラー『ドラゴンワールド』シリーズのプロデューサーを兼ねる辣腕編集者として有名。ファンタジーとファンタジー・イラストをうまく組み合わせた本づくりをさせると面目躍如。

ジョン・ピエラード(イラスト)

幻想的なイラストレーションでは右にでもるものがない。SF系雑誌に寄稿している。

オーヴァトン・ロイド(イラスト)

ハリウッドを中心に活躍中のアーティストで、レコードジャケットをメインに、数多くの雑誌にイラストを提供している。その他、ポップグループ“パーラメンツ・アンド・ザ・ファンケイデリックス”のために、ステージ・コスチュームを手がけたり、短篇アニメをつくったりと多才ぶりを發揮する才人。

真崎義博(翻訳者)

1947年東京生れ。明治大学文学部英文科卒業。アメリカ文学翻訳家。主な訳書に『カスタネダ・シリーズ』(二見書房)、『河の旅・森の生活』(角川書店)、『視聴率殺人』(早川書房)『森の生活』(Jicc出版)、『シンシナティ・ブルース』(早川書房)などがある。



妖精の宝箱

© Printed in Japan.

定価780円

著者 ショーン・ケリー他
訳者 真崎義博
印刷 株式会社堀内印刷所
製本 明泉堂

振替 東京 7-2639 番

電話 東京(942) 2311 番

東京都文京区音羽1-21-11

発行 株式会社 二見書房

0276-831122-7339

あなたの明晰な頭腦にチャレンジ

「日本雑学大賞」の選考委員が出題する一八六問

面白クイズ 日本雑学俱楽部

雑学俱楽部編

定価690円

知らないくつても大丈夫、知っていても偉くない。それでも得する難問、珍問、大奇問。洒落た話題の珍味満載!! これであなたは超話題人間!!

『点と線』をしのぐ時刻表推理をはじめ難問奇問一〇〇問

面白推理 鉄道クイズ

東京大学
鉄道研究会編

定価690円

推理小説一〇〇冊分のナゾ解きの楽しさを満載! ミステリーアー作家も頭を悩ます傑作クイズで貴方に挑戦する! 下車する駅を忘れそう……

名作ばかりを2篇ずつ収録した豪華保存版！

特選 刑事 小説

各巻にカラー版『刑事コロンボ名場面集』を掲載！

第一期全10卷

定価各850円

構想の死角
力リフ海殺人事件（幻の長篇傑作）
落ける糸
別れのワイン







